

# 吉 十 北 遺 跡 勘 十 郎 堀 跡

東関東自動車道水戸線(鉾田~茨城空港北間)  
建設事業地内埋蔵文化財調査報告書

第2分冊

平成29年3月

東日本高速道路株式会社  
公益財団法人茨城県教育財団

茨城県教育財団文化財調査報告第419集

よし じゅう きた  
吉 十 北 遺 跡  
かん じゅう ろう ほり  
勘 十 郎 堀 跡

東関東自動車道水戸線(鉦田～茨城空港北間)  
建設事業地内埋蔵文化財調査報告書

第2分冊

平成29年3月

東日本高速道路株式会社  
公益財団法人茨城県教育財団

# 目 次

—第2分冊—

## 第3章 吉十北遺跡

### 第3節 遺構と遺物

#### 1 縄文時代の遺構と遺物

- (4) 土坑（第201号土坑～第600号土坑） ..... 295



## 第 201 号土坑 (第 257 図 PL45)

位置 調査区中央部北寄りのC3d5区、標高29mほどの台地平坦部に位置している。

重複関係 第202号土坑を掘り込み、第204号土坑に掘り込まれている。

規模と形状 西部が第202・204号土坑と重複しているため、開口部は長径が1.83m、短径が1.68mしか確認できなかった。楕円形と推定でき、長径方向はN-48°-Eである。底面は長径2.82m、短径2.10mの不整楕円形で、平坦である。確認面からの深さは103cmである。壁は大きく内傾しており、袋状を呈している。

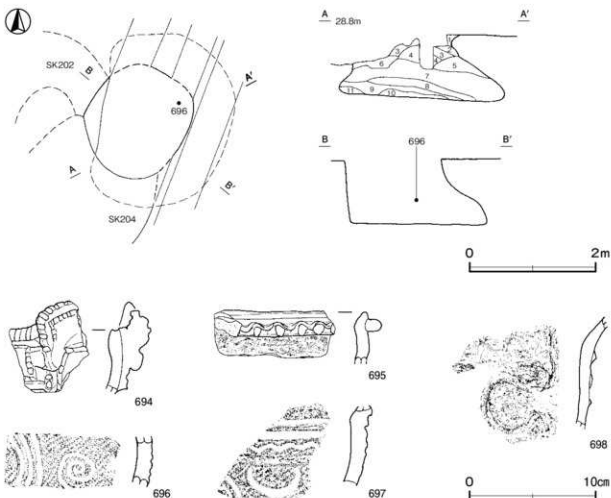
覆土 11層に分層できる。各層にローム粒子が多量に含まれていることから、埋め戻されている。

## 土層解説

- |       |                |        |                           |
|-------|----------------|--------|---------------------------|
| 1 暗褐色 | ローム粒子少量        | 7 黒褐色  | ローム粒子多量、焼土粒子・炭化粒子微量       |
| 2 暗褐色 | ローム粒子多量、炭化粒子微量 | 8 黒褐色  | ローム粒子・焼土粒子中量、炭化粒子微量       |
| 3 暗褐色 | ローム粒子中量        | 9 黒褐色  | ローム粒子多量、炭化粒子少量            |
| 4 褐色  | ローム粒子多量、炭化粒子微量 | 10 黒褐色 | ローム粒子中量、炭化粒子少量            |
| 5 暗褐色 | ローム粒子多量、炭化粒子少量 | 11 黒褐色 | 焼土ブロック・粘土ブロック少量、ロームブロック微量 |
| 6 暗褐色 | ロームブロック中量      |        |                           |

遺物出土状況 縄文土器片381点(深鉢377、浅鉢4)、石器2点(磨石)、石核4点(石英)、剥片6点(石英4、砂岩1、瑪瑙1)、礫2点が出土している。698は覆土上層と覆土下層から出土した破片が接合している。694・695・697は覆土下層から、696は中央部の覆土中層からそれぞれ出土している。いずれも破片が散乱した状態で出土しており、埋め戻す過程で投棄されたものと考えられる。

所見 規模と形状から、貯蔵穴と考えられる。時期は、出土土器から中期中葉と考えられる。



第 257 図 第 201 号土坑・出土遺物実測図

第 201 号土坑出土遺物観察表 (第 257 図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	文様の特徴ほか	出土位置	備考
694	縄文土器	深鉢	-	(7.4)	-	長石・石英	にぶい黄褐色	普通	取柄部・口唇部に刺状文 隆帯に沿って有	覆土下層	
695	縄文土器	深鉢	-	(4.2)	-	長石・石英・雲母	にぶい赤褐色	普通	口唇部に段を有し太い隆帯が一巡 隆帯上に刺状文	覆土下層	
696	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	灰黄褐色	普通	地文に単純縄文 瓦 (縦) 北線による文様描画	覆土中層	
697	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	浅黄褐色	普通	外文に単純縄文 瓦 (縦) 平截竹筒による横線・波状文・垂線文 波状文の下位に有線文	覆土下層	
698	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	黒褐色	普通	断面三角形の隆起線で文様描画 外・内面横位の線あり	覆土上・下層	

第 202 号土坑 (第 258 ~ 261 図 PL45・99)

位置 調査区中央部北寄りの C3d4 区、標高 29 m ほどの台地平坦部に位置している。

重複関係 第 201・203・204 号土坑に掘り込まれている。

規模と形状 南半部を複数の土坑に掘り込まれているため、開口部は南北径 1.06 m しか確認できなかった。東西径は 1.00 m で、円形または楕円形と推定できる。底面は径 2.62 ~ 2.70 m の円形で、平坦である。確認面からの深さは 126 cm である。壁は大きく内傾して袋状を呈し、上位はほぼ直立している。

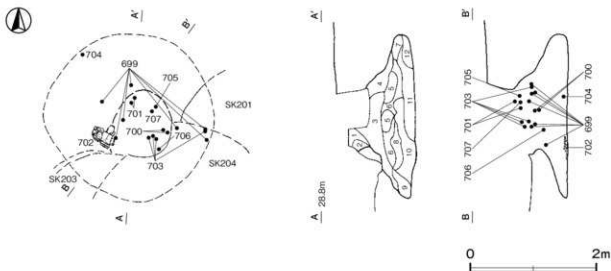
覆土 12 層に分層できる。第 3・4 層は含有物の少ない黒褐色土で、一時的に開口していた際に流れ込んだ土と考えられる。第 5 層以下は不規則な堆積状況を示していることから、埋め戻されている。

土層解説

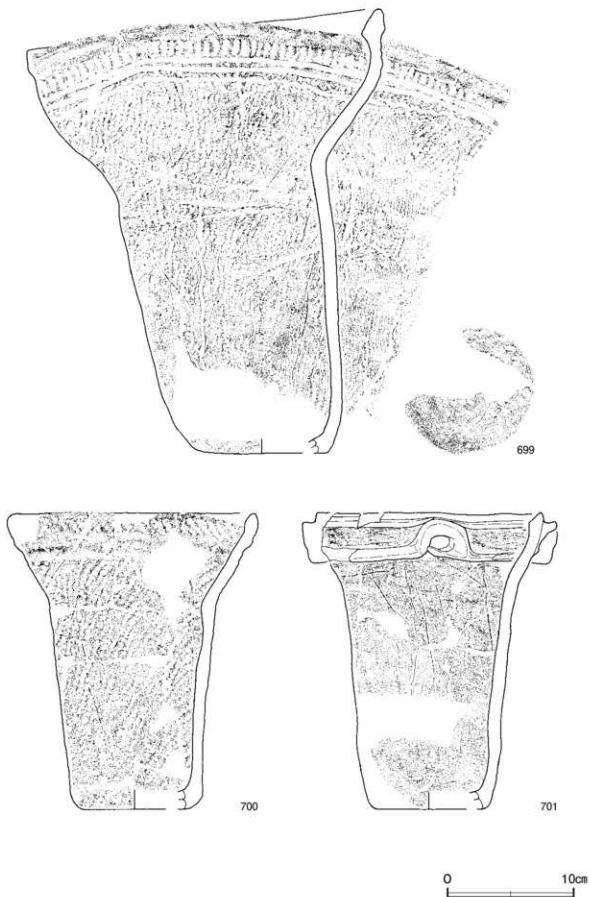
- |                                |                         |
|--------------------------------|-------------------------|
| 1 黒褐色 ローム粒子少量、炭化粒子微量           | 7 黒褐色 ロームブロック少量         |
| 2 にぶい黄褐色 ロームブロック中量             | 8 暗褐色 ローム粒子少量、炭化粒子微量    |
| 3 黒褐色 ローム粒子・炭化粒子少量             | 9 暗褐色 鹿沼パミスブロック・ローム粒子中量 |
| 4 黒褐色 ローム粒子少量                  | 10 暗褐色 ローム粒子中量          |
| 5 にぶい黄褐色 ロームブロック中量、鹿沼パミスブロック微量 | 11 黒褐色 ロームブロック中量        |
| 6 極暗褐色 ローム粒子中量                 | 12 にぶい黄褐色 ロームブロック少量     |

遺物出土状況 縄文土器片 243 点 (深鉢 239, 浅鉢 4), 石器 6 点 (磨製石斧 3, 磨石 1, 敲石 1, 敲砥石 1), 石核 1 点, 礫 1 点が出土している。702 は中央部南西寄り, 704 は北西壁際の底面から出土している。702 は底部が欠損しているが、横位で押しつぶされた状態で出土しており、廃絶時に遺棄されたものと考えられる。699 ~ 701・703・705 ~ 707・709・710, Q 188 は、覆土中層からまともに出て出土しており、ある程度埋め戻された凹地状の部分に一括投棄されたものと考えられる。

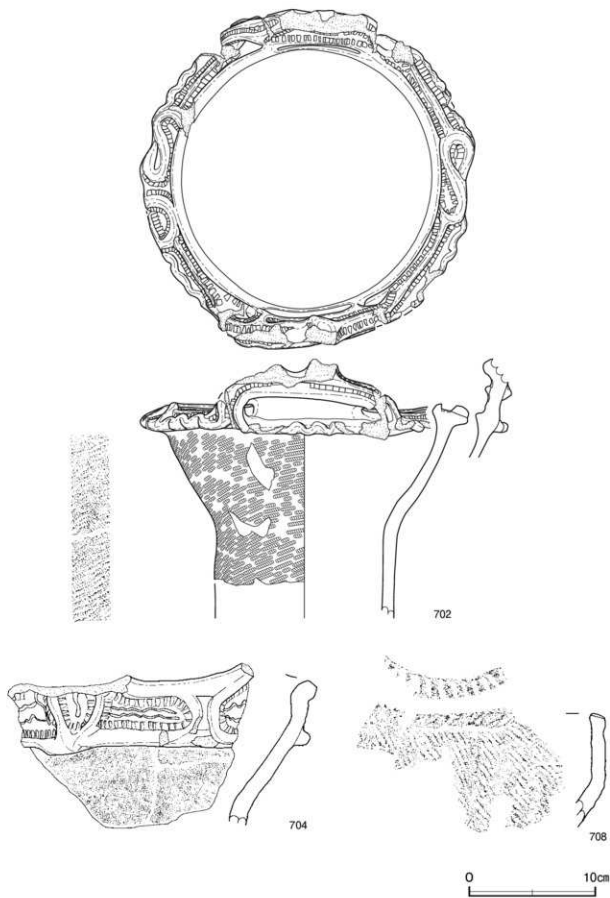
所見 規模と形状から、貯蔵穴と考えられる。時期は、出土土器から中期中葉と考えられる。



第 258 図 第 202 号土坑実測図

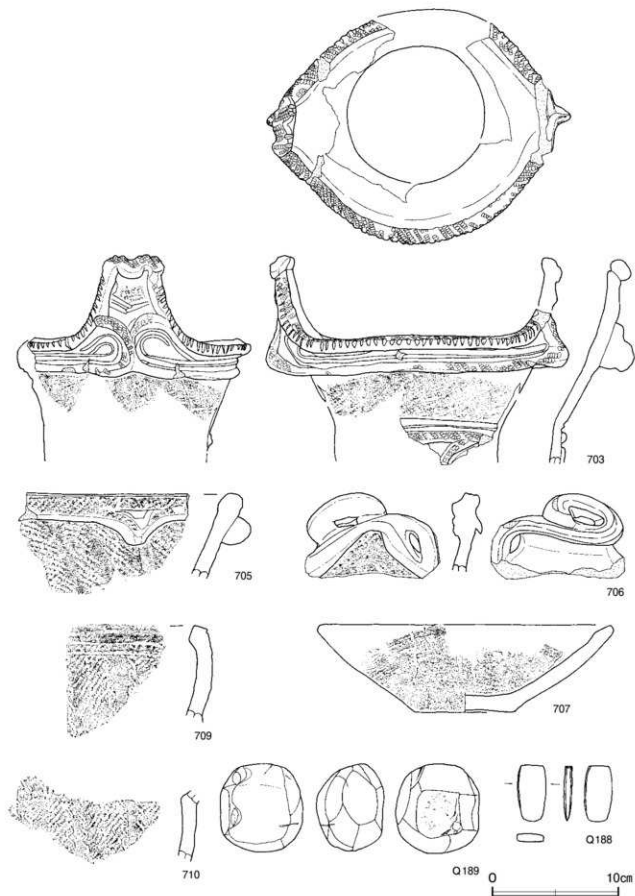


第 259 図 第 202 号土坑出土遺物実測図 (1)



第 260 图 第 202 号土坑出土遗物实测图 (2)





第 261 图 第 202 号土坑出土遺物実測图(3)

第202号土坑出土遺物観察表(第259～261図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	文様の特徴ほか	出土位置	備考
699	縄文土器	深鉢	27.7	35.4	10.4	長石・石英	にぶい橙	普通	口縁部無文帯に細記の点状文・並行波瀾・波状文が一定 器底に下地文に黒陶文(縦・横) 紋行文・条線文が並下 底面副代周	覆土中層	80% PL126
700	縄文土器	深鉢	[189]	23.5	[86]	長石・石英・雲母	明赤褐	普通	口縁部に段を有し段上に黒陶文丸(横) 胴部同一形体(縦)	覆土中層	80% PL126
701	縄文土器	深鉢	17.8	23.5	[85]	長石・石英・雲母	褐	普通	口縁部状況の隆帯による文様波瀾 口縁部外面横位の筋さ 胴部以下縦位の筋さ	覆土中層	50% PL126
702	縄文土器	深鉢	21.4	[20.1]	-	長石・石英・雲母	にぶい赤	普通	一般の穿孔把手 把手下部に楕円区画 把手裏面に有地波瀾 口唇部隆帯によるS字状・渦文・条文・発音によって有地波瀾 口縁部隆帯状隆帯が並下 胴部黒陶文丸(縦)	底面	80% PL126
703	縄文土器	深鉢	18.8	[15.2]	-	長石・石英・雲母	黒	普通	把手下部から口唇部部に黒陶文丸(横) 胴部隆帯による楕円区画 区画内隆帯に沿ってキョウレン文 2本の条状波瀾 胴部無文帯	覆土中層	20% PL126
704	縄文土器	深鉢	-	[12.8]	-	長石・石英・針状炭素	黒褐	普通	隆帯による楕円区画 区画内隆帯に沿ってキョウレン文 2本の条状波瀾 胴部無文帯	底面	10%
705	縄文土器	浅鉢	-	[6.7]	-	長石・石英・雲母	暗赤褐	普通	口縁部上部にS字状の隆帯並行 口唇部黒陶文1丸(横) 胴部同一形体(縦)を間隔を開けて施文	覆土中層	
706	縄文土器	浅鉢	-	[6.3]	-	長石・石英・雲母	灰黄褐	普通	把手表面背割れ隆帯による横S字状文 地文に黒陶文丸(横)	覆土中層	
707	縄文土器	浅鉢	[22.9]	6.9	7.8	長石・石英	暗赤褐	普通	外・内面横位の筋さ 底面丁寧なナデ	覆土中層	50% PL126
708	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・赤色鉄質	にぶい橙	普通	口唇部部にキョウ目 肥厚部に黒陶文丸(横) 胴部同一形体(縦)	覆土中	
709	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	にぶい黄褐	普通	口縁部上部に平行有地波瀾が一定 地文に結縷文(縦)を間隔を開けて施文	覆土中層	710・SK35 720 同一-形体
710	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	にぶい赤褐	普通	地文に結縷文(縦)を間隔を開けて施文	覆土中層	709・SK35 720 同一-形体

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴		出土位置	備考
Q188	磨製石斧	4.5	2.2	0.6	12.8	角閃岩	楕小型	全面研磨 両側縁に鋭 刃部は表裏から研ぎ出す	覆土中層	PL170
Q189	磨砥石	7.0	6.6	5.3	378.3	黒色安山岩	円盤の周縁部に多方向からの砥面により鋭をもつ		覆土中層	PL172

## 第203号土坑(第262・263図 PL146)

位置 調査区中央部北寄りのC3e4区、標高29mほどの台地平坦部に位置している。

重複関係 第202・205号土坑を掘り込み、第204号土坑に掘り込まれている。

規模と形状 東部を第204号土坑に掘り込まれており、開口部は北西・南東径が2.34mで、北東・南西径は2.13mしか確認できなかった。楕円形で、長径方向はN-65°-Wである。底面は長径2.26m、短径1.98mの楕円形である。平坦で、南壁際に径60cm、深さ10cmほどの浅い凹みがある。確認面からの深さは70cmである。壁は内燻しており、袋状を呈している。

ピット 2か所。P1・P2は、深さ68・28cmで、西部と北西部の壁際に位置しており、補助的な貯蔵施設と考えられる。

## ピット土層解説

1 暗褐色	ローム粒子少量	5 にぶい黄褐色	ロームブロック少量
2 黒褐色	ローム粒子少量	6 暗褐色	ロームブロック多量
3 暗褐色	ロームブロック少量	7 暗褐色	ロームブロック中量
4 にぶい黄褐色	ロームブロック少量		

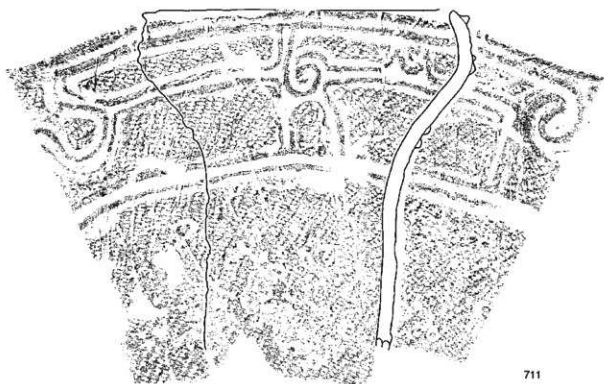
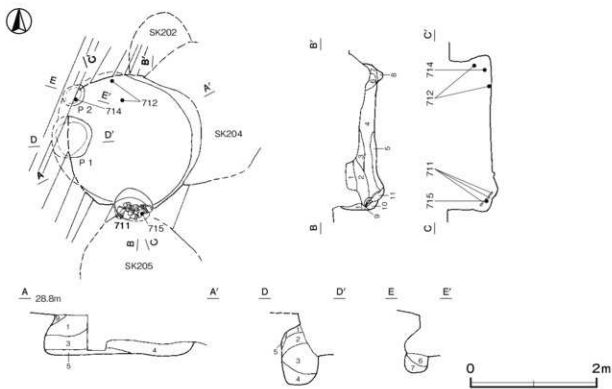
覆土 11層に分層できる。不規則な堆積状況を示していることから、埋め戻されている。

## 土層解説

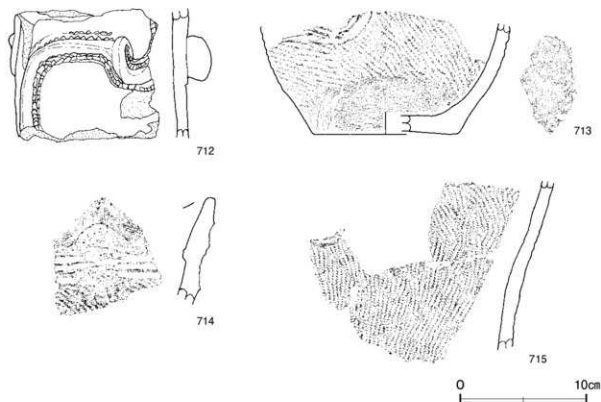
1 暗褐色	ローム粒子少量	6 暗褐色	ロームブロック少量
2 暗褐色	ローム粒子少量、鹿沼バミスブロック・炭化粒子微量	7 暗褐色	ロームブロック中量
3 暗褐色	ローム粒子少量、炭化粒子微量	8 暗褐色	ローム粒子・焼土粒子少量
4 暗褐色	ローム粒子多量、炭化粒子少量	9 にぶい黄褐色	ロームブロック中量
5 黒褐色	ローム粒子少量	10 黒褐色	ロームブロック少量
		11 にぶい黄褐色	ロームブロック多量

遺物出土状況 縄文土器片48点(深鉢)が出土している。711・715は南壁際の凹みの上部から出土しており、711は破片が1か所にまとめられた状態で出土していることから、破砕後に遺棄されたと考えられる。712・714は、北壁際の覆土中層から下層にかけて出土した破片が接合しており、埋め戻す過程で投棄されたものと考えられる。

所見 規模と形状から、貯蔵穴と考えられる。時期は、出土土器から中期中葉と考えられる。



第262图 第203号土坑·出土文物实测图



第263図 第203号土坑出土遺物実測図

第203号土坑出土遺物観察表(第262・263図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	地成	文様の特徴ほか	出土位置	備考
711	縄文土器	深鉢	233	(270)	-	長石・石英	橙	普通	地文に単線縄文LR(縦) 口縁頂部に沈線一巡 背割れ縁帯によるクワンク文・高卷文	覆土下層	70% PL125
712	縄文土器	深鉢	-	(105)	-	長石・石英・雲母	橙	普通	腰縁状縁帯で文様縁帯の一部に陥み状の突起 胎帯に沿って中行有筋沈線	覆土中～下層	10%
713	縄文土器	深鉢	-	(88)	[114]	長石・石英・雲母	明赤褐	普通	地文に単線縄文LR(縦) 太い沈線で文様縁帯 割下層境位の敷き 底面割代敷をナゲ消す	覆土上層	15%
714	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	にがい赤褐	普通	口縁部上面に3本の沈線が一巡 沈線下部から 単線縄文LR(横)	覆土下層	
715	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	橙	普通	地文に単線縄文LR(縦・斜) 施文	覆土下層	

#### 第204号土坑(第264図)

**位置** 調査区中央部北寄りのC3e5区、標高29mほどの台地平坦部に位置している。

**重複関係** 第201～203号土坑を掘り込んでいる。

**規模と形状** 耕作による攪乱を受けているが、長径2.77m、短径2.21mの楕円形で、長径方向はN-63°-Eである。底面は平坦で、深さは45cmである。壁は外傾している。

**覆土** 2層に分層できる。北東側から埋め戻された堆積状況を示している。

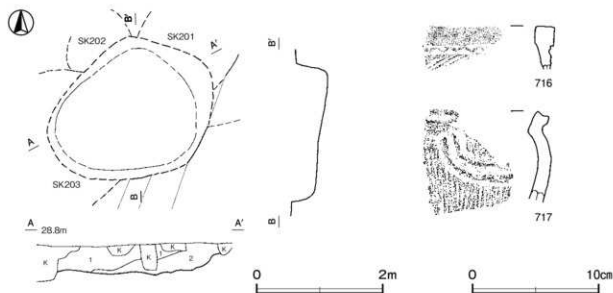
#### 土層解説

1 暗褐色 ローム粒子中量

2 暗褐色 ロームブロック微量

**遺物出土状況** 縄文土器片77点(深鉢)、石核1点(頁岩)が出土している。716・717は、覆土下層から出土している。

**所見** 耕作による攪乱を受けているため明確でないが、規模から袋状土坑の下部と推定でき、貯蔵穴と考えられる。時期は、出土土器から中期中葉と考えられる。



第264図 第204号土坑・出土遺物実測図

第204号土坑出土遺物観察表(第264図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	文様の特徴ほか	出土位置	備考
716	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母 にぶい褐	普通		口唇頂部平坦面 口縁部無文帯 無文帯下部に 交互斜交文 地文に0段多糸縄文図。(編)	覆土下層	
717	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母 にぶい褐	普通		口唇頂部に花綱が一帯。地文に0段多糸縄文 図。(斜) 首細れ隆部による文様面画	覆土下層	PL.126

## 第205号土坑(第265図 PL46)

**位置** 調査区中央部のC3e4区、標高29mほどの台地平坦部に位置している。

**重複関係** 第203号土坑に掘り込まれている。

**規模と形状** 開口部は径1.85～1.95mの円形である。底面は長径3.30m、短径2.80mの楕円形で、平坦である。確認面からの深さは124cmである。壁は大きく内傾して袋状を呈し、底面から68～84cmのところできびれ、上位は外傾している。

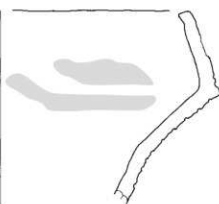
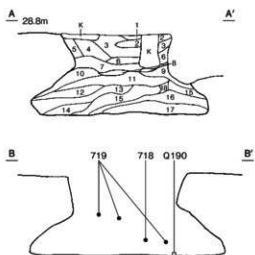
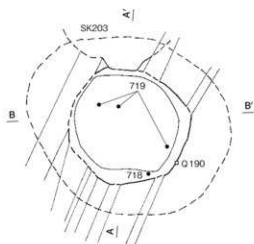
**覆土** 18層に分層できる。ロームブロックを多く含む層と黒褐色土が互層に堆積していることから、埋め戻されている。

## 土層解説

1 黒褐色	ローム粒子中量	10 暗褐色	ロームブロック少量
2 黒褐色	ロームブロック中量、炭化粒子微量	11 暗褐色	ローム粒子中量
3 黒褐色	ローム粒子・炭化粒子中量	12 暗褐色	ローム粒子少量
4 黒褐色	ローム粒子中量、炭化粒子微量	13 暗褐色	ロームブロック中量
5 暗褐色	ローム粒子微量	14 暗褐色	ローム粒子少量、炭化粒子微量
6 暗褐色	ローム粒子中量、炭化粒子少量	15 黒色	ロームブロック多量
7 暗褐色	ロームブロック中量、炭化粒子微量	16 黒褐色	ロームブロック中量
8 にぶい黄褐色	ロームブロック多量	17 褐色	ロームブロック中量
9 黒褐色	ローム粒子微量	18 黒褐色	ロームブロック微量

**遺物出土状況** 縄文土器片162点(深鉢161, 浅鉢1), 石器1点(磨製石斧), 石核1点(頁岩)が、覆土上層及び最下層から散乱して出土している。719は、中央部から南東部の覆土中層から下層にかけて出土した破片が接合している。Q190は底面から、718は覆土下層からそれぞれ出土している。また、720と同一個体とみられる土器片が、第202号土坑の覆土中層から出土している。

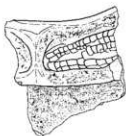
**所見** 規模と形状から、貯蔵穴と考えられる。時期は、出土土器から中期中葉と考えられる。



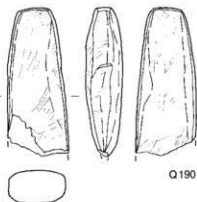
719



720



718



Q190



第 265 图 第 205 号土坑·出土物实测图

第 205 号土坑出土遺物観察表 (第 265 図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	文様の特徴ほか	出土位置	備考
718	縄文土器	深鉢	-	(10.3)	-	灰石・石英・雲母	にがい肌	普通	除帯による楕円区画(区画結合部に突起。除帯に沿って有筋状線。除帯上車筋縄文区画)。 地文に黒鉛縄文土器(縦)と黒鉛区画で方形区画。麻子文。肩部並行沈線と成状沈線。胴部区画文・無垂文。	覆土下層	
719	縄文土器	浅鉢	[29.8]	[15.4]	-	長石・石英・雲母	粗肌	普通	口縁部上部に車行有筋沈線が一周。地文に結節縄文(縦)を帯縁を帯けて施文。	覆土中～下層	10% PL125
720	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	粗	普通	口縁部上部に車行有筋沈線が一周。地文に結節縄文(縦)を帯縁を帯けて施文。	覆土中	SK302 730・710 上層一筋。

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
Q190	磨製石斧	(11.8)	4.8	2.8	(296.6)	緑色岩	定角式 全面に微細な縦調整後研磨 刃部欠損	底面	PL167

## 第 206 号土坑 (第 266・267 図 PL47)

位置 調査区西部の C2c9 区、標高 29 m ほどの台地平坦部に位置している。

重複関係 第 234 号土坑に掘り込まれている。

規模と形状 耕作による攪乱を受けているが、開口部は長径 1.37 m、短径 1.08 m の楕円形で、長径方向は N-62°-W と推定できる。底面は径 1.77～1.86 m の円形で、平坦である。確認面からの深さは 82 cm である。壁は大きく内彎して、袋状を呈し、底面から 27～54 cm のところでぐびれ、上位は外傾している。

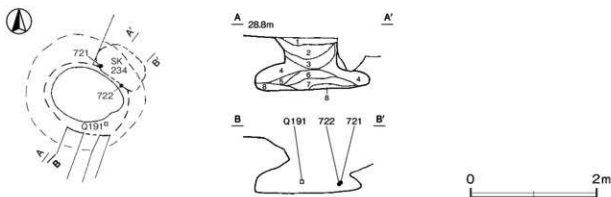
覆土 8 層に分層できる。各層にロームブロックや炭化物が含まれていることから、埋め戻されている。

## 土層解説

- |       |                         |       |                      |
|-------|-------------------------|-------|----------------------|
| 1 暗褐色 | ローム粒子少量、焼土ブロック・炭化物微量    | 5 暗褐色 | ロームブロック中量            |
| 2 暗褐色 | 焼土ブロック・ローム粒子少量、炭化物微量    | 6 黒褐色 | ロームブロック少量、炭化物・焼土粒子微量 |
| 3 暗褐色 | ローム粒子少量、炭化物微量           | 7 暗褐色 | ロームブロック少量、炭化物微量      |
| 4 黒褐色 | ロームブロック中量、炭化粒子少量、焼土粒子微量 | 8 暗褐色 | ロームブロック中量、炭化粒子微量     |

遺物出土状況 縄文土器片 106 点(深鉢)、石器 1 点(凹石)、剥片 2 点(黒色安山岩、チャート)が出土している。721 は北部、722 は東部、Q191 は南部の覆土下層から散乱した状態で出土している。

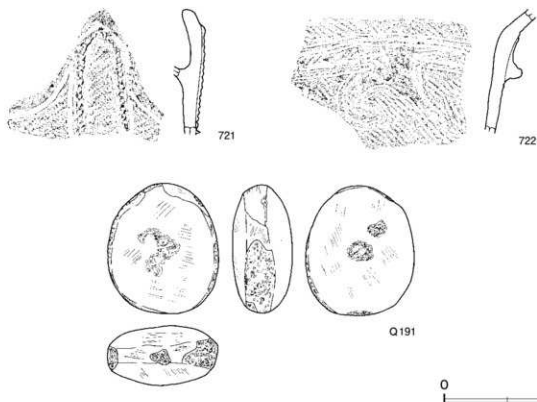
所見 規模と形状から、貯蔵穴と考えられる。時期は、出土土器から中期中葉と考えられる。



第 266 図 第 206 号土坑実測図

第 206 号土坑出土遺物観察表 (第 267 図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	文様の特徴ほか	出土位置	備考
721	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	黒肌	普通	地文に黒鉛縄文区画(縦)。連口字状の隆帯帯付。除帯上に斜交文。口縁に沿って沈線。底面部表層袋状の凹片。	覆土下層	
722	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	にがい肌	普通	地文に黒鉛縄文(縦)。連口字状の隆帯帯付一部突起。隆帯に沿って有筋状線。	覆土下層	



第267図 第206号土坑出土遺物実測図

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
Q196	凹石	10.3	8.8	4.8	617.0	安山岩	表裏面、側面の一部研磨痕、側縁部と表裏面の一部に敲打痕	覆土下層	PL181

### 第208号土坑（第268図 PL44・47）

**位置** 調査区西部のC 2b9区、標高29mほどの台地平坦部に位置している。

**重複関係** 第199号土坑を掘り込んでいる。

**規模と形状** 長径0.55m、短径0.40mの楕円形で、長径方向はN-38°-Wである。底面は平坦で、深さは103cmである。壁は直立している。

**覆土** 3層に分層できる。各層にロームのブロックや粒子が多く含まれていることから、埋め戻されている。柱抜き取り後の埋土と考えられる。

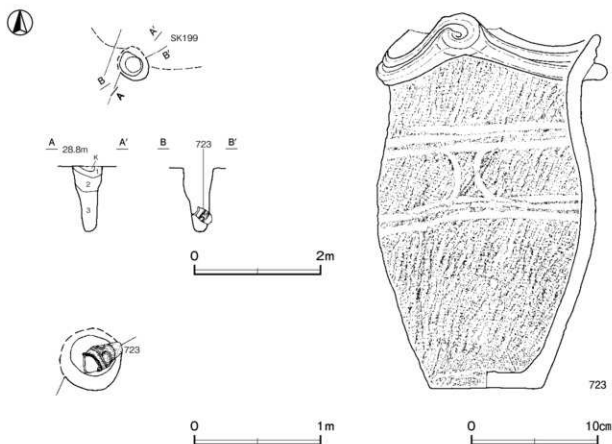
#### 土層解説

- 1 暗褐色 ローム粒子少量、炭化粒子微量                      3 暗褐色 ローム粒子中量  
 2 暗褐色 ロームブロック少量、焼土粒子・炭化粒子微量

**遺物出土状況** 縄文土器1点（深鉢）が出土している。723は覆土下層から、口縁部を上に向けた斜位の状態で出土しており、柱の抜き取り後に埋納されたものと考えられる。

**所見** 形状から柱穴と考えられるが、構造や対応するようなその他の柱穴の存在は不明である。時期は、出土土器から中期中葉と考えられる。





第268図 第208号土坑・出土遺物実測図

第208号土坑出土遺物観察表(第268図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	文様の特徴ほか	出土位置	備考
723	縄文土器	深鉢	160	298	8.6	長石・石英・雲母・赤色粒子	にじみ・規	普通	浅部部湾留れ跡帯による渦巻文 地文に0段多 条1.R(横) 並行波線による4単位の楕円区画	覆土下層	95% PL127

## 第209号土坑(第253・269図 PL47)

**位置** 調査区北西部のC2a9区、標高29mほどの台地平坦部に位置している。

**重複関係** 第196～198号土坑に掘り込まれている。

**規模と形状** 西半部が複数の土坑に掘り込まれているため、長径は162m、短径は131mしか確認できなかった。円形または楕円形と推定できる。底面は平坦で、深さは40cmである。壁は直立している。

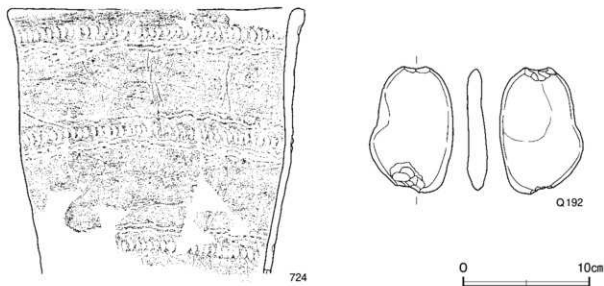
**覆土** 3層に分層できる。含有物の少ない暗褐色土が水平に堆積していることから、自然堆積である。

**土層解説**

- 1 暗褐色 ローム粒子少量、炭化物・焼土粒子微量 3 暗褐色 ロームブロック少量、炭化物微量  
2 暗褐色 ロームブロック少量、炭化粒子微量

**遺物出土状況** 縄文土器片49点(深鉢)、石器1点(石錘)、剥片2点(安山岩、瑪瑙)が出土している。724は、東壁際の覆土最下層から大型の破片がつぶれた状態で出土しており、廃絶後、間もなく投棄されたものと考えられる。

**所見** 時期は、出土土器から中期中葉と考えられる。



第269図 第209号土坑出土遺物実測図

第209号土坑出土遺物観察表(第269図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	文様の特徴ほか	出土位置	備考
724	縄文土器	深鉢	(23.2)	(21.0)	-	長石・石英・雲母	にぶい黒	普通	口縁下部・胴部に爪形文と波状文が一高	覆土下層	30% PL127
番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴		出土位置	備考	
Q192	石鉢	10.1	6.6	1.6	150.7	砂岩	扁平な自然石を利用 両端を敲打		覆土上層	PL181	

### 第211号土坑(第270・271図 PL48・98)

**位置** 調査区北西部のB2i5区、標高29mほどの台地平坦部に位置している。

**重複関係** 第345号土坑に掘り込まれている。

**規模と形状** 開口部は長径1.78m、短径1.41mの楕円形で、長径方向はN-38°-Eである。底面は径2.28~2.38mのほぼ円形で、平坦である。確認面からの深さは111cmである。壁は大きく内傾して袋状を呈し、底面から64~70cmのところできつれ、上位は外傾している。

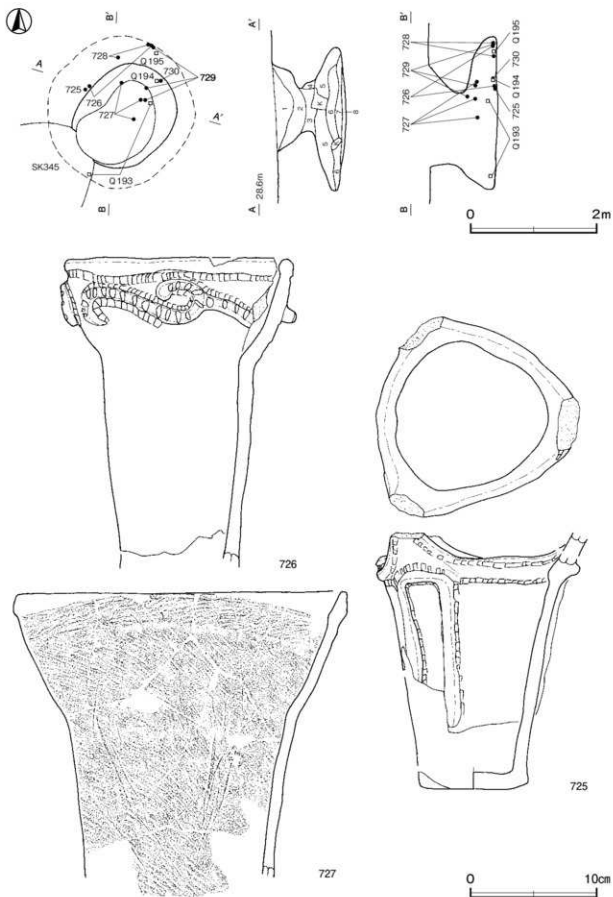
**覆土** 8層に分層できる。各層にロームのブロックや粒子が含まれていることから、埋め戻されている。

#### 土層解説

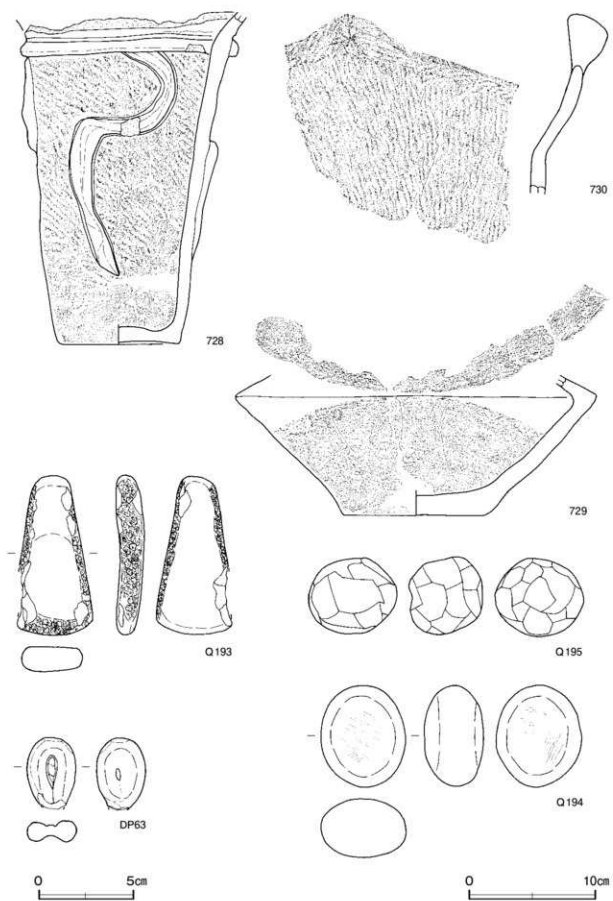
1 暗褐色	ロームブロック・焼土粒子少量、炭化物微量	5 黒褐色	ロームブロック少量、焼土ブロック・炭化物微量
2 暗褐色	ローム粒子・焼土粒子少量、炭化物微量	6 暗褐色	ロームブロック中量、焼土粒子・炭化粒子微量
3 黒褐色	ローム粒子少量、焼土ブロック・炭化物微量	7 黒褐色	ロームブロック少量、炭化粒子微量
4 暗褐色	ローム粒子中量、炭化粒子微量	8 暗褐色	ロームブロック少量、焼土粒子・炭化粒子微量

**遺物出土状況** 縄文土器片201点(深鉢196、浅鉢5)、土製品1点(不明土製品)、石器3点(磨製石斧未成品、磨石、敲砥石)、剥片2点(石英、泥岩)が出土している。725・726・728・730、Q193~Q195は北部の覆土下層から散乱した状態で出土している。727・729は、北半部の覆土中層の第5層を中心に、破片がまとめて出土しており、埋め戻す過程で一括投棄されたものと考えられる。

**所見** 規模と形状から、貯蔵穴と考えられる。時期は、出土土器から中期中葉と考えられる。



第270图 第211号土坑·出土物实测图



第 271 图 第 211 号土坑出土遗物实测图

第211号土坑出土遺物観察表(第270・271図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	文様の特徴はか	出土位置	備考
725	縄文土器	深鉢	136	(20.4)	8.5	長石・石英・雲母	にぶい黄褐色	普通	3單位の肥子・口縁部上端之本の有筋沈線・肥子部から逆じ字状の隆帯並下・隆帯に沿って有筋沈線・底面土着	覆土下層	70% PL127
726	縄文土器	深鉢	175	(24.8)	-	長石・石英・雲母・赤色粒子	黒褐色	普通	口縁部幅広い有筋沈線一高・隆帯による横S字状文・隆帯上刺突文及び隆帯に沿って有筋沈線	覆土下層	80% PL127
727	縄文土器	深鉢	25.8	(22.7)	-	長石・石英・雲母	黒褐色	普通	口縁上端単筋縄文LR(横)・胴部同一形体(縦)	覆土中層	60% PL127
728	縄文土器	深鉢	-	(26.4)	9.5	長石・石英・雲母・赤色粒子	褐色	普通	基文に無筋縄文R(縦)・溝状隆帯が一高・断面三角形の隆帯がクラシク状に並下・底面刺突文	覆土下層	80% PL127
729	縄文土器	浅鉢	-	(11.2)	11.2	長石・石英・雲母・赤色粒子	にぶい褐色	普通	外・内面横位の丁寧な磨き	覆土中層	80% PL127
730	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	黒褐色	普通	口唇部肥厚・筋入状の突起筋付文し(横)・胴部同一形体(縦)	覆土下層	

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	胎土	色調	特徴	出土位置	備考
DP63	石製土器	(3.8)	2.6	1.1	(11.1)	長石・石英	にぶい褐色	粘土粒をドーナツ状に連結し、中央部に突起筋付・溝部一部欠損	覆土中	PL160

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
Q193	磨製石斧 未成品	126	6.0	2.4	2172	砂岩	表面面研磨痕・周縁部・片方部敲打調整	覆土下層	PL170
Q194	磨石	80	6.7	4.6	3360	砂岩	表面面研磨痕	覆土下層	PL181
Q195	磨石	61	7.0	5.8	3466	チャート	円縁の周縁部に多方向からの砥面により後々もつ	覆土下層	PL172

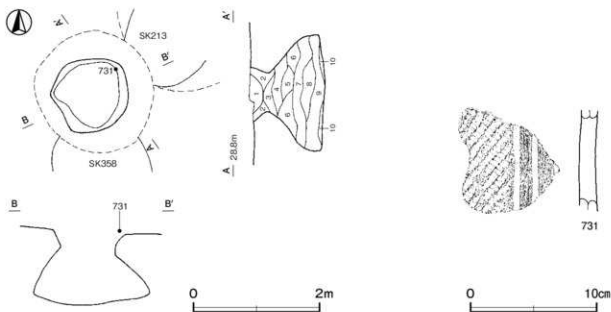
## 第212号土坑(第272図 PL48)

位置 調査区北西部のC2b8区、標高29mほどの台地平坦部に位置している。

重複関係 第213・358号土坑を掘り込んでいる。

規模と形状 開口部は径1.19～1.30mの円形である。底面は径1.82～1.97mの円形で、中央部が皿状に凹んでいる。確認面からの深さは118cmである。壁は内傾して袋状を呈し、底面から82～90cmのところできびれ、上位は外傾している。

覆土 10層に分層できる。各層にロームブロックや炭化物が多く含まれていることから、埋め戻されている。



第272図 第212号土坑・出土遺物実測図

土層解説

1 暗褐色	ロームブロック中量、炭化物・焼土粒子微量	6 暗褐色	ロームブロック中量、焼土ブロック・炭化物微量
2 暗褐色	ロームブロック中量、焼土粒子・炭化粒子微量	7 黒褐色	ロームブロック・炭化物中量、焼土ブロック少量
3 暗褐色	ローム粒子少量、焼土ブロック・炭化粒子微量	8 暗褐色	ロームブロック多量、焼土粒子・炭化粒子微量
4 暗褐色	ロームブロック中量、炭化物・焼土粒子少量	9 暗褐色	ロームブロック中量、炭化粒子微量
5 黒褐色	ローム粒子・炭化粒子中量、焼土粒子少量	10 褐色	ロームブロック多量

遺物出土状況 縄文土器片 1点（深鉢）、石器 2点（打製石斧、石皿）、剥片 1点（チャート）が出土している。  
731は、覆土最上層から出土している。

所見 規模と形状から、貯蔵穴と考えられる。時期は、出土土器から中期後葉と考えられる。

第 212 号土坑出土遺物観察表（第 272 図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	文様の特徴ほか	出土位置	備考
731	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	にぶい黄褐色	普通	地文に半周縄文図（縦）3本の沈線を基下沈瀬間筋消	覆土上層	

第 213 号土坑（第 273～275 図 PL48・100）

位置 調査区北西部の C 2 b8 区、標高 29 m ほどの台地平坦部に位置している。

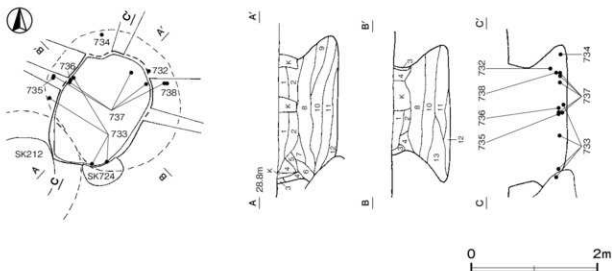
重複関係 第 212・724 号土坑に掘り込まれている。

規模と形状 開口部は長径 2.09 m、短径 1.34 m の不整形円形で、長径方向は N-24°-E である。底面は南西部を第 212 号土坑に掘り込まれているが、径 2.08～2.27 m の円形で、平坦である。確認面からの深さは 93 cm である。壁は内傾して袋状を呈し、底面から 62～72 cm のところでぐびれ、上位はほぼ直立している。

覆土 13 層に分層できる。各層にロームブロックが多く含まれていることから、埋め戻されている。

土層解説

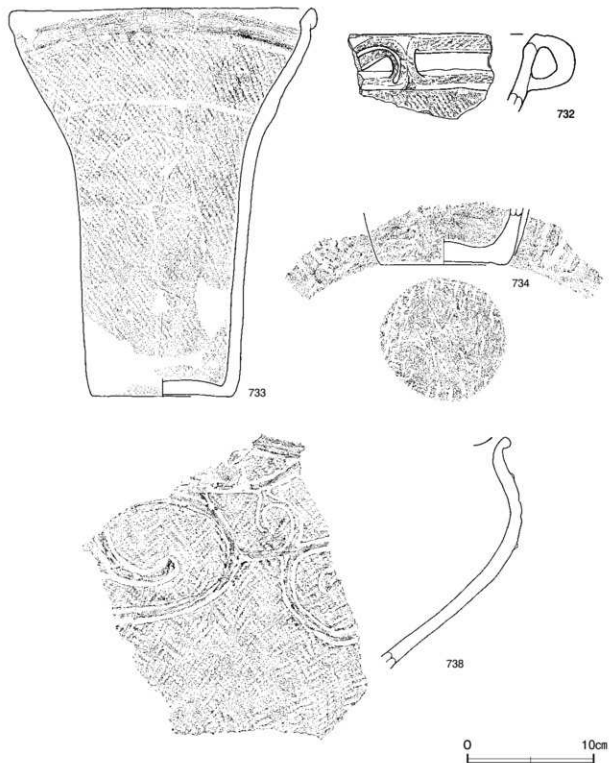
1 暗褐色	ローム粒子少量、焼土粒子・炭化粒子微量	8 黒褐色	ロームブロック・焼土粒子中量、炭化物少量
2 黒褐色	ローム粒子・炭化粒子少量、焼土粒子微量	9 暗褐色	ロームブロック中量、焼土粒子少量、炭化物微量
3 暗褐色	ローム粒子中量、焼土ブロック・炭化物微量	10 黒褐色	ロームブロック中量、炭化粒子少量、焼土粒子微量
4 褐色	ロームブロック多量、炭化粒子少量、焼土粒子微量	11 暗褐色	ロームブロック多量、焼土粒子・炭化粒子微量
5 暗褐色	ロームブロック少量、炭化粒子微量	12 暗褐色	ロームブロック少量、焼土粒子・炭化粒子微量
6 暗褐色	ローム粒子中量、炭化物・焼土粒子微量	13 暗褐色	ロームブロック中量、焼土ブロック・炭化物微量
7 暗褐色	ロームブロック中量、炭化物・焼土粒子微量		



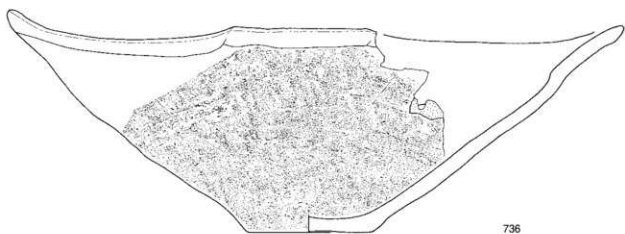
第 273 図 第 213 号土坑実測図

**遺物出土状況** 縄文土器片 150 点（深鉢 135、浅鉢 14、器台 1）、石器 6 点（打製石斧 1、敲石 2、砥石 1、台石 2）が出土している。732・734～736・738 は北半部の壁際、733 は西部及び南部の壁際の覆土下層から、大型の破片が散乱した状態で出土している。いずれも埋め戻しの早い段階で投棄されたものと考えられる。

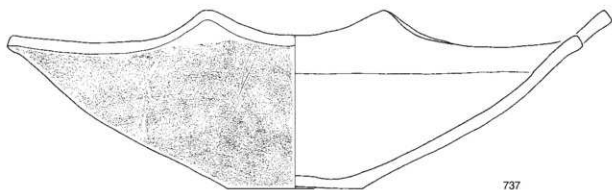
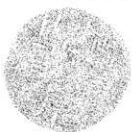
**所見** 規模と形状から、貯蔵穴と考えられる。時期は、出土土器から中期中葉と考えられる。



第 274 図 第 213 号土坑出土遺物実測図 (1)



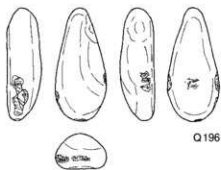
736



737



735



Q196



第 275 图 第 213 号土坑出土遗物实测图 (2)



第213号土坑出土遺物観察表(第274・275図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	文様の特徴はか	出土位置	備考
732	縄文土器	深鉢	-	(6.1)	-	長石・石英・雲母 黒色粒子	橙	普通	口縁上部に隆帯と頸状把手跡付。隆帯上に無筋縄文1周(横)。胴部同一身体による縦位施文(縦)。底部分無文。埴文に華路縄文1周(縦)。底部ナデ。	覆土下層	
733	縄文土器	深鉢	236	309	108	長石・石英・雲母・ 赤色粒子	橙	普通	2条の溝状隆帯が並下。横位のナデ。底面銅代灰。	覆土下層	80% PL128
734	縄文土器	深鉢	-	(4.9)	100	長石・石英・雲母・ 赤色粒子	暗黒	普通	口縁部断面三角形の隆起帯を並らせ部分的に突起結付。埴文に無筋縄文1周(縦)。	覆土下層	10%
735	縄文土器	浅鉢	[158]	6.7	[9.8]	長石・石英・雲母	にぶい・褐	普通	外・内面横位の丁寧な磨き。底面銅代灰。2か所穿孔あり。	覆土下層	30% PL128
736	縄文土器	浅鉢	486	16.8	9.9	長石・石英・雲母	褐	普通	外・内面丁寧な磨き。口縁部及び口唇部赤彩痕。底面銅代灰。	覆土下層	50% PL128
737	縄文土器	浅鉢	[490]	14.3	11.0	長石・石英・雲母	灰黄褐	普通	埴文に華路縄文1周(横・縦)で頸状に施文。隆帯による文様結納。隆帯に沿って有筋比輪。内面上部赤彩痕。	覆土下層	60% PL128
738	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	黒褐	普通		覆土下層	PL128

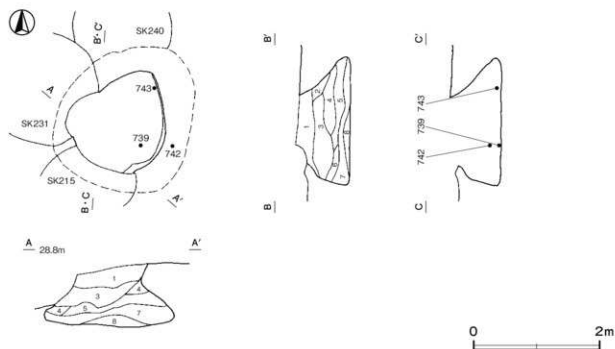
番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
Q196	敲石	90	4.1	2.8	128.5	流紋岩	頸縁の一部と端部に敲行痕	覆土中	PL172

第216号土坑(第276・277図)

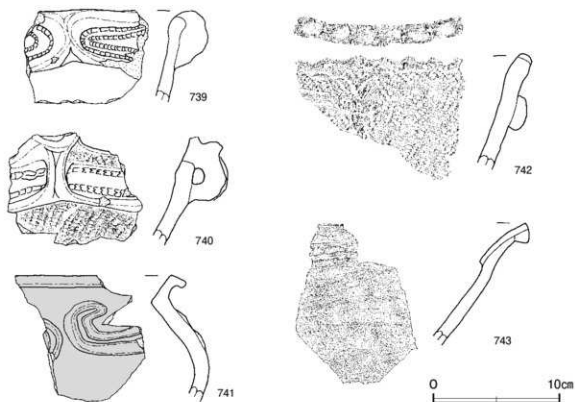
位置 調査区北西部のC2b7区。標高29mほどの台地平坦部に位置している。

重複関係 第240号土坑を掘り込み、第215・231号土坑に掘り込まれている。

規模と形状 西・南部を第215・231号土坑に掘り込まれているため、開口部は長径が1.66m、短径が1.32mしか確認できなかった。不整形円形で、長径方向はN-23°-Eである。底面は長径2.45m、短径2.14mの楕円形で、平坦である。確認面からの深さは98cmである。壁は内傾して袋状を呈し、底面から74cmのところできり、上位はほぼ直立している。



第276図 第216号土坑実測図



第277図 第216号土坑出土遺物実測図

**覆土** 8層に分層できる。各層にロームのブロックや粒子が多く含まれていることから、埋め戻されている。

**土層解説**

- |       |                       |       |                         |
|-------|-----------------------|-------|-------------------------|
| 1 暗褐色 | ローム粒子少量、焼土ブロック・炭化粒子微量 | 5 褐色  | ロームブロック中量、炭化物微量         |
| 2 暗褐色 | ロームブロック中量、焼土粒子・炭化粒子微量 | 6 暗褐色 | ローム粒子中量、焼土粒子・炭化粒子微量     |
| 3 褐色  | ロームブロック多量、焼土粒子・炭化粒子微量 | 7 黒褐色 | ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子少量       |
| 4 黒褐色 | ローム粒子中量、焼土粒子少量、炭化物微量  | 8 黒褐色 | ローム粒子多量、炭化粒子中量、焼土ブロック微量 |

**遺物出土状況** 縄文土器片 96点（深鉢86、浅鉢10）、石器3点（磨製石斧1、磨石2）、剥片3点（瑪瑙）が出土している。739・742・743は東半部の覆土下層から散乱した状態で出土しており、埋め戻す過程で投棄されたものと考えられる。

**所見** 規模と形状から、貯蔵穴と考えられる。時期は、出土土器から中期中葉と考えられる。

第216号土坑出土遺物観察表（第277図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	文様の特徴ほか	出土位置	備考
739	縄文土器	深鉢	-	(73)	-	長石・石英・雲母	橙	普通	口縁部隆帯による楕円区画文 区画間に細み状に突出す 隆帯に沿って2本の有形式線	覆土下層	
740	縄文土器	深鉢	-	(86)	-	長石・石英	橙	普通	口縁上部2条の隆帯 隆帯間に節状線 横状把子貼付 隆帯上と胴部半周縄文刻。(横・縦)	覆土中	
741	縄文土器	浅鉢	-	(100)	-	長石・石英・雲母	橙	普通	背割れ母帯による葉手文 外・内面丁寧な磨き 口縁部内面赤彩	覆土中	
742	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	灰褐色	普通	口径深部指環による成状印痕 口縁部V字状の隆帯貼付 口縁部及び胴部半周縄文刻。(横・縦)	覆土下層	
743	縄文土器	浅鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	橙	普通	外・内面横位の丁寧な磨き	覆土下層	

## 第 222 号土坑 (第 278 図 PL49)

位置 調査区北部の C 3a4 区、標高 29 m ほどの台地平坦部に位置している。

重複関係 第 223 号土坑を掘り込み、第 221 号土坑に掘り込まれている。

規模と形状 長径 1.94 m、短径 1.70 m の楕円形で、長径方向は N - 63° - W である。底面は平坦で、深さは 42cm である。壁は外傾している。

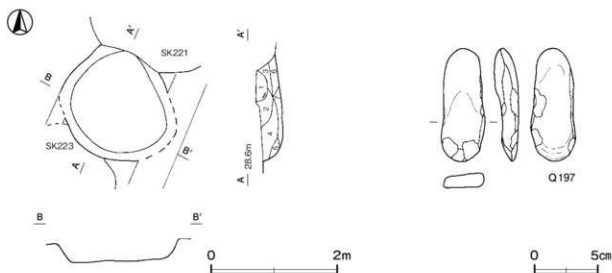
覆土 7 層に分層できる。各層にロームのブロックや粒子が多く含まれていることから、埋め戻されている。

## 土層解説

- |                      |                      |
|----------------------|----------------------|
| 1 黒褐色 ローム粒子中量        | 5 黒褐色 ロームブロック中量      |
| 2 黒褐色 ローム粒子少量        | 6 黒褐色 ロームブロック少量      |
| 3 黒褐色 ローム粒子中量、炭化粒子微量 | 7 黒褐色 ローム粒子中量、炭化粒子少量 |
| 4 黒褐色 ローム粒子・炭化粒子中量   |                      |

遺物出土状況 縄文土器片 25 点 (深鉢)、石器 2 点 (磨製石斧、磨石)、剥片 1 点 (石英) が出土している。

所見 時期は、出土土器から中期と考えられるが、詳細は不明である。



第 278 図 第 222 号土坑・出土遺物実測図

## 第 222 号土坑出土遺物観察表 (第 278 図)

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
Q197	磨製石斧	9.0	3.5	1.9	82.3	緑色岩	短冊形 表面面研磨 両側縁微細な鋸打痕 刃部は片面を鋸打	覆土中	PL168

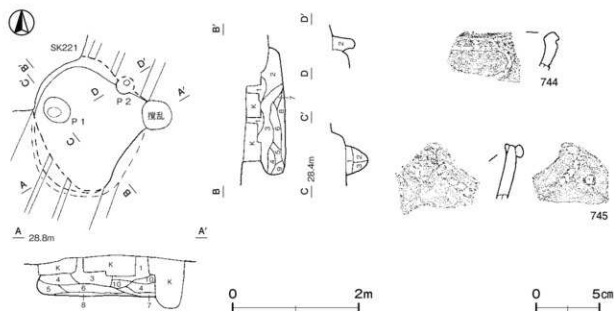
## 第 224 号土坑 (第 279 図)

位置 調査区北部の C 3a4 区、標高 29 m ほどの台地平坦部に位置している。

重複関係 第 221 号土坑に掘り込まれている。

規模と形状 耕作による擾乱を受けているが、開口部は長径 2.16 m、短径 1.76 m の不定形である。底面は径 1.90 ~ 2.06 m の不整形で、平坦である。確認面からの深さは 64cm である。壁は北半部が外傾しており、南半部が内彎して、袋状を呈している。

ピット 2 か所。深さは、P 1 が 36cm、P 2 が 38cm で、性格は不明である。



第279図 第224号土坑・出土遺物実測図

ビッド土層解説

- 1 黒褐色 ローム粒子少量  
2 黒褐色 ロームブロック少量  
3 黒褐色 ローム粒子微量

覆土 10層に分層できる。不規則な堆積状況を示していることから、埋め戻されている。

土層解説

- 1 黒褐色 ローム粒子中量  
2 黒褐色 ローム粒子多量、炭化粒子微量  
3 黒褐色 ローム粒子中量、炭化粒子微量  
4 濃い黄褐色 ロームブロック微量  
5 暗褐色 ローム粒子中量  
6 暗褐色 ロームブロック少量  
7 黒褐色 ローム粒子少量  
8 黒褐色 ロームブロック微量  
9 黒褐色 ロームブロック少量  
10 極暗褐色 ロームブロック少量

遺物出土状況 縄文土器片54点(深鉢)、石器1点(磨石)が出土している。

所見 上部が耕作による攪乱を受けているため明確でないが、規模と形状から袋状土坑の下部と推定でき、貯蔵穴と考えられる。時期は、出土土器から中期前葉と考えられる。

第224号土坑出土遺物観察表(第279図)

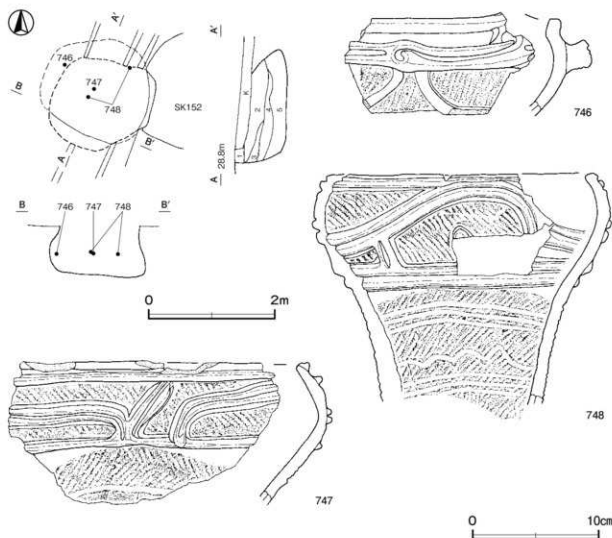
番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	文様の特徴ほか	出土位置	備考
744	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	黒褐	普通	右趾比喙による横凹区画文	覆土中	
745	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	黒褐	普通	底面部に横み状の突起 外・内面口縁に沿って右趾比喙 内面凹影刻文	覆土中	

第227号土坑(第280図)

位置 調査区中央部のC3e2区、標高29mほどの台地平坦部に位置している。

重複関係 第152号土坑に掘り込まれている。

規模と形状 耕作による攪乱を受けているが、開口部は長径1.76m、短径1.45mの不整形円形で、長径方向はN-64°-Eである。底面は径1.72~1.78mの円形で、平坦である。確認面からの深さは81cmである。壁は南・東部がほぼ直立している。北・西部は内彎して、袋状を呈しており、底面から54~56cmのところぐびれ、上位は直立している。



第280図 第227号土坑・出土遺物実測図

**覆土** 5層に分層できる。各層にロームのブロックや粒子が含まれていることから、埋め戻されている。

**土層解説**

- |       |                 |         |           |
|-------|-----------------|---------|-----------|
| 1 黒褐色 | ローム粒子中量, 炭化粒子微量 | 4 濃い黄褐色 | ロームブロック少量 |
| 2 黒褐色 | ローム粒子中量, 炭化粒子少量 | 5 暗褐色   | ロームブロック少量 |
| 3 黒褐色 | ローム粒子・炭化粒子中量    |         |           |

**遺物出土状況** 縄文土器片99点(深鉢), 石器1点(磨石), 石核2点(瑪瑙), 剥片3点(石英1, 瑪瑙2)が出土している。746～748は、覆土中層の第2層から破片が散乱した状態で出土しており、いずれも埋め戻す過程で投棄されたものと考えられる。

**所見** 規模と形状から、貯蔵穴と考えられる。時期は、出土土器から中期中葉と考えられる。

第227号土坑出土遺物観察表(第280図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	文様の特徴ほか	出土位置	備考
746	縄文土器	深鉢	-	(8.2)	-	長石・石英・雲母	濃い黄褐色	普通	口縁部厚みのある隆帯貼付。隆帯上に沈線。胴部半周縄文状(縦)と隆帯貼付	覆土中層	
747	縄文土器	深鉢	-	(11.2)	-	長石・石英・雲母	黒褐色	普通	口縁部隆帯文に半周縄文状(横)と面取状(縦)で引状焼成に施文。首割れ隆帯によるクランク文。胴部沈線が二道し無文帯	覆土中層	10%
748	縄文土器	深鉢	[21.0]	(18.2)	-	長石・石英・雲母	橙	普通	口縁部O段多条縄文状(横)。首割れ隆帯。胴部同一層体の縦位施文。沈線による文様透視	覆土中層	20%

第229号土坑 (第281図 PL35)

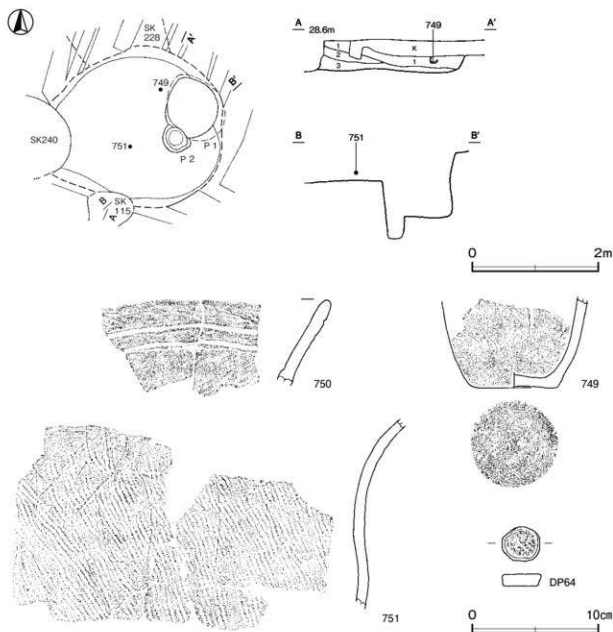
位置 調査区北西部のC2b8区、標高29mほどの台地平坦部に位置している。

重複関係 第228号土坑を掘り込み、第115号土坑に掘り込まれている。第240号土坑との新旧関係は不明である。

規模と形状 耕作による擾乱を受け、西部が第240号土坑と重複しているため、長径は2.84mしか確認できなかった。短径は2.38mで、楕円形と推定でき、長径方向はN-80°-Wである。底面は平坦で、深さは47cmである。壁は外傾している。

ピット 2か所。P1は径83~91cmの円形で、深さ55cmである。北東壁際に位置していることから、補助的な貯蔵施設と考えられる。P2は深さ92cmである。柱穴と考えられる。

覆土 3層に分層できる。各層にロームのブロックや粒子が多く含まれていることから、埋め戻されている。



第281図 第229号土坑・出土遺物実測図

## 土層解説

- 1 暗褐色 ローム粒子多量、炭化物少量、焼土粒子微量  
 2 暗褐色 ロームブロック多量、炭化粒子少量、焼土ブロック  
 3 暗褐色 ロームブロック少量、炭化物・焼土粒子微量

**遺物出土状況** 縄文土器片 176 点 (深鉢)、土製品 1 点 (土器片円盤)、剥片 4 点 (チャート 2、石英 1、泥岩 1) が出土している。749 は北部、751 は中央部の覆土中層から、破片が散乱した状態で出土しており、埋め戻す過程で投棄されたものと考えられる。

**所見** 上部が耕作による攪乱を受けているため明確でないが、規模と形状から袋状土坑の下部と推定でき、貯蔵穴と考えられる。時期は、出土土器から中期後葉と考えられる。

## 第 229 号土坑出土遺物観察表 (第 281 図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	文様の特徴ほか	出土位置	備考
749	縄文土器	深鉢	-	(7.2)	6.8	長石・石英・雲母	にぶい橙	普通	外・内面・底面丁寧なテーパー部単線縄文 R.L. (縦)	覆土中層	30%
750	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	にぶい橙	普通	口縁部磨りの強い単線縄文 R.L. (横) 口縁下同一帯体 (縦)、二本の並行浅溝 (一)	覆土中	
751	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	明赤褐	普通	胎文に 0 段多糸縄文 R.L. (横) 頭部無文帯	覆土中層	

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	胎土	色調	特徴	出土位置	備考
DP64	土器片円盤	2.8	3.0	1.0	107	長石・石英・雲母	橙	胴部片 胴縁部丁寧に研磨	覆土上層	

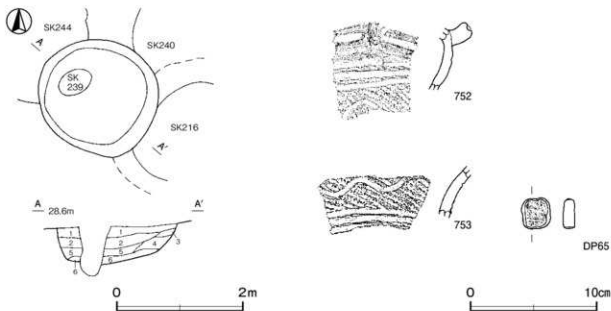
## 第 231 号土坑 (第 282 図)

**位置** 調査区北西部の C 2 b7 区、標高 29 m ほどの台地平坦部に位置している。

**重複関係** 第 216・240・244 号土坑を掘り込み、第 239 号土坑に掘り込まれている。

**規模と形状** 径 1.80～1.93 m の円形である。底面は平坦で、深さは 57 cm である。壁は外傾している。

**覆土** 6 層に分層できる。各層にロームのブロックや粒子が多く含まれていることから、埋め戻されている。



第 282 図 第 231 号土坑・出土遺物実測図

**土層解説**

1	暗褐色	ローム粒子中量、焼土粒子・炭化粒子微量	4	暗褐色	ロームブロック中量、炭化粒子微量
2	暗褐色	ロームブロック少量、焼土粒子・炭化粒子微量	5	暗褐色	ロームブロック中量、焼土ブロック・炭化物微量
3	暗褐色	ロームブロック少量	6	暗褐色	ローム粒子中量、炭化物微量

**遺物出土状況** 縄文土器片 25 点（深鉢 17、浅鉢 8）、土製品 1 点（土器片錘）、剥片 2 点（泥岩、瑪瑙）が出土している。

**所見** 規模と形状から袋状土坑の下部と推定でき、貯蔵穴と考えられる。時期は、出土土器から中期中葉と考えられる。

**第 231 号土坑出土遺物観察表（第 282 図）**

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	地成	文様の特徴ほか	出土位置	備考
752	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	にぶ赤黒	普通	厚みのある隆帯貼付 隆帯上に沈線 地文に単純縄文 L.R（縦） 沈線による文様描画	覆土中	753 と同一個体
753	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	にぶ赤黒	普通	地文に単純縄文 L.R（縦） 沈線による文様描画	覆土中	752 と同一個体

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	胎土	色調	特徴	出土位置	備考
DI95	土器片錘	2.4	2.3	0.9	5.7	長石・石英	明褐色	剥削片 両端にキズ目	覆土中	

**第 235 号土坑（第 283～285 図 PL50）**

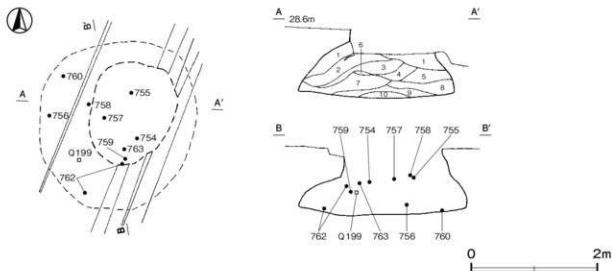
**位置** 調査区北西部の C 2 a7 区、標高 29 m ほどの台地平坦部に位置している。

**規模と形状** 耕作による擾乱を受けているが、開口部は長径 1.68 m、短径 1.38 m の楕円形で、長径方向は N-22°-E である。底面は径 2.57～2.76 m の円形で、平坦である。確認面からの深さは 105 cm である。壁は大きく内傾して袋状を呈し、底面から 60～89 cm のところでぐびれ、上位はほぼ直立している。

**覆土** 10 層に分層できる。各層にロームのブロックや粒子が多く含まれていることから、埋め戻されている。

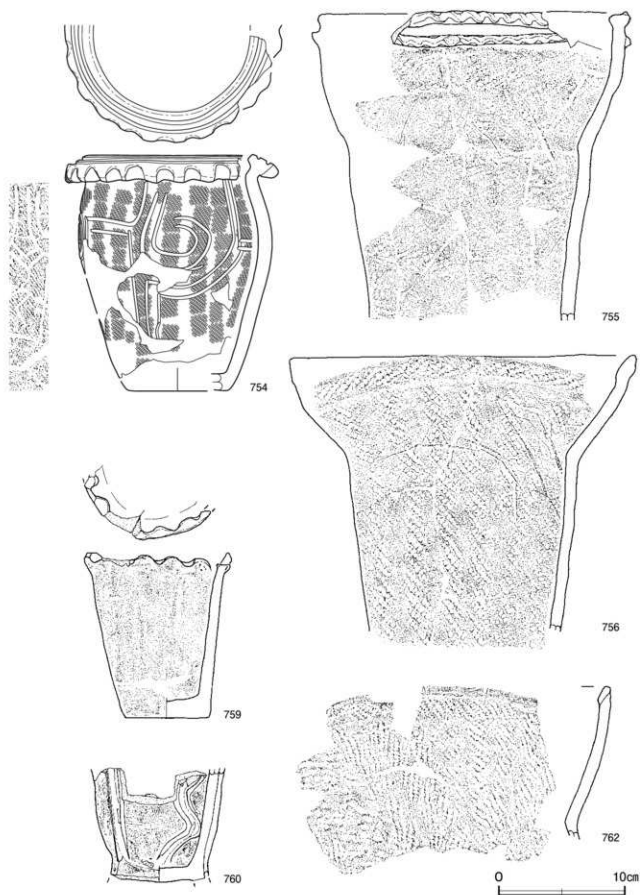
**土層解説**

1	暗褐色	ロームブロック・焼土粒子少量、炭化物微量	6	暗褐色	ロームブロック中量、炭化粒子微量
2	暗褐色	ローム粒子多量、炭化物・焼土粒子微量	7	褐色	ロームブロック多量
3	暗褐色	ローム粒子多量	8	暗褐色	ローム粒子中量、焼土ブロック・炭化物微量
4	暗褐色	ロームブロック少量、焼土ブロック・炭化物微量	9	暗褐色	ローム粒子中量
5	暗褐色	ロームブロック少量、炭化物・焼土粒子微量	10	暗褐色	ロームブロック中量

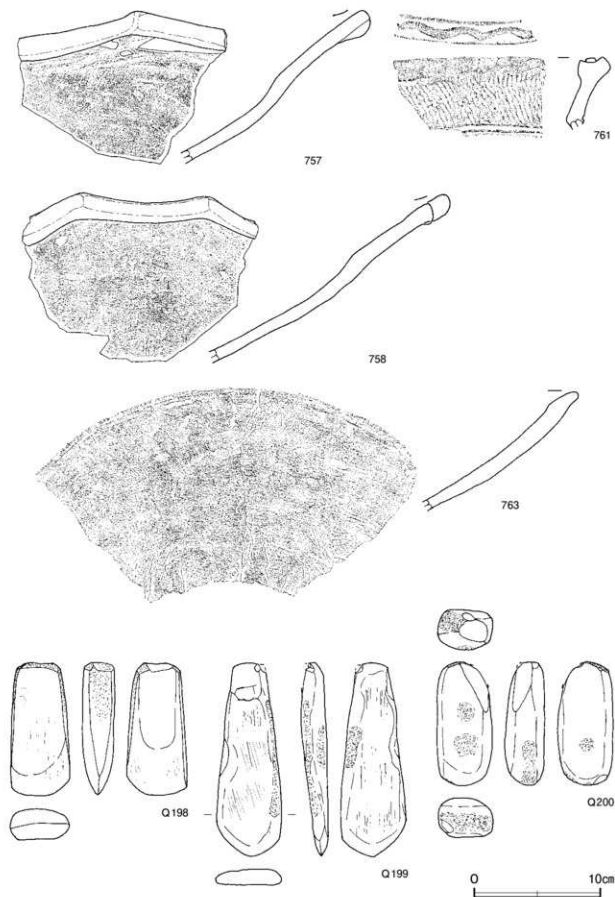


**第 283 図** 第 235 号土坑実測図





第 284 图 第 235 号土坑出土遺物実測图 (1)



第 285 图 第 235 号土坑出土遗物实测图 (2)

**遺物出土状況** 縄文土器片 275 点（深鉢 265、浅鉢 8、小型土器 1、小型台付土器 1）、石器 4 点（磨製石斧 2、磨石 1、敲砥石 1）が出土している。756・760 は、覆土下層から出土しており、廃絶直後に投棄されたものと考えられる。754・755・757～759・762・763、Q 199 は、覆土上層の第 1・2 層を中心に、破片が散乱した状態で出土していることから、ある程度埋め戻された段階で一括投棄されたものと考えられる。

**所見** 規模と形状から、貯蔵穴と考えられる。時期は、出土土器から中期中葉と考えられる。

### 第 235 号土坑出土遺物観察表（第 284・285 図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	文様の特徴ほか	出土位置	備考
754	縄文土器	深鉢	132	187	81	長石・石英・雲母・赤色粘土・黒色粒子	にぶい褐	普通	口縁部底状の隆帯が突出（口唇部 2 本の沈線が突出）胴部単筋縄文 LR（縦）2本の沈線による石縄文・雲母文	覆土上層	70% PL129
755	縄文土器	深鉢	[241]	[246]	-	長石・石英	にぶい褐	普通	2本の交互刺突状の隆帯 地文に単筋縄文 LR（横）	覆土上層	50% PL129
756	縄文土器	深鉢	272	[220]	-	長石・石英	黒褐	普通	口唇部単筋縄文 LR（横）胴部同一厚体（縦）を間隔を帯びて施文	覆土下層	60% PL129
757	縄文土器	浅鉢	-	[122]	-	長石・石英・雲母	明赤褐	普通	外・内面磨き 口縁部外・内面赤彩痕	覆土上層	10%
758	縄文土器	浅鉢	-	[135]	-	長石・石英・雲母	橙	普通	外・内面磨きの磨き 口唇部・口縁部内面赤彩痕	覆土上層	10% PL129
759	縄文土器	小型台付土器	[110]	132	66	長石・石英	赤褐	普通	口唇部磨面による流状口縁 外面磨きの磨き 外面磨きの磨き 底辺ナデ	覆土上層	80% PL129
760	縄文土器	小型台付土器	-	[91]	-	長石・石英・雲母	明赤褐	普通	典型的隆帯と総行状隆帯を交互に垂下 隆帯に沿って沈線 帯状磨面状工具による施文	覆土下層	30% PL129
761	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	橙	普通	口唇部単筋縄文 LR（横）口縁部単筋縄文 LR（縦）口縁部下隆帯行状隆帯	覆土下層	
762	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	暗赤褐	普通	口縁部単筋縄文 LR（横）口縁部下隆帯のほどけた同一厚体（縦）、一部（斜）	覆土上・下層	
763	縄文土器	浅鉢	-	-	-	長石・石英・雲母・赤色粒子	黒褐	普通	外・内面磨きの磨き	覆土上層	PL129

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
Q 198	磨製石斧	106	4.8	2.5	233.7	輝綠岩	定角式、磨緑部に鋭い稜 ハツタリ	覆土中	PL167 砥石内埋用。
Q 199	磨製石斧	8.0	6.7	4.6	(202.4)	変質ドレライト	短形磨 表裏面研磨 片側縁微細な総打調整 刃部は表裏から研磨状	覆土上層	PL168
Q 200	敲砥石	9.8	4.4	3.1	(281.1)	ホルンフェルス	精肉縁の両端及び表裏に総打痕・砥面をもつ	覆土中	PL172

### 第 238 号土坑（第 286～288 図）

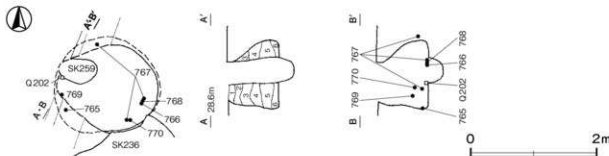
**位置** 調査区北西部の C 2 a7 区、標高 29 m ほどの台地平坦部に位置している。

**重複関係** 第 236・259 号土坑に掘り込まれている。

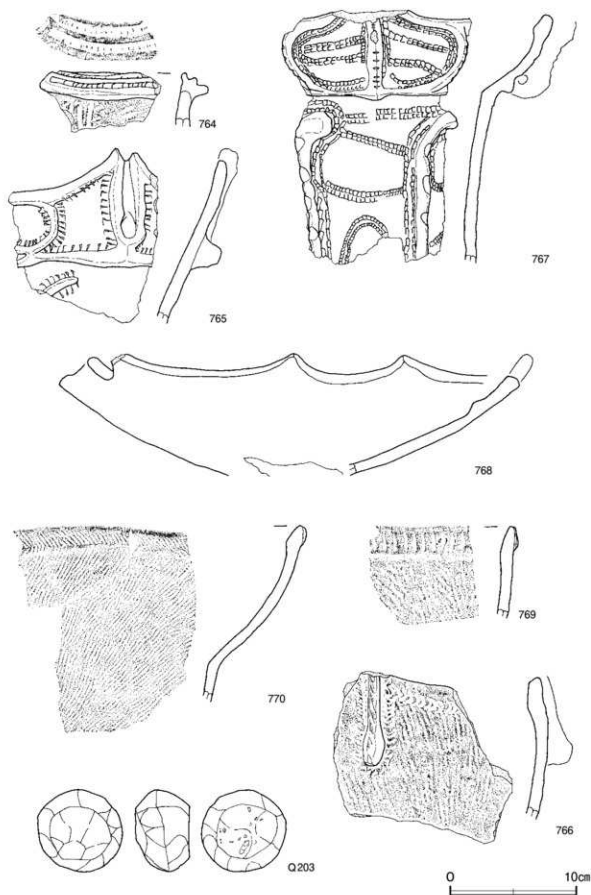
**規模と形状** 開口部は長径 1.58 m、短径 1.34 m の楕円形で、長径方向は N - 83° - W である。底面は径 1.60 ~ 1.62 m の円形で、平坦である。確認面からの深さは 79 cm である。壁はやや内彎しており、袋状を呈している。

**覆土** 6 層に分層できる。各層にロームのブロックや粒子が多く含まれていることから、埋め戻されている。

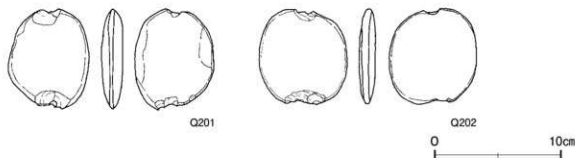
覆土上層には、焼土塊が投棄されている。



第 286 図 第 238 号土坑実測図



第 287 图 第 238 号土坑出土遗物实测图 (1)



第288図 第238号土坑出土遺物実測図(2)

## 土層解説

- |        |                           |       |                       |
|--------|---------------------------|-------|-----------------------|
| 1 暗赤褐色 | 焼土ブロック中量、ロームブロック少量、炭化物微量  | 3 暗褐色 | ローム粒子中量、焼土粒子・炭化粒子微量   |
| 2 暗赤褐色 | 焼土ブロック多量、炭化粒子少量、ロームブロック微量 | 4 暗褐色 | ローム粒子中量、炭化粒子微量        |
|        |                           | 5 暗褐色 | ロームブロック少量、焼土粒子・炭化粒子微量 |
|        |                           | 6 褐色  | ロームブロック多量、炭化粒子微量      |

**遺物出土状況** 縄文土器片99点(深鉢93, 浅鉢6), 石器3点(石錘2, 敲砥石1), 剥片1点(チャート)が出土している。765~770, Q202は, 各壁際の覆土下層から破片が散乱した状態で出土している。いずれも埋め戻しの早い段階で投棄されたものと考えられる。

**所見** 規模と形状から, 貯蔵穴と考えられる。時期は, 出土土器から中期前葉と考えられる。

## 第238号土坑出土遺物観察表(第287・288図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	文様の特徴ほか	出土位置	備考
764	縄文土器	深鉢	-	(4.3)	-	長石・石英・雲母	黒褐色	普通	口唇頂部平坦面に2本の有筋沈線 胴部単筋縄文L(縦) 沈線垂下	覆土中	
765	縄文土器	深鉢	-	(13.9)	-	長石・石英・雲母	黒褐色	普通	隆帯による文様描画 隆帯に沿ってキョウビラ文	覆土下層	10%
766	縄文土器	深鉢	-	(13.8)	-	長石・石英・雲母	黒褐色	普通	隆帯の隆帯貼付, 口縁部及び隆帯に沿って爪形文塊文に無筋縄文L(縦)	覆土下層	PL131
767	縄文土器	深鉢	-	(20.2)	-	長石・石英・雲母	にぶい褐色	普通	口縁部隆帯による区画文 隆帯土ネザミ目(区画内有筋沈線 胴部隆帯垂下 隆帯上唇面圧痕隆帯間を有筋沈線で文様描画)	覆土下層	20% PL131
768	縄文土器	浅鉢	[37.6]	(9.7)	-	長石・石英・雲母	にぶい褐色	普通	外面横位の倒り 内面横・斜位の磨き	覆土下層	30% PL131
769	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母・赤色粒子	黒褐色	普通	口縁部縮正の爪形文 胴部無筋縄文Lを多方向に施文	覆土下層	
770	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	黒褐色	普通	口縁部単筋縄文L(横) 胴部同一層体(縦)	覆土下層	PL131

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
Q201	石錘	8.0	6.3	1.7	1200	安山岩	長径方向の両端部敲打痕	覆土中	PL181
Q202	石錘	7.5	7.0	1.3	1041	ホルンフェルス	長径方向の両端部敲打痕	覆土下層	PL181
Q203	敲砥石	6.5	6.7	4.3	2674	チャート	円縁の周縁部に多方向からの砥面により磨きもつ	覆土中	PL172

## 第245号土坑(第289図 PL50)

**位置** 調査区北西部のB2㍿区, 標高29mほどの台地平坦部に位置している。

**重複関係** 第157号土坑を掘り込み, 第248号土坑に掘り込まれている。

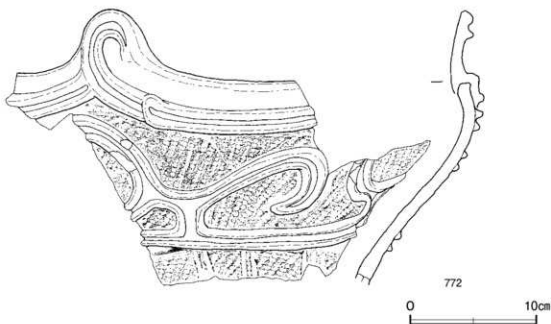
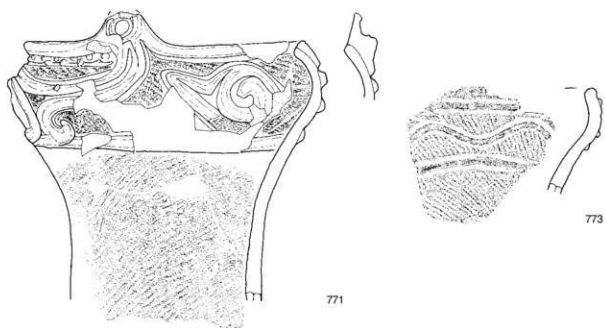
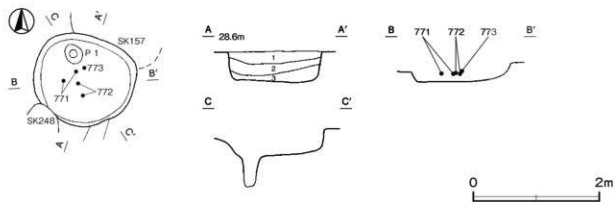
**規模と形状** 1.48~1.50mの円形である。底面は平坦で, 深さは48cmである。壁は外傾している。

**ピット** 深さ46cmで, 柱穴と考えられる。

**覆土** 3層に分層できる。各層にロームブロックが多く含まれていることから, 埋め戻されている。

## 土層解説

- |       |                            |       |                        |
|-------|----------------------------|-------|------------------------|
| 1 暗褐色 | ロームブロック少量, 焼土ブロック・炭化粒子微量   | 3 暗褐色 | ロームブロック中量, 焼土粒子・炭化粒子微量 |
| 2 暗褐色 | ロームブロック中量, 焼土ブロック少量, 炭化物微量 |       |                        |



第 289 图 第 245 号土坑·出土物实测图

**遺物出土状況** 縄文土器片62点(深鉢)、剥片1点(チャート)、礫1点が出土している。771～773は、中央部の覆土中層から破片が散乱した状態で出土しており、埋め戻す過程で投棄されたものと考えられる。

**所見** 時期は、出土土器から中期中葉と考えられる。

#### 第245号土坑出土遺物観察表(第289図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	文様の特徴ほか	出土位置	備考
771	縄文土器	深鉢	21.8	(23.0)	-	長石・石英・雲母	橙	普通	口縁部偏支に単筋縄文R(横) 隆帯による溝 巻文・変形クランク文・刺先文・交互刺先文 口唇部に過長状の交絡 脚部同一形体(縦)	覆土中層	50% PL129
772	縄文土器	深鉢	-	(21.8)	-	長石・石英・赤色 粒子	黒褐色	普通	口縁部偏支に短筋縄文R(横) 隆帯による溝 巻文・変形クランク文・刺先文・交互刺先文 口唇部に過長状の交絡 脚部同一形体(縦)	覆土中層	10% PL129
773	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	黒褐色(外 に赤褐色)	普通	胎文に1段多糸縄文1R(縦) 隆帯による溝 口縁部偏支に短筋縄文R(横) 隆帯による溝 巻文・変形クランク文・刺先文・交互刺先文 口唇部に過長状の交絡 脚部同一形体(縦)	覆土中層	

#### 第247号土坑(第290・291図)

**位置** 調査区北西部のB2第6区、標高29mほどの台地平坦部に位置している。

**重複関係** 第266号土坑に掘り込まれている。

**規模と形状** 長径2.00m、短径1.66mの楕円形で、長径方向はN-37°-Eである。底面は平坦で、深さは67cmである。壁は外傾している。

**ピット** 3か所。P1～P3は、径26～45cm、深さ28～44cmで、規模と形状から柱穴と考えられる。

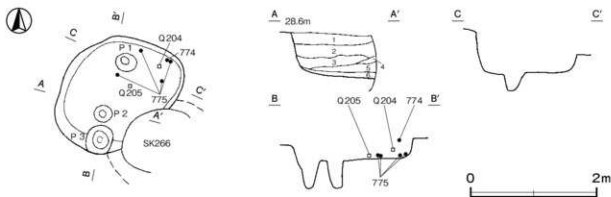
**覆土** 6層に分層できる。各層にローム粒子が多量に含まれていることから、埋め戻されている。

##### 土層解説

1	黒褐色	ローム粒子少量、焼土粒子・炭化粒子微量	4	暗褐色	ローム粒子多量、焼土粒子・炭化粒子微量
2	暗褐色	ローム粒子中量、焼土粒子・炭化粒子微量	5	暗褐色	ローム粒子多量、焼土ブロック・炭化物微量
3	暗褐色	ローム粒子中量、炭化物・焼土粒子微量	6	暗褐色	ロームブロック中量、炭化粒子微量

**遺物出土状況** 縄文土器片100点(深鉢)、石器2点(鏃、砥石)、剥片1点(頁岩)が出土している。775は北部の底面から破片が散乱した状態で、Q205は中央部の覆土下層、Q204は北東壁際の覆土中層、774は北東壁際の覆土上層からそれぞれ出土しており、廃絶直後から、埋め戻す過程で投棄されたものと考えられる。

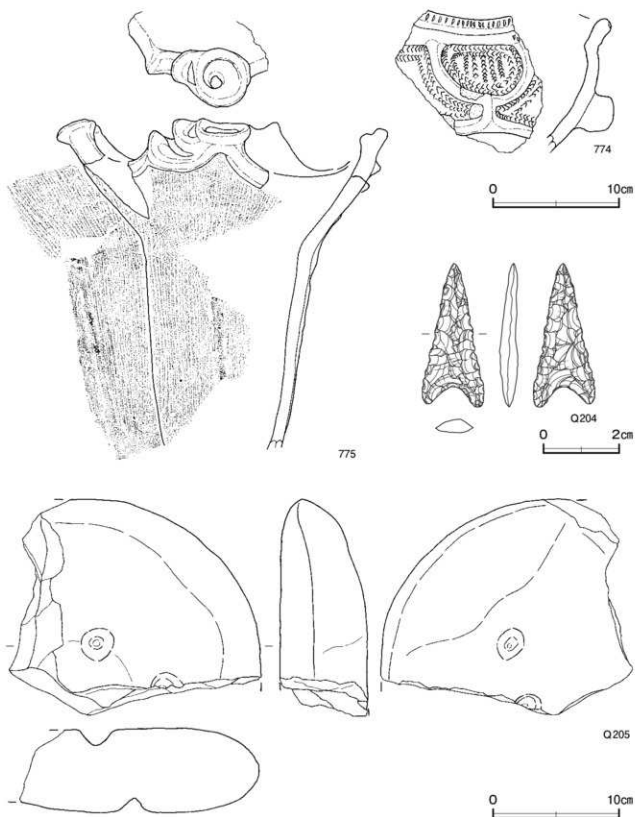
**所見** 規模と形状から、貯蔵穴と考えられる。時期は、出土土器から中期中葉と考えられる。



第290図 第247号土坑実測図

#### 第247号土坑出土遺物観察表(第291図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	文様の特徴ほか	出土位置	備考
774	縄文土器	深鉢	-	(11.3)	-	長石・石英・雲母・ 赤色粒子	灰黄褐色	普通	口唇部偏支に中野ミ目 口縁部隆帯により区別 巻文・変形クランク文・刺先文・交互刺先文 口唇部に過長状の交絡 脚部同一形体(縦)	覆土上層	
775	縄文土器	深鉢	23.6	(26.4)	-	長石・石英・雲母	いびり黄褐色	普通	胎文に縦方向の桑椹文 脚部から隆帯垂下	底面	60% PL130



第 291 図 第 247 号土坑出土遺物実測図

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
Q 304	鏡	3.8	1.7	0.5	22	チャート	基部中央は髯入	覆土中層	PL161
Q 355	砥石 (172)	(20.0)	7.0	(5.62)		アブライト	石質転用 表面面に凹み痕・研磨痕	覆土下層	PL180



## 第 260 号土坑 (第 292 図 PL51)

位置 調査区北西部の B 2 7 区、標高 29 m ほどの台地平坦部に位置している。

重複関係 第 409 号土坑を掘り込み、第 176・195・218 号土坑に掘り込まれている。

規模と形状 開口部は径 1.37～1.46 m の円形である。底面は径 1.78～1.88 m の不整形円形で、平坦である。確認面からの深さは 109 cm である。壁は内罅しており、袋状を呈している。



第 292 図 第 260 号土坑・出土遺物実測図

**ピット** 長径 46cm, 短径 36cmの楕円形で、深さ 15cmである。西部の壁際に位置しており、補助的な貯蔵施設と考えられる。

**覆土** 11層に分層できる。各層にロームのブロックや粒子、炭化粒子が多く含まれていることから、埋め戻されている。

**土層解説**

1 暗褐色	ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子微量	7 暗褐色	ロームブロック中量、焼土ブロック・炭化粒子少量
2 暗褐色	ローム粒子中量、焼土粒子少量、炭化物微量	8 暗褐色	ローム粒子中量、焼土ブロック少量、炭化粒子微量
3 黒褐色	炭化粒子中量、ロームブロック・焼土粒子少量	9 褐色	ロームブロック中量、焼土ブロック少量、炭化物微量
4 暗褐色	ローム粒子・炭化粒子少量、焼土粒子微量	10 暗褐色	ローム粒子・炭化粒子中量、焼土粒子少量
5 黒褐色	ロームブロック少量、焼土粒子・炭化粒子微量	11 暗褐色	ロームブロック・焼土粒子少量、炭化物微量
6 暗褐色	ロームブロック・炭化粒子中量、焼土ブロック少量		

**遺物出土状況** 縄文土器片 208点（深鉢 207、浅鉢 1）、石器 1点（磨製石斧）、剥片 2点（石英、チャート）が出土している。776・778・779は、覆土下層から破片が散乱した状態で出土しており、埋め戻しの早い段階で投棄されたものと考えられる。777は、中央部の覆土上層の第3層から大型破片がまとまった状態で出土しており、ある程度埋め戻された段階で投棄されたものと考えられる。

**所見** 規模と形状から、貯蔵穴と考えられる。時期は、出土土器から中期中葉と考えられる。

第 260 号土坑出土遺物観察表（第 292 図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	文様の特徴ほか	出土位置	備考
776	縄文土器	深鉢	-	(120)	-	長石・石英・雲母	黒褐色	普通	口唇肩部に太い沈線、口縁部背側縁帯による区画と指子絵付、区内内輪の太い朱線文・地文に磨製縄文型（縦）	覆土下層	10%
777	縄文土器	深鉢	-	(27.4)	-	長石・石英・雲母	濃い赤褐色	普通	地文にO段多糸縄文RL（横）	覆土上層	60% PL130
778	縄文土器	深鉢	-	(62)	(134)	長石・石英・雲母	橙	普通	縦位の熱赤文、胴部下手及び底面磨き	覆土下層	
779	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母・赤色粒子	橙	普通	紙い発情貼付、O段多糸縄文RL（縦）	覆土下層	

第 266 号土坑（第 293 図）

**位置** 調査区北西部の B 2 j6 区、標高 29 mほどの台地平坦部に位置している。

**重複関係** 第 247 号土坑を掘り込み、第 248・265 号土坑に掘り込まれている。

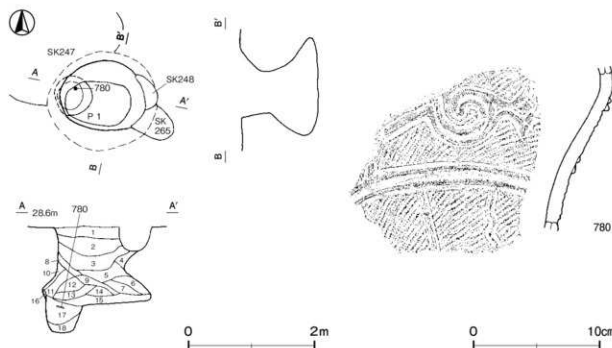
**規模と形状** 東部を第 248・265 号土坑に掘り込まれているため、開口部は長径が 1.52 mしか確認できなかった。短径 1.18 mの楕円形で、長径方向は N - 80° - W である。底面は長径 1.70 m、短径 1.56 mの楕円形で、平坦である。確認面からの深さは 120 cmで、壁は内傾して袋状を呈し、底面から 57 ~ 75 cmのところまでくびれて、上位は外傾している。

**ピット** 径 60 cm、深さ 46 cmで、西部の壁際に位置している。補助的な貯蔵施設と考えられる。

**覆土** 16層に分層できる。各層にロームブロックが多く含まれていることから、埋め戻されている。第 17・18層は P 1 の覆土である。

**土層解説**

1 暗褐色	ローム粒子・焼土粒子少量、炭化粒子微量	10 暗褐色	ロームブロック中量、炭化粒子微量
2 暗褐色	ローム粒子少量、焼土ブロック・炭化粒子微量	11 暗褐色	ロームブロック少量
3 黒褐色	ローム粒子中量、炭化粒子少量、焼土粒子微量	12 褐色	ロームブロック多量、焼土粒子少量、炭化粒子微量
4 極暗褐色	ロームブロック中量	13 褐色	ロームブロック中量、炭化物微量
5 暗褐色	ロームブロック少量、炭化粒子微量	14 褐色	ローム粒子多量、焼土粒子微量
6 黒褐色	ロームブロック少量	15 暗褐色	ロームブロック中量、炭化物・焼土粒子微量
7 暗褐色	ロームブロック中量	16 褐色	ローム粒子多量
8 暗褐色	ローム粒子少量	17 暗褐色	ロームブロック多量
9 黒褐色	ロームブロック中量、炭化粒子少量	18 褐色	ロームブロック多量



第293図 第266号土坑・出土遺物実測図

**遺物出土状況** 縄文土器片2点(深鉢)が出土している。

**所見** 規模と形状から、貯蔵穴と考えられる。時期は、出土土器から中期中葉と考えられる。

第266号土坑出土遺物観察表(第293図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	文様の特徴はか	出土位置	備考
780	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	黒	焼成 普通	縄文に準る縄文RL(編)階帯による濁色文・ 明色文・刷毛塗による背割れ縁帯から2本の並 行深線・刷毛塗が施す	P1覆土層	PL130

### 第267号土坑(第294・295図)

**位置** 調査区北西部のB26区、標高29mほどの台地平坦部に位置している。

**重複関係** 第5号堅穴建物跡、第264・395号土坑を掘り込んでいる。

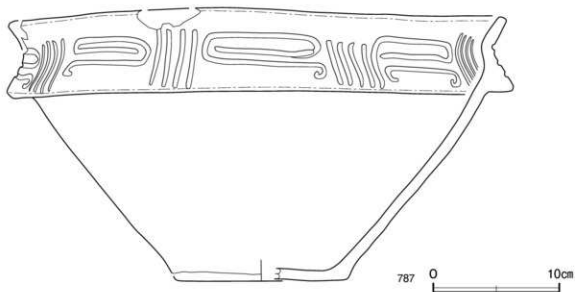
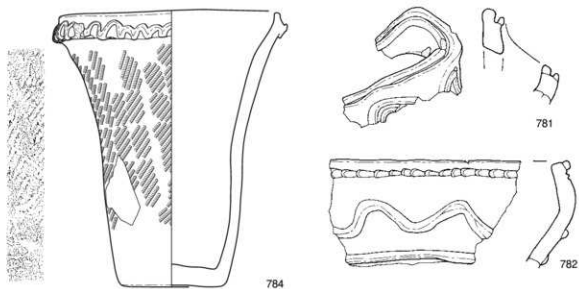
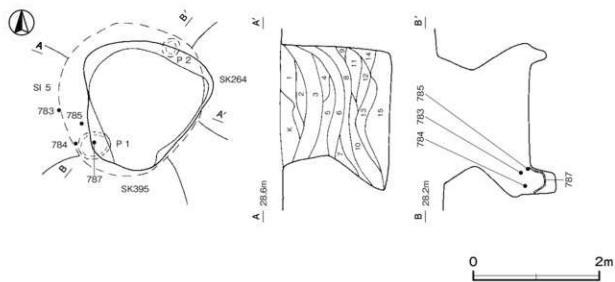
**規模と形状** 開口部は径205～208mの不整形円形である。底面は径224～225mの不整形円形で、平坦である。確認面からの深さは176cmである。壁は南東部が直立しており、その他は内傾して袋状を呈している。底面から88～97cmのところまでくびれて、上位は外傾している。

**ピット** 2か所。P1・P2は、径49・30cm、深さ44・24cmで、南西部と北東部の壁際に対峙して位置している。P1は、787の浅鉢がほぼ正位で据え置かれており、補助的な貯蔵施設と考えられる。

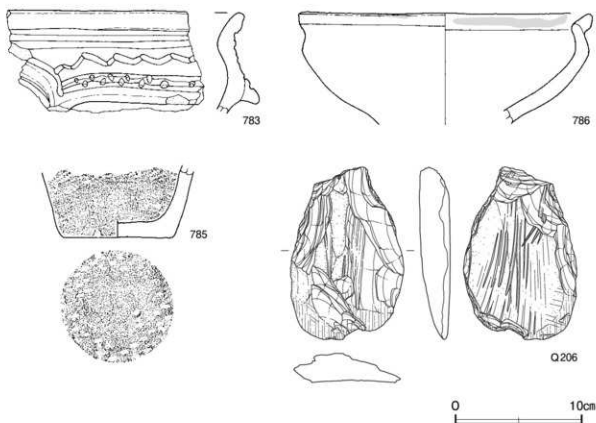
**覆土** 15層に分層できる。各層にロームブロックが含まれていることから、埋め戻されている。覆土中層にあたる第4層には、焼土塊が投棄されている。

#### 土層解説

1 暗褐色	ローム粒子・炭化粒子少量、焼土粒子微量	6 褐色	ローム粒子多量、焼土粒子少量、炭化物微量
2 にいり青褐色	ロームブロック中量	7 褐色	ロームブロック多量
3 暗褐色	ロームブロック・炭化粒子中量、焼土粒子少量	8 暗褐色	ロームブロック中量、焼土粒子・炭化粒子少量
4 暗赤褐色	焼土ブロック中量、ロームブロック・炭化粒子少量	9 褐色	ロームブロック中量
5 暗褐色	ロームブロック中量、焼土ブロック・炭化粒子少量	10 暗褐色	ロームブロック中量、炭化物・焼土粒子少量



第 294 图 第 267 号土坑·出土物实测图



第295図 第267号土坑出土遺物実測図

- 11 暗褐色 ロームブロック多量、炭化物・焼土粒子少量  
 12 暗褐色 ロームブロック・炭化粒子中量、焼土粒子微量  
 13 褐色 ロームブロック多量、焼土粒子・炭化粒子微量  
 14 褐色 ロームブロック多量、炭化粒子少量、焼土粒子微量  
 15 濃い黄褐色 ロームブロック多量

**遺物出土状況** 縄文土器片 213点（深鉢178、浅鉢35）、石器1点（砥石）が出土している。787は、P1内からはほぼ正位で据え置かれた状態で出土しており、使用時の状況を示している可能性がある。783～785は、南東部の壁際の覆土下層からそれぞれ出土している。

**所見** 規模と形状から、貯蔵穴と考えられる。時期は、出土土器から中期中葉と考えられる。

第267号土坑出土遺物観察表（第294・295図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	文様の特徴ほか	出土位置	備考
781	縄文土器	深鉢	-	(9.4)	-	長石・石美・赤色 粒子	明赤褐色	普通	中空の把手 把手に沿って沈線	覆土中	
782	縄文土器	深鉢	-	(8.5)	-	長石・石美・雲母	黒褐色	普通	口縁上部に平截竹管による有筋沈線 口縁部無文 横行波帯痕付 肩低隆帯一帯	覆土中	10%
783	縄文土器	深鉢	-	(8.2)	-	長石・石美・雲母・ 赤色粒子	にぶい橙	普通	口縁上部から2本の横行沈線・能行沈線・交互 斜交文 波状の隆帯を貼付	覆土下層	
784	縄文土器	深鉢	17.2	22.1	7.9	長石・石美・雲母	褐色	普通	口縁部に波状隆帯が帯る 底文に無筋縄文R（縦）	覆土下層	90% PL130
785	縄文土器	深鉢	-	(5.7)	8.8	長石・石美	にぶい橙	普通	底文に口段多条縄文RL（縦） 胴部下層横位の 磨き 肩低隆帯	覆土下層	10%
786	縄文土器	浅鉢	[230]	(8.8)	-	長石・石美・雲母	にぶい橙	普通	外・内面横位の磨き	覆土中	30%
787	縄文土器	浅鉢	39.6	21.7	[137]	長石・石美・雲母	橙	普通	口縁部太い沈線で文様描画 外・内面横位の磨き	P1覆土中層	80% PL130

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
Q206	砥石	137	9.0	2.5	330.1	緑色粘板岩	表面に溝状の砥面	覆土中	

第272号土坑 (第296図 PL51)

位置 調査区北部のC3a5区、標高29mほどの台地平坦部に位置している。

重複関係 第3号堅穴建物に掘り込まれている。

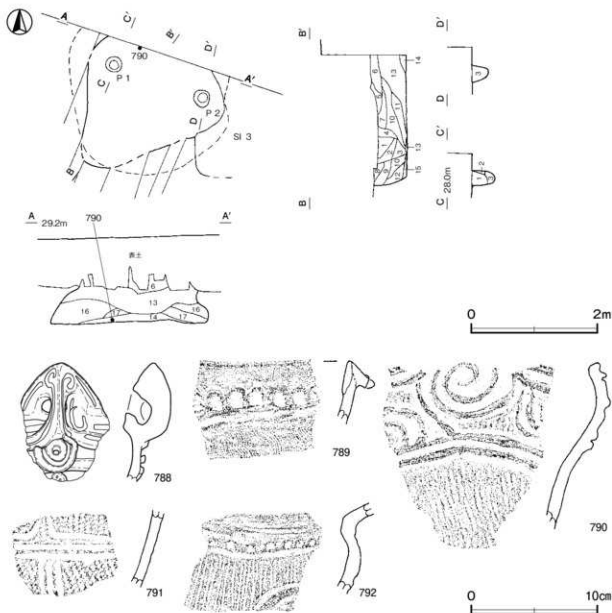
規模と形状 北部が調査区域外へ延びており、開口部は東西軸が2.20mで、南北軸は2.10mしか確認できなかったが、不定形である。底面は東西軸が2.60mで、南北軸は1.98mしか確認できなかったが、確認できた範囲は平坦である。確認面からの深さは87cmである。壁は内彎して、袋状を呈している。

ピット 2か所。P1・P2は、深さ36・26cmで、東部と西部に対峙して位置していることから、柱穴と考えられる。

ピット土層解説

- 1 黒褐色 ロームブロック少量  
2 暗褐色 ロームブロック微量・炭化粒子微量  
3 暗褐色 ロームブロック中量

覆土 17層に分層できる。不規則な堆積状況を示していることから、埋め戻されている。



第296図 第272号土坑・出土遺物実測図

## 土層解説

1 黒褐色	ローム粒子少量	10 極暗褐色	ロームブロック中量
2 極暗褐色	ロームブロック微量	11 暗褐色	ロームブロック微量
3 黒褐色	ロームブロック中量	12 黒褐色	ロームブロック微量
4 黒褐色	ローム粒子中量	13 黒褐色	ローム粒子・炭化粒子中量
5 極暗褐色	ローム粒子中量	14 暗褐色	ローム粒子少量、炭化粒子微量
6 暗褐色	ローム粒子中量、炭化粒子微量	15 黒褐色	ロームブロック・炭沼バミスブロック少量、炭化粒子微量
7 黒褐色	ローム粒子中量、炭化粒子微量	16 暗褐色	ロームブロック少量
8 黒褐色	ロームブロック少量	17 黒褐色	ローム粒子微量
9 黒褐色	ロームブロック少量、炭化粒子微量		

**遺物出土状況** 縄文土器片 137 点（深鉢）、石器 1 点（磨石）、剥片 4 点（瑪瑙）が出土している。790 は、北部の底面から出土している。

**所見** 規模と形状から、貯蔵穴と考えられる。時期は、出土土器から中期中葉と考えられる。

## 第 272 号土坑出土遺物観察表（第 296 図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	文様の特徴ほか	出土位置	備考
788	縄文土器	深鉢	-	(9.4)	-	長石・石英・雲母	にぶい褐色	普通	一次穿孔の中空把手 隆帯胎付後沈線で文様描画（隆帯上の一部に衝突あり）	覆土中	PL131
789	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	にぶい褐色	普通	口縁部と隆帯胎付 隆帯上部に直線 胎文に磨崖状工具による細位の波状条線	覆土中	
790	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	黒褐色	普通	胎文に車輪縄文 RL (斜) 背割れ隆帯による文様描画	底面	PL131
791	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	灰青褐色	普通	胎文に車輪縄文 RL (横) 沈線により文様描画	覆土中	
792	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	にぶい褐色	普通	くびれ部に 2 本の沈線 沈線間に円形衝突文 胎部胎位の条線文と並行沈線による文様描画 沈線間細直	覆土中	

## 第 274 号土坑（第 297 図 PL51）

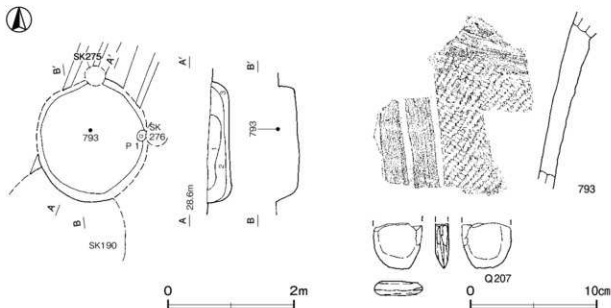
**位置** 調査区北西部の C 2 a 0 区、標高 29 m ほどの台地平坦部に位置している。

**重複関係** 第 190 号土坑を掘り込んでいる。第 275・276 号土坑との新旧関係は不明である。

**規模と形状** 径 1.80 ~ 1.87 m の円形である。底面は平坦で、深さは 36 cm である。壁は外傾している。

**ピット** 東壁際に位置し、径 13 ~ 16 cm の円形で、深さ 8 cm である。性格不明である。

**覆土** 3 層に分層できる。周囲から流れ込んだ堆積状況を示していることから、自然堆積である。



第 297 図 第 274 号土坑・出土遺物実測図

土層解説

- 1 暗褐色 ロームブロック少量  
 2 暗褐色 ローム粒子少量、焼土粒子・炭化粒子微量  
 3 暗褐色 ロームブロック・焼土粒子少量

遺物出土状況 縄文土器片 86 点（深鉢 85、浅鉢 1）、石器 1 点（磨製石斧）、剥片 2 点（石英）が出土している。  
 793 は、中央部の覆土上層から出土している。

所見 時期は、出土土器から中期後葉と考えられる。

第 274 号土坑出土遺物観察表（第 297 図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	地成	文様の特徴	ほか	出土位置	備考
793	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	に灰青黒	普通	単筋縄文型、(縦)	3本の浅線垂下	北縁側器内	覆土上層

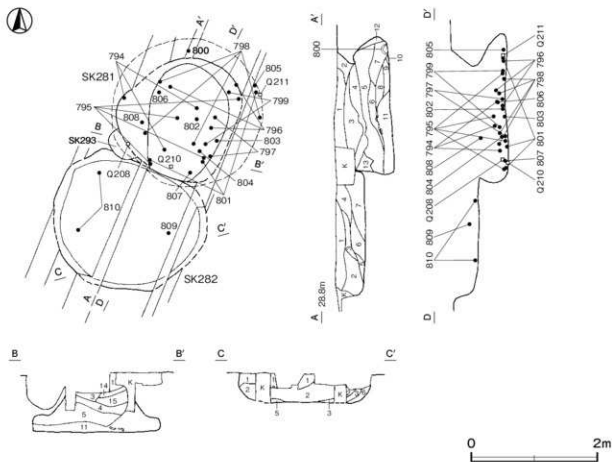
  

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
Q 287	磨製石斧	(3.6)	(3.9)	1.1	(23.8)	ホルンフェルス	小型 全面研磨 基部欠損 刃部は表裏から研ぎ出す	覆土中	

第 281 号土坑（第 298～304 図 PL52・98）

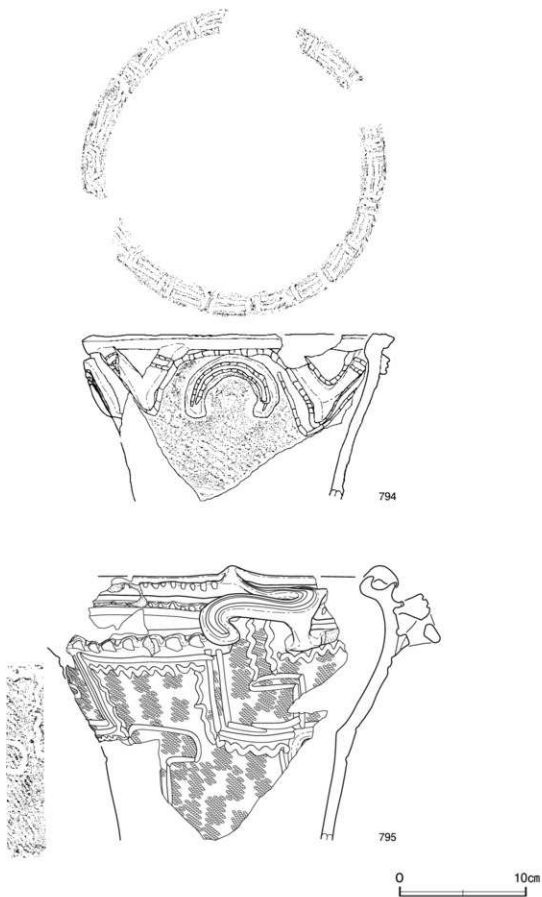
位置 調査区北部の C 3b5 区、標高 29 m ほどの台地平坦部に位置している。

重複関係 第 282・293 号土坑に掘り込まれている。

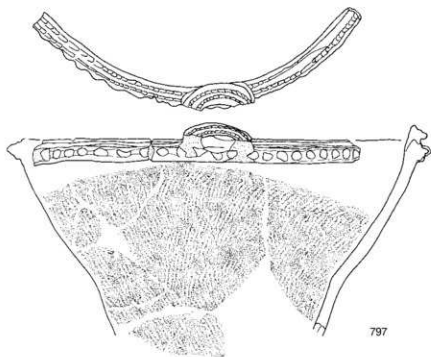
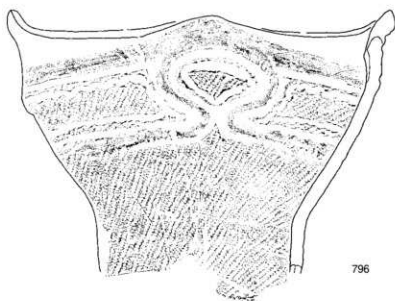


第 298 図 第 281・282 号土坑実測図

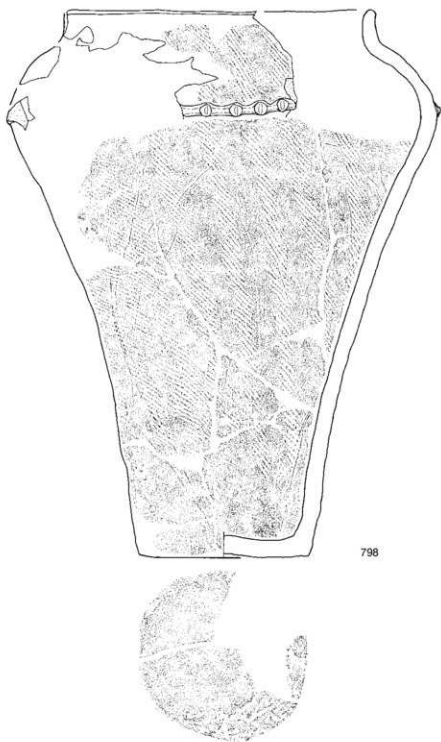




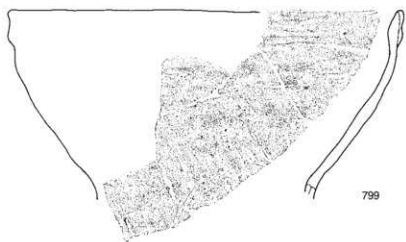
第 299 図 第 281 号土坑出土遺物実測図 (1)



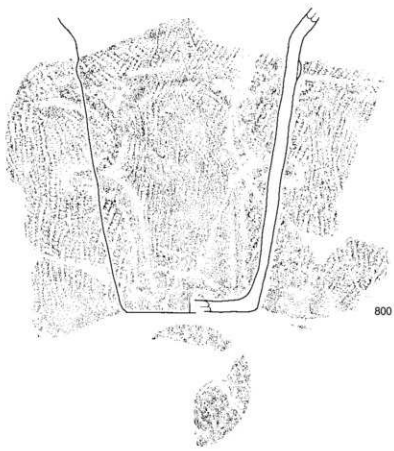
第 300 图 第 281 号土坑出土遗物实测图 (2)



第 301 図 第 281 号土坑出土遺物実測図(3)



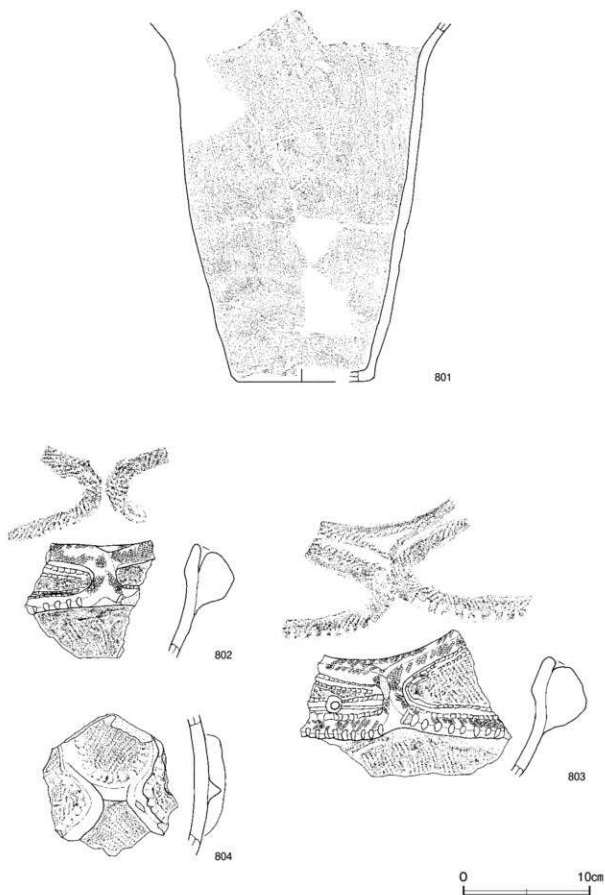
799



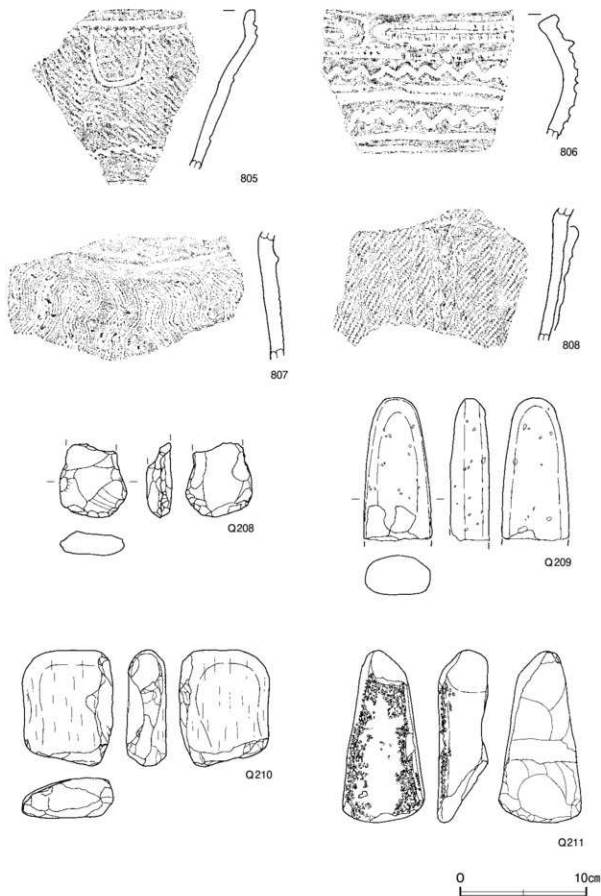
800



第 302 图 第 281 号土坑出土遗物实测图(4)



第 303 图 第 281 号土坑出土遺物実測图 (5)



第 304 图 第 281 号土坑出土遗物实测图 (6)

**規模と形状** 耕作による攪乱を受けているが、開口部は径186～193mの不整形円形、長径方向はN-11°-Eである。底面は径232～240mの円形で、平坦である。確認面からの深さは92cmである。壁は内彎して、袋状を呈し、底面から高さ52～58cmのところできり上げ、上位は外傾している。

**覆土** 15層に分層できる。各層にローム粒子が多く含まれていることから、埋め戻されている。

## 土層解説

1 黒褐色	ローム粒子少量、炭化粒子微量	9 黒褐色	ローム粒子中量
2 暗褐色	ローム粒子少量	10 暗褐色	ロームブロック少量
3 黒褐色	ローム粒子多量、炭化粒子中量、焼土粒子微量	11 にぶ黄褐色	ローム粒子少量、鹿沼パミスブロック微量
4 黒褐色	ローム粒子多量、炭化粒子少量、焼土粒子微量	12 暗褐色	ロームブロック中量、焼土粒子少量、炭化粒子微量
5 黒褐色	ローム粒子多量、焼土粒子、炭化粒子微量	13 暗褐色	ローム粒子中量
6 黒褐色	ローム粒子多量、炭化粒子微量	14 黒褐色	ローム粒子少量
7 黒褐色	ローム粒子中量、炭化粒子微量	15 暗褐色	ロームブロック中量
8 暗褐色	ローム粒子多量、炭化粒子少量		

**遺物出土状況** 縄文土器片 375点（深鉢374、器台1）、石器8点（打製石斧、磨製石斧、石皿、敲石、敲砥石、凹石、砥石、台石）、石核4点（瑪瑙）、加工痕のある剥片1点（瑪瑙）、剥片8点（石英1、チャート1、瑪瑙4、黒曜石2）、礫1点（砂岩）が出土している。800は北壁際の底面から横位で、794は中央部、795～799・801～807、Q 208・Q 210・Q 211は坑内全体の覆土下層から、大型の破片が散乱した状態で出土している。土器は、いずれも底部あるいは口縁部が欠損しており、不要になったものが、廃絶後間もない段階で一括投棄されたものと考えられる。

**所見** 規模と形状から、貯蔵穴と考えられる。時期は、出土土器から中期中葉と考えられる。

## 第281号土坑出土遺物観察表（第299～304図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	文様の特徴はか	出土位置	備考
794	縄文土器	深鉢	231	(131)	-	長石・石英・雲母	黒褐色	口唇部平ら面、有筋沈線による文様沈線、口縁部隆帯による文様沈線、隆帯に沿って有筋沈線、地文に無筋横文L(縦)	覆土下層	30% PL132
795	縄文土器	深鉢	232	(217)	-	長石・石英	黒褐色	口縁部上端段状の隆帯を帯付、指環によるナゲ2本位のS字状の把手形付、胴部単筋横文L(縦)沈線による文様沈線	覆土下層	40% PL132
796	縄文土器	深鉢	284	(209)	-	長石・石英・雲母	暗褐色	口唇部平ら面、有筋沈線、隆帯に沿って有筋沈線、口唇部平ら面に2本の有筋沈線、平柄筒の把手形付、口縁上端隆帯帯付、隆帯上指環状の地文に無筋横文L(縦)	覆土下層	60% PL132
797	縄文土器	深鉢	[308]	(167)	-	長石・石英・雲母	にぶい褐色	口唇部平ら面に2本の有筋沈線、平柄筒の把手形付、口縁上端隆帯帯付、隆帯上指環状の地文に無筋横文L(縦)	覆土下層	20% PL131
798	縄文土器	深鉢	[240]	43.5	134	長石・石英・赤色粒子	赤褐色	胴部に刺突隆帯一巡、地文に無筋横文L(縦)を両側を帯けて施文	覆土下層	70% PL132
799	縄文土器	深鉢	[310]	(150)	-	長石・石英・雲母	にぶい褐色	口縁部外・内面横位、胴部外面縦位の磨き	覆土下層	10%
800	縄文土器	深鉢	-	(242)	[98]	長石・石英・雲母	橙(外)黒(内)	胴部に断面鐘状の縦い隆帯帯付、隆帯からY字状横位の隆帯垂下、地文に附加一様横文L(縦・斜)、底面無筋代換	底面	30% PL132
801	縄文土器	深鉢	-	(28.5)	[114]	長石・石英・雲母・赤色粒子	橙	外面縦位、内面斜位のナゲ、底部ナゲ	覆土下層	50% PL132
802	縄文土器	深鉢	-	(9.3)	-	長石・石英・雲母	灰褐色	口縁部隆帯で区画、隆帯上に単筋横文L(縦)とキザミ目、隆帯に沿って有筋沈線、胴部一様横文L(縦)施文あり	覆土下層	80と同一層、
803	縄文土器	深鉢	-	(11.6)	-	長石・石英・雲母	暗褐色	口縁部隆帯で区画、隆帯上に単筋横文L(縦)とキザミ目、隆帯に沿って有筋沈線、胴部一様横文L(縦)施文あり	覆土下層	10% 802と同一層、
804	縄文土器	深鉢	-	(11.3)	-	長石・石英・雲母	暗褐色	断面一様形の隆帯で区画、隆帯に沿って有筋沈線、縦行沈線、区画内単筋横文L(縦・横)	覆土下層	
805	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	灰褐色	地文に無筋横文L(縦)、口縁部上端に2本の有筋沈線、U字状の沈線文、胴部有筋沈線一巡、口縁部上端隆帯で区画、区画内L字の隆帯に沿って有筋沈線、縦行沈線と並行沈線を交互に施文	覆土下層	PL131
806	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	にぶい褐色	隆帯が一巡、6本単位の磨製加工具による縦位の産状文	覆土下層	PL131
807	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	にぶい褐色	隆帯が一巡、6本単位の磨製加工具による縦位の産状文	覆土下層	
808	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母・赤色粒子	黒褐色	刺突隆帯が垂下、隆帯上及び地文に単筋横文L(縦)	覆土中層	

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
Q 208	打製石斧	(58)	5.4	2.0	(725)	ホルンフェルス	分瓣形、表面研磨、刃部は表面を編打、片刃部欠損	覆土下層	
Q 209	磨製石斧	(11.3)	5.4	3.1	(3207)	覆い岩	定角式、全面研磨、樹線部に鋭い稜、刃部欠損	覆土中層	PL167
Q 210	敲砥石	9.2	7.2	3.2	3480	石英理岩	楕円形の両端及び側縁部に編打痕、底面をもつ	覆土下層	
Q 211	台石	13.7	6.5	4.0	4126	ホルンフェルス	片側に鋭い編打痕	覆土下層	

第282号土坑 (第298・305図 PL52)

位置 調査区北部のC3b5区、標高29mほどの台地平坦部に位置している。

重複関係 第281号土坑を掘り込み、第293号土坑に掘り込まれている。

規模と形状 耕作による攪乱を受けているが、長径2.45m、短径2.09mの楕円形で、長径方向はN-74°-Wである。底面は平坦で、深さは48cmである。壁は外傾している。

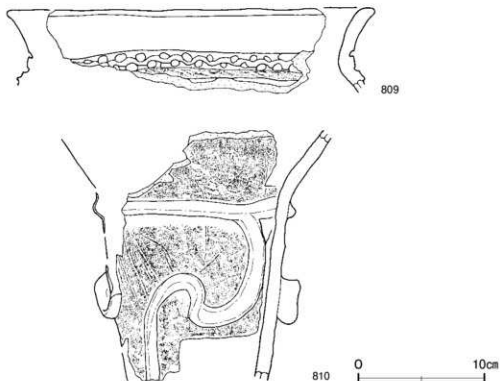
覆土 7層に分層できる。各層にロームのブロックや粒子が多く含まれていることから、埋め戻されている。

土層解説

- |         |           |         |           |
|---------|-----------|---------|-----------|
| 1 黒褐色   | ローム粒子少量   | 5 濃い黄褐色 | ロームブロック多量 |
| 2 黒褐色   | ローム粒子中量   | 6 褐色    | ローム粒子多量   |
| 3 暗褐色   | ロームブロック少量 | 7 黒褐色   | ロームブロック少量 |
| 4 濃い黄褐色 | ローム粒子多量   |         |           |

遺物出土状況 縄文土器片62点(深鉢)、石器1点(打製石斧)、剥片1点(瑪瑙)が出土している。809は東部の覆土中層、810は西部の覆土下層から、いずれも破片が散乱した状態で出土しており、埋め戻す過程で投棄されたものと考えられる。

所見 上部が耕作による攪乱を受けているため明確でないが、規模と形状から袋状土坑の下部と推定でき、貯蔵穴と考えられる。時期は、出土土器から中期中葉と考えられる。



第305図 第282号土坑出土遺物実測図

第282号土坑出土遺物観察表 (第305図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	文様の特徴ほか	出土位置	備考
809	縄文土器	深鉢	[286]	(67)	-	長石・石英・雲母	にぶい肌	普通	口縁部稜文帯、頸部交互刺突文、胴部単純縄文、IR(縦)外・内面傾位の磨き	覆土中層	
810	縄文土器	深鉢	-	(199)	-	長石・石英・雲母、赤鉄粒子	にぶい肌	普通	胴部・胴部直線状隆帯幅付、隆帯直線部横み状の突起、一部に染織文	覆土下層	40% PL130



## 第283号土坑 (第306・307図 PL53)

**位置** 調査区北部のC3b6区、標高29mほどの台地平坦部に位置している。

**重複関係** 第285・337号土坑を掘り込んでいる。第284号土坑との新旧関係は不明である。

**規模と形状** 長径250m、短径174mの楕円形で、長径方向はN-58°-Eである。底面は平坦で、深さ78cmである。壁は外傾している。

**ピット** 深さ32cmで、壁際に位置していることから補助的な柱穴と考えられる。

## ピット土層解説

- |               |               |
|---------------|---------------|
| 1 黒褐色 ローム粒子少量 | 3 暗褐色 ローム粒子微量 |
| 2 暗褐色 ローム粒子少量 |               |

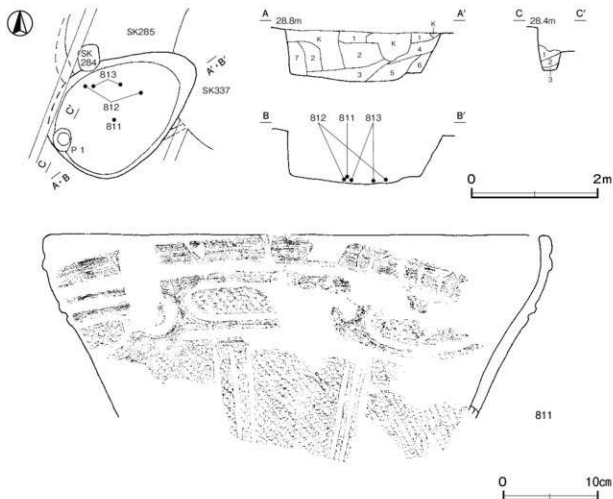
**覆土** 7層に分層できる。各層にローム粒子が多く含まれており、東側から埋め戻された堆積状況を示している。

## 土層解説

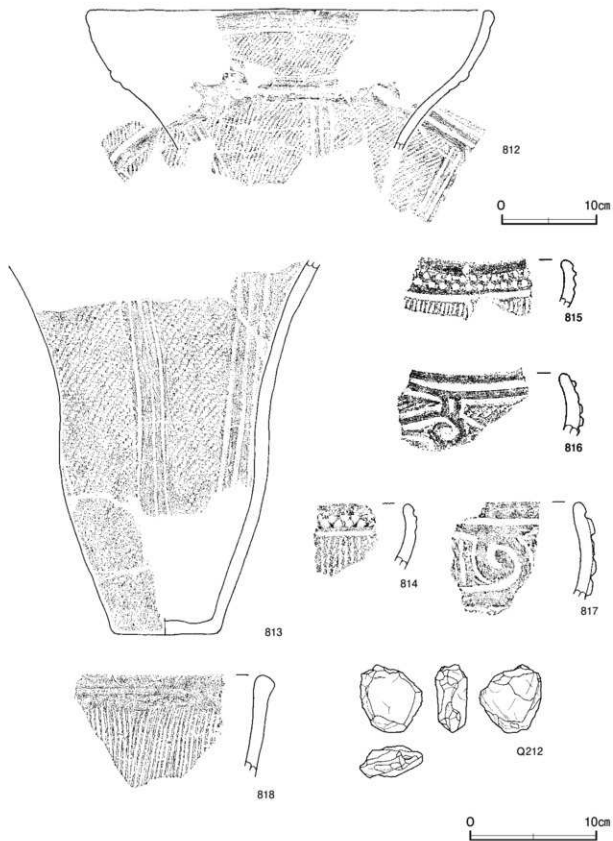
- |                             |                    |
|-----------------------------|--------------------|
| 1 黒褐色 ローム粒子中量、焼土粒子・炭化粒子微量   | 5 黒褐色 ローム粒子・炭化粒子中量 |
| 2 黒褐色 ローム粒子中量、炭化粒子少量、焼土粒子微量 | 6 黒褐色 ローム粒子・炭化粒子少量 |
| 3 黒褐色 ロームブロック中量             | 7 黒褐色 ローム粒子中量      |
| 4 黒褐色 ローム粒子中量、炭化粒子少量        |                    |

**遺物出土状況** 縄文土器片301点(深鉢284, 浅鉢17), 石器1点(敲砥石), 石核16点(石英4, 瑪瑙11, 水晶1), 剥片12点(石英5, 瑪瑙3, 水晶2, トロトロ石2)が出土している。811～813は、北半部の覆土下層から、破片が散乱した状態で出土しており、埋め戻しの早い段階で一括投棄されたものと考えられる。

**所見** 規模と形状から、貯蔵穴と考えられる。時期は、出土土器から中期中葉と考えられる。



第306図 第283号土坑・出土遺物実測図



第 307 图 第 283 号土坑出土遗物实测图

第283号土坑出土遺物観察表(第306・307図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	文様の特徴ほか	出土位置	備考
811	縄文土器	深鉢	[526]	[193]	-	長石・石美・雲母	にぶい褐	普通	口縁部無文・隆帯による楕円区画・隆帯に沿って太い花飾 地文に後部縄文LR(縦)・割部3本の沈線垂下	覆土下層	30% PL133
812	縄文土器	深鉢	[420]	[149]	-	長石・石美・雲母	灰褐	普通	口縁部無文・地文に単部縄文LR(縦)・隆帯による楕円区画・隆帯に沿って沈線・割部3本の沈線垂下・沈線間部滑	覆土下層	10% PL133
813	縄文土器	深鉢	-	[293]	8.2	長石・石美・雲母	にぶい青黄	普通	地文に単部縄文LR(縦)・3本の沈線垂下・沈線間部底面ナラ	覆土下層	70% PL133
814	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石美	明褐	普通	口縁部上縁交互斜突文・沈線が一高・地文に燃赤文(縦)	覆土中	
815	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石美・雲母	にぶい青褐	普通	口縁部上縁に3本の沈線を隔らし2本の沈線に斜突文・地文に燃赤文(縦)	覆土中	
816	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石美・雲母	灰褐	普通	地文に9段多条縄文LR(横)・隆帯による区画文・燃赤文・隆帯に沿って太い沈線	覆土中	
817	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石美・雲母	橙	普通	斜い隆帯による区画文・褐色文・隆帯に沿って沈線・区画内縦位の沈線	覆土上層	
818	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石美・赤色粒子	灰褐	普通	口唇部肥厚・口縁部無文・縦・斜位の条線文	覆土上層	

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
Q212	磁胎石	5.4	5.0	2.5	794	石英	円縁の細縁部に敲打痕・紙面をもつ	覆土中層	PL172

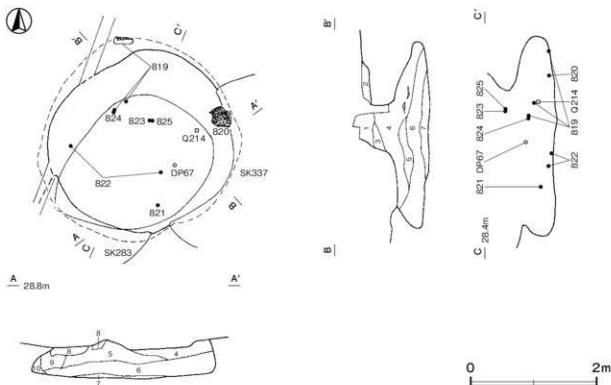
## 第285号土坑(第308～311図 PL53)

位置 調査区北部のC3b7区、標高29mほどの台地平坦部に位置している。

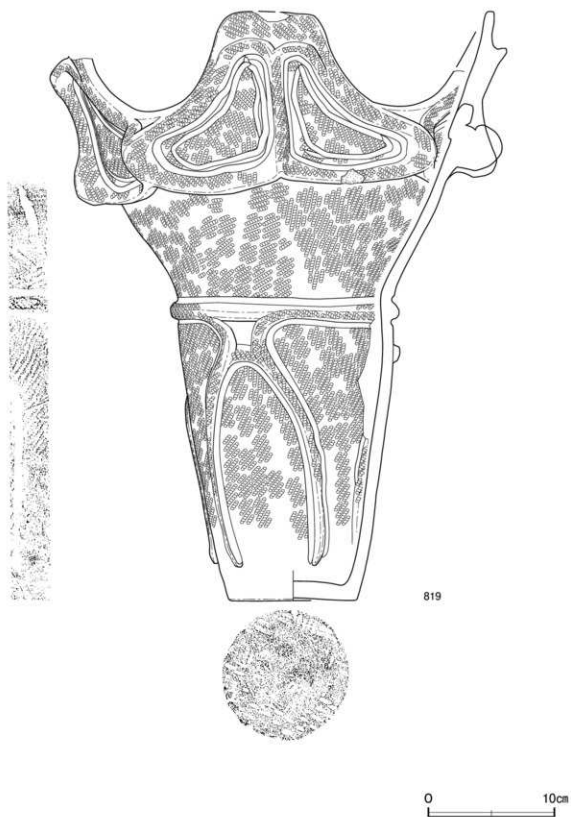
重複関係 第283・284・337号土坑に掘り込まれている。

規模と形状 開口部は長径2.90m、短径2.65mの楕円形で、長径方向はN-53°-Eである。底面は径3.15～3.25mのはず円形で、平坦である。確認面からの深さは118cmである。壁は大きく内湾して、袋状を呈し、底面から74～90cmのところできつれ、上位は緩やかに傾斜している。

覆土 10層に分層できる。各層にロームのブロックや粒子が多く含まれていることから、埋め戻されている。



第308図 第285号土坑実測図



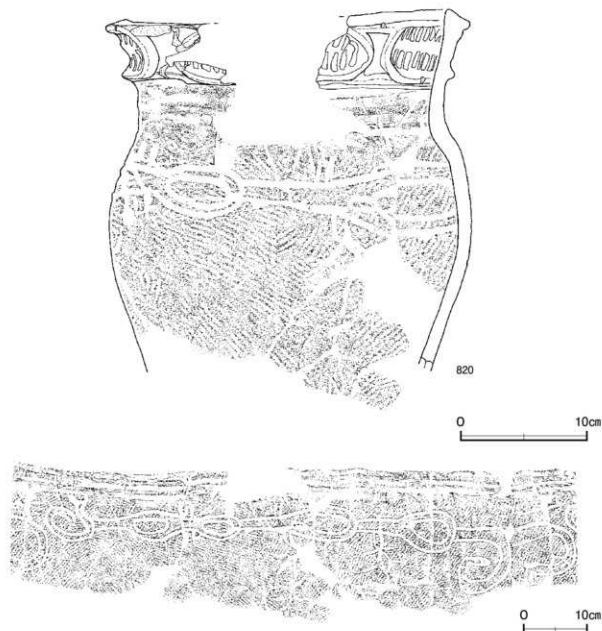
第 309 图 第 285 号土坑出土遗物实测图 (1)

## 土層解説

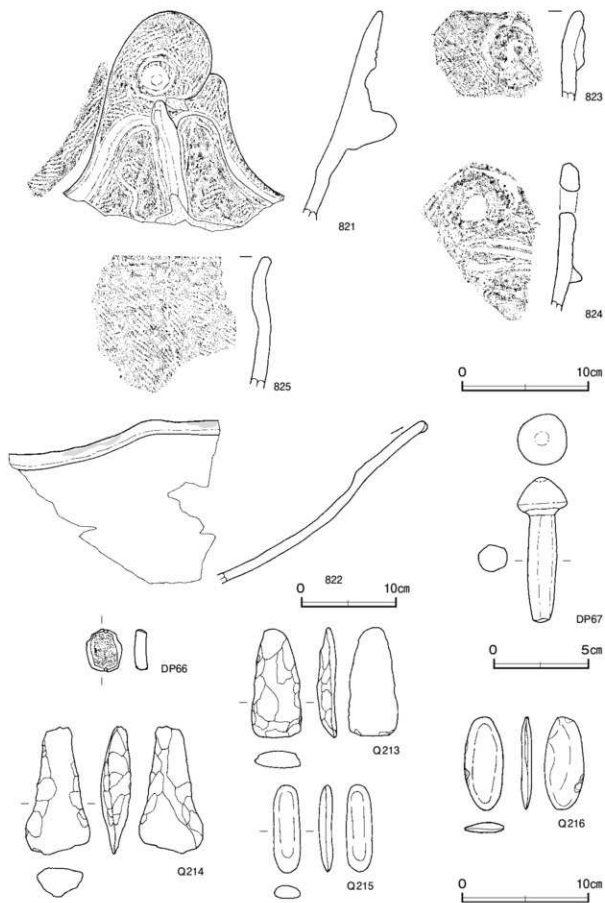
1 黒褐色	ローム粒子中量、焼土粒子少量、炭化粒子微量	6 褐色	ロームブロック中量
2 暗褐色	ロームブロック少量	7 にい黄褐色	ロームブロック中量
3 黒褐色	ローム粒子中量、炭化粒子微量	8 黄褐色	ロームブロック中量
4 黒褐色	ローム粒子中量、炭化粒子少量、焼土粒子微量	9 黒褐色	ローム粒子中量
5 暗褐色	ロームブロック・炭化粒子少量	10 黒褐色	ロームブロック少量

**遺物出土状況** 縄文土器片 161 点（深鉢 136、浅鉢 25）、土製品 2 点（土器片、鎌、きのこ形土製品）、石器 5 点（打製石斧 2、磨製石斧 2、磨石 1）、石核 15 点（石英 1、チャート 1、瑪瑙 13）、剥片 15 点（石英 1、安山岩 2、瑪瑙 9、水晶 3）が出土している。822 は東部と西部の底面から出土した破片が接合している。820 は底部を欠いており、北東壁際から、819 は縦に半截されており、北壁際から、いずれも底面に横位で置かれた状態で出土している。819 の残りの半個体分は、中央部の覆土中層から散乱して、821・823～825、Q 214 は覆土中層の第 4 層を中心に出土している。いずれも廃絶直後とある程度埋め戻した段階で投棄されたと考えられる。

**所見** 規模と形状から、貯蔵穴と考えられる。時期は、出土土器から中期中葉と考えられる。



第 310 図 第 285 号土坑出土遺物実測図(2)



第 311 图 第 285 号土坑出土遗物实测图 (3)

第285号土坑出土遺物観察表(第309~311図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	文様の特徴ほか	出土位置	備考
819	縄文土器	深鉢	29.5	46.7	100	長石・石美・雲母	にぶい黄褐色	普通	肥土部縁状隆帯による2つの三角区画。隆帯に沿って放射線部が形成されている。透孔字状文。透孔字及び隆帯上縁縁文(縦・斜)。表面部底帯口縁部隆帯による楕円区画。区画内2本の流紋文。胴部単線縄文LR(縦) 2本の流紋で文様形成	腹土中層・底面	90% PL134
820	縄文土器	深鉢	25.0	(28.7)	-	長石・石美・雲母	にぶい黄褐色	普通	胎土に単線縄文RL(多方向) 流紋部凹形突起貼付。突起中央に2本の流紋による凹み。流紋部中央に横状隆帯と流紋	底面	70% PL134
821	縄文土器	深鉢	-	(17.4)	-	長石・石美・雲母	にぶい褐色	普通	胎土に単線縄文RL(多方向) 流紋部凹形突起貼付。突起中央に2本の流紋による凹み。流紋部中央に横状隆帯と流紋	腹土中層	PL134
822	縄文土器	浅鉢	-	(17.3)	-	長石・石美・雲母	にぶい赤褐色	普通	胎土に単線縄文L(縦) 透孔字状の隆帯貼付	底面	10% PL134
823	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石美・赤色粘土	にぶい褐色	普通	胎土に無筋縄文L(縦) 透孔字状の隆帯貼付	腹土中層	
824	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石美・雲母	にぶい褐色	普通	口唇部透孔字状の隆帯貼付。口唇部の一部に無筋縄文L(横) 口縁部隆帯の3本の流紋。流紋下に隆帯で区画	腹土中層	
825	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石美・雲母・赤色粘土	にぶい赤褐色	普通	胎土に無筋縄文L(縦) を閉鎖を開けて施文	腹土中層	

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	胎土	色調	特徴	出土位置	備考
DP66	土器片鏝	3.4	2.8	0.9	11.6	石美・雲母・赤色粘土	にぶい赤褐色	胴部片 両端にキザミ目	腹土中層	
DP67	土器片	7.7	2.6	2.7	28.5	長石・石美・雲母・角閃岩	明赤褐色	全体に丁寧なナデ	腹土中層	PL160 熊本県埋蔵文化

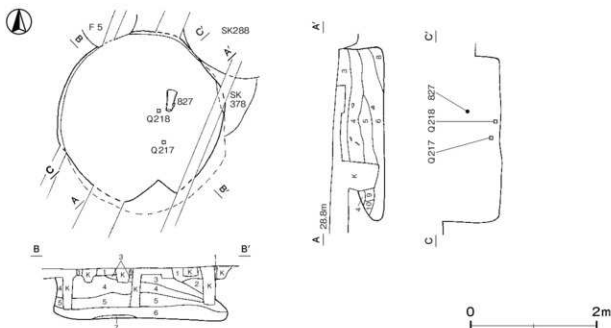
番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
Q213	打製石斧	8.8	4.0	1.6	66.2	緑色岩	磨形 両側縁片面を磨打 刃部片面を研磨	腹土中	PL164
Q214	打製石斧	10.2	5.2	2.4	98.2	砂岩	磨形 片面に自然面 両側縁微細な磨打調整 刃部は未広がり	腹土中層	PL166
Q215	磨製石斧	6.9	2.1	1.1	23.8	ホルンフェルス	極小型 扁平な自然産 刃部は表裏から研ぎ出す	腹土中	PL170
Q216	磨製石斧	7.4	3.2	0.8	30.2	角閃岩	小型 扁平な自然産 両側縁に接 刃部は表裏から研ぎ出す	腹土下層	

## 第286号土坑(第312~314図 PL53)

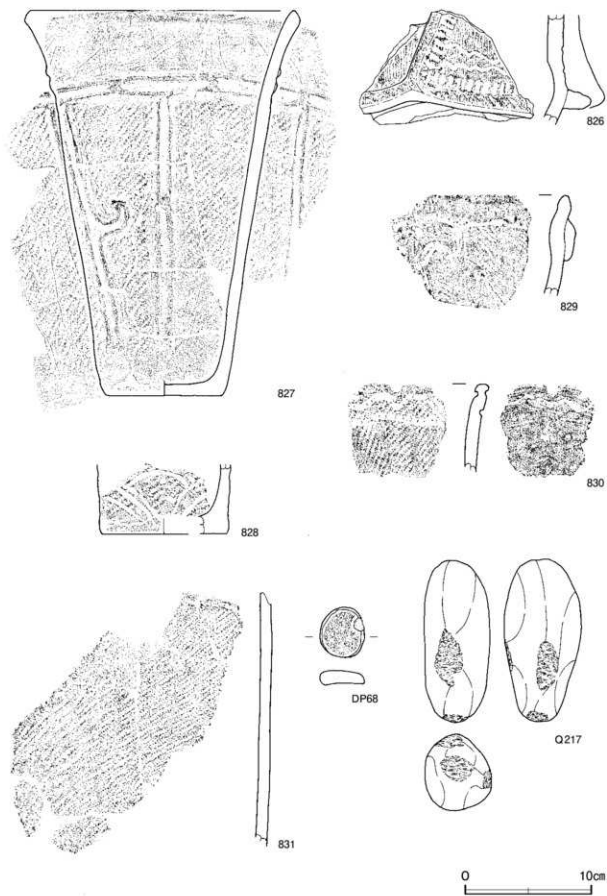
位置 調査区北部のC3b7区、標高29mほどの台地平坦部に位置している。

重複関係 第5号炉、第288号土坑に掘り込まれている。第378号土坑との新旧関係は不明である。

規模と形状 耕作による攪乱を受けているが、開口部は径2.47~2.66mの円形である。底面は長径2.82m、短径2.55mの楕円形で、平坦である。確認面からの深さは86cmである。壁は南東部が内傾しており、その他はやや内傾して袋状を呈している。

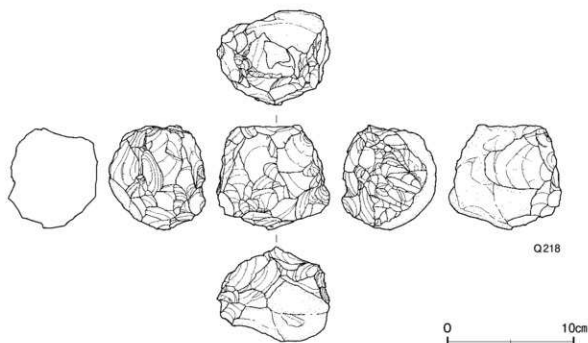


第312図 第286号土坑実測図



第313图 第286号土坑出土遗物实测图(1)





第314図 第286号土坑出土遺物実測図(2)

覆土 10層に分層できる。各層にロームのブロックや粒子が多く含まれており、北側から埋め戻された堆積状況を示している。

## 土層解説

- |       |                |        |                |
|-------|----------------|--------|----------------|
| 1 黒褐色 | ローム粒子少量、炭化粒子微量 | 6 黒褐色  | ローム粒子多量、炭化粒子少量 |
| 2 暗褐色 | ロームブロック中量      | 7 暗褐色  | ロームブロック少量      |
| 3 黒褐色 | ローム粒子中量        | 8 黒褐色  | ローム粒子少量        |
| 4 黒褐色 | ローム粒子多量        | 9 褐色   | ロームブロック少量      |
| 5 黒褐色 | ローム粒子多量、炭化粒子微量 | 10 黒褐色 | ロームブロック少量      |

遺物出土状況 縄文土器片 365点(深鉢), 土製品1点(土器片円盤), 石器1点(敲砥石), 母岩1点(瑪瑙), 剥片6点(石英4, 瑪瑙2)が出土している。Q 217・Q 218は中央部の覆土下層から、827は中央部の覆土中層から横位でそれぞれ出土しており、埋め戻す過程で投棄されたものと考えられる。

所見 規模と形状から、貯蔵穴と考えられる。時期は、出土土器から中期中葉と考えられる。

第286号土坑出土遺物観察表(第313・314図)

番号	種類	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	文様の特徴ほか	出土位置	備考
826	縄文土器	深鉢	-	(9.1)	-	長石・石英・雲母	にぶい・褐	普通	縄状の隆帯で区画。隆帯上0段多条縄文R.L.(縦) 隆帯に沿ってキョクゼウ文。区画内条線文・波状沈線文。	覆土上層	
827	縄文土器	深鉢	[210]	30.6	9.2	長石・石英・雲母	にぶい・褐	普通	縄文に準る縄文R.L.(縦) 管割れ隆帯による区画。剥片多量。	覆土中層	50% PL131
828	縄文土器	深鉢	-	(5.5)	[100]	長石・石英・雲母	にぶい・橙	普通	縄文に準る縄文R.L.(縦) 有筋沈線による平積内文。	覆土中層	
829	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・赤色粒子	にぶい・褐	普通	管割れ隆帯縄文L.(縦) 肥厚部下部にM字状の隆帯多量。	覆土中層	
830	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母・赤色粒子	にぶい・赤褐	普通	縄文に準る縄文R.L.(縦) 口縁部上縁外・内面に波状の有筋沈線。口唇部棒状の筒状土直により波状文。	覆土中層	
831	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・黒色粒子	にぶい・橙	普通	0段多条縄文R.L.(縦)	覆土中層	
番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	胎土	色調	特徴	出土位置	備考	
DP98	土器円盤	4.0	3.6	1.1	(17.9)	長石・石英・雲母・赤色粒子	橙	割部1 割縁部丁寧に研磨	覆土中層		

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
Q 217	磁砥石	129	5.5	6.1	549.3	安山岩	楕円形の両端及び側縁部に敲打痕・砥面をもつ	覆土下層	PL172
Q 238	母岩	8.9	8.6	7.5	636.6	瑪瑙	表面に自然面を残し全面磨製	覆土下層	

### 第 291 号土坑 (第 315 図 PL54)

**位置** 調査区北部の C 3b9 区、標高 29 m ほどの台地平坦部に位置している。

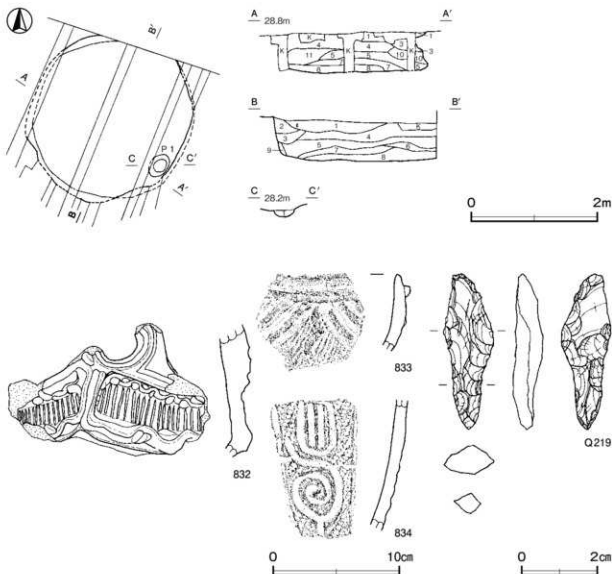
**規模と形状** 北端部が調査区域外へ延びているが、開口部は径 2.45 ~ 2.59 m の円形と推定できる。底面は径 2.52 m の円形と推定でき、平坦である。確認面からの深さは 62 cm である。壁は南・東部がやや内傾して袋状を呈しており、北・西部はほぼ直立している。

**ピット** 深さ 11 cm で、性格は不明である。

#### ピット土層解説

1 黒褐色 ロームブロック中量、炭化粒子微量

**覆土** 11 層に分层できる。含有物が少なく、黒褐色土や暗褐色土が主体であることから、自然堆積である。



第 315 図 第 291 号土坑・出土遺物実測図

## 土層解説

1 黒褐色	ロームブロック・炭化粒子微量	7 暗褐色	ローム粒子少量
2 黒褐色	ローム粒子微量	8 におい黄褐色	ロームブロック少量
3 暗褐色	ロームアブロック少量	9 黒褐色	ロームブロック微量
4 黒褐色	ローム粒子少量	10 暗褐色	ロームブロック微量
5 黒褐色	ローム粒子少量、炭化粒子微量	11 黒褐色	ローム粒子微量
6 暗褐色	ローム粒子微量		

**遺物出土状況** 縄文土器片195点(深鉢194, 浅鉢1), 石器3点(石錐, 磨石, 敲石), 石核1点(瑪瑙), 剥片5点(石英1, 安山岩1, チャート1, 瑪瑙2)が出土している。

**所見** 規模と形状から, 貯蔵穴と考えられる。時期は, 出土土器から中期中葉と考えられる。

## 第291号土坑出土遺物観察表(第315図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	構成	文様の特徴ほか	出土位置	備考
832	縄文土器	深鉢	-	(105)	-	長石・石英・雲母・赤色粒子	灰褐色	普通	中笠の把手・口縁部縦行段帯による区画・区画内交互刻文・縦位の条線文	覆土中層	
833	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母・赤色粒子	におい黄褐色	普通	口縁上部無文帯・隆帯により文様区画・地文に準じた刻文R1(縦)	覆土上層	
834	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	におい黄褐色	普通	外文に準じた刻文R1(縦)・沈線による縦位の刻文・横間区画文	覆土中	

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
Q219	石錐	4.1	1.3	0.8	3.1	瑪瑙	両側縁押圧刻線	覆土下層	PL160

## 第292号土坑(第316・317図 PL54)

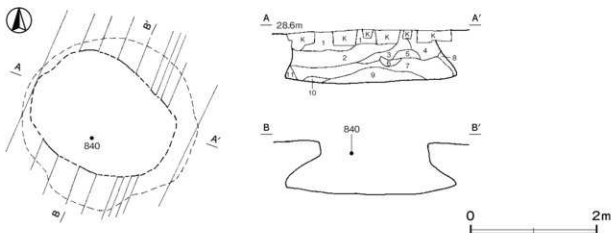
**位置** 調査区北部のC3b3区, 標高29mほどの台地平坦部に位置している。

**規模と形状** 耕作による攪乱を受けているが, 開口部は長径2.34m, 短径1.79mの楕円形と推定でき, 長径方向はN-70°-Wである。底面は径2.74~2.77mの円形で, 平坦である。確認面からの深さは83cmである。壁は大きく内傾して袋状を呈し, 底面から45~60cmのところできれ, 上位は直立している。

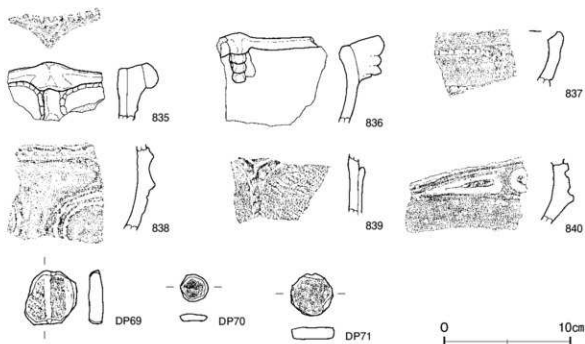
**覆土** 11層に分層できる。各層にロームのブロックや粒子が多く含まれていることから, 埋め戻されている。

## 土層解説

1 黒褐色	ローム粒子中量, 炭化粒子微量	7 黒褐色	ロームブロック・炭化粒子少量
2 黒褐色	ロームブロック少量, 炭化粒子微量	8 におい黄褐色	ロームブロック中量
3 暗褐色	ローム粒子中量	9 暗褐色	ロームブロック少量
4 黒褐色	ローム粒子少量, 炭化粒子少量	10 黒褐色	ロームブロック少量
5 黒褐色	ローム粒子中量	11 黒褐色	糞沼/バミスブロック中量, ロームブロック少量
6 褐色	ロームブロック中量		



第316図 第292号土坑実測図



第317図 第292号土坑出土遺物実測図

**遺物出土状況** 縄文土器片 359点(深鉢352,浅鉢7),土製品(土器片鍾1,土器片円盤2)・石核(石英,安山岩,瑪瑙)・剥片(安山岩2,チャート1)各3点が覆土中層から下層にかけて,散乱して出土している。

**所見** 規模と形状から,貯蔵穴と考えられる。時期は,出土土器から中期前葉と考えられる。

第292号土坑出土遺物観察表(第317図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	文様の特徴ほか	出土位置	備考
835	縄文土器	深鉢	-	(4.5)	-	長石・石英	灰褐色	普通	口縁上縁隆帯貼付 積み状突起・口唇部内面河突列 変転基から隆帯直下 隆帯に沿って有筋沈線	覆土中層	
836	縄文土器	深鉢	-	(7.3)	-	長石・石英・雲母	褐色	普通	口唇部断面三角形 縦長の段状の隆帯貼付 外・内面横位磨き	覆土中	
837	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	にぶい黄褐色	普通	細い隆帯による横円区画 隆帯に沿って有筋沈線	覆土下層	
838	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	褐色	普通	断面三角形の隆帯で区画 隆帯に沿って有筋沈線	覆土下層	
839	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・赤色粒子・黒色粒子	にぶい褐色	普通	堆文に卑筋縄文 瓦(横) 断面三角形のY字状の隆帯を貼付	覆土下層	
840	縄文土器	浅鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	褐色	普通	沈線による文様描画 外・内面横位の磨き	覆土中層	

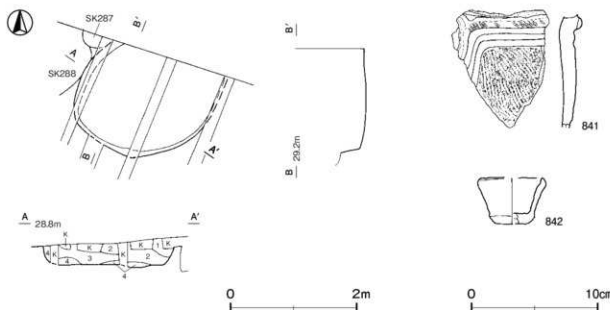
番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	胎土	色調	特徴	出土位置	備考
DP69	土器片鍾	4.2	3.1	1.1	23.4	長石・石英・雲母	にぶい褐色	胴部片 両端にキザミ目	覆土中	
DP70	土器片円盤	2.1	2.1	0.6	2.7	長石・石英	褐色	胴部片 周縁部研磨	覆土中層	
DP71	土器片円盤	3.3	3.3	0.9	10.6	長石・石英・雲母	褐色	胴部片 周縁部縦線に研磨	覆土中層	

### 第295号土坑(第318図 PL54)

**位置** 調査区北部のC3b8区,標高29mほどの台地平坦部に位置している。

**重複関係** 第287・288号土坑との新田関係は不明である。

**規模と形状** 耕作による擾乱を受けており,北部が調査区域外へ延びているため,北西・南東径は1.97m,北東・南西径は1.71mしか確認できなかった。楕円形と推定でき,北東・南西径方向はN-38°-Eである。底面は平坦で,深さ42cmである。壁は外傾している。



第318図 第295号土坑・出土遺物実測図

**覆土** 4層に分層できる。含有物が少ない暗褐色土を主体としていることから、自然堆積である。

## 土層解説

- |                 |                 |
|-----------------|-----------------|
| 1 濃い黄褐色 ローム粒子少量 | 3 暗褐色 ローム粒子少量   |
| 2 黒褐色 ローム粒子少量   | 4 暗褐色 ロームブロック少量 |

**遺物出土状況** 縄文土器片6点(深鉢4, 浅鉢1, 手捏土器1)が、覆土上層から出土している。

**所見** 時期は、出土土器から中期中葉と考えられる。

## 第295号土坑出土遺物観察表(第318図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	文様の特徴ほか	出土位置	備考
841	縄文土器	深鉢	-	(9.4)	-	長石・石英・黒色 粒子	濃い橙	普通	段帯による区画 段帯に沿って2本の太い沈線 段帯上及び地文に無胎縄文土(画)	覆土上層	
842	縄文土器	手捏土器	[4.1]	3.1	[2.8]	長石・石英	橙	普通	外面横位のナデ・街頭面あり 内面横位のナデ	覆土中	40%

## 第299号土坑(第319図)

**位置** 調査区西部のC2c7区、標高29mほどの台地平坦部に位置している。

**重複関係** 第342号土坑を掘り込み、第4号堅穴建物に掘り込まれている。

**規模と形状** 東部を第4号堅穴建物、西部を第342号土坑に掘り込まれており、北西・南東径は2.29m、北東・南西径は206mしか確認できなかった。不整楕円形で、北西・南東径方向はN-68°-Wである。底面は平坦で、深さ57cmである。壁は外傾している。

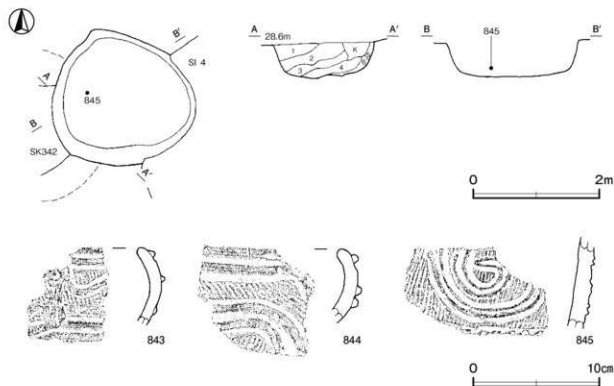
**覆土** 6層に分層できる。各層にロームのブロックや粒子が含まれていることから、埋め戻されている。

## 土層解説

- |                             |                         |
|-----------------------------|-------------------------|
| 1 暗褐色 ロームブロック・焼土ブロック・炭化粒子少量 | 4 黒褐色 ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子少量 |
| 2 暗褐色 ロームブロック少量、焼土粒子・炭化粒子微量 | 5 褐色 ローム粒子多量            |
| 3 暗褐色 ローム粒子少量、焼土粒子・炭化粒子微量   | 6 褐色 ロームブロック多量          |

**遺物出土状況** 縄文土器片26点(深鉢19, 浅鉢7)が出土している。845は西部の覆土下層から出土している。

**所見** 形状から袋状土坑の下部と推定でき、貯蔵穴と考えられる。時期は、出土土器から中期中葉と考えられる。



第319図 第299号土坑・出土遺物実測図

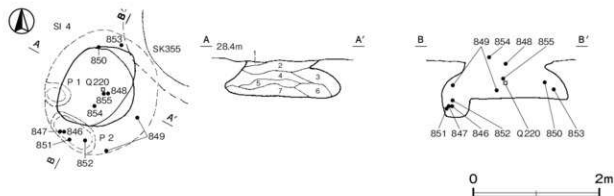
第299号土坑出土遺物観察表(第319図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	地肌	文様の特徴ほか	出土位置	備考
843	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	暗黒	普通	地文に口沿多線文乳(横) 隆帯による文様 指痕 隆帯に沿って点線	覆土中	
844	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母・ 赤色粒子	にがい赤黒	普通	地文に単線縄文乳(横・斜) 隆帯による区画 隆帯に沿って点線	覆土中	
845	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	黒黒	普通	地文に横糸文(縦) 背割れ隆帯による渦巻文	覆土下層	

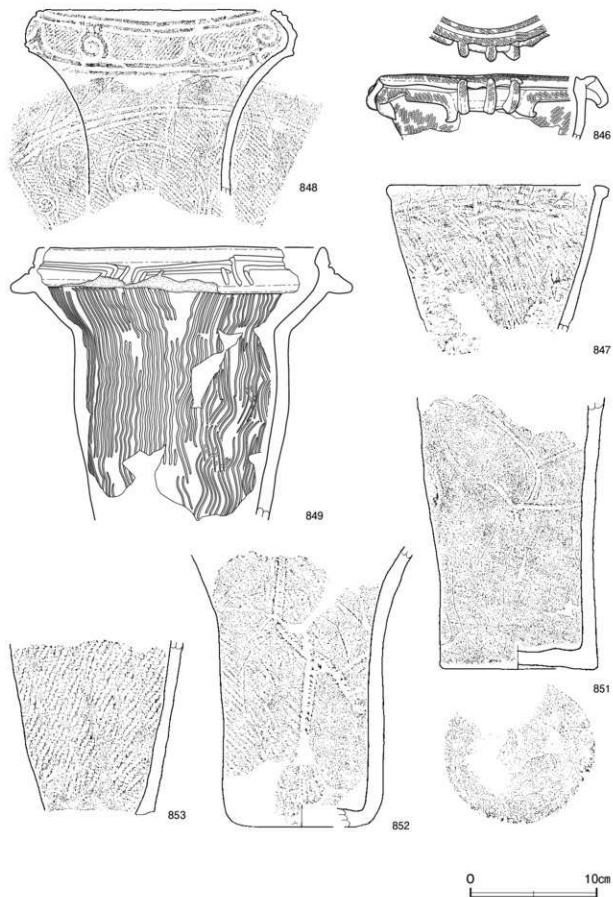
第300号土坑(第320～322図 PL55)

位置 調査区西部のC2c8区、標高28mほどの台地平坦部に位置している。

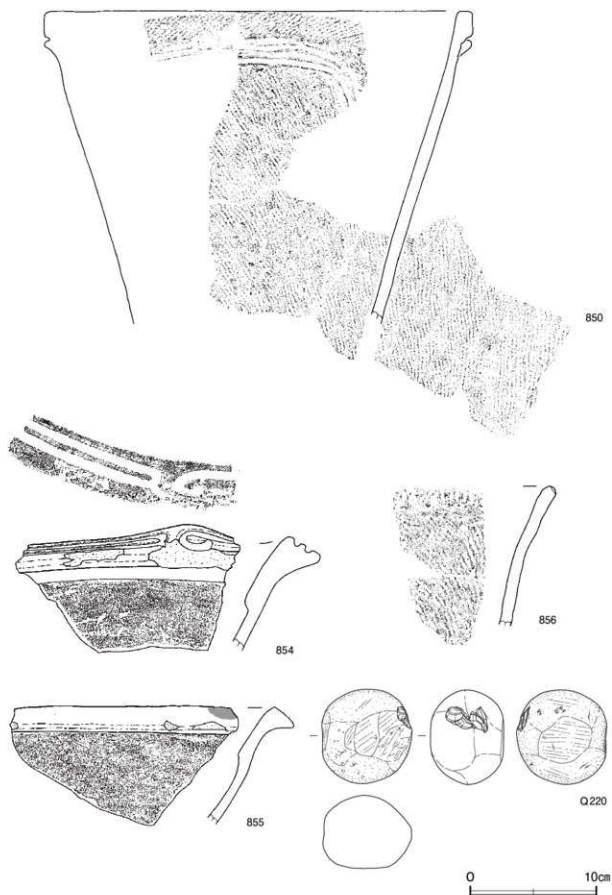
重複関係 第4号竪穴建物、第355号土坑に掘り込まれている。



第320図 第300号土坑実測図



第 321 図 第 300 号土坑出土遺物実測図 (1)



第 322 图 第 300 号土坑出土遗物实测图 (2)



**規模と形状** 開口部は長径1.48m、短径1.15mの楕円形で、長径方向はN-50°-Eである。底面は径2.00mほどの円形で、平坦である。確認面からの深さは56cmで、壁は底面から内彎して、袋状を呈している。

**ピット** 2か所。P1は長径50cm、短径30cmの楕円形で、深さ25cmである。P2は長径80cm、短径40cmの楕円形で、深さ30cmである。位置と形状から補助的な貯蔵施設と考えられる。

**覆土** 7層に分層できる。下層にロームブロックが多く含まれていることから、埋め戻されている。

**土層解説**

1 暗褐色	ロームブロック少量、炭化粒子微量	5 黒褐色	ロームブロック中量、焼土粒子・炭化粒子微量
2 暗褐色	ロームブロック、焼土粒子・炭化粒子少量	6 暗褐色	ロームブロック中量、焼土粒子・炭化粒子微量
3 暗褐色	ロームブロック少量、焼土粒子・炭化粒子微量	7 褐色	ロームブロック多量、焼土粒子・炭化粒子微量
4 黒褐色	ロームブロック、焼土粒子・炭化粒子少量		

**遺物出土状況** 縄文土器片89点(深鉢87、浅鉢2)、石器1点(敲砥石)、剥片4点(瑪瑙)が出土している。849・850・853・855、Q220は覆土下層から、848・854は覆土上層から、846・847・851・852はP2の覆土中層から、856は覆土中から出土している。いずれも埋め戻す過程で投棄されたものと考えられる。

**所見** 規模と形状から、貯蔵穴と考えられる。時期は、出土土器から中期中葉と考えられる。

**第300号土坑出土遺物観察表(第321・322図)**

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	文様の特徴ほか	出土位置	備考
846	縄文土器	深鉢	163	(52)	-	長石・石英・雲母	にぶい赤褐色	普通	口唇頂部に平頭面を作り出し、浅い化粧が一帯、袋帯貼付による文様描画。除帯上及び地文に半周線文、上部・全周文	P2覆土中層	10% PL134 外・内面磨石
847	縄文土器	深鉢	(176)	(115)	-	長石・雲母・赤色粒子・黒色粒子	明赤褐色	良好	口唇頂部に平頭面、胴部無筋縄文(縦)・外・内面横方向の磨き	P2覆土中層	25%
848	縄文土器	深鉢	181	(147)	-	長石・石英・雲母・赤色粒子	明褐色	普通	口唇部半周線文(縦)・胴上部に流線が一周帯により横円区画・函文・袋帯に無筋文・胴部無文帯・3本の流線が区画・胴部同一磨石(縦)・除帯により縦位の磨石文	覆土上層	40% PL134
849	縄文土器	深鉢	(225)	(217)	-	長石・石英	暗赤褐色	普通	口唇部半周線文(縦)・胴部6本単位の縦帯貼付による縦位の蛇行条線文	覆土下層	PL134
850	縄文土器	深鉢	(346)	(249)	-	長石・石英・雲母・黒色	灰褐色	普通	V字状の除帯貼付・口縁下に並行流線・口縁部無筋縄文(上)・胴部(縦)	覆土下層	30%
851	縄文土器	深鉢	-	(216)	122	長石・石英・雲母	にぶい赤褐色	普通	浅い化粧により縦文を描画	P2覆土中層	10% PL135
852	縄文土器	深鉢	-	(223)	(111)	長石・石英・雲母・黒色粒子	灰褐色	普通	地文に無筋縄文(縦)をまばらに施す。ペン先状突起による有筋化粧で縦位の文様描画	P2覆土中層	60% PL135
853	縄文土器	深鉢	-	(138)	-	長石・石英・雲母・赤色粒子	明褐色	普通	地文に半周線文 RL(縦)	覆土下層	30%
854	縄文土器	浅鉢	-	(101)	-	長石・石英・雲母・黒色粒子	にぶい赤褐色	良好	口唇頂部に太流線で楕円文・函文を描画。外・内面横方向の磨き	覆土上層	
855	縄文土器	浅鉢	-	(95)	-	長石・石英・雲母	赤褐色	普通	口縁部磨石方向の磨き。外・内面横方向の磨き。口唇部及び胴部内面赤褐色	覆土下層	
856	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母・赤色粒子	褐色	普通	口唇頂部にキザミ目・胴部無筋縄文(縦)を施す	覆土中	

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
Q220	敲砥石	7.5	7.2	5.8	441.9	石英	円縁の磨縁部に多方向からの砥面により挽をもつ	覆土下層	PL172

**第301号土坑(第323図)**

**位置** 調査区西部のC2d3区、標高28mほどの台地平坦部に位置している。

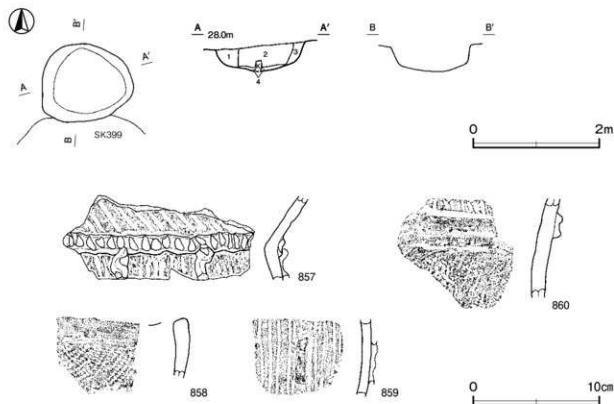
**重複関係** 第399号土坑を掘り込んでいる。

**規模と形状** 長径1.46m、短径1.25mの楕円形で、長径方向はN-83°-Wである。底面は皿状で、深さは40cmである。壁は外傾している。

**覆土** 4層に分層できる。不自然な堆積状況から、埋め戻されている。

**土層解説**

1 褐色	ローム粒子微量	3 褐色	ローム粒子・炭化粒子微量
2 褐色	ローム粒子少量、炭化粒子微量	4 にぶい褐色	ロームブロック微量



第 323 図 第 301 号土坑・出土遺物実測図

**遺物出土状況** 縄文土器片 56 点（深鉢 54、浅鉢 2）、石器 1 点（磨製石斧）、石核 1 点（安山岩）が出土している。857～860 は覆土中から出土している。いずれも埋め戻す過程で投棄されたものと考えられる。

**所見** 規模と形状から、貯蔵穴と考えられる。時期は、出土土器から中期後葉と考えられる。

第 301 号土坑出土遺物観察表（第 323 図）

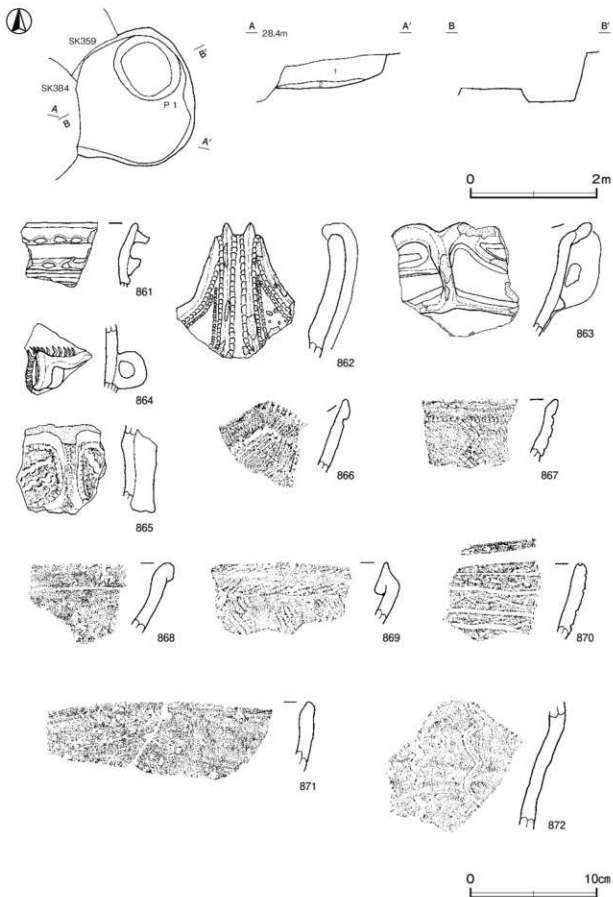
番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	文様の特徴ほか	出土位置	備考	
857	縄文土器	深鉢	-	(67)	-	長石・石英	にぶい褐色	普通	刺突隆帯が一段 隆帯から蛇行隆帯が直下	地	覆土中	PL133
858	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・黒色 砂子	にぶい褐色	普通	口唇部肥厚 口縁部無文 地文に半面縄文 RL (縦) を施文		覆土中	
859	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・針状 炭素	明赤褐色	普通	地文に縦位の沈線文 縦位の刺突隆帯が直下		覆土中	
860	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	灰褐色	普通	背割れ隆帯が一段 地文に半面縄文 RL (縦) 縦位の結節縄文を施文		覆土中	

### 第 302 号土坑（第 324・325 図 PL55）

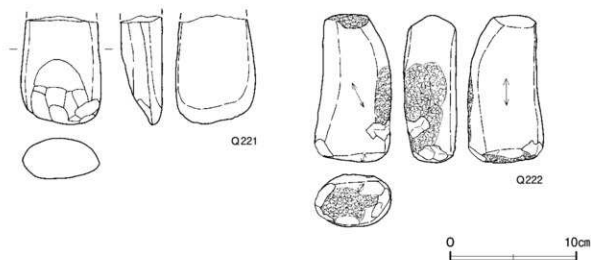
**位置** 調査区西部の C 2e4 区、標高 28 m ほどの台地平坦部に位置している。

**重複関係** 第 359・384 号土坑に掘り込まれている。

**規模と形状** 径 2.05～2.18 m の円形である。底面は平坦で、深さは 55 cm である。壁は緩やかに立ち上がっている。ピット 北東壁際に位置し、長径 110 cm、短径 100 cm の楕円形で、深さ 20 cm である。規模や形状から補助的な貯蔵施設と考えられる。



第324图 第302号土坑·出土物实测图



第 325 図 第 302 号土坑出土遺物実測図

覆土 2層に分層できる。ロームブロックが混入していることから、埋め戻されている。

土層解説

1 暗褐色 炭化粒子中量、ローム粒子少量、焼土粒子微量 2 暗褐色 炭化粒子中量、ロームブロック少量、焼土粒子微量

遺物出土状況 縄文土器片 489 点（深鉢 483、浅鉢 6）、石器 2 点（打製石斧、敲砥石）、剥片 2 点（瑪瑙、緑泥片岩）が出土している。861～872、Q 221・Q 222 はいずれも覆土中から出土していることから、埋め戻す過程で投棄されたものと考えられる。

所見 規模と形状から、貯蔵穴と考えられる。時期は、出土土器から中期前葉と考えられる。

第 302 号土坑出土遺物観察表（第 324・325 図）

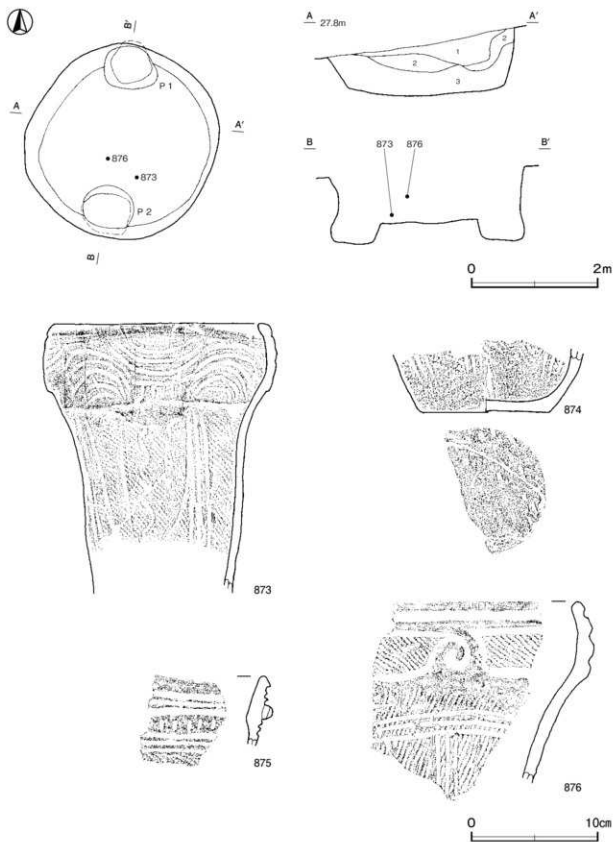
番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	地成	文様の特徴ほか	出土位置	備考
861	縄文土器	深鉢	—	(5.1)	—	長石・石英・雲母・赤色粒子	にぶみ褐	普通	口径直下から 2 条の縄状隆帯を巡らせ、隆帯上に刺突。下位の隆帯下に横位の並行沈線文	覆土中	
862	縄文土器	深鉢	—	(10.7)	—	長石・石英・雲母	褐灰	普通	縄状の隆帯貼付。隆帯に沿って有筋沈線を施文	覆土中	
863	縄文土器	深鉢	—	(9.0)	—	長石・石英・雲母	橙	普通	断面三角形の隆帯による区画文。隆帯の一部に中央の把手。隆帯に沿って沈線を施文	覆土中	
864	縄文土器	深鉢	—	(5.6)	—	長石・石英・雲母・黒色粒子・細砂	橙	良好	断面三角形の隆帯上に圓筒状の中空把手。隆帯に沿ってペン先状の刺突による有筋沈線	覆土中	
865	縄文土器	深鉢	—	—	—	長石・石英・雲母	黒褐	普通	隆帯による方角区画。縦位の隆帯と隆帯に沿って有筋沈線。区画内 2 本の縦行沈線	覆土中	
866	縄文土器	深鉢	—	—	—	長石・石英・雲母	にぶみ褐	普通	口縁部肥厚。口径直下にキザミ目。肥厚部に赤褐色口縁に沿って有筋沈線。横文に横位の赤褐色	覆土中	
867	縄文土器	深鉢	—	—	—	長石・石英・雲母	橙	普通	口径内出内窪き。口径直下に横文。口径直下有筋沈線が一部と区画。その底縁有筋沈線が不連続	覆土中	
868	縄文土器	深鉢	—	—	—	長石・石英・雲母	にぶみ褐	普通	口径部肥厚。外・内面横方向のナデ	覆土中	
869	縄文土器	深鉢	—	—	—	長石・石英・雲母	赤褐	普通	口径内窪に横・口縁部縦方向のナデ・単筋刺突。横・縦・刺突部同一部体により開けて縦横文。内面に交互横ナデ	覆土中	
870	縄文土器	深鉢	—	—	—	長石・石英・雲母・赤色粒子	にぶみ褐	普通	口径直部に刺突。横位の並行沈線を巡らせ沈線部に刺突文と縦行沈線が一直	覆土中	
871	縄文土器	深鉢	—	—	—	長石・石英・雲母	にぶみ褐	普通	口径部内窪き。口径直部外窪き。外・内面横方向的ナデ	覆土中	
872	縄文土器	深鉢	—	—	—	長石・石英・雲母	黒褐	普通	無文地に手載竹管による縦位の縦行沈線	覆土中	

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
Q 221	打製石斧	(8.6)	6.3	3.3	(261.3)	砂岩	磨形。表面に自然面。刃部は片面を敲打。基部欠損	覆土中	
Q 222	敲砥石	11.7	4.1	6.0	(715)	砂岩	横内側の両端及び片側縁部に敲打痕、砥面により鋭をもつ	覆土中	PL172

## 第 303 号土坑 (第 326 図 PL55)

位置 調査区南西部の C 24 区, 標高 28 m ほどの台地平坦部に位置している。



第 326 図 第 303 号土坑・出土遺物実測図

**規模と形状** 径3.06～3.16 mの円形で、底面は平坦である。深さは94cmで、壁はほぼ直立している。

**ピット** 2か所。南北の壁際に位置しており、いずれも径80cmほどの円形で、深さは30cmである。規模と形状から補助的な貯蔵施設と考えられる。

**覆土** 3層に分層できる。周囲からの流入による堆積状況が見られることから、自然堆積である。

**土層解説**

- 1 黒褐色 ローム粒子微量  
2 褐色 ローム粒子微量  
3 褐色 ロームブロック微量

**遺物出土状況** 縄文土器片135点（深鉢）、石器1点（磨石）が出土している。873は覆土下層、876は覆土中層から散乱した状態で、874・875は覆土中から出土している。いずれも埋没する過程で投棄されたものと考えられる。

**所見** 規模と形状から、貯蔵穴と考えられる。時期は、出土土器から中期後葉と考えられる。

**第303号土坑出土遺物観察表（第326図）**

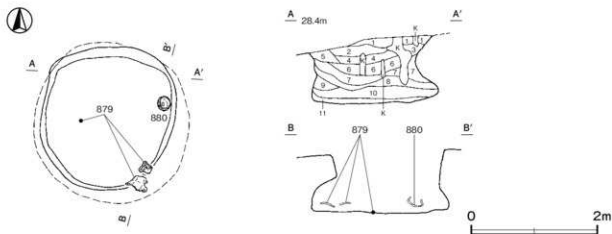
番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	文様の特徴ほか	出土位置	備考
873	縄文土器	深鉢	160	(21.4)	-	長石・石英・雲母	にぶい赤黄	普通	口縁部交互弧線文が一端 胴部無節縄文し、(縦)口径直下から3本の並行沈線と1本の蛇行沈線が中心	覆土下層	60% PL133
874	縄文土器	深鉢	-	(5.5)	100	長石・石英・雲母	にぶい橙	普通	地文に単筋縄文LR(縦) 3本の沈線が並下気泡網代	覆土中	10%
875	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	にぶい赤黄	普通	口縁部外側と、棒状工具による3本の沈線・中心を目的の線部が一端 胴部無節縄文し、(縦)	覆土中	
876	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	にぶい赤黄	普通	口縁上部に沈線が一端 隣帯による高低区画区画内単筋縄文、(横) 胴部を3本の横位沈線で区画し3本の並行沈線が並下 地文に同一層位による縦位縄文	覆土中層	PL133

**第304号土坑（第327・328図 PL56）**

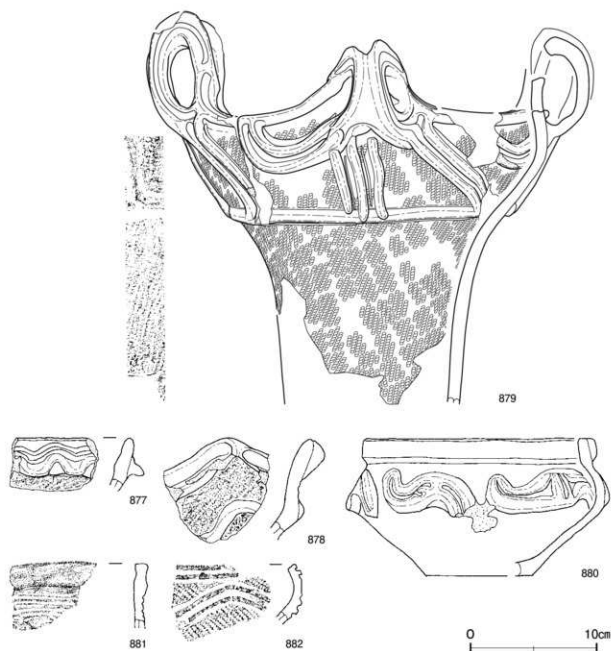
**位置** 調査区南西部のC215区、標高28 mほどの台地平坦部に位置している。

**規模と形状** 開口部は径220～240 mの円形である。底面は径2.48～2.60 mの円形で、平坦である。確認面からの深さは102cmである。壁は内彎して、袋状を呈している。

**覆土** 11層に分層できる。各層にロームブロックが含まれていることから、埋め戻されている。



第327図 第304号土坑実測図



第328図 第304号土坑出土遺物実測図

## 土層解説

- |       |                  |        |                  |
|-------|------------------|--------|------------------|
| 1 暗褐色 | ロームブロック中量        | 7 暗褐色  | ロームブロック微量        |
| 2 暗褐色 | ロームブロック・炭化粒子微量   | 8 暗褐色  | ローム粒子中量          |
| 3 暗褐色 | ロームブロック中量、炭化粒子微量 | 9 褐色   | ロームブロック少量        |
| 4 黒褐色 | ローム粒子微量          | 10 暗褐色 | ロームブロック少量、炭化粒子微量 |
| 5 暗褐色 | ロームブロック少量        | 11 褐色  | ロームブロック中量        |
| 6 黒褐色 | ロームブロック・炭化粒子微量   |        |                  |

**遺物出土状況** 縄文土器片 135点（深鉢134、浅鉢1）、石核1点（安山岩）、剥片3点（瑪瑙、頁岩、チャート）が出土している。879・880は覆土下層から一括出土している。877・878・881・882は、覆土中から出土している。いずれも埋め戻す過程で投棄されたものと考えられる。

**所見** 規模と形状から、貯蔵穴と考えられる。時期は、出土土器から中期中葉と考えられる。

第304号土坑出土遺物観察表(第328図)

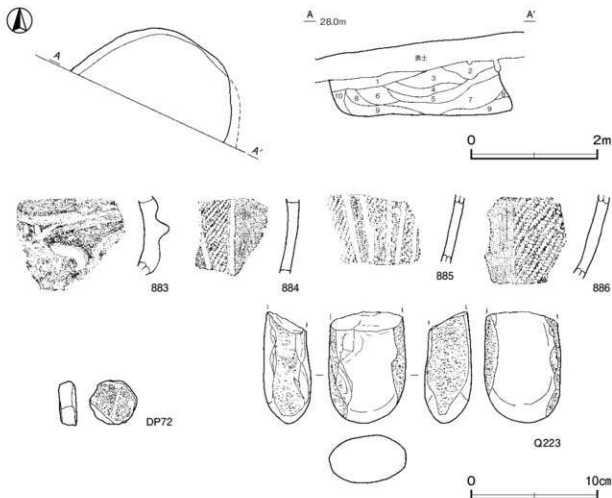
番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	文様の特徴ほか	出土位置	備考
877	縄文土器	深鉢	-	(42)	-	長石・石英・雲母	明赤褐色	普通	口縁部棘状の刺突隆帯が一端 胴部は単筋縄文LR(横)	覆土中	
878	縄文土器	深鉢	-	(80)	-	長石・石英・雲母	にぶい橙	普通	口縁部頂部から太沈線 地文に単筋縄文LR(横) 流線状の蛇行隆帯が出る	覆土中	
879	縄文土器	深鉢	27.2	(31.1)	-	長石・石英・雲母	橙	普通	4単位積状把手 地文は単筋縄文RL(斜)	覆土下層	PL133
880	縄文土器	浅鉢	18.0	109	[82]	長石・石英・雲母・赤色粘土	良好	普通	外・内面丁寧な磨き 口唇部肥厚 背割れ隆帯 貼付による横位の5単位の文様施部 口縁部外・内面並列重	覆土下層	90% PL133
881	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	にぶい橙	普通	口唇部平出 口唇部肥厚 2本の半截竹管による文様が一端	覆土中	
882	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	灰褐色	普通	口唇上部に背割れ隆帯が一端 2本の蛇行隆帯が出る 地文に単筋縄文RL(横)	覆土中	

第305号土坑(第329・330図 PL56)

位置 調査区南西部のC2j4区、標高28mほどの台地平坦部に位置している。

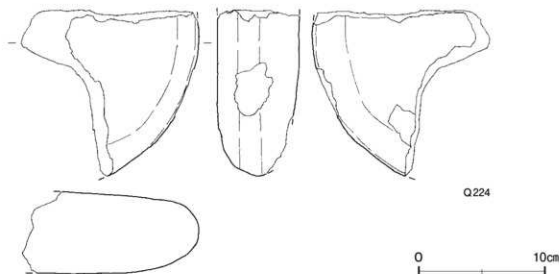
規模と形状 南西部が調査区域外へ延びていることから、北西・南東径は268m、北東・南西径は1.28mしか確認できなかった。円形または楕円形と推定できる。底面は平坦で、深さ85cmである。壁は、東部が緩やかに内彎しており、その他はほぼ直立している。

覆土 10層に分層できる。各層にロームブロックが含まれていることから、埋め戻されている。



第329図 第305号土坑・出土遺物実測図





第330図 第305号土坑出土遺物実測図

## 土層解説

1 暗褐色	ロームブロック中量、炭化粒子少量	6 褐色	ロームブロック多量、炭化物微量
2 暗褐色	ロームブロック少量、炭化粒子微量	7 暗褐色	ロームブロック中量
3 黒褐色	ロームブロック少量、炭化粒子微量	8 暗褐色	ロームブロック少量
4 暗褐色	ロームブロック中量、炭化粒子微量	9 褐色	ロームブロック中量
5 暗褐色	ロームブロック中量、焼土粒子・炭化粒子微量	10 褐色	ロームブロック多量

遺物出土状況 縄文土器片 77 点（深鉢）、土製品 1 点（不明土製品）、石器 5 点（磨製石斧未成品 1、砥石 1、磨石 1、敲石 2）、剥片 1 点（ホルンフェルス）が出土している。883～886、DP72、Q 223・Q 224 は覆土中から出土している。いずれも埋め戻す過程で投棄されたものと考えられる。

所見 規模と形状から、貯蔵穴と考えられる。時期は、出土土器から中期後葉と考えられる。

第305号土坑出土遺物観察表（第329・330図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	文様の特徴ほか	出土位置	備考
883	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・雲母・黒色粒子	にぶい黄褐色	普通	太沈線による渦巻文 縦長の刺突	覆土中	
884	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	にぶい橙	普通	地文に單筋縄文 RL (縦) 芝本の沈線を垂下 沈線間磨消	覆土中	
885	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	にぶい黄褐色	普通	地文に無筋縄文 R (縦) 沈線を垂下 沈線間磨消	覆土中	
886	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	橙	普通	地文に單筋縄文 RL (縦) 浅い沈線を垂下 沈線間磨消	覆土中	

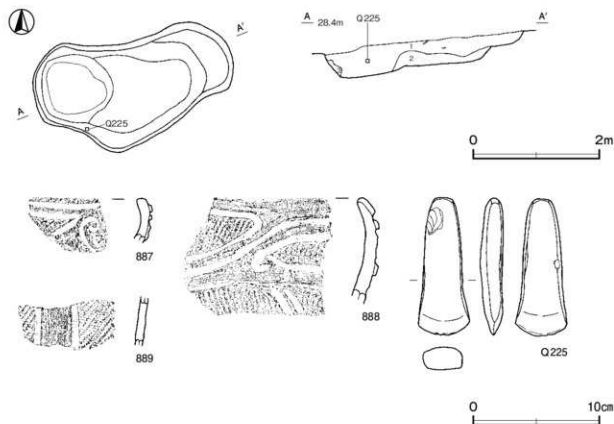
番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	胎土	色調	特徴	出土位置	備考
DP72	不明土製品	3.5	3.7	1.4	18.3	長石・石英・雲母	橙	剥片片 縦線部縦線に研磨	覆土中	跡・内面未成品

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
Q 223	磨製石斧未成品	(89)	6.1	3.7	(314.2)	安山岩	表面面研磨 両側縁に微細な敲打痕 基部欠損	覆土中	PL171
Q 224	砥石	(132)	(140)	6.5	(120.7)	砂岩	石磨転用 表面に砥面	覆土中	焼熟

## 第307号土坑（第331図）

位置 調査区西部のC 2 4 区、標高 28 m ほどの台地平坦部に位置している。

規模と形状 長軸 3.18 m、短軸 1.74 m の不定形で、長軸方向は N - 73° - E である。底面は東部から西部にかけて 3 段の階段状を呈し、いずれも平坦である。深さは西部の最深部が 40 cm で、壁は外傾している。



第331図 第307号土坑・出土遺物実測図

**覆土** 3層に分層できる。周囲からの流入による堆積状況を示していることから、自然堆積である。

**土層解説**

- 1 褐色 ローム粒子少量、炭化粒子微量  
 2 褐色 ロームブロック少量  
 3 褐色 ローム粒子微量

**遺物出土状況** 縄文土器片69点（深鉢）、石器4点（打製石斧1、磨製石斧2、磨石1）が出土している。Q225は覆土中層から、887～889は、覆土中から出土している。いずれも埋没過程で投棄されたものと考えられる。

**所見** 規模と形状から、貯蔵穴と考えられる。時期は、出土土器から中期後葉と考えられる。

第307号土坑出土遺物観察表（第331図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	地成	文様の特徴ほか	出土位置	備考
887	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	明褐色	普通	口縁上部に沈線が一巡、細い隆帯による溝帯区画区画内車筋縄文1区（横）	覆土中	
888	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	黒褐色	普通	隆帯による区画、隆帯に沿って区画区画・溝帯文区画内車筋縄文2区（縦） 胴部同一形体（斜） 並行沈線を施文	覆土中	
889	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	灰黄褐色	普通	胎文に車筋縄文2区（縦） 2本の沈線を並下 反側同造形	覆土中	
番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴			出土位置	備考
Q225	磨製石斧	109	4.0	1.8	107.6	砂岩	新製 全面研削 両側縁に深い溝 刃部は表面から削ぎ出す 未定が			覆土中層	PL168

## 第308号土坑 (第332図)

**位置** 調査区西部のC25区、標高29mほどの台地平坦部に位置している。

**規模と形状** 長径208m、短径143mの楕円形で、長径方向はN-87°-Wである。底面は平坦で、深さは28cmである。壁は外傾している。

**ピット** 2か所。P1は長径40cm、短径30cmの楕円形で、深さは65cm、P2は径30cmほどの円形で、深さは30cmである。規模と形状から柱穴と考えられる。

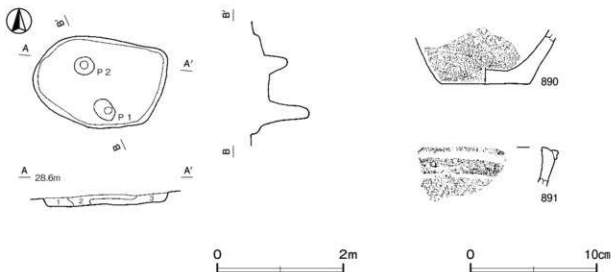
**覆土** 3層に分層できる。周囲からの流入による堆積状況を示していることから、自然堆積である。

## 土層解説

- 1 褐色 ローム粒子・炭化粒子微量  
2 暗褐色 ローム粒子・炭化粒子微量  
3 褐色 ローム粒子少量

**遺物出土状況** 縄文土器片21点(深鉢)、石器1点(打製石斧)、剥片1点(瑪瑙)が出土している。890・891は覆土中から出土している。埋設過程で投棄されたものと考えられる。

**所見** 規模と形状から、柱穴を有する貯蔵穴と考えられる。時期は、出土土器から中期中葉と考えられる。



第332図 第308号土坑・出土遺物実測図

## 第308号土坑出土遺物観察表 (第332図)

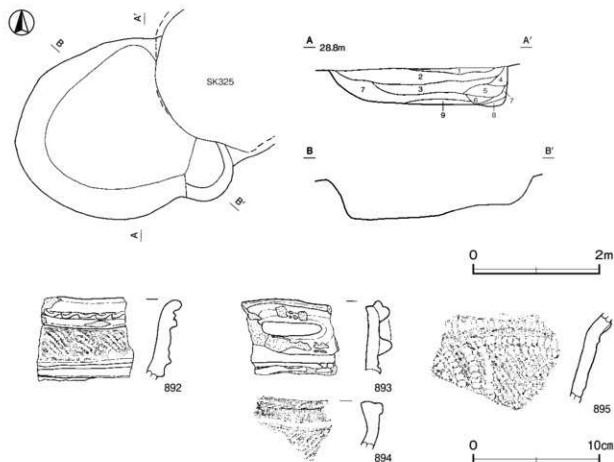
番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考	
890	縄文土器	深鉢	-	(4.3)	7.0	長石・石英・雲母	明赤褐色	普通	底面に草部縄文 胴部下端横方向の筋き	底面	覆土中	10%
891	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	原色	普通	口唇部肥厚 口唇頂部に沈線が一周 底面に草部縄文1段(横)		覆土中	

## 第309号土坑 (第333図 PL56)

**位置** 調査区西部のC25区、標高29mほどの台地平坦部に位置している。

**重複関係** 第325号土坑と重複しているが、新旧関係は不明である。

**規模と形状** 長径287m、短径245mの南東部がやや張り出す楕円形で、長径方向はN-61°-Eである。底面は張り出し部に向かって緩やかに下降しており、深さは52~66cmである。壁は北部がほぼ直立し、南側は外傾している。



第 333 図 第 309 号土坑・出土遺物実測図

**覆土** 9層に分層できる。各層にロームブロックが含まれていることから、埋め戻されている。

**土層解説**

- |       |                         |       |                  |
|-------|-------------------------|-------|------------------|
| 1 暗褐色 | ロームブロック少量、焼土粒子・炭化粒子微量   | 6 暗褐色 | ロームブロック中量        |
| 2 暗褐色 | ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子微量     | 7 褐色  | ロームブロック中量、炭化物微量  |
| 3 黒褐色 | 炭化粒子中量、ロームブロック少量、焼土粒子微量 | 8 褐色  | ロームブロック多量、炭化粒子微量 |
| 4 褐色  | ロームブロック中量、炭化粒子微量        | 9 褐色  | ロームブロック多量        |
| 5 黒褐色 | ロームブロック少量、焼土粒子・炭化粒子微量   |       |                  |

**遺物出土状況** 縄文土器片 106点（深鉢 102、浅鉢 4）、剥片 6点（粘板岩 4、チャート 2）が出土している。

892～895は覆土中から出土している。いずれも埋め戻す過程で投棄されたものと考えられる。

**所見** 規模と形状から、貯蔵穴と考えられる。時期は、出土土器から中期中葉と考えられる。

第 309 号土坑出土遺物観察表（第 333 図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	文様の特徴ほか	出土位置	備考
892	縄文土器	深鉢	-	(66)	-	長石・石英	にぶい褐色	普通	口縁部2本の稜帯が一端、稜帯間に交互斜突による波状文（区画内単面縄文1点）（編）	覆土中	
893	縄文土器	深鉢	-	(59)	-	長石・石英・雲母	灰黄褐色	普通	稜帯による横位の楕円区画（稜帯下に2本の有面沈線）（編）	覆土中	
894	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	灰褐色	普通	口縁部稜帯、口縁部部に太沈線が一端、地文に口縁部多面縄文1点。（編）	覆土中	
895	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	にぶい黄褐色	普通	角状稜帯による区画文、地文に無面縄文1点。（編） 稜帯に沿って2本の有面沈線	覆土中	

## 第310号土坑 (第334図 PL57)

位置 調査区南西部のC217区、標高29mほどの台地平坦部に位置している。

重複関係 第385号土坑に掘り込まれている。

規模と形状 開口部は径2.57～2.65mの円形である。底面は径2.39～2.45mの円形で、平坦である。確認面からの深さは93cmで、壁は北部がほぼ直立しており、その他は底面から内彎して、袋状を呈している。

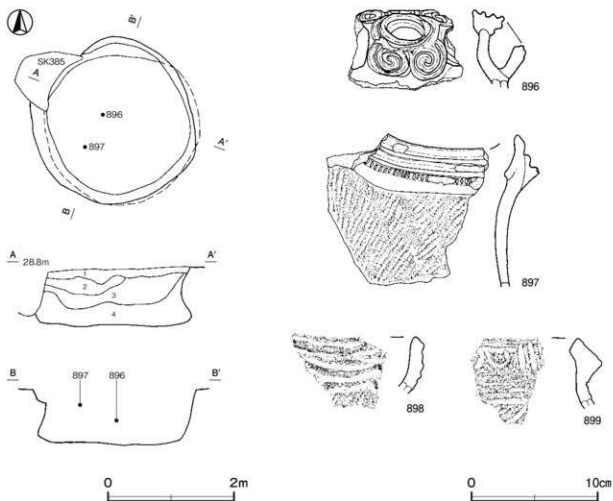
覆土 4層に分層できる。周囲からの流入による堆積状況を示していることから、自然堆積と考えられる。

## 土層解説

- |                    |                |
|--------------------|----------------|
| 1 黒褐色 ローム粒子・炭化粒子微量 | 3 極暗褐色 ローム粒子少量 |
| 2 暗褐色 ローム粒子微量      | 4 褐色 ロームブロック微量 |

遺物出土状況 縄文土器片39点(深鉢)、剥片3点(瑪瑙、石英、チャート)が出土している。896・897は中央部の覆土中層から、898・899は覆土中からそれぞれ出土している。いずれも埋没過程で投棄されたものと考えられる。

所見 規模と形状から、貯蔵穴と考えられる。時期は、出土土器から中期中葉と考えられる。



第334図 第310号土坑・出土遺物実測図

第310号土坑出土遺物観察表(第334図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	文様の特徴ほか	出土位置	備考
896	縄文土器	深鉢	-	(6.2)	-	長石・石英・雲母	橙	普通	中空部手・把手下部に3個の渦巻文・把手下部に2個の渦巻文を施す	覆土中層	
897	縄文土器	深鉢	-	(12.0)	-	長石・石英・雲母	にぶい陶	普通	口唇内側にシヤープな段・口縁部3条の隆帯を巡らし下段の隆帯にキザミ目・地文に早稲縄文RL(横)	覆土中層	10% 口縁部隆帯着
898	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	にぶい陶	普通	地文に早稲縄文LR(横)・隆帯により文様描画	覆土中	
899	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母・赤色粒子	橙	良好	口唇部肥厚・肥厚部に早稲縄文RL(横)・沈帯により口縁部文様を描画	覆土中	

第311号土坑(第335図)

位置 調査区南西部のC2j7区、標高29mほどの台地平坦部に位置している。

規模と形状 長径1.76m、短径1.57mの不整楕円形で、長径方向はN-69°-Wである。底面は平坦である。深さは28cmで、壁は外傾している。

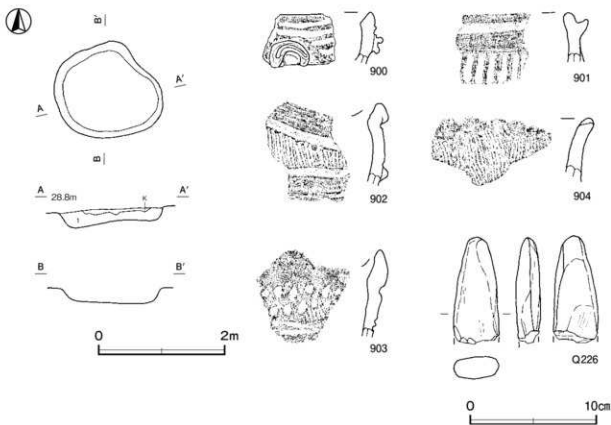
覆土 単一層であることから、埋め戻されている。

土層解説

1 暗褐色 ローム粒子少量

遺物出土状況 縄文土器片141点(深鉢139、浅鉢2)、石器3点(磨製石斧1、磨石2)、剥片2点(瑪瑙、トトロ石)が出土している。900~904、Q226は覆土中から出土している。いずれも埋め戻す過程で投棄されたものと考えられる。

所見 規模と形状から、貯蔵穴と考えられる。時期は、出土土器から中期後葉と考えられる。



第335図 第311号土坑・出土遺物実測図

第311号土坑出土遺物観察表(第335図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	文様の特徴ほか	出土位置	備考
900	縄文土器	深鉢	-	(4.2)	-	長石・石英	にぶい褐色	普通	口唇部内崩き 平輪内隆帯跡付 沈線による横線文	覆土中	
901	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・黒色粒子	褐色	普通	口唇部肥厚 口唇部に太沈線が一周 太沈線による縦位の沈線	覆土中	
902	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母・黒色粒子	にぶい褐色	普通	口唇部肥厚 溝状隆帯による区画文 区画内斜位の条線文	覆土中	
903	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母・黒色粒子	明褐色	普通	2条の縦長の刺突が出る 地に縦位の横糸文	覆土中	
904	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	褐色	普通	口唇部指頭による波状 口縁直下から縦位の横糸文	覆土中	

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
Q225	磨製石斧	(8.4)	3.6	1.8	(92g)	角閃岩	短唇形 表面面研磨 刃部欠損	覆土中	PL168

## 第312号土坑(第336図)

位置 調査区南部中央のD3b1区、標高29mほどの台地平坦部に位置している。

重複関係 第484号土坑を掘り込み、第313号土坑に掘り込まれている。

規模と形状 長径2.28、短径1.57mの楕円形で、長径方向はN-86°-Wである。底面はほぼ平坦で、深さは45cmである。壁は外傾している。

覆土 3層に分層できる。周囲からの流入による堆積状況を示していることから、自然堆積と考えられる。

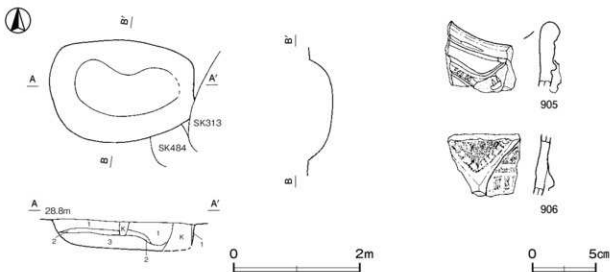
## 土層解説

- 1 暗褐色 ローム粒子微量  
2 褐色 ローム粒子少量

- 3 明褐色 ローム粒子微量

遺物出土状況 縄文土器片23点(深鉢)が出土している。905・906は、覆土中から出土している。いずれも埋没過程で投棄されたものと考えられる。

所見 規模と形状から、貯蔵穴と考えられる。時期は、出土土器から中期中葉と考えられる。



第336図 第312号土坑・出土遺物実測図

第312号土坑出土遺物観察表(第336図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	文様の特徴ほか	出土位置	備考
905	縄文土器	深鉢	-	(5.1)	-	長石・石英・雲母	にぶい褐色	普通	口唇部肥厚 隆帯により文様縁面 隆帯に沿って沈線を附加 一部隆帯に穿孔あり	覆土中	
906	縄文土器	深鉢	-	(5.0)	-	長石・石英・雲母	にぶい褐色	普通	断面三角形の隆帯によるY字状文 交点横本状隆帯に沿って有筋沈線 横位の点線文	覆土中	

### 第313号土坑 (第337図)

**位置** 調査区南部中央のD3e2区、標高29mほどの台地平坦部に位置している。

**重複関係** 第312・315・484号土坑を掘り込み、第2号溝に掘り込まれている。

**規模と形状** 径3.46～3.52mの円形で、底面は皿状である。深さは63cmで、壁は外傾している。

**ピット** 2か所。P1は東部に位置し、径1.10mほどの円形で、深さは12cmである。規模と形状から、補助的な貯蔵施設と考えられる。P2は中央部に位置し、長径50cm、短径40cmの楕円形で、深さ70cmである。位置と形状から柱穴と考えられる。

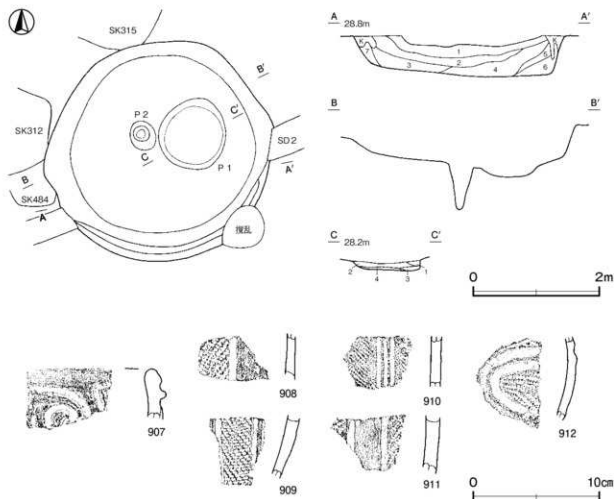
#### ピット土層解説

- |                 |                 |
|-----------------|-----------------|
| 1 暗褐色 ロームブロック微量 | 3 明褐色 ロームブロック少量 |
| 2 暗褐色 ローム粒子少量   | 4 褐色 ロームブロック中量  |

**覆土** 7層に分層できる。各層にロームブロックが含まれていることから、埋戻されている。

#### 土層解説

- |                        |                 |
|------------------------|-----------------|
| 1 暗褐色 ロームブロック少量、炭化粒子微量 | 5 黒褐色 ロームブロック少量 |
| 2 暗褐色 ロームブロック中量、炭化粒子微量 | 6 暗褐色 ロームブロック少量 |
| 3 暗褐色 ロームブロック少量、炭化物微量  | 7 暗褐色 ロームブロック中量 |
| 4 暗褐色 ロームブロック中量、炭化物微量  |                 |



第337図 第313号土坑・出土遺物実測図



**遺物出土状況** 縄文土器片 77 点（深鉢）が出土している。907～912 は、覆土中から出土している。いずれも埋め戻す過程で投棄されたものと考えられる。

**所見** 規模と形状から、中央に柱穴を有する貯蔵穴と考えられる。時期は、出土土器から中期後葉と考えられる。

### 第 313 号土坑出土遺物観察表（第 337 図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	文様の特徴ほか	出土位置	備考
907	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	橙	普通	太沈線による渦巻文・方形区画 外・内面横方向の筋立	覆土中	
908	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	にぶい橙	普通	地文に単筋縄文 RL (縦) 太沈線が直下 沈線間筋消	覆土中	
909	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	にぶい橙	普通	地文に複筋縄文 LR (縦) 並行沈線が直下 沈線間筋消	覆土中	
910	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・黒色粒子	にぶい橙	普通	地文に単筋縄文 LR (縦) 3本の並行沈線が直下	覆土中	
911	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	にぶい黄橙	普通	地文に単筋縄文 RL (縦) 並行沈線が直下 沈線間筋消	覆土中	
912	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	明黄	普通	地文に単筋縄文 RL (斜) 筋消を伴う隆起線により横間区画	覆土中	

### 第 314 号土坑（第 338・339 図）

**位置** 調査区南部の D 3a1 区、標高 29 m ほどの台地平坦部に位置している。

**規模と形状** 径 2.40～2.47 m の円形で、底面は平坦である。深さは 70 cm で、壁は外傾している。

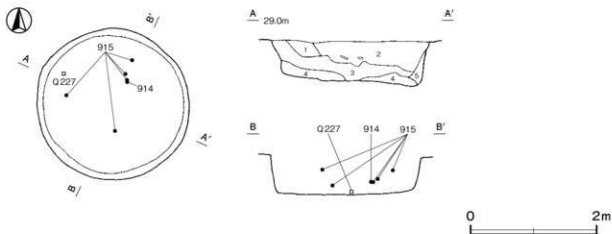
**覆土** 5 層に分層できる。ロームブロックや炭化物が含まれていることから、埋め戻されている。

#### 土層解説

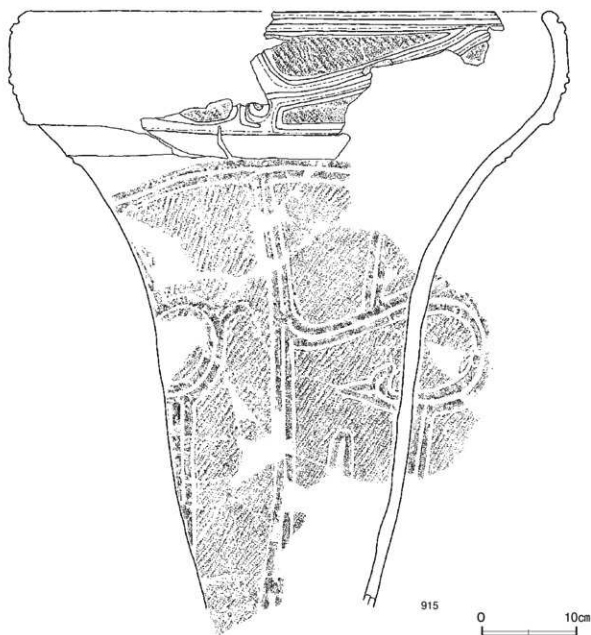
- |                  |                      |
|------------------|----------------------|
| 1 暗褐色 ローム粒子微量    | 4 暗褐色 ロームブロック・炭化粒子微量 |
| 2 暗褐色 ローム粒子微量    | 5 褐色 ロームブロック微量       |
| 3 褐色 炭化物・ローム粒子微量 |                      |

**遺物出土状況** 縄文土器片 160 点（深鉢）、石器 1 点（磨製石斧）が出土している。Q 227 は西部の底面から、915 は中央部の覆土上層から中層にかけて、散乱した状態で出土した破片が接合している。914 は覆土中層から、913 は覆土中から出土している。いずれも埋め戻す過程で一括投棄されたものと考えられる。

**所見** 規模と形状から、貯蔵穴と考えられる。時期は、出土土器から中期中葉と考えられる。



第 338 図 第 314 号土坑実測図

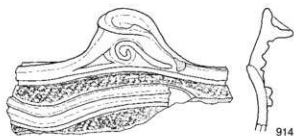


915

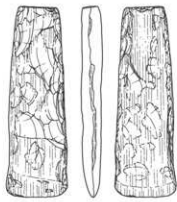
0 10cm



913



914



Q227

0 10cm

第 339 图 第 314 号土坑出土遗物实测图

第314号土坑出土遺物観察表(第339図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	文様の特徴はか	出土位置	備考
913	縄文土器	深鉢	-	(58)	-	長石・石英・雲母・赤色粒子	黒褐色	普通	把手之孔穿孔、表面穿孔に沿って波線、縄文草目線文1段(横)、縦面三角形の隆帯が突出	覆土中	
914	縄文土器	深鉢	-	(100)	-	長石・石英・雲母	暗褐色	普通	口縁部の把手部厚に波線、把手部直下に波線文、縄文に草目線文1段(縦)、背腹れ隆帯による蛇行文	覆土中層	
915	縄文土器	深鉢	(55.0)	(63.3)	-	長石・石英	灰褐色	普通	口縁直下に波線が1段、0段多条線文1段(縦)隆帯による区画文、面線部文、胴部同一形体(縦)並行隆帯による波線文・波線文・斜文文	覆土上~中層	35% PL135

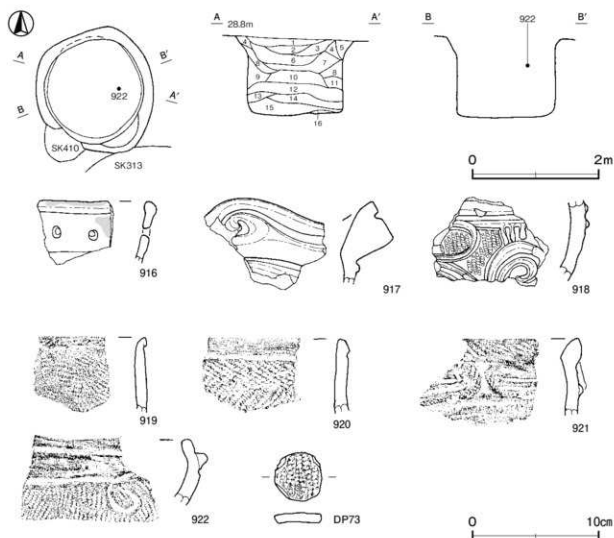
番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
Q 227	磨製石斧	8.4	3.6	1.8	2220	角閃岩	短冊形、全面研磨、刃部は表裏から研ぎ出す、平刃	底面	PL168

## 第315号土坑(第340図 PL57)

位置 調査区南部中央のD3b2区、標高29mほどの台地平坦部に位置している。

重複関係 第313号土坑に掘り込まれている。第410号土坑との新旧関係は不明である。

規模と形状 長径2.04m、短径1.84mの楕円形で、長径方向はN-26°-Wである。底面は平坦で、深さは129cmである。壁はほぼ直立している。



第340図 第315号土坑・出土遺物実測図

**覆土** 16層に分層できる。多くの層にロームブロックが含まれていることから、埋め戻されている。

**土層解説**

1 黒褐色	ローム粒子微量	9 極暗褐色	ローム粒子少量
2 黒褐色	ロームブロック少量	10 極暗褐色	ローム粒子中量
3 黒褐色	ローム粒子少量、炭化粒子微量	11 極暗褐色	ロームブロック少量
4 黒褐色	ロームブロック微量	12 褐色	ローム粒子少量
5 暗褐色	ロームブロック少量	13 極暗褐色	ロームブロック微量
6 黒褐色	ロームブロック中量	14 暗褐色	ロームブロック中量
7 黒褐色	ローム粒子中量	15 褐色	ロームブロック少量
8 黒褐色	ローム粒子少量	16 褐色	ロームブロック微量

**遺物出土状況** 縄文土器片 147点（深鉢145、浅鉢1、有孔土器1）、土製品1点（土器片円盤）、剥片1点（安山岩）が出土している。922は覆土中層、916～921、DP73は覆土中から出土している。いずれも埋め戻す過程で投棄されたものと考えられる。

**所見** 規模と形状から、貯蔵穴と考えられる。時期は、出土土器から中期中葉と考えられる。

**第315号土坑出土遺物観察表（第340図）**

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	文様の特徴ほか	出土位置	備考
916	縄文土器	有孔土器	-	(5.0)	-	長石・石英	にぶい褐色	普通	口唇部肥厚、口縁部棒状工具による穿孔、外・内出溝四方の磨き	覆土中	
917	縄文土器	深鉢	-	(7.1)	-	長石・石英	灰褐色	普通	口唇部肥厚、背割れ隆帯による渦巻文	覆土中	
918	縄文土器	深鉢	-	(6.8)	-	長石・石英	にぶい黄褐色	普通	細線彫刻及び背割れ隆帯により渦巻文等描画、地文に卑土織文1段（縦）	覆土中	
919	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	灰褐色	普通	口唇部隆帯が二重、隆帯上及び地文に卑土織文1段（横）	覆土中	
920	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母・赤色粘土・黒色粒子	にぶい褐色	普通	口縁部細文、沈帯が一重、沈帯下卑土織文2段（横）、胴部同一層体による縦帯文による渦巻文	覆土中	
921	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	灰黄褐色	普通	口唇部内側を、隆帯による横帯文による渦巻文に0段多色織文1段（横）	覆土中	
922	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	黒褐色	普通	背割れ隆帯が一重、地文に卑土織文2段（横・縦）沈帯による渦巻文	覆土中層	

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	胎土	色調	特徴	出土位置	備考
DP73	土器円盤	3.8	3.7	0.8	14.4	長石・石英・雲母・黒色粒子	灰褐色	胴部片、胴縁部粗雑に研削	覆土中	

**第316号土坑（第341図 PL57）**

**位置** 調査区南部中央のD3c6区、標高29mほどの台地平坦部に位置している。

**規模と形状** 径3.83～3.96mの円形で、底面は平坦である。深さは90cmで、壁はほぼ直立している。

**ピット** 2か所。P1は深さ60cm、P2は深さ45cmで、柱穴と考えられる。

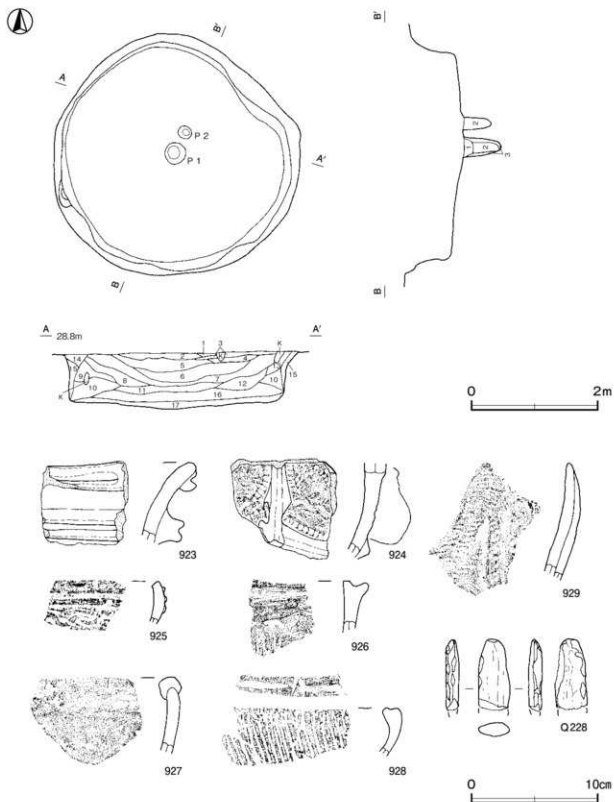
**ピット土層解説**

1 褐色	炭沼バミス少量、黒色粒子微量	3 にぶい褐色	炭沼バミス微量
2 褐色	炭沼バミス微量		

**覆土** 17層に分層できる。第1～4層は周囲からの流入による堆積状況から自然堆積で、第5～17層は、ロームブロックが含まれていることから、埋め戻されている。

**土層解説**

1 暗褐色	焼土ブロック中量、ロームブロック・炭化物微量	10 暗褐色	ローム粒子多量
2 暗褐色	ローム粒子少量、焼土ブロック・炭化粒子微量	11 暗褐色	ロームブロック中量、焼土粒子微量
3 暗褐色	ローム粒子微量	12 暗褐色	ローム粒子中量
4 暗褐色	ローム粒子少量、焼土粒子・炭化粒子微量	13 黒褐色	ローム粒子中量
5 黒褐色	ロームブロック少量、焼土ブロック・炭化粒子微量	14 暗褐色	ロームブロック多量
6 黒褐色	ロームブロック中量、焼土ブロック・炭化物微量	15 褐色	ロームブロック多量
7 暗褐色	ロームブロック中量、炭化粒子少量、焼土粒子微量	16 暗褐色	ロームブロック中量
8 暗褐色	ロームブロック中量、焼土ブロック・炭化粒子少量	17 暗褐色	ロームブロック少量
9 暗褐色	ロームブロック中量、炭化粒子少量		



第341图 第316号土坑·出土物实测图

**遺物出土状況** 縄文土器片 377 点（深鉢 373、浅鉢 4）、石器 2 点（磨製石斧、磨石）、石核 2 点（石英、瑪瑙）、剥片 2 点（粘板岩、砂岩）が出土している。923～929、Q 228 は覆土中から出土している。いずれも埋め戻す過程で投棄されたものと考えられる。

**所見** 規模と形状から、柱穴を有する貯蔵穴と考えられる。時期は、出土土器から中期中葉と考えられる。

### 第 316 号土坑出土遺物観察表（第 341 図）

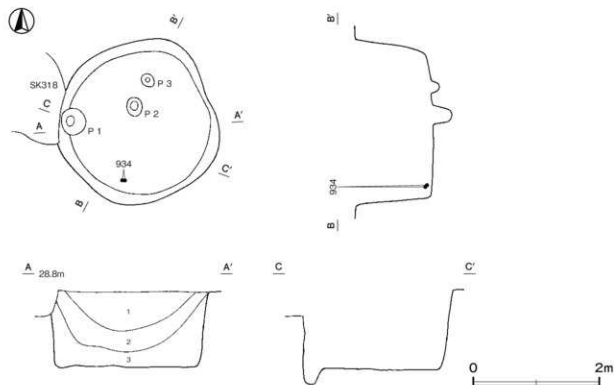
番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	文様の特徴ほか	出土位置	備考
923	縄文土器	深鉢	-	(6.6)	-	長石・石英・雲母	にがい赤褐色	普通	背割れ隆帯による横位の文様区画	覆土中	
924	縄文土器	深鉢	-	(7.9)	-	長石・石英・雲母	にがい赤褐色	普通	隆帯による区画文 楕円状突起 隆帯に沿って有筋沈線 区画内横位の波状沈線	覆土中	
925	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	黒褐色	普通	口径内面内面より 地文に垂筋縄文 L.R. (斜) 2 本の並行隆帯と縦行隆帯が通る	覆土中	
926	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	にがい赤褐色	普通	口径頂部に太沈線が一通 地文にまばらな縦位の無糸文	覆土中	
927	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母・赤色粒子	にがい赤褐色	普通	口径部彫写 無文	覆土中	
928	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	明黄褐色	普通	口径部彫写 口径頂部に浅い沈線が一通 平軌柱穴による斜位の彫写文	覆土中	
929	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	暗褐色	普通	把手(口径部彫写) 隆帯による区画 隆帯上及び区画内口縁多糸縄文 L.R. (横・斜)	覆土中	

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
Q 228	磨製石斧	(5.7)	2.5	1.1	(242)	角閃岩	極小型 表面面研磨 側縁部に浅い凹欠損	覆土中	PL170

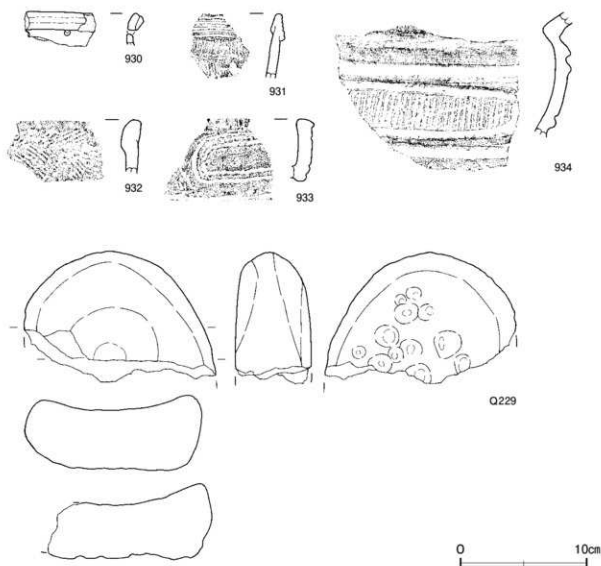
### 第 317 号土坑（第 342・343 図 PL58）

**位置** 調査区南部中央の D 3 b6 区、標高 29 m ほどの台地平坦部に位置している。

**重複関係** 第 318 号土坑に掘り込まれている。



第 342 図 第 317 号土坑実測図



第343図 第317号土坑出土遺物実測図

**規模と形状** 径2.60～2.71mの円形である。底面は平坦で、深さは121cmである。壁はほぼ直立している。  
**ピット** 3か所。P1は西壁際に位置し、深さ30cm、P2は中央部に位置し、深さ30cm、P3は北部に位置し、深さ15cmである。いずれも位置と形状から、柱穴と考えられる。

**覆土** 3層に分層できる。レンズ状の堆積状況から、自然堆積と考えられる。

## 土層解説

- 1 極暗褐色 ローム粒子少量  
 2 黒褐色 ロームブロック微量

- 3 黒褐色 ロームブロック少量

**遺物出土状況** 縄文土器片131点（深鉢122、浅鉢8、有孔土器1）、石器1点（石皿）が出土している。934は覆土下層から出土している。930～933、Q229は覆土中から出土している。いずれも埋没過程で投棄されたものと考えられる。

**所見** 規模と形状から、貯蔵穴と考えられる。時期は、出土土器から中期後葉と考えられる。

第 317 号土坑出土遺物観察表 (第 343 図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	文様の特徴はか	出土位置	備考
930	縄文土器	布孔土器	-	(26)	-	長石・石英・雲母・角閃石	にぶい赤褐色	普通	口唇部肥厚 口唇下に2か所の穿孔	覆土中	
931	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・赤色砂子	にぶい赤褐色	普通	口縁部縦状の隆帯貼付 隆帯上に横位の条線文 胴部縦位の条線文	覆土中	
932	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	灰褐色	普通	口唇部肥厚 口縁部単筋縄文LR(横) 胴部同一層体を縦位に施文し羽状隆帯	覆土中	
933	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	にぶい赤褐色	普通	口唇部肥厚 隆帯による格鬥区画 区画内平紋 隆帯による之字の帯の連続	覆土中	
934	縄文土器	浅鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	橙	普通	口縁部くの字状に外反 外反部横位の筋き 太花綱を流らせ隆帯部による格鬥区画 区画内縦位の筋き	覆土下層	

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
Q 229	石皿	(10.4)	15.2	6.0	(980.4)	安山岩	表面肌状に研磨 裏面に凹み肌	覆土中	PL180

第 320 号土坑 (第 344 図)

位置 調査区南部中央のD 3 b9区、標高 29 mほどの台地平坦部に位置している。

規模と形状 径 1.94 ~ 2.07 mの円形である。底面は平坦で、深さは 73cmである。壁はほぼ直立している。

ピット 南東部の壁際に位置しており、径 40cmの円形で、深さ 30cmである。位置と規模から補助的な貯蔵施設と考えられる。

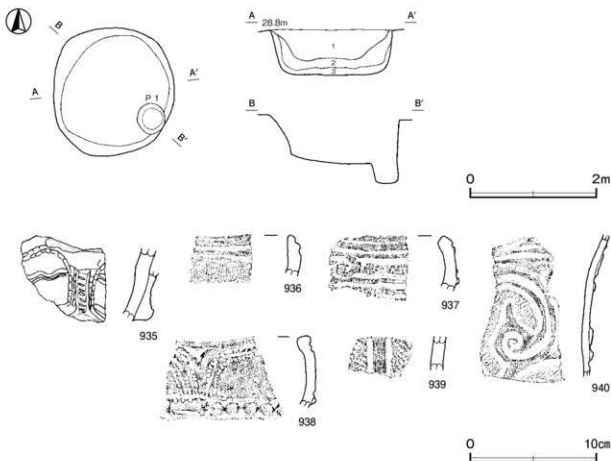
覆土 3層に分層できる。周囲からの流入による堆積状況を示していることから、自然堆積と考えられる。

土層解説

1 黒褐色 ローム粒子少量

2 褐色 ロームブロック微量

3 にぶい褐色 ロームブロック少量



第 344 図 第 320 号土坑・出土遺物実測図



**遺物出土状況** 縄文土器片 73 点（深鉢 69、浅鉢 4）、石核 1 点（瑪瑙）が出土している。935～940 は、覆土中から出土している。いずれも埋没過程で投棄されたものと考えられる。

**所見** 規模と形状から、貯蔵穴と考えられる。時期は、出土土器から中期後葉と考えられる。

#### 第 320 号土坑出土遺物観察表（第 344 図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	文様の特徴はか	出土位置	備考
935	縄文土器	深鉢	-	(6.8)	-	長石・石英・雲母	にぶい肌	普通	隆帯による区画文、部分的に縮み残の突起、隆帯に沿って 2 本の有筋沈線、区画内横位の流状沈線	覆土中	
936	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	にぶい肌	普通	口縁部 2 本の沈線が一巡、地文に縦位の熱赤文	覆土中	
937	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・黒色砂子	灰褐色	普通	口唇部凸筋あり、地文に単筋縄文 L.R (横)、隆帯による横位区画、区画内凸赤文	覆土中	
938	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	黒褐色	普通	横帯三角形の隆帯による V 字状文、有筋沈線による横位区画、指節隆帯が二巡	覆土中	
939	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	暗褐色	普通	地文に単筋縄文 L.R (縦)、2 本の並行沈線が産下沈線間閉鎖	覆土中	
940	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	黒褐色	普通	地文に凸段多筋縄文出、(縦・斜)、隆帯による凸赤文、高筋に横赤文、外・内周に琴糸筋あり	覆土中	

#### 第 322 号土坑（第 345～349 図 PL58・101）

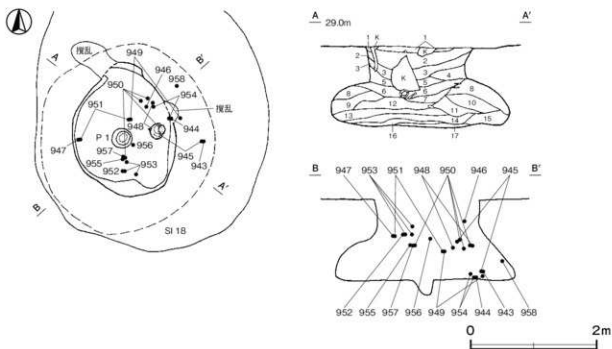
**位置** 調査区南部の C 2j0 区、標高 29 m ほどの台地平坦部に位置している。

**重複関係** 第 18 号竪穴建物跡を掘り込んでいる。

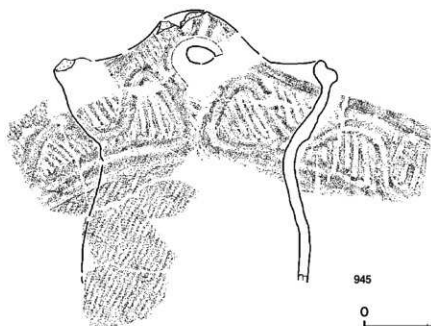
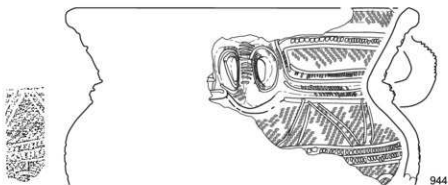
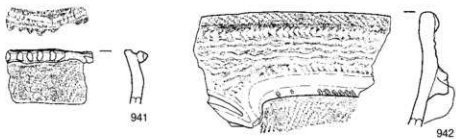
**規模と形状** 開口部は長径 2.16 m、短径 1.65 m の不整形円形で、長径方向は N-14°-W である。底面は径 2.82～3.04 m の円形で、底面は平坦である。確認面からの深さは 128 cm である。壁は大きく内彎して、袋状を呈している。

**ピット** 中央部に位置し、径 30 cm の円形で、深さ 20 cm である。位置と形状から柱穴と考えられる。

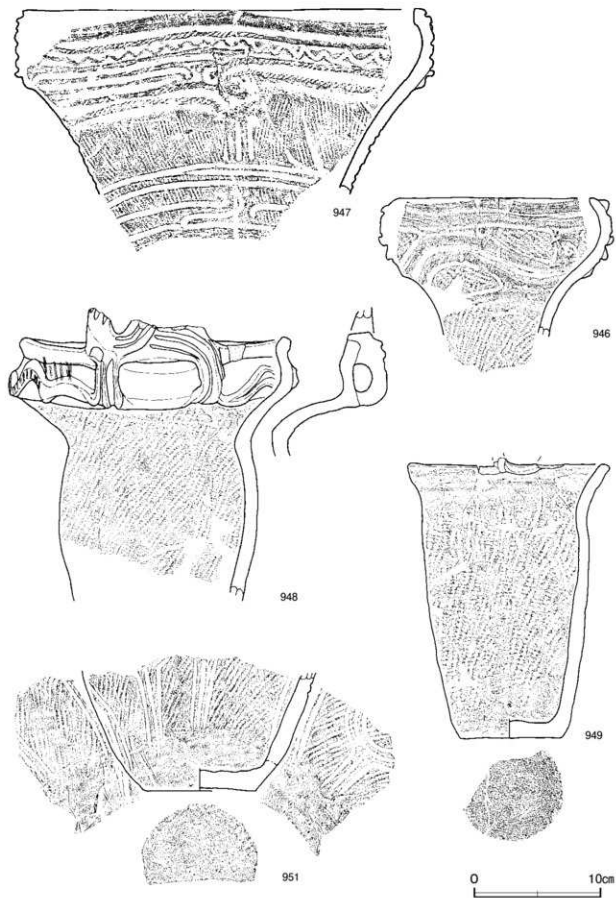
**覆土** 17 層に分層できる。各層にロームブロックが多く含まれていることから、埋め戻されている。



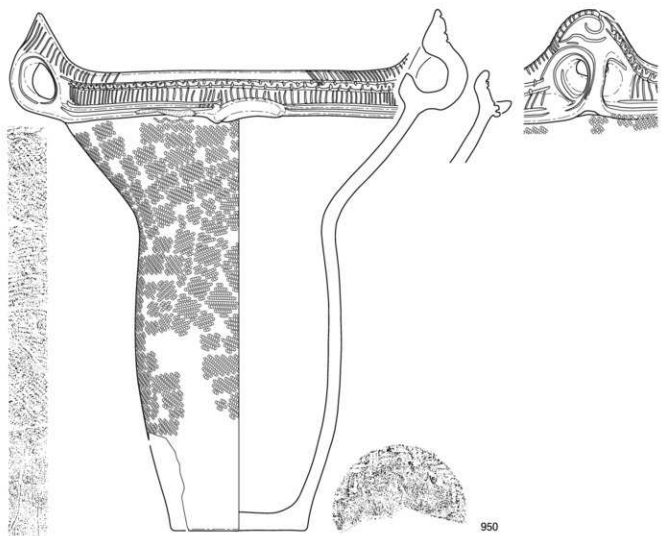
第 345 図 第 322 号土坑実測図



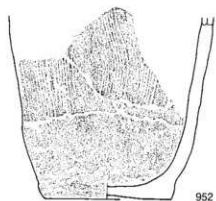
第 346 图 第 322 号土坑出土遗物实测图 (1)



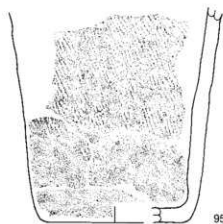
第 347 图 第 322 号土坑出土遺物実測图 (2)



950



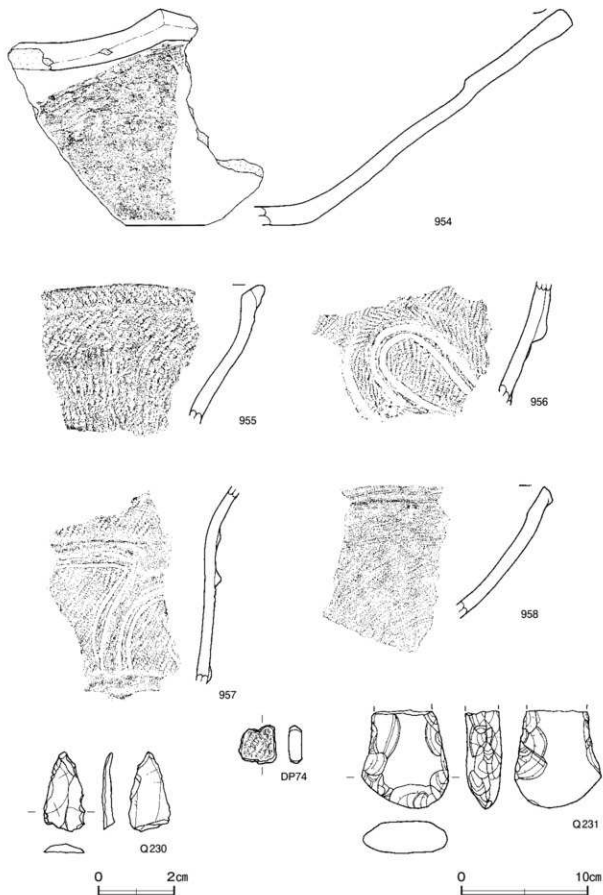
952



953



第 348 图 第 322 号土坑出土遗物实测图 (3)



第349圖 第322号土坑出土遺物実測圖(4)

## 土層解説

1	黒褐色	ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子微量	10	褐色	色	ロームブロック多量	炭化物微量	
2	暗褐色	ロームブロック少量	炭化物・焼土粒子微量	11	暗褐色	色	ロームブロック中量	炭化物・焼土粒子微量
3	暗褐色	ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子微量	12	黒褐色	色	ロームブロック中量	炭化粒子少量	焼土粒子微量
4	暗褐色	ロームブロック中量	焼土粒子・炭化粒子微量	13	褐色	色	ロームブロック中量	炭化粒子微量
5	暗褐色	ロームブロック少量	焼土ブロック・炭化物微量	14	暗褐色	色	ロームブロック中量	炭化粒子少量
6	黒褐色	ロームブロック中量	焼土ブロック・炭化粒子少量	15	褐色	色	ロームブロック多量	ローム粒子少量
7	暗褐色	ロームブロック中量	炭化粒子少量	焼土粒子微量	16	褐色	色	ロームブロック中量
8	暗褐色	ロームブロック多量		17	褐色	色	ロームブロック多量	
9	暗褐色	ロームブロック中量						

**遺物出土状況** 縄文土器片 345 点 (深鉢 340、浅鉢 5)、土製品 1 点 (土器片鏝)、石器 3 点 (鎌 1、打製石斧 2)、剥片 1 点 (チャート)、礫 1 点が出土している。944・954 は底面、943 は覆土下層から出土している。949 は覆土中層と底面、945 は覆土中層から下層にかけて出土した破片が接合している。946 ~ 948・950 ~ 953・955 ~ 958 はいずれも覆土中層からまともに出土している。950 は中央部から底部を欠いた逆位の状態で出土し、底部片が南部から出土している。第 6 層まで埋め戻した段階で、一括投棄されたものと考えられる。941・942、DP74、Q 230・Q 231 は覆土中から出土している。

**所見** 規模と形状から、貯蔵穴と考えられる。時期は、出土土器から中期中葉と考えられる。

## 第 322 号土坑出土遺物観察表 (第 346 ~ 349 図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	文様の特徴ほか	出土位置	備考
941	縄文土器	深鉢	-	(4.4)	-	長石・石英	にぶい靑	普通	口唇部隆起帯付 口唇部に有筋文が一部無断に削文、隆起帯下から単線縄文 L.R. (縦) 多量をつけて施文	覆土中	
942	縄文土器	深鉢	-	(9.2)	-	長石・石英・雲母、黒色粒子・磁礫	にぶい靑	良好	口唇部隆起帯に単線縄文 L.R. (横) 縦筋の隆起による縦位の区画 隆起帯に沿ってペン先状の削文 区画内縦位の絞石沈積 胴部同一形状	覆土中	
943	縄文土器	深鉢	-	(14.3)	-	長石・石英・雲母、磁礫	にぶい黄靑	普通	中央部平 胴部に 3 ~ 6本の沈線文 口縁下に 3本の沈線文が 1組 横文に単線縄文 L.R. (縦) 2本の沈線による山形凹画	覆土下層	10% PL136
944	縄文土器	深鉢	(26.5)	(14.0)	-	長石・石英・赤色粒子	灰黄靑	普通	地文に横筋縄文 L.R. (横) 口縁部 2本の沈線による長方形区画 区画に沿って連続削文 口縁下に中央部平 2本の沈線による山形凹画 胴部 2本の連続横筋が 1組	底面	10% PL136
945	縄文土器	深鉢	20.4	(21.7)	-	長石・石英	にぶい黄靑	普通	口唇部隆起・文沈線が一部 中央部突起 靑い絞石沈積による区画 区画内縦位の絞石沈積 胴部同一形状による縦筋	覆土中・下層	40% PL136
946	縄文土器	深鉢	(15.0)	(10.9)	-	長石・石英・雲母	黒靑	普通	口唇部隆起帯に平凹画 口唇部隆起帯隆起による横筋 5区画 中央に単線縄文 L.R. (横) 胴部同一形状による縦筋	覆土中層	20%
947	縄文土器	深鉢	(32.0)	(14.7)	-	長石・石英・雲母	灰靑	良好	口唇部隆起帯と沈線による横筋文、交互斜交による横筋文 隆起帯上に単線縄文 L.R. (横) 胴部隆起帯に平凹画 沈線により縦、横・クランク状文 横内区画の中央部平 背筋隆起による横筋文が 1組 胴部に横筋状のキザミ目 胴部単線縄文 L.R. (横)	覆土中層	20% PL136
948	縄文土器	深鉢	20.9	(23.3)	-	長石・石英	灰黄靑	普通	口唇部隆起帯と沈線による横筋文、交互斜交による横筋文 隆起帯上に単線縄文 L.R. (横) 胴部隆起帯に平凹画 沈線により縦、横・クランク状文 横内区画の中央部平 背筋隆起による横筋文が 1組 胴部に横筋状のキザミ目 胴部単線縄文 L.R. (横)	覆土中層	60% PL136
949	縄文土器	深鉢	15.1	21.9	8.1	長石・石英・雲母、赤色粒子	にぶい靑	普通	口唇部隆起帯 口唇部無文 中央の把手部 口縁部下から単線縄文 L.R. (縦) を完全に施文	覆土中層・底面	95% PL136
950	縄文土器	深鉢	25.2	41.3	10.5	長石・石英・雲母	靑	普通	口唇部平 口唇部隆起帯交差文 2本の沈線文 区画内縦位の絞石沈積 胴部同一形状 胴部単線縄文 L.R. (横・斜) 底面凹画	覆土中層	80% PL136
951	縄文土器	深鉢	-	(9.5)	9.1	長石・石英・黒色粒子	靑	良好	地文に単線縄文 L.R. (縦) 3本の沈線により横筋文・凹文を施画 下層部隆起方向のナゲ	覆土中層	20%
952	縄文土器	深鉢	-	(14.5)	10.0	長石・石英・雲母	靑	普通	横筋状工具による縦位の条線文 底面削代痕	覆土中層	20%
953	縄文土器	深鉢	-	(17.1)	(11.4)	長石・石英・雲母	靑	普通	地文に靑い単線縄文 L.R. (縦) を施文 下層部凹画文 底面削代痕	覆土中層	10%
954	縄文土器	浅鉢	-	17.3	(9.4)	長石・石英・雲母	黒靑	普通	口唇部隆起 外・内面傾方向の磨き 胴下部平 方向の磨き	底面	15%
955	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	にぶい靑	普通	口唇内側に設 口縁に靑い沈線が一部 口縁下部単線縄文 L.R. (縦) 口縁下部縦位に施文し羽状横筋 胴部隆起帯	覆土中層	
956	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	にぶい赤靑	普通	肉厚の隆起による横筋区画 隆起帯に沿って太沈線 全面に 0.5段多条縄文 L.R. をワザンに施文	覆土中層	
957	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	黒靑	普通	地文に単線縄文 L.R. (縦)、横筋状隆起による区画 口唇部隆起帯に沿って 2本の沈線	覆土中層	
958	縄文土器	浅鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	灰黄靑	普通	口唇内側に靑い設 口唇部隆起 外・内面傾位の丁寧な磨き	覆土中層	

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	胎土	色調	特徴	出土位置	備考
DP74	土器片鏝	3.0	3.0	1.1	10.9	長石・石英・雲母	明靑	胴部片 両端にキザミ目 片側縁を研磨	覆土中	未成品。

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
Q 230	礫	2.1	1.0	2.5	0.5	チャート	無葉脈 周縁部押入溝	覆土中	
Q 231	打製石斧 (7.8)	6.8	2.6	(26.3)		砂岩	磨削 表裏に自然面 両側縁鋭打 刃部は片面を鋭打 基部欠損	覆土中	

## 第 323 号土坑 (第 350 図)

位置 調査区南部中央の D 3 a7 区、標高 29 m ほどの台地平坦部に位置している。

規模と形状 径 2.04 ~ 2.16 m の不整形円形で、底面は中央部から南東部にかけて緩い段が見られる。深さは 58 ~ 65 cm である。壁は南部がほぼ直立しており、北西部が外傾している。

ピット 2 か所。P 1 は中央部、P 2 は南東壁際に位置しており、深さ 50・40 cm である。いずれも位置と形状から柱穴と考えられる。

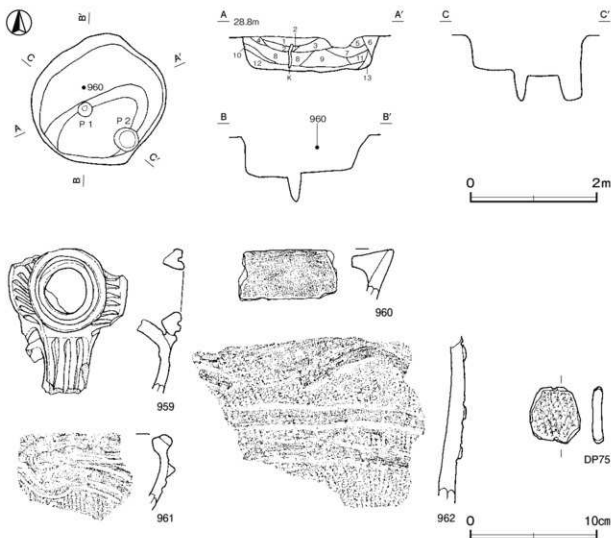
覆土 13 層に分層できる。ロームブロックや焼土ブロックが含まれていることから、埋め戻されている。

## 土層解説

- |                              |                       |
|------------------------------|-----------------------|
| 1 黒褐色 ロームブロック少量、炭化粒子微量       | 8 黒褐色 ロームブロック少量       |
| 2 黒褐色 ロームブロック少量、焼土ブロック・炭化物微量 | 9 暗褐色 ロームブロック中量       |
| 3 黒褐色 ロームブロック少量、焼土粒子・炭化粒子微量  | 10 黒褐色 ロームブロック・炭化粒子微量 |
| 4 黒褐色 ローム粒子微量                | 11 黒褐色 ロームブロック微量      |
| 5 暗褐色 ローム粒子微量                | 12 黒褐色 ローム粒子中量、炭化粒子微量 |
| 6 褐色 ロームブロック中量               | 13 暗褐色 ロームブロック微量      |
| 7 黒褐色 ローム粒子少量                |                       |

遺物出土状況 縄文土器片 72 点 (深鉢 67、浅鉢 5)、土製品 1 点 (土器片錘)、剥片 1 点 (石英) が出土している。

960 は覆土上層から、959・961・962、DP75 は覆土中から出土している。いずれも埋め戻す過程で投棄されたものと考えられる。



第 350 図 第 323 号土坑・出土遺物実測図

所見 規模と形状から、貯蔵穴と考えられる。時期は、出土土器から中期中葉と考えられる。

第323号土坑出土遺物観察表(第350図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	文様の特徴はか	出土位置	備考
959	縄文土器	深鉢	-	(11.5)	-	長石・石英・雲母	にぶい橙	普通	中央の把手 把手に沿って浅縮による凹文・直線文を施す	覆土中	
960	縄文土器	浅鉢	-	(4.0)	-	長石・石英・雲母	灰黄褐色	普通	口径直部に平坦面 外・内面縁方向のナデ	覆土上層	
961	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母・赤色粒子・黒色粒子	明褐色	普通	口径部厚肉 内側に段 施文に半縮縄文及(斜)線帯により文様施す 段帯に沿って直線を施す	覆土中	
962	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	にぶい赤褐色	普通	施文に半縮縄文及(斜)線帯 2本の深い段帯が1周 横長の短行段帯を施す	覆土中	

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	胎土	色調	特徴	出土位置	備考
DP75	土器片鉢	4.5	4.0	0.9	19.5	長石・石英・赤色粒子	橙	銅部片 両端にキザミ目 一部を粗雑に研削	覆土中	未成品

### 第325号土坑 (第351～353図)

位置 調査区西部C 2g6区、標高29mほどの台地平坦部に位置している。

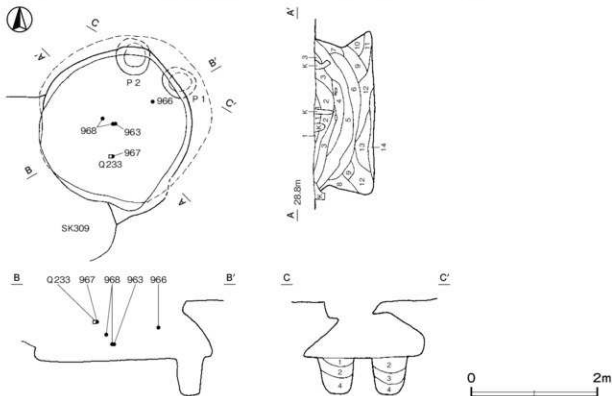
重複関係 第309号土坑と重複しているが、新旧関係は不明である。

規模と形状 開口部は径2.43～2.61mの円形である。底面は径2.62～2.81mの円形で、平坦である。確認面からの深さは95cmである。壁は底面から強く内彎して、袋状を呈し、上位は外傾している。

ピット 2か所。P1は北東壁際、P2は北壁際に位置し、深さは58・56cmである。位置と形状から、補助的な貯蔵施設と考えられる。

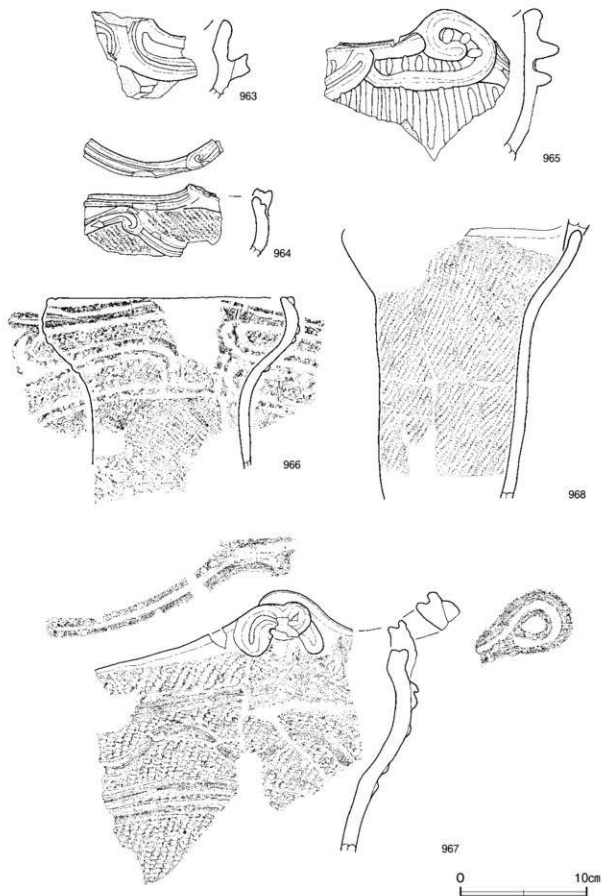
#### ピット土層解説

- |                             |                 |
|-----------------------------|-----------------|
| 1 暗褐色 ロームブロック中量、焼土粒子・炭化粒子微量 | 3 暗褐色 ロームブロック中量 |
| 2 褐色 ロームブロック中量、炭化物微量        | 4 褐色 ロームブロック多量  |

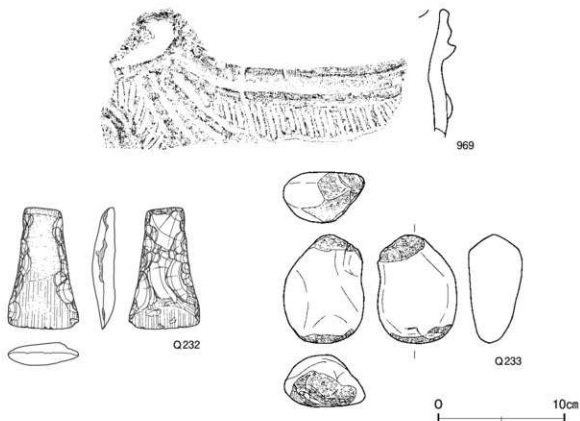


第351図 第325号土坑実測図





第 352 图 第 325 号土坑出土遺物実測图 (1)



第353図 第325号土坑出土遺物実測図(2)

**覆土** 14層に分層できる。第6～14層はロームブロックが多く含まれていることから、埋め戻されている。その後、第1～5層が自然堆積したものと考えられる。

**土層解説**

1	暗褐色	ロームブロック・炭化粒子微量	8	褐色	ロームブロック中量、炭化粒子微量
2	暗褐色	ロームブロック・炭化物・焼土粒子微量	9	黒褐色	ロームブロック中量、炭化粒子少量、焼土粒子微量
3	暗褐色	ローム粒子少量、炭化物・焼土粒子微量	10	褐色	ロームブロック中量
4	黒褐色	ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子少量	11	暗褐色	ロームブロック中量、焼土粒子・炭化粒子微量
5	暗褐色	ローム粒子中量、炭化粒子・焼土粒子少量	12	褐色	ロームブロック中量、炭化物・焼土粒子微量
6	黒褐色	ロームブロック・炭化物少量、焼土粒子微量	13	褐色	ロームブロック多量、炭化物・焼土粒子微量
7	褐色	ロームブロック中量、炭化物微量	14	暗褐色	ロームブロック少量、炭化物微量

**遺物出土状況** 縄文土器片186点(深鉢170, 浅鉢16), 石器2点(打製石斧, 敲砥石)が出土している。963・966～968, Q 233は覆土中層から, 964・965・969, Q 232は覆土中から出土している。いずれも埋め戻す過程で投棄されたものと考えられる。

**所見** 規模と形状から、袋状の貯蔵穴と考えられる。時期は、出土土器から中期中葉と考えられる。

第325号土坑出土遺物観察表(第352・353図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	文様の特徴ほか	出土位置	備考
963	縄文土器	深鉢	—	(7.1)	—	長石・石英・雲母・繊維	明赤褐	普通	口縁内側に段・隆帯による把手。隆帯上に太沈線。把手下部に2本の並行沈線が通る。	覆土中層	
964	縄文土器	深鉢	—	(5.7)	—	長石・石英	明赤褐	普通	口唇部沈線が一周。頸部に高台状突起。編文に無銘縄文瓦(横)並行隆帯による蛇行線。隆帯間に段。	覆土中	
965	縄文土器	深鉢	—	(12.0)	—	長石・石英	灰褐	普通	口唇頂部に太沈線。隆帯による高台文。棒状工具による編位の網交。太沈線。口唇部に隆帯を一周する口唇頂部に軍田型並行隆帯によるクラクタク文。口縁部半周縄文LR(横)。頸部は同一単位による編文。	覆土中	
966	縄文土器	深鉢	[196]	(13.6)	—	長石・石英・雲母・繊維	にじみ赤褐	普通		覆土中層	25% PL137 外皿二次焼成

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	文様の特徴ほか	出土位置	備考
967	縄文土器	深鉢	-	(20.7)	-	長石・石英・雲母	灰褐色	良好	口唇外部に比喩が一面、中央の把手貼付部背面に幾何学的な線状彫刻により縦線・斜行線を組み、横文に半周線文あり。(細)	覆土中層	10% PL137
968	縄文土器	深鉢	-	(22.2)	-	長石・石英・雲母	にぶい赤褐色	普通	口唇外部に縦文あり。内面に段、口唇直下から半周線文あり。(細)を面施文。	覆土中層	70% PL137
969	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母・繊維	橙	普通	口唇部の厚の隆起状の突起。彫刻による縦線の凹線を隔らし、渦巻状の突起。隆起による縦線区画内副位の波線。	覆土中	

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
Q232	打製石斧	96.5	56.0	18.1	99.7	砂岩	新形、両側縁微細な敲打調整。刃部は表面を研削。末広がりが。	覆土中	PL166
Q233	敲石	8.6	6.3	4.1	300.4	石英	両端部微細な敲打痕と多方向からの砥面により稜をもつ。	覆土中層	PL173

## 第331号土坑(第354～356図 PL58)

位置 調査区北部のC3d4区、標高29mほどの台地平坦部に位置している。

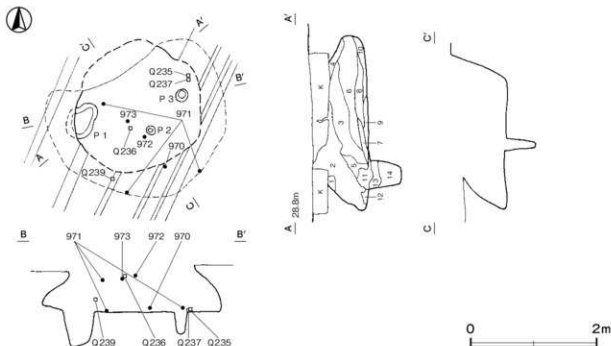
規模と形状 開口部は径1.97～2.12mの円形である。底面は長径2.85m、短径2.20mの楕円形で、平坦である。確認面からの深さは90cmである。壁は底面から強く内彎して、袋状を呈している。

ピット 3か所。P1は西壁寄りに位置し、長径60cm、短径46cmの不整楕円形で、深さは58cmである。P2はほぼ中央部に位置し、径18cmの円形で、深さは48cmである。P3は北東部に位置し、径20cmの円形で、深さは38cmである。P1は規模から考えて、補助的な貯蔵施設、P2・P3は柱穴と考えられる。

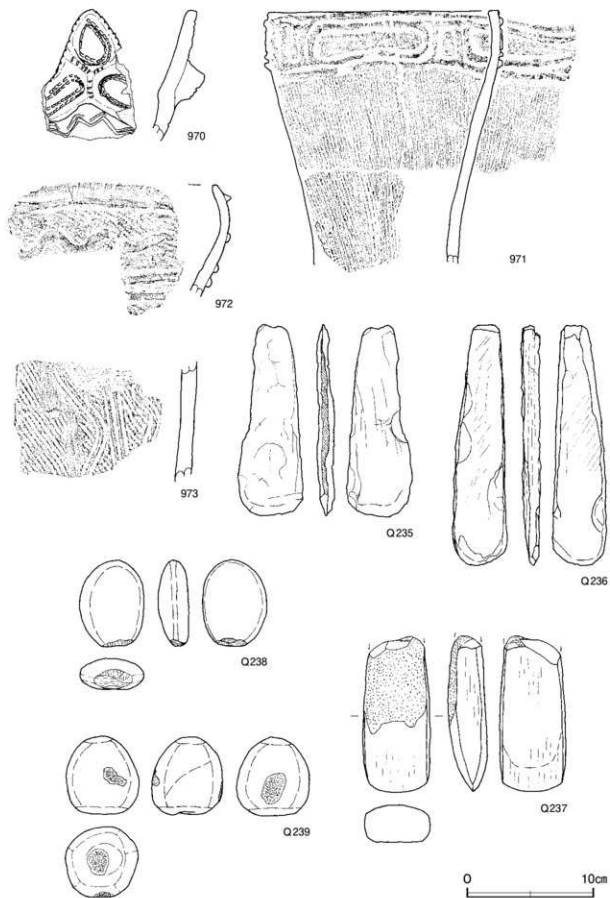
覆土 12層に分層できる。各層にロームブロックや鹿沼バミスが含まれていることから、埋め戻されている。第13・14層は、P1の覆土である。

## 土層解説

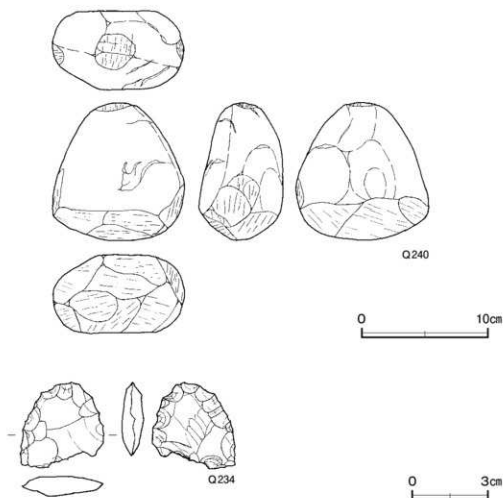
- |                         |                          |
|-------------------------|--------------------------|
| 1 黒褐色 ローム粒子微量           | 8 暗褐色 ローム粒子少量、炭化粒子微量     |
| 2 黒褐色 ロームブロック少量         | 9 黒褐色 ロームブロック・鹿沼バミス少量    |
| 3 暗褐色 ロームブロック微量         | 10 暗褐色 鹿沼バミス少量、ロームブロック微量 |
| 4 黒褐色 ローム粒子少量           | 11 暗褐色 ロームブロック少量         |
| 5 黒褐色 ローム粒子多量           | 12 にぶい赤褐色 ロームブロック中量      |
| 6 暗褐色 鹿沼バミス多量、ロームブロック少量 | 13 暗褐色 ロームブロック中量         |
| 7 黒褐色 ロームブロック微量         | 14 にぶい黄褐色 ロームブロック中量      |



第354図 第331号土坑実測図



第 355 图 第 331 号土坑出土遗物实测图 (1)



第356図 第331号土坑出土遺物実測図(2)

**遺物出土状況** 縄文土器片 373点(深鉢372, 浅鉢1), 石器9点(スクレイパー1, 打製石斧2, 磨製石斧1, 磨石1, 敲砥石3, 不明1)が出土している。970, Q 235・Q 237は底面から, 971は覆土中層と底面から出土した破片が接合している。Q 239は覆土下層から, 972・973, Q 236は覆土上層から, Q 234・Q 238・Q 240は覆土中から出土している。いずれも埋め戻す過程で投棄されたものと考えられる。

**所見** 規模と形状から, 貯蔵穴と考えられる。時期は, 出土土器から中期中葉と考えられる。

第331号土坑出土遺物観察表(第355・356図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	文様の特徴ほか	出土位置	備考
970	縄文土器	深鉢	-	(104)	-	長石・石英・雲母	橙	普通	断面三角形の隆帯により文様區画 隆帯上に楕円状の突起 隆帯上にキザミ目 手載竹管による有筋文様 隆帯の垂線状文	底面	
971	縄文土器	深鉢	(182)	(200)	-	長石・石英・雲母	にふい赤褐色	普通	口唇部無文 口縁部隆帯で沈線による略円及び方形の区画 区画内無文 胴部輪歯状工具による縦位の垂線文	覆土中層・底面	30% PL137
972	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	灰褐色	普通	口唇部無文 当文に卑胎縄文LR(縦) 隆帯を二道と口縁部区画 区画内縦行隆帯が走る	覆土上層	
973	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母・黄色粘土・黒色粘土	黒褐色	普通	隆帯に無筋縄文L(縦) 手載竹管による縦位の並行隆帯・縦行沈線が走る	覆土上層	

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
Q 234	スライバー	3.4	3.3	0.8	9.1	石英燧岩	周縁を表面から押し剥離	覆土中	
Q 235	打撃石斧	15.2	5.1	1.3	119.9	ホルンフェルス	磨削 片側縁に研磨痕 刃部は片面を敲打	底面	PL164
Q 236	打撃石斧	18.9	4.2	1.5	211.1	角閃岩	磨削 側縁部に研磨痕 刃部は表面を研磨 使用痕 ハマダリ刃	覆土上層	PL164
Q 237	磨撃石斧 (12.4)	5.3	3.1	325.6	砂岩	定角式 刃部は表面から研ぎ出す 平刃 基部欠損 片面基部 差りに敲打痕	底面	PL167 再加工品	
Q 238	敲撃石	6.8	5.1	2.4	127.1	石英	円縁の片端部に微細な敲打痕と多方向からの砥面をもつ	覆土中	PL173
Q 239	敲撃石	6.2	5.9	5.7	278.7	花崗岩	円縁の側縁部に多方向からの砥面をもつ 片面に微細な敲打痕	覆土下層	PL173
Q 240	敲撃石	11.0	10.5	6.7	979.5	石英	楕円縁の側縁部に多方向からの砥面により稜をもつ	覆土中	PL173

### 第 332 号土坑 (第 357 図 PL59)

位置 調査区北部中央 C3 a6 区、標高 28 m ほどの台地平坦部に位置している。

重複関係 第 3 号竪穴建物に掘り込まれている。

規模と形状 径 1.10 m ほどの不整円形で、底面は平坦である。深さは 50 cm である。壁は、ほぼ直立している。

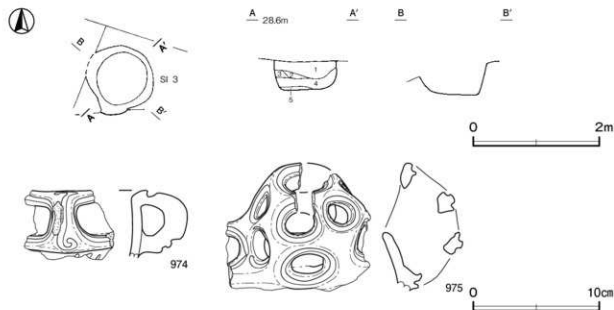
覆土 5 層に分類できる。各層にロームや鹿沼バミスのブロックが含まれていることから、埋め戻されている。

#### 土層解説

- |          |                       |          |                                |
|----------|-----------------------|----------|--------------------------------|
| 1 黒 褐色   | ローム粒子多量、炭化粒子微量        | 4 に近い黄褐色 | ロームブロック・鹿沼バミスブロック中量、炭化<br>粒子微量 |
| 2 暗 褐色   | ロームブロック中量、鹿沼バミスブロック少量 | 5 暗 褐色   | ロームブロック少量                      |
| 3 に近い黄褐色 | ロームブロック・鹿沼バミスブロック少量   |          |                                |

遺物出土状況 縄文土器片 29 点 (深鉢) が出土している。974・975 は覆土中から出土している。いずれも埋め戻す過程で投棄されたものと考えられる。

所見 規模と形状から、貯蔵穴と考えられる。時期は、出土土器から中期中葉と考えられる。



第 357 図 第 332 号土坑・出土遺物実測図

第 332 号土坑出土遺物観察表 (第 357 図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	文様の特徴ほか	出土位置	備考
974	縄文土器	深鉢	-	(5.5)	-	黒石・石美・雲母 黒色粒子	におい橙	普通	中空の把手 隆帯に沿って沈線文・葉手文	覆土中	PL137
975	縄文土器	深鉢	-	(10.1)	-	長石・石美・雲母	橙	普通	8か所の円形の穿孔 穿孔に沿って沈線	覆土中	PL137

## 第 333 号土坑 (第 358・359 図 PL59)

位置 調査区中央部C3e4区、標高29mほどの台地平坦部に位置している。

重複関係 第576号土坑を掘り込んでいる。

規模と形状 長径2.46m、短径2.23mの楕円形で、長径方向はN-3°-Eである。底面は平坦で、深さは60cmである。壁は外傾している。

ピット 4か所。P1は北壁際に位置し、径50cmの円形で、深さ60cmである。P2は北東壁際に位置し、長径58cm、短径48cmの楕円形で、深さ50cmである。P3は南西壁寄りに位置し、長径54cm、短径50cmの楕円形で、深さは46cmである。P4は中央部に位置し、径30cmの円形で、深さは40cmである。P1～P3は位置と規模から補助的な貯蔵施設、P4は柱穴と考えられる。

## P1土層解説

- 1 黒褐色 ロームブロック微量
- 2 黒褐色 ローム粒子少量

- 3 黒褐色 ローム粒子・鹿沼バミス粒子少量
- 4 暗褐色 ロームブロック少量

## P2土層解説

- 1 暗褐色 ロームブロック微量
- 2 暗褐色 ローム粒子少量
- 3 暗褐色 ローム粒子中量

- 4 黒褐色 ロームブロック少量
- 5 暗褐色 ロームブロック中量

## P3土層解説

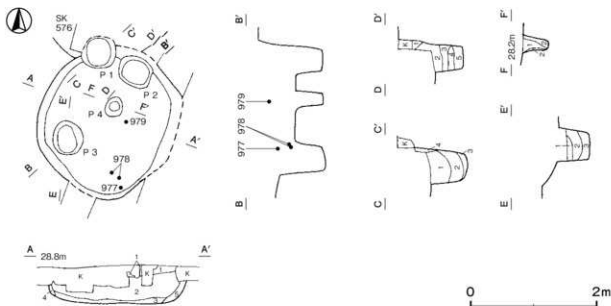
- 1 黒褐色 ローム粒子微量
- 2 黒褐色 ローム粒子中量

- 3 黒褐色 ロームブロック微量

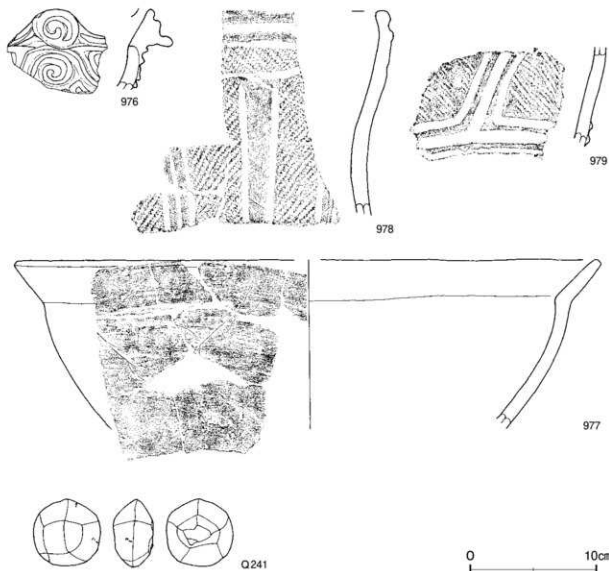
## P4土層解説

- 1 黒褐色 ローム粒子少量、焼土粒子・炭化粒子微量

- 2 暗褐色 ロームブロック少量



第 358 図 第 333 号土坑実測図



第359図 第333号土坑出土遺物実測図

**覆土** 5層に分層できる。周囲からの流入による堆積状況から、自然堆積と考えられる。

**土層解説**

- |       |                     |       |         |
|-------|---------------------|-------|---------|
| 1 黒褐色 | ローム粒子少量             | 4 黒褐色 | ローム粒子微量 |
| 2 黒褐色 | ローム粒子・炭化粒子中量、焼土粒子少量 | 5 暗褐色 | ローム粒子微量 |
| 3 黒褐色 | ロームブロック少量           |       |         |

**遺物出土状況** 縄文土器片203点（深鉢202，浅鉢1），石器2点（敲砥石，砥石），剥片1点（瑪瑙）が出土している。978は覆土下層から，977・979はいずれも覆土中層から，976，Q241は覆土中から出土している。いずれも埋没過程で投棄されたものと考えられる。

**所見** 規模と形状から，ピットを有する貯蔵穴と考えられる。時期は，出土土器から中期後葉と考えられる。

第333号土坑出土遺物観察表(第359図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	文様の特徴ほか	出土位置	備考
976	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	にぶい	普通	口唇頂部に渦巻状突起 口縁部沈線による渦巻文	覆土中	
977	縄文土器	浅鉢	(45.8)	(13.4)	-	長石・石英・雲母	にぶい	普通	口縁部くの字状に外反 外・内面十字 胴部外・内面横方向の筋	覆土中層	10%



番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	文様の特徴ほか	出土位置	備考
978	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・黒色 粒子	橙	普通	口唇部無文、太沈線を巡らす横凹区画、区画内 無筋文を2、(横) 筋部は同一単位・縦) を施 文し立派構成、2-3本の並行沈線を下下、沈 線間並直	覆土下層	PL137
979	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・黒色 粒子	青	普通	唇部無文、太沈線を巡らす横凹区画、区画内 無筋文を2、(横) 筋部は同一単位・縦) を施 文し立派構成、2-3本の並行沈線を下下、沈 線間並直	覆土中層	
番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴			出土位置	備考
Q241	赭砥石	5.4	5.3	3.2	119.5	チャート	内縁の周縁部に多方向からの砥面により稜をもつ			覆土中	PL173

### 第336号土坑 (第360・361図 PL59)

位置 調査区北部中央C3b4区、標高29mほどの台地平坦部に位置している。

重複関係 第729号土坑に掘り込まれている。

規模と形状 開口部は長径2.24m、短径2.07mの不整楕円形で、長径方向はN-51°-Eである。底面は径2.58-2.68mの円形で、ほぼ平坦である。確認面からの深さは96cmである。壁は南側が内傾し、その他が底面から強く内彎して、袋状を呈している。

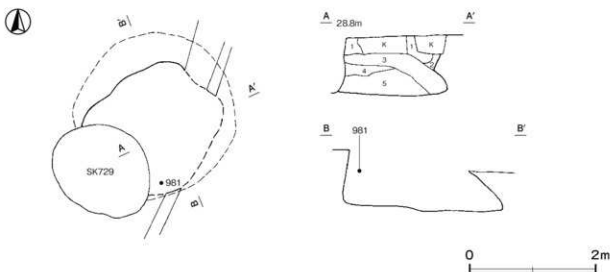
覆土 5層に分層できる。各層にロームブロックが含まれていることから、埋め戻されている。

#### 土層解説

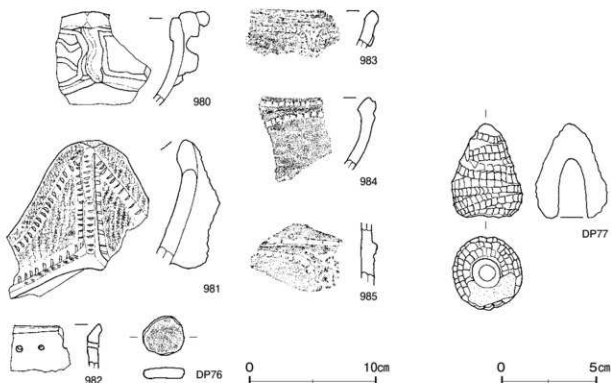
- |                        |                 |
|------------------------|-----------------|
| 1 黒褐色 ローム粒子少量          | 4 黒褐色 ロームブロック少量 |
| 2 暗褐色 ロームブロック少量        | 5 暗褐色 ロームブロック多量 |
| 3 黒褐色 ロームブロック少量、炭化粒子微量 |                 |

遺物出土状況 縄文土器片440点(深鉢427、浅鉢13)、土製品2点(土器片円盤、不明土製品)、石核1点(石英)が出土している。981は覆土上層から、980・982-985、DP76・DP77は覆土中からそれぞれ出土している。いずれも埋め戻す過程で投棄されたものと考えられる。

所見 規模と形状から、貯蔵穴と考えられる。時期は、出土土器から中期中葉と考えられる。



第360図 第336号土坑実測図



第361図 第336号土坑出土遺物実測図

第336号土坑出土遺物観察表(第361図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	文様の特徴ほか	出土位置	備考
980	縄文土器	深鉢	-	(7.5)	-	長石・石英	黒	普通	口唇部三角形の突起 縞状の隆帯による区画文 区画内及び隆帯に沿って透刺	覆土中	
981	縄文土器	深鉢	-	(12.5)	-	長石・石英・雲母	黒	普通	表取口縁 口唇部肥厚 縞状の隆帯による区画文 隆帯上及び隆帯に沿って半環目 施文に 単筋縞文(縦・斜)	覆土上層	
982	縄文土器	深鉢	-	(3.7)	-	長石・石英・角閃石	黒灰	良軽	口唇内面内傾き 口唇部肥厚 口縁部棒状工具 による穿孔	覆土中	
983	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	黒黒	普通	口縁部V字状の隆帯縁付 隆帯に沿って1本の 有筋沈線	覆土中	
984	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	黒黒	普通	口唇部内傾き 口縁上部に2本の有筋沈線	覆土中	
985	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	赤黒	普通	断面三角形の隆帯により区画文 隆帯上一部 縮み状の突起 隆帯に沿って1本の有筋沈線	覆土中	

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	胎土	色調	特徴	出土位置	備考
DP76	土師器	3.0	3.3	0.8	122	長石・石英・雲母・ 厚島粘土	にぶい赤黒	胴部片 縦線部研磨	覆土中	
DP77	不明土器	5.0	3.8	3.8	(47.0)	長石・石英・雲母	赤黒	有筋沈線が周回 中央部指痕による凹み 松笠形	覆土中	PL160

### 第338号土坑(第362・363図 PL60)

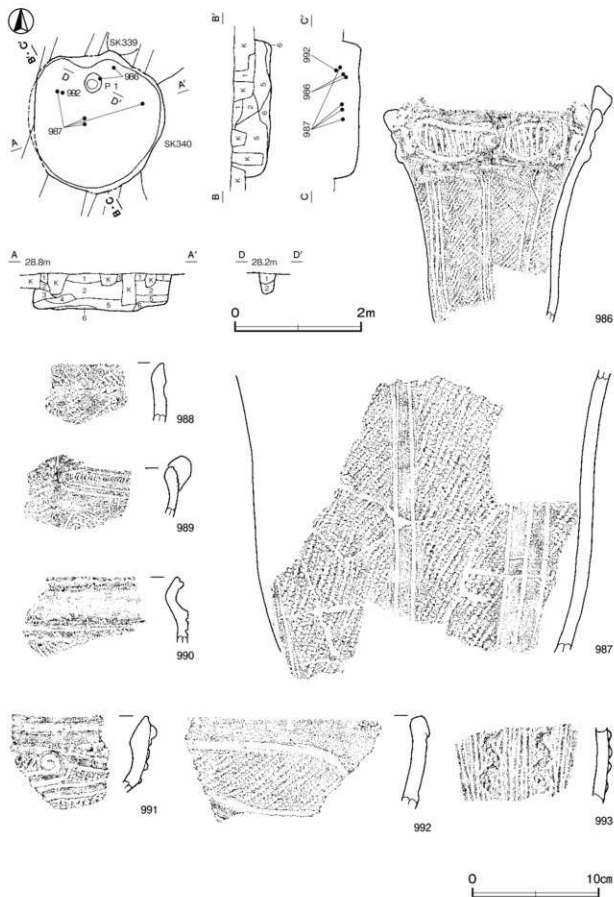
位置 調査区北部中央のC3c5区、標高29mほどの台地平坦部に位置している。

重複関係 第340号土坑を掘り込んでいる。第339号土坑との新旧関係は不明である。

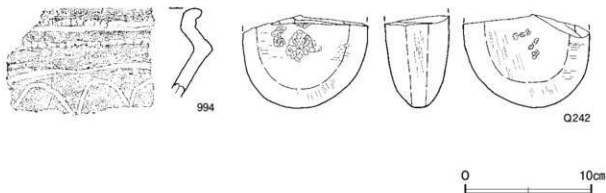
規模と形状 径210～225mの不整形である。底面は平坦で、深さは58cmである。壁はほぼ直立している。

ピット 北部に位置し、径28cmの円形で、深さは36cmである。規模と形状から柱穴と考えられる。

覆土 6層に分層できる。多くの層にロームブロックが含まれていることから、埋め戻されている。



第362图 第338号土坑·出土物实测图



第363図 第338号土坑出土遺物実測図

土層解説

- |       |                 |       |                   |
|-------|-----------------|-------|-------------------|
| 1 黒褐色 | ローム粒子中量, 炭化粒子微量 | 4 暗褐色 | ロームブロック中量         |
| 2 黒褐色 | ローム粒子中量, 炭化粒子少量 | 5 黒褐色 | ロームブロック中量, 炭化粒子微量 |
| 3 暗褐色 | ローム粒子少量         | 6 暗褐色 | ロームブロック微量         |

遺物出土状況 縄文土器片166点(深鉢), 石器1点(敲石)が出土している。986・987・992は覆土中層から、988～991・993・994, Q242は覆土中から出土している。いずれも埋め戻す過程で投棄されたものと考えられる。所見 規模と形状から、貯蔵穴と考えられる。時期は、出土土器から中期後葉と考えられる。

第338号土坑出土遺物観察表(第363図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	文様の特徴ほか	出土位置	備考
986	縄文土器	深鉢	[162]	(187)	-	長石・石英・雲母	赤褐色	普通	口縁上部に渦巻突起 口縁部既い巻帯により楕円区画・渦巻文 区画内縦位の条線文 胴部は半筋線文(縦) 2-3本の並行沈線が並下沈線(横筋)	覆土中層	30% PL137
987	縄文土器	深鉢	-	(225)	-	長石・石英・雲母	にぶい褐色	普通	黒文に単筋線文(縦) 2本の並行沈線を並下沈線(横筋)	覆土中層	30% PL137
988	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	にぶい褐色	普通	口唇内側に段 口縁部既いによる凹線を二並 口縁上部半筋線文(縦) 凹線下筋線文(横)	覆土中	
989	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	灰褐色	普通	口縁内側に段 縮み状の突起 口縁上部に微細な点彩文 手載竹管による横線文	覆土中	
990	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・黒色粘土	にぶい褐色	普通	口唇部外は 口唇内側に段状沈線が二並 胴部横位の有筋沈線と波状沈線が並る 地文に半筋線文(横)	覆土中	
991	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	黒褐色	普通	口唇内側に段 口縁部既いが一並 地文に半筋線文(横) 隆帯による条線文を並筋	覆土中	
992	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母・繊維	灰褐色	普通	口唇部既い 太沈線による楕円区画 区画内半筋線文(縦) (横)	覆土中層	
993	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	にぶい褐色	普通	手載竹管による縦位の条線文 縦位の蛇行隆帯が並る	覆土中	内面厚付帯
994	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	にぶい褐色	普通	口唇部S字状に外反 横位の有筋沈線と沈線が一並 並り字状文を連続して並筋	覆土中	

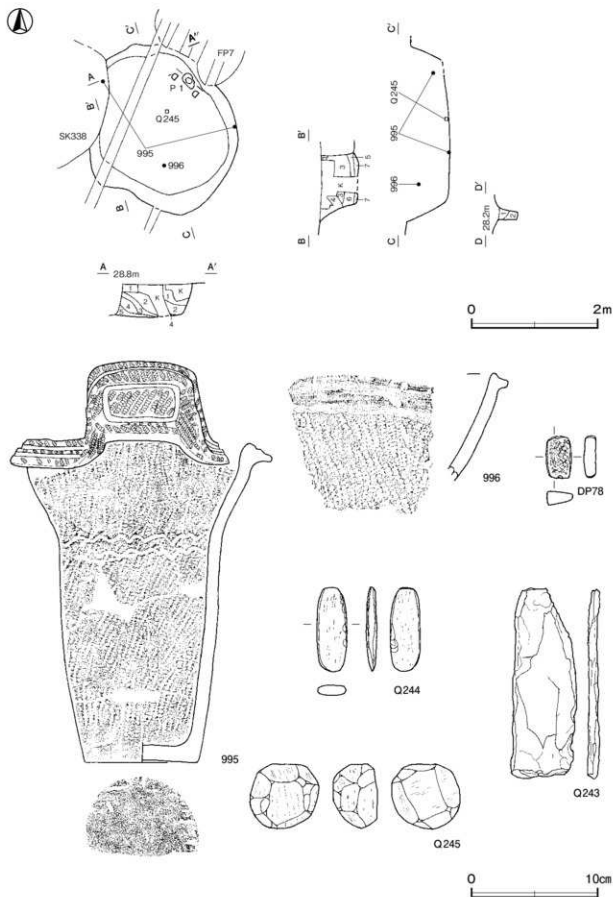
番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
Q242	敲石	(7.5)	10.0	5.1	(498.2)	砂岩	表裏面に微細な敲打痕 周縁部研磨	覆土中	

第340号土坑 (第364図 PL60)

位置 調査区北部中央C3c5区, 標高29mほどの台地平坦部に位置している。

重複関係 第338号土坑に掘り込まれている。第7号炉跡との新旧関係は不明である。

規模と形状 長径280m, 短径241mの楕円形で, 長径方向はN-18°-Wである。底面は平坦で, 深さは62cmである。壁は外傾している。



第364图 第340号土坑·出土物实测图

ビット 北東壁際に位置し、長径 24cm、短径 12cmの楕円形で、深さ 30cmである。形状から柱穴と考えられる。

ビット土層解説

- 1 黒褐色 ローム粒子少量 2 黒褐色 ローム粒子微量

覆土 7層に分層できる。多くの層にロームブロックが多く含まれていることから、埋め戻されている。

土層解説

- 1 黒褐色 ローム粒子中量、炭化粒子微量 5 黒褐色 ローム粒子少量  
 2 黒褐色 ロームブロック・炭化粒子少量 6 暗褐色 ロームブロック中量  
 3 黒褐色 ロームブロック少量 7 暗褐色 ロームブロック少量  
 4 暗褐色 ローム粒子少量

遺物出土状況 縄文土器片 87点（深鉢 86、浅鉢 1）、土製品 1点（土器片錘）、石器 3点（打製石斧、磨製石斧、敲砥石）、石核 1点（瑪瑙）が出土している。995は、東・西壁際の覆土下層と底面から出土した破片が接合している。Q 245は中央部の底面、996は覆土上層、DP78、Q 243・Q 244は覆土中からそれぞれ出土している。いずれも埋め戻す過程で投棄されたものと考えられる。

所見 規模と形状から、貯蔵穴と考えられる。時期は、出土土器から中期中葉と考えられる。

第 340 号土坑出土遺物観察表（第 364 図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	文様の特徴ほか	出土位置	備考
995	縄文土器	深鉢	176	320	88	長石・石英・雲母・紫色粒子	明赤褐	普通	口唇部縁位の平直面 板状把手 2本の土層が一途 種々の隆帯 平直面・把手部・縁部上に準部縦文（横） 口縁直下（斜） 2本の彫行沈線が走る	覆土下層・底面	90% PL138
996	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・黒色粒子	明赤褐	普通	口唇部彫行 頂部に縦線が一途 底文に準部縦文同（横）	覆土上層	
番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	胎土	色調	特徴	出土位置	備考	
DP78	土器片錘	3.3	2.0	1.1	8.7	長石・雲母	にぶい褐	口縁部片 口縁を撫線にし、両側にキズ目 両縁部を丁寧に研磨	覆土中		
番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考		
Q 243	打製石斧	15.1	4.8	9.9	108.7	角閃岩	縞彩 縦長の割片 素材。	覆土中	PL164		
Q 244	磨製石斧	6.7	2.4	0.8	24.1	角閃岩	狭小型 全面研磨 両縁部に鋭い稜 刃部は表裏から研ぎ出す	覆土中	PL170		
Q 245	敲砥石	5.5	3.2	3.6	221.9	砂岩	円錐の両縁部に多方向からの砥面により稜をもつ	底面	PL173		

第 342 号土坑（第 365・366 図）

位置 調査区西部の C 2 c7 区。標高 29 mほどの台地平坦部に位置している。

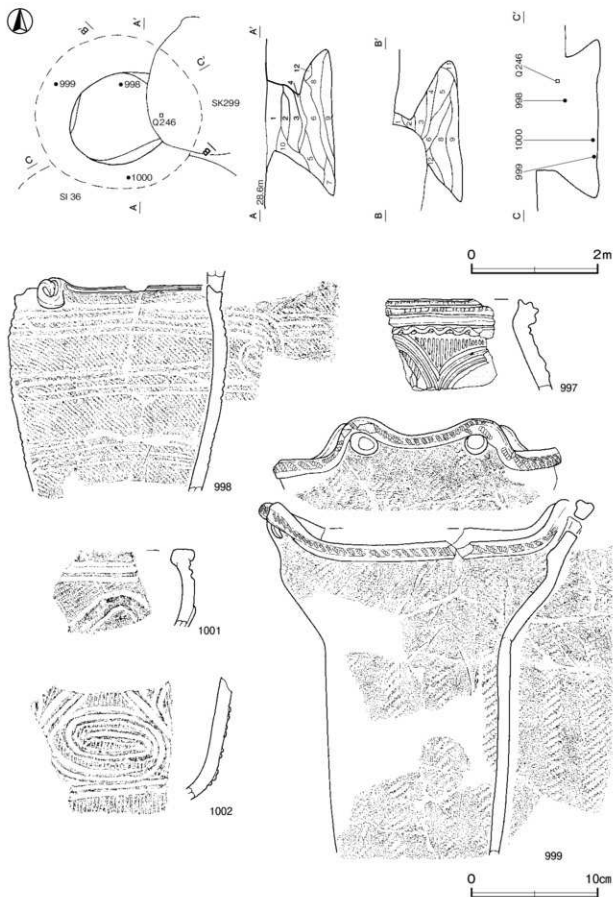
重複関係 第 36 号竪穴建物跡を掘り込み、第 299 号土坑に掘り込まれている。

規模と形状 北東部を第 299 号土坑に掘り込まれており、開口部は長径が 1.65 m しか確認できなかった。短径は 1.43 m で、楕円形と推定でき、長径方向は N-71°-E である。底面は径 2.48 ~ 2.60 m の円形で、平坦である。確認面からの深さは 104 cm である。壁は底面から強く内彎して、袋状を呈し、上位は外傾している。

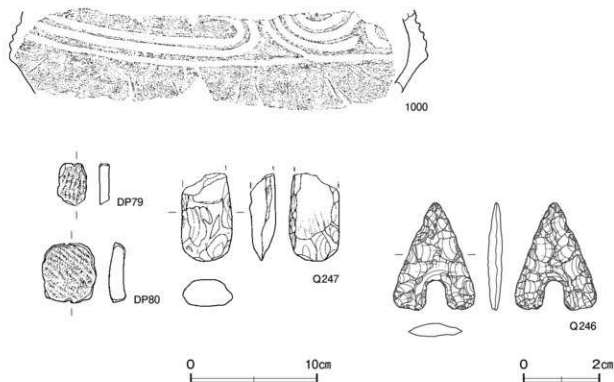
覆土 12層に分層できる。各層にロームのブロックや粒子が多く含まれていることから、埋め戻されている。

土層解説

- 1 暗褐色 ロームブロック・焼土ブロック・炭化物少量 7 暗褐色 ロームブロック中量、炭化粒子少量  
 2 暗褐色 ロームブロック中量、焼土ブロック・炭化物微量 8 黒褐色 ロームブロック中量、炭化粒子少量  
 3 黒褐色 炭化粒子中量、ロームブロック・焼土粒子少量 9 暗褐色 ローム粒子少量、焼土ブロック・炭化物微量  
 4 暗褐色 ロームブロック中量、焼土粒子・炭化粒子微量 10 暗褐色 ロームブロック中量、焼土ブロック・炭化粒子微量  
 5 暗褐色 ローム粒子多量、炭化粒子微量 11 褐色 ロームブロック多量  
 6 暗褐色 ロームブロック多量、炭化粒子微量 12 暗褐色 ローム粒子多量、焼土粒子・炭化粒子微量



第365图 第342号土坑·出土物实测图



第366図 第342号土坑出土遺物実測図

遺物出土状況 縄文土器片168点(深鉢167, 浅鉢1), 土製品2点(土器片錘), 石器6点(鎌1, 打製石斧1, 磨製石斧2, 磨石1, 敲石1), 剥片1点(ホルンフェルス)が出土している。999は西壁際, 1000は南壁際の底面から破片が散乱した状態で出土している。998, Q246は中央部の覆土中層, 997・1001・1002, DP79・DP80, Q247は覆土中からそれぞれ出土しており, いずれも埋め戻す過程で投棄されたものと考えられる。

所見 規模と形状から, 貯蔵穴と考えられる。時期は, 出土土器から中期中葉と考えられる。

第342号土坑出土遺物観察表(第365・366図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	文様の特徴ほか	出土位置	備考	
997	縄文土器	深鉢	-	(73)	-	長石・石英・雲母	にぶい黄褐色	普通	口唇部に背割れ隆帯が一周 隆帯にキザミ目 地文に縦位の帯系文 交互斜突による蛇行沈線 高巻文を施す	覆土中		
998	縄文土器	深鉢	144	(177)	-	長石・石英・雲母	にぶい赤褐色	普通	口唇部部に去沈線が一周 高巻状の隆帯 口唇 直下から無筋縄文(縦)を前面地文 半截竹 節による横線文・高巻文	覆土中層	25% PL138	
999	縄文土器	深鉢	24.8	(28.3)	-	長石・石英・雲母・ 繊維・赤色粘土	にぶい褐色	普通	4単位位の単位交配 口唇部部に隆帯を一周 隆帯 上に半筋縄文R.L.(横) 口唇直下から同一単位 による間を隔けての縦線文	底面	50% PL138	
1000	縄文土器	浅鉢	-	(66)	-	長石・石英・雲母	橙	普通	沈線による横円・同心円文 外・内面横方向の 十字	底面	10% PL138	
1001	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	にぶい橙	普通	口唇部部厚 口唇部部平削 地文に半筋縄文LR (横) 口唇部部位の並行沈線 低い蛇行隆帯に沿 って沈線を付加	覆土中		
1002	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	黒褐色	普通	地文に縦位の帯系文 斜線・高巻文を施す	背割れ隆帯による横線	覆土中	
番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	胎土	色調	特徴		出土位置	備考	
DP79	土器片錘	3.4	2.3	0.8	8.1	長石・石英・雲母	褐色	割部片	一端にキザミ目 片側縁研磨	覆土中		
DP80	土器片錘	4.8	4.2	1.3	27.1	長石・雲母・赤色 粘土	にぶい橙	割部片	両端にキザミ目 両縁部粗雑に研磨	覆土中		
番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴		出土位置	備考		
Q246	鎌	2.9	2.2	3.9	1.8	チャート	基部中央は深く凹入		覆土中層	PL161		
Q247	打製石斧	(6.9)	4.0	2.1	(81.5)	ホルンフェルス	鏡形	片面に自然面 縁部・刃部敲打後研磨 基部欠損	覆土中			



## 第 343 号土坑 (第 367 図 PL32)

位置 調査区西部C 2c6区、標高29mほどの台地平坦部に位置している。

重複関係 第101号土坑を掘り込んでいる。第360号土坑との新旧関係は不明である。

規模と形状 開口部は、長径1.97m、短径1.65mの楕円形で、長径方向はN-76°-Eである。底面は長径1.78m、短径1.52mの楕円形で、平坦である。確認面からの深さは85cmである。壁は北部がやや内彎し、その他が底部から丸みを帯びて、ほぼ直立している。

ピット 2か所。P1・P2は、深さ68・40cmで、中央部や壁際に位置していることから、柱穴と考えられる。

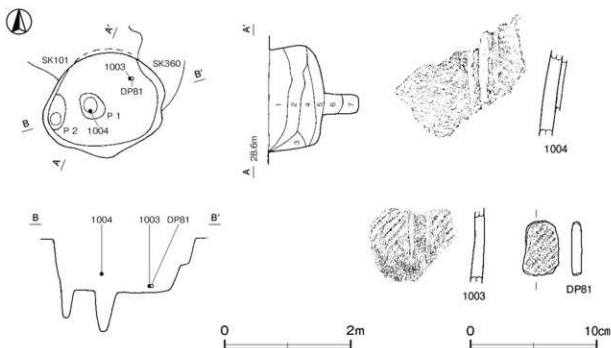
覆土 5層に分層できる。各層にロームブロックが含まれていることから、埋め戻されている。第6・7層は、P1の覆土である。

## 土層解説

- |       |                         |       |                       |
|-------|-------------------------|-------|-----------------------|
| 1 暗褐色 | ロームブロック中量、焼土ブロック・炭化粒子少量 | 5 暗褐色 | ロームブロック少量、焼土粒子・炭化粒子微量 |
| 2 暗褐色 | 焼土粒子・炭化粒子少量、ロームブロック微量   | 6 暗褐色 | ロームブロック中量、焼土粒子・炭化粒子少量 |
| 3 暗褐色 | ロームブロック中量、炭化物・焼土粒子微量    | 7 暗褐色 | ロームブロック中量             |
| 4 暗褐色 | ロームブロック中量、焼土粒子・炭化粒子微量   |       |                       |

遺物出土状況 縄文土器片63点(深鉢61,浅鉢2),土製品1点(土器片錘),剥片1点(瑪瑙)が出土している。1003, DP81は北東部の底面から,1004は中央部の覆土下層からそれぞれ出土している。いずれも埋め戻す過程で投棄されたものと考えられる。

所見 規模と形状から、貯蔵穴と考えられる。時期は、出土土器から中期後葉と考えられる。



第 367 図 第 343 号土坑・出土遺物実測図

## 第 343 号土坑出土遺物観察表 (第 367 図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	文様の特徴ほか	出土位置	備考
1003	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	明赤褐	普通	地文に無銘縄文 R (縦) 並行乱線が垂下 乱線間帯消	底面	
1004	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母・ 黒色粒子	明赤褐	普通	地文に無銘縄文 LR (縦) 背割れ陰帯が垂下	覆土下層	

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	胎土	色調	特徴	出土位置	備考
DP81	土器片鐘	4.3	2.9	0.8	13.8	長石・石英・雲母	にぶい赤褐色	製部片 両端にキザミ目 周縁部粗雑に研磨	底面	

### 第 345 号土坑 (第 368 図 PL60)

**位置** 調査区北西部の B2j4 区、標高 28 m ほどの台地平坦部に位置している。

**重複関係** 第 211・347 号土坑を掘り込んでいる。

**規模と形状** 長径 2.51 m、短径 1.87 m の楕円形で、長径方向は N-13°-E である。底面は平坦で、深さは 45 cm である。壁は外傾している。

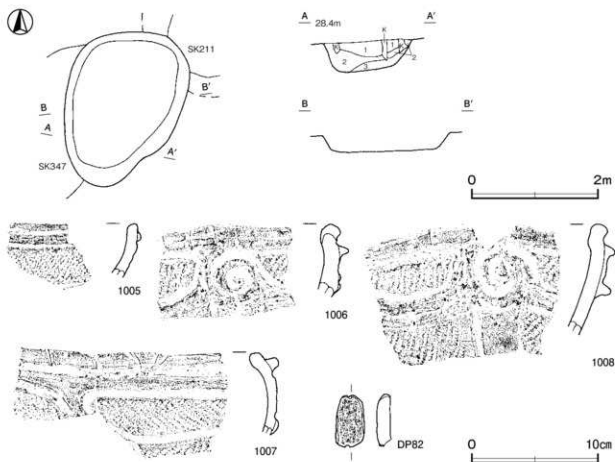
**覆土** 3 層に分層できる。周囲からの流入による堆積状況を示していることから、自然堆積と考えられる。

#### 土層解説

- 1 暗褐色 ローム粒子少量、焼土粒子・炭化粒子微量      3 暗褐色 ロームブロック少量、炭化粒子・焼土粒子微量  
2 暗褐色 ローム粒子・炭化粒子中量、焼土ブロック微量

**遺物出土状況** 縄文土器片 95 点 (深鉢)、土製品 1 点 (土器片鐘) が出土している。

**所見** 規模と形状から、貯蔵穴と考えられる。時期は、出土土器から中期後葉と考えられる。



第 368 図 第 345 号土坑・出土遺物実測図

第345号土坑出土遺物観察表(第368図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	文様の特徴はか	出土位置	備考
1005	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	黒黒	普通	口唇内面に内刻文、地文に単純縄文RL(横) 青銅丸埴帯が一部分	覆土中	
1006	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母・赤色粒子	にぶい橙	普通	隆帯による楕円区画と渦巻文 隆帯に沿って沈澱を形成 地文に単純縄文RL(横)	覆土中	
1007	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	黒黒	普通	口縁上部に太沈澱が一部分 地文に単純縄文RL(横) 沈澱による楕円区画	覆土中	PL138
1008	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	橙	普通	隆帯による楕円区画・渦巻文 区画内及び隆帯に単純縄文RL(縦) 渦巻文から逆行沈澱が直下沈澱部を貫通	覆土中	PL138

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	胎土	色調	特徴	出土位置	備考
DP82	土器片断	4.1	2.3	1.0	(121)	長石・石英・雲母・赤色粒子	灰緑	胴部片 両端にキザミ目 胴縁部縦溝に研磨	覆土中	

## 第346号土坑(第369・370図 PL61)

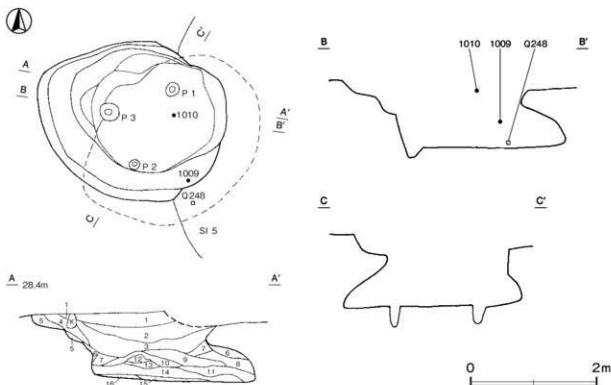
位置 調査区西部のC2a4区、標高28mほどの台地平坦部に位置している。

重複関係 第5号竪穴建物に掘り込まれている。

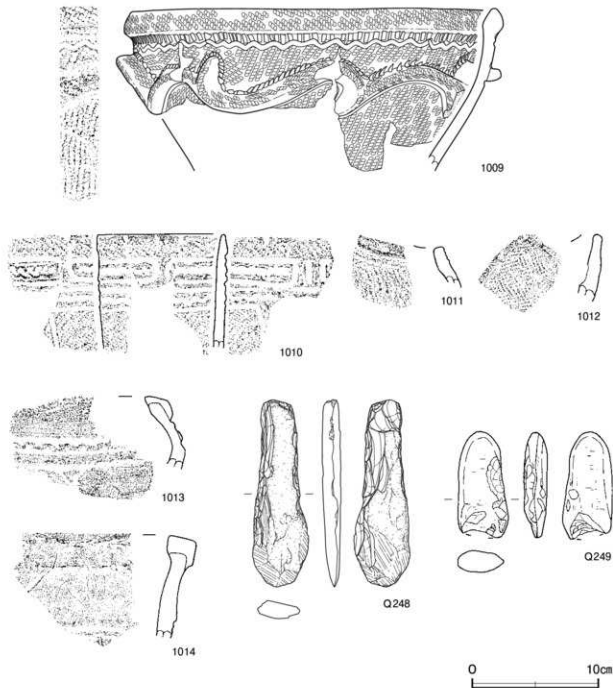
規模と形状 開口部は長径3.05m、短径2.57mの不整楕円形で、長径方向はN-77°-Wである。底面は長径3.03m、短径2.40mの楕円形で、平坦である。確認面からの深さは115cmである。壁は西部が外傾しており、その他が大きく内彎して、袋状を呈している。

ピット 3か所。P1は北東部に位置し、径20cmの円形で、深さ26cmである。P2は南部に位置し、径14cmの円形で、深さは30cmである。P3は西壁際に位置し、径30cmの円形で、深さは15cmである。

覆土 16層に分層できる。第1～5層は、周囲からの流入による堆積状況を示していることから、自然堆積である。第6～16層は、各層にロームブロックが多く含まれていることから、埋め戻されている。



第369図 第346号土坑実測図



第370図 第346号土坑出土遺物実測図

土層解説

- |       |                        |        |                           |
|-------|------------------------|--------|---------------------------|
| 1 暗褐色 | ローム粒子・焼土粒子少量、炭化粒子微量    | 9 暗褐色  | ロームブロック中量、焼土ブロック・炭化物微量    |
| 2 黒褐色 | ローム粒子・焼土ブロック、炭化粒子少量    | 10 黒褐色 | ロームブロック・炭化粒子中量、焼土ブロック微量   |
| 3 黒褐色 | ローム粒子・焼土粒子中量、炭化粒子少量    | 11 褐色  | ロームブロック中量、炭化物・焼土粒子微量      |
| 4 暗褐色 | ローム粒子中量、焼土粒子・炭化粒子微量    | 12 暗褐色 | ロームブロック・焼土ブロック中量、炭化粒子少量   |
| 5 暗褐色 | ロームブロック中量、焼土粒子・炭化粒子微量  | 13 暗褐色 | ロームブロック中量、焼土ブロック中量、炭化粒子微量 |
| 6 暗褐色 | ロームブロック中量、焼土粒子・炭化粒子少量  | 14 暗褐色 | ロームブロック中量、焼土粒子少量、炭化粒子微量   |
| 7 暗褐色 | ロームブロック少量、炭化物・ローム粒子微量  | 15 褐色  | ロームブロック中量、焼土粒子・炭化粒子微量     |
| 8 暗褐色 | ロームブロック中量、焼土ブロック・炭化物少量 | 16 褐色  | ロームブロック中量                 |

遺物出土状況 縄土器片195点(深鉢),石器5点(磨製石斧3,打製石斧2),石製品1点(不明),剥片3点(瑪瑙2,チャート1)が出土している。Q248は南東壁際の底面,1009は南東部の覆土中層から出土しており,埋め戻す過程で投棄されたものと考えられる。1010は中央部の覆土上層,1011~1014,Q249は覆土中から

それぞれ出土しており、埋没する課程で投棄あるいは流れ込んだものと考えられる。

所見 規模と形状から、ピットを有する貯蔵穴と考えられる。時期は、出土土器から中期中葉と考えられる。

### 第 346 号土坑出土遺物観察表 (第 370 図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	文様の特徴ほか	出土位置	備考
1009	陶文土器	深鉢	[290]	(129)	-	長石・石英・雲母・黒色塵点	橙	普通	口唇部肥厚 肥厚部に単筋縄文(横) 肥厚部に付いてキタジウ文が一部 板状の襷帯による変形した文様 胎土に沿ってシラカ灰の粉屑	覆土中層	20% PL128
1010	陶文土器	深鉢	100	(9.1)	-	長石・石英・雲母・赤色粒子	明赤褐	普通	口縁上部に段多条縄文(横) (横)が一部 横溝凹区画 区画内波状沈線 肩部を横位の波状沈線が一部 区画が欠片 胎土は同一層厚(横)	覆土上層	30% PL128
1011	陶文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	黒褐	普通	口縁内側に段 口縁上部無文 2本の有筋沈線が一部 胎文に単筋縄文1本(横)	覆土中	
1012	陶文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	にぶい褐	普通	波状口縁 胎文に単筋縄文(横)を縦・横に施文し、格子状に縄文を胎文	覆土中	
1013	陶文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母・赤色粒子	にぶい褐	普通	口唇部肥厚 口縁上部に交互刺突文 太沈線による区画文	覆土中	
1014	陶文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	黒	普通	口唇部肥厚に平明面 口縁部無文 2本の沈線文	覆土中	

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
Q 248	打製石斧	14.8	4.5	1.5	1121	粘板岩	楕形 周縁部敲打調整 刃部は表裏とも斜方向に研磨	底面	PL161
Q 249	打製石斧	8.5	4.0	1.8	(882)	石英琺瑯岩	楕形 扁平な自然磨の片側縁部敲打調整 刃部欠損	覆土中	PL161

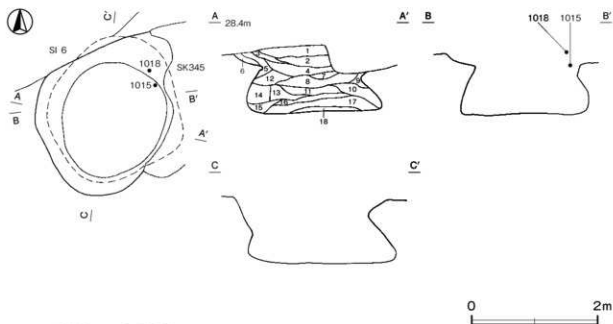
### 第 347 号土坑 (第 371・372 図 PL61)

位置 調査区北西部の B 2 4 区、標高 28 m ほどの台地平坦部に位置している。

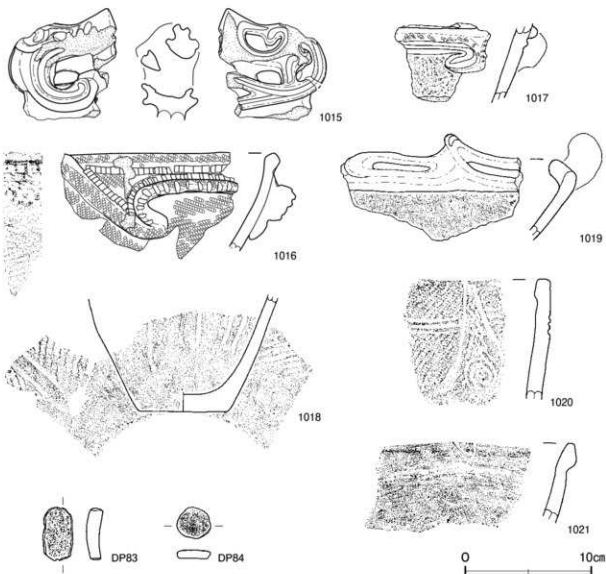
重複関係 第 6 号堅穴建物跡を掘り込み、第 345 号土坑に掘り込まれている。

規模と形状 開口部は長径 2.60 m、短径 2.10 m の不整楕円形で、長径方向は N - 19° - E である。底面は径 2.17 ~ 2.36 m の円形で、平坦である。確認面からの深さは 101 cm で、壁は内野して、袋状を呈している。

覆土 18 層に分層できる。各層にロームブロックが多く含まれていることから、埋め戻されている。



第 371 図 第 347 号土坑実測図



第 372 図 第 347 号土坑出土遺物実測図

土層解説

1	暗褐色	ローム粒子・炭化粒子少量、焼土ブロック微量	10	暗褐色	ロームブロック中量、焼土粒子・炭化粒子微量
2	暗褐色	焼土粒子・炭化粒子中量、ロームブロック少量	11	黒褐色	ロームブロック中量、焼土ブロック・炭化物微量
3	暗褐色	ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子微量	12	暗褐色	ロームブロック少量、炭化物・焼土粒子微量
4	暗褐色	ロームブロック・炭化粒子中量、焼土ブロック微量	13	褐色	ロームブロック中量、炭化物・焼土粒子微量
5	暗褐色	ロームブロック中量、焼土粒子微量	14	褐色	ロームブロック多量、炭化物微量
6	暗褐色	ロームブロック中量	15	暗褐色	ロームブロック中量、炭化粒子微量
7	暗褐色	ロームブロック・焼土ブロック・炭化粒子中量	16	暗褐色	ロームブロック多量、炭化物微量
8	黒褐色	ロームブロック・炭化物中量、焼土ブロック少量	17	褐色	ロームブロック中量、焼土粒子・炭化粒子微量
9	褐色	ロームブロック中量	18	褐色	ロームブロック多量、炭化粒子微量

遺物出土状況 縄文土器片 253 点（深鉢 250、浅鉢 3）、土製品 2 点（土器片錘、土器片円盤）、石製品 1 点（石棒）、石核 1 点（瑪瑙）が出土している。1015・1018 は北東部の覆土上層、1016・1017・1019～1021、DP83・DP84 は覆土中からそれぞれ出土している。いずれも埋め戻す過程で投棄されたものと考えられる。

所見 規模と形状から、貯蔵穴と考えられる。時期は、出土土器から中期中葉と考えられる。

第 347 号土坑出土遺物観察表 (第 372 図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	文様の特徴はか	出土位置	備考
1015	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母・ 燧石・赤色粒子	にぶい橙	普通	中空の把手、背割れ縁帯による文様挿画、把手に 環状文様	覆土上層	PL138
1016	縄文土器	深鉢	-	(8.5)	-	長石・石英・雲母・ 赤色粒子	明褐色	普通	口縁部飾りによる横窓の文様区画、縁帯上にキ ザミ目、縁帯に沿ってキタビラ文、縁帯上及 び地文・垂線縄文区画 (横)	覆土中	PL138
1017	縄文土器	深鉢	-	(6.3)	-	長石・石英・雲母	暗褐色	普通	縁帯に沿って2本の 波線、縁帯及び地文垂線縄文区画 (ランダム)	覆土中	
1018	縄文土器	深鉢	-	(9.4)	7.0	長石・石英・雲母	にぶい褐	普通	地文に無筋縄文区画 (縦)、2本の並行波線が垂下 波線部を飾り、胴下半部ナデ	覆土上層	10%
1019	縄文土器	深鉢	-	(8.4)	-	長石・石英・雲母	にぶい橙	普通	口縁部に横み状の突起、突起部から指窪による 本文様、口唇部赤褐色、另一面内縁方向の横 窓	覆土中	
1020	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	黒	普通	口縁直下から多数垂線縄文区画 (縦)、手取竹器 による横窓、波文・点状文を横画、口唇内側 に指窪	覆土中	
1021	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	暗褐色	普通	口唇部厚肉、土汗線が二重に口縁部を区画 飾り、内面横方向のナデ	覆土中	

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	胎土	色調	特徴	出土位置	備考
DP83	土器片断	4.2	2.3	1.2	13.3	長石・石英・雲母	明赤褐色	胴部片、両端にキザミ目、周縁部粗雑に研磨	覆土中	
DP84	土器片断	2.4	2.7	0.6	5.4	長石・石英・赤色 粒子	にぶい赤褐色	胴部片、周縁部を丁寧に研磨	覆土中	

## 第 348 号土坑 (第 373・374 図)

**位置** 調査区西部の C 2 c 8 区、標高 29 m ほどの台地平坦部に位置している。

**重複関係** 第 4 号竪穴建物跡、第 381 号土坑を掘り込み、第 382 号土坑に掘り込まれている。

**規模と形状** 径 2.07 ~ 2.10 m の円形である。底面はやや凹凸があり、深さは 35 ~ 46 cm で、壁は外傾している。

**ピット** 南西壁際に位置し、径 58 cm ほどの円形で、深さは 44 cm である。規模と形状から、補助的な貯蔵施設と考えられる。

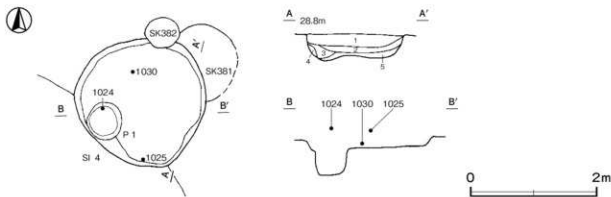
**覆土** 5 層に分層できる。周囲からの流入による堆積状況を示していることから、自然堆積と考えられる。

## 土層解説

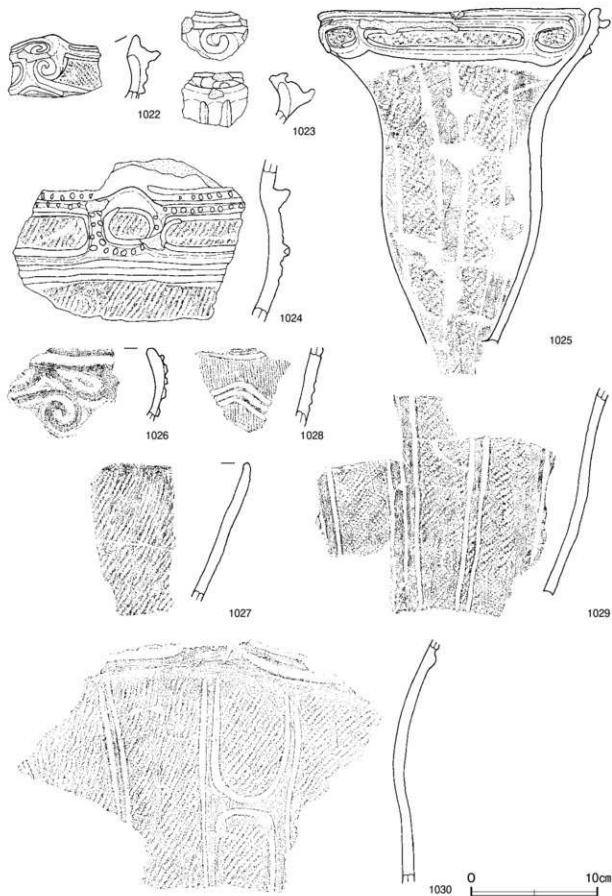
- |        |                     |         |              |
|--------|---------------------|---------|--------------|
| 1 黒暗褐色 | ローム粒子・炭化粒子少量、焼土粒子微量 | 4 褐色    | ローム粒子・炭化粒子微量 |
| 2 暗褐色  | ローム粒子微量             | 5 にぶい褐色 | ロームブロック少量    |
| 3 暗褐色  | ローム粒子少量、炭化粒子微量      |         |              |

**遺物出土状況** 縄文土器片 344 点 (深鉢 337, 浅鉢 7) が出土している。1030 は北部の底面、1024 は西部、1025 は南壁際の覆土上層から、いずれも破片が散乱した状態で出土している。1022・1023・1026 ~ 1029 は覆土中から出土している。いずれも埋没過程で投棄されたものと考えられる。

**所見** 規模と形状から、貯蔵穴と考えられる。時期は、出土土器から中期後葉と考えられる。



第 373 図 第 348 号土坑実測図



第 374 图 第 348 号土坑出土遗物实测图



第 348 号土坑出土遺物観察表 (第 374 図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	文様の特徴はか	出土位置	備考
1022	縄文土器	深鉢	-	(5.0)	-	長石・石英・雲母	灰褐色	普通	口唇部隆帯及び沈線による2方向の渦巻文・方形区画・区画内単純渦文L形(横)	覆土中	
1023	縄文土器	深鉢	-	(4.4)	-	長石・石英	褐色	普通	口唇頂部に渦巻文・渦巻文から2条の隆帯が垂下	覆土中	
1024	縄文土器	深鉢	-	(12.9)	-	長石・石英・雲母・赤色粒子	に灰褐色	普通	胴部に隆帯による内・筒内区画・一部に筒内区画の突起・隆帯上に突起・地文に0段多葉縄文L形(縦)	覆土上層	PL139
1025	縄文土器	深鉢	[22.5]	(26.9)	-	長石・石英・緑礫	褐色	普通	口唇部隆帯による筒内区画・渦巻文・区画内単純渦文L形(横)・胴部同一原体(縦)・口縁直下から微細隆帯が垂下	覆土上層	50% PL139
1026	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・黒色粒子	明褐色	普通	口唇部隆帯・沈線により渦巻文・区画を結露内面縦方向の筋	覆土中	
1027	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	黒褐色	普通	口唇部内帯・口縁上部にわずかに無文帯を置き、無文帯文(縦)を全面に施文	覆土中	
1028	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	黒褐色	普通	地文に単純渦文L形(縦)・2~3本の並行沈線による連続渦状文	覆土中	
1029	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	褐色	普通	地文に単純渦文L形(縦)・2~3本の並行沈線による連続渦状文	覆土中	PL139
1030	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	黒褐色	普通	地文に単純渦文L形(縦)・2本の沈線が垂下・沈線間具状の筋	底面	PL139

## 第 349 号土坑 (第 375・376 図)

**位置** 調査区西部のC 2c9区、標高29mほどの台地平坦部に位置している。

**重複関係** 第4号竪穴建物跡を掘り込み、第734号土坑に掘り込まれている。

**規模と形状** 長径2.25m、短径1.89mの楕円形で、北東部に長さ25cm、幅60cmほどの張り出し部がある。長径方向はN-69°-Eである。底面は平坦で、深さは76cmである。壁はほぼ直立している。

**ピット** 南東部に位置し、径40cmほどの円形で、深さは39cmである。規模と形状から、補助的な貯蔵施設と考えられる。

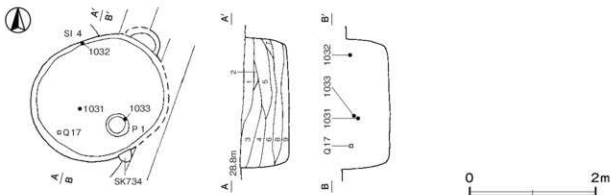
**覆土** 9層に分層できる。周囲からの流入による堆積状況を示していることから、自然堆積と考えられる。

## 土層解説

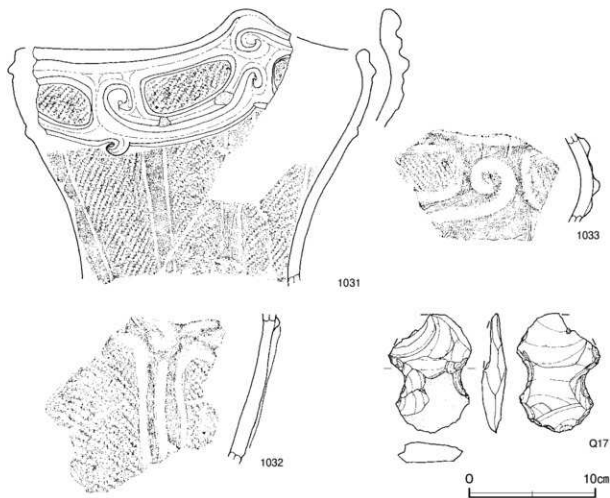
1 黒暗褐色	ローム粒子・焼土粒子微量	6 暗褐色	ロームブロック少量、炭化粒子微量
2 暗褐色	焼土粒子中量、ローム粒子少量	7 暗褐色	ローム粒子少量、炭化粒子微量
3 暗褐色	ローム粒子・炭化粒子少量、焼土粒子微量	8 褐色	ロームブロック中量、炭化粒子微量
4 褐色	ローム粒子中量、焼土粒子少量	9 に灰褐色	ロームブロック・炭化粒子少量
5 褐色	ローム粒子少量、炭化粒子微量		

**遺物出土状況** 縄文土器片115点(深鉢)、石器3点(打製石斧、磨石、敲石)、剥片1点(チャート)が出土している。1031・1033は中央部、1032は北壁際、Q17は南西部の覆土上層から、散乱した状態で出土している。いずれも埋没過程で投棄あるいは流れ込んだものと考えられる。

**所見** 規模と形状から、貯蔵穴と考えられる。時期は、出土土器から中期後葉と考えられる。



第 375 図 第 349 号土坑実測図



第 376 図 第 349 号土坑出土遺物実測図

第 349 号土坑出土遺物観察表(第 376 図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	文様の特徴ほか	出土位置	備考
1031	縄文土器	深鉢	27.5	(22.1)	-	長石・石英・雲母・赤色粒子	にがい質物	普通	口縁部隆帯による横円区画と渦巻文・隆帯に沿って横位の波線 区画内半部縦文 R.L. (縦) 胴部第一気体「縦」文字の波線文垂下・波線間脈流 横文と縦脈横文上段(縦) 狭い隆帯と太沈線による区画文・渦巻文	覆土上層	30% PL139
1032	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	明焼	普通	太沈線による渦巻文・横円区画 区画内半部縦文 R.L. (縦)	覆土上層	
1033	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	明焼(内)	普通	太沈線による渦巻文・横円区画 区画内半部縦文 R.L. (縦)	覆土上層	

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
Q 17	打製石器	9.4	6.6	2.0	(88.7)	ホルンフェルス	分銅形 片面に自然面 執り部・刃部は表裏を敲打 片刃部欠損	覆土上層	PL162

### 第 350 号土坑 (第 377 図)

**位置** 調査区西部の C 2 a5 区。標高 28 m ほどの台地平坦部に位置している。

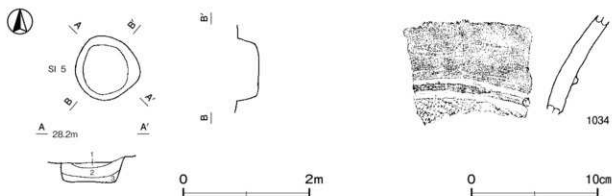
**重複関係** 第 5 号堅穴建物跡を掘り込んでいる。

**規模と形状** 径 1.00 ~ 1.02 m の円形である。底面は平坦で、深さは 35cm である。壁は外傾している。

**覆土** 3 層に分層できる。周囲からの流入による堆積状況を示していることから、自然堆積である。

#### 土層解説

- 1 暗 褐色 ローム粒子中量、焼土粒子・炭化粒子微量 3 暗 褐色 ローム粒子中量、炭化物少量、焼土粒子微量  
 2 暗 褐色 ロームブロック少量、焼土粒子・炭化粒子微量



第377図 第350号土坑・出土遺物実測図

**遺物出土状況** 縄文土器片11点(深鉢)が出土している。1034は覆土中から出土しており、埋没過程で投棄あるいは混入したものと考えられる。

**所見** 規模と形状から、小型の貯蔵穴と考えられる。時期は、出土土器から中期後葉と考えられる。

第350号土坑出土遺物観察表(第377図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	文様の特徴ほか	出土位置	備考
1034	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	灰褐色	普通	器部無文様、2本の沈線が一周し肩部を区画する。器は早期縄文器。(横)	覆土中	

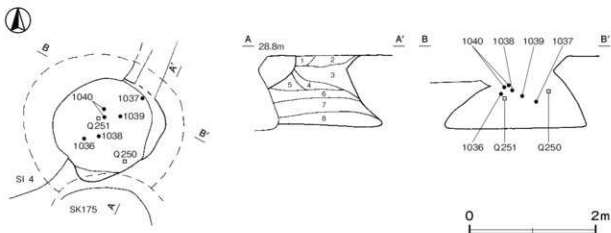
## 第354号土坑(第378・379図)

**位置** 調査区西部中央のC 2d9区、標高29mほどの台地平坦部に位置している。

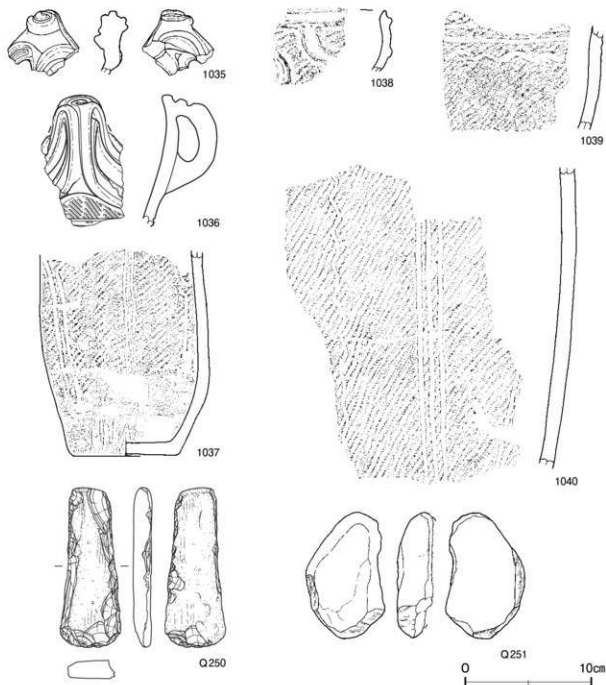
**重複関係** 第4号堅穴建物、第175号土坑に掘り込まれている。

**規模と形状** 開口部は径1.73～1.81mの円形である。底面は径2.40～2.55mの円形で、平坦である。確認面からの深さは115cmである。壁は大きく内傾して、袋状を呈している。

**覆土** 8層に分層できる。ロームブロック、炭化粒子、焼土粒子が含まれている土層が、水平に堆積していることから、埋め戻されている。



第378図 第354号土坑実測図



第 379 図 第 354 号土坑出土遺物実測図

土層解説

- |       |                        |       |                        |
|-------|------------------------|-------|------------------------|
| 1 暗褐色 | ローム粒子中量, 焼土粒子・炭化粒子少量   | 5 暗褐色 | ローム粒子少量, 焼土粒子・炭化粒子微量   |
| 2 暗褐色 | ローム粒子中量, 焼土粒子・炭化粒子微量   | 6 褐色  | ロームブロック少量, 焼土粒子・炭化粒子微量 |
| 3 暗褐色 | ロームブロック少量, 焼土粒子・炭化粒子微量 | 7 褐色  | ロームブロック中量, 焼土粒子・炭化粒子微量 |
| 4 暗褐色 | ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子少量    | 8 褐色  | ローム粒子多量, 焼土粒子・炭化粒子微量   |

遺物出土状況 縄文土器片 73 点 (深鉢 70, 浅鉢 3), 石器 2 点 (打製石斧, 敲砥石), 剥片 1 点 (瑪瑙) が出土している。1036～1040, Q 250・Q 251 は, 覆土中層からまともに出て出土している。ある程度埋戻された段階で, 一括投棄されたものと考えられる。

所見 規模と形状から, 袋状を呈する貯蔵穴と考えられる。時期は, 出土土器から中期中葉と考えられる。

第354号土坑出土遺物観察表(第379図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	文様の特徴はか	出土位置	備考
1035	縄文土器	深鉢	-	(5.2)	-	長石・石英・雲母	黒褐色	普通	中央の把手・肩部に渦巻文・外・内面とも沈線による文様施す	覆土中層	
1036	縄文土器	深鉢	-	(10.4)	-	長石・石英・雲母	灰褐色	普通	中央の把手・肩部に渦巻文・外・内面とも沈線による文様施す 下部に赤褐色による文様施す 把手下部無筋縄文上(縦)	覆土中層	PL139
1037	縄文土器	深鉢	-	(16.3)	8.2	長石・石英・雲母	にぶい褐色	普通	縄文に厚筋縄文(縦)・2本の並行沈線が肩下・下部傾斜方向の敷き	覆土中層	30%
1038	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	にぶい褐色	普通	縄文に厚筋縄文(縦)・口縁上部に沈線が一高陸帯による文様施す 口内面無筋	覆土中層	
1039	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	にぶい褐色	普通	縄文に0段多本縄文(縦)・横位の並行沈線と並行筋が二筋	覆土中層	
1040	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	にぶい褐色	普通	縄文に0段多本縄文(縦)・3本の並行沈線と1本の並行沈線が並下・内面傾斜方向の敷き	覆土中層	PL139

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
Q250	打製石斧	127	4.8	1.5	1245	石英片岩	縦形・両側縁打調整・刃部は表裏を敲打	覆土中層	PL164
Q251	磁石	100	6.3	(2.8)	(235)	チャート	楕円形の短縁部に多方向からの砥面により稜をもつ	覆土中層	PL173

## 第355号土坑(第380～383図 PL101)

**位置** 調査区西部中央のC2e8区、標高29mほどの台地平坦部に位置している。

**重複関係** 第300号土坑を掘り込み、第4号竪穴建物に掘り込まれている。

**規模と形状** 開口部は長径1.97m、短径1.69mの楕円形で、長径方向はN-33°-Wである。底面は径2.16～2.23mの円形で、平坦である。確認面からの深さは94cmで、壁は内燻して、袋状を呈している。

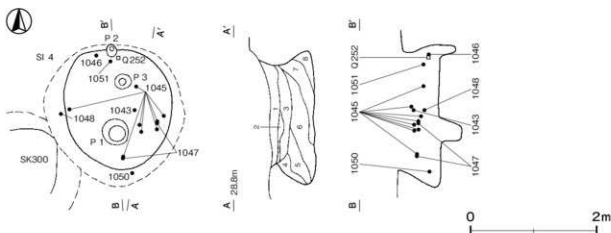
**ピット** 3か所。P1は径40cmの円形で、深さ36cm、P2は径18cmの円形で、深さ30cm、P3は径25cmの円形で、深さ8cmである。いずれも形状から柱穴と考えられる。

**覆土** 8層に分層できる。各層にロームブロックや炭化粒子が多く含まれていることから、埋め戻されている。

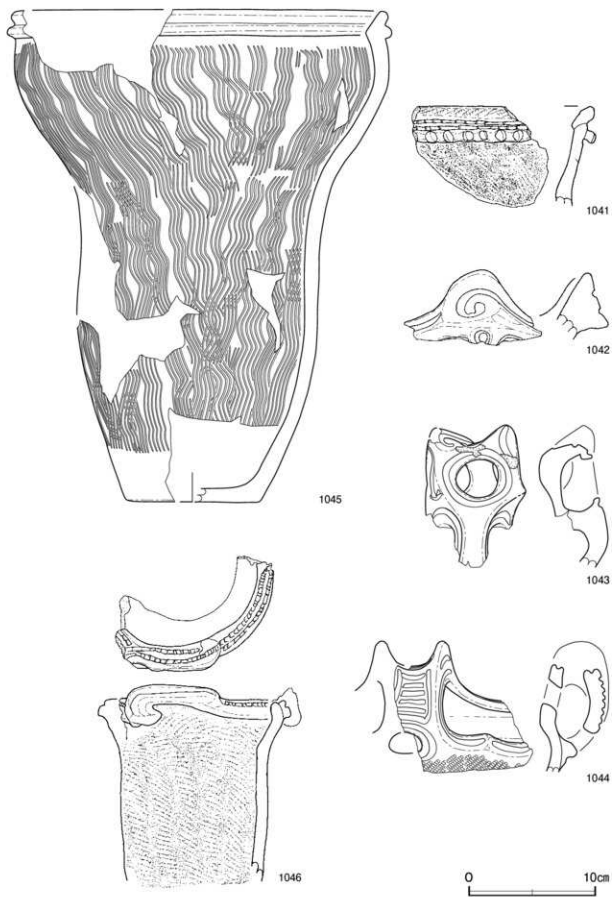
## 土層解説

- |       |                         |          |                       |
|-------|-------------------------|----------|-----------------------|
| 1 暗褐色 | ロームブロック少量、焼土粒子・炭化粒子微量   | 5 黒褐色    | ロームブロック中量、焼土粒子・炭化粒子少量 |
| 2 暗褐色 | ロームブロック中量               | 6 にぶい黄褐色 | ロームブロック多量、炭化物中量       |
| 3 黒褐色 | 炭化粒子多量、ロームブロック中量、焼土粒子微量 | 7 暗褐色    | ローム粒子中量、炭化物少量         |
| 4 黒褐色 | ロームブロック多量               | 8 褐色     | ロームブロック多量             |

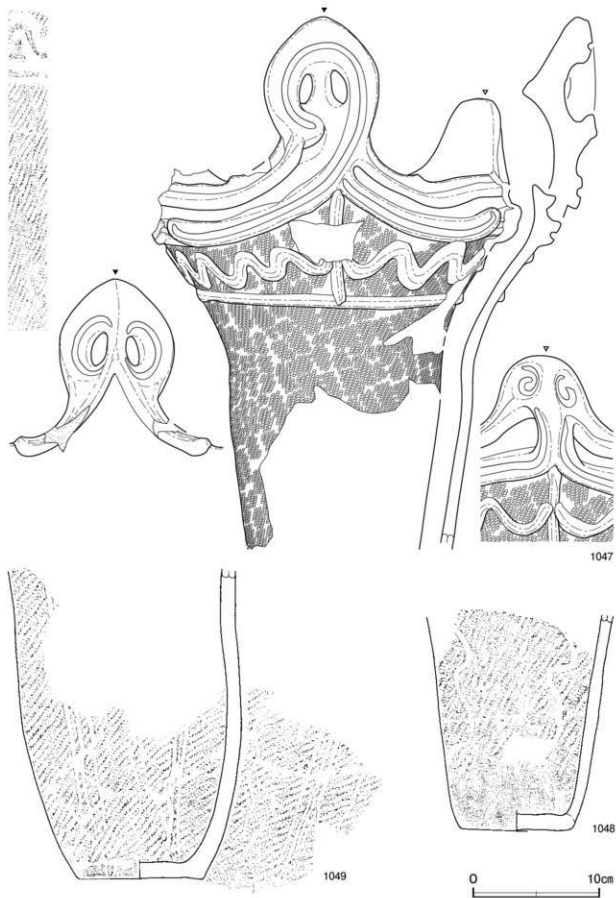
**遺物出土状況** 縄文土器片74点(深鉢72、浅鉢2)、石器1点(打製石斧)が出土している。1046・1050、Q252は覆土下層から、1043・1047・1048・1051は覆土中層からそれぞれ出土している。1045は、南東部の覆土中層を中心に破片が散乱した状態で出土している。埋め戻す過程で一括投棄されたものと考えられる。



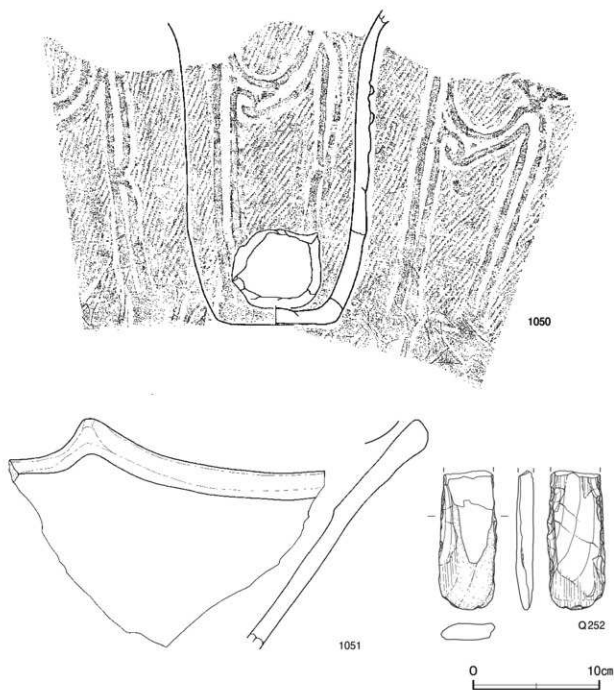
第380図 第355号土坑実測図



第 381 图 第 355 号土坑出土遗物实测图 (1)



第382图 第355号土坑出土遺物実測图(2)



第 383 図 第 355 号土坑出土遺物実測図 (3)

**所見** 規模と形状から、柱穴と考えられるピットを有する袋状の貯蔵穴と考えられる。時期は、出土土器から中期中葉と考えられる。

第 355 号土坑出土遺物観察表 (第 381 ~ 383 図)

番号	種別	部種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	文様の特徴ほか	出土位置	備考
1041	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	暗赤褐色	良好	口唇部肥厚 肥厚部に無筋織文し(横)之本の有筋沈線が一定させ列突隆帯が高る 胴部は同一層状支線織文附けて縦筋文 底頂部に放射線による筋を文 口唇に沿って太沈線が高る 外・内面丁寧な磨き	覆土中	
1042	縄文土器	浅鉢	(59)	-	-	長石・石英・雲母・赤色粒子	に灰い橙	普通		覆土中	



番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	文様の特徴はか	出土位置	備考
1043	縄文土器	深鉢	-	(11.3)	-	長石・石英・雲母・赤色粒子	にぶい橙	普通	尊孔肥子。5か所の尊孔。尊孔に沿って太泥層。尊孔間に垂文文様。 4か所尊孔の中空肥子。尊孔に沿って太泥層。肥子中央部横位の化粧。地文に卑胎織文 R1 (縦)。口唇部でく字状に外反。口縁部内面。口唇部を母帯で区画。地文に輪面状工具による波状文の内帯下。	覆土中層	PL140
1044	縄文土器	深鉢	-	(10.4)	-	長石・石英・雲母	橙	良好	口唇部縁部陥凹による変形横 S 字状文。口唇部底及び内面に有筋化粧が当る。口唇下から口唇部縁部までく字状に外反。口縁部内面。口唇部を母帯で区画。地文に輪面状工具による波状文の内帯下。	覆土中	PL140
1045	縄文土器	深鉢	(29.5)	39.2	10.5	長石・石英・雲母・赤色粒子	にぶい赤黄	普通	口唇部縁部陥凹による変形横 S 字状文。口唇部底及び内面に有筋化粧が当る。口唇下から口唇部縁部までく字状に外反。口縁部内面。口唇部を母帯で区画。地文に輪面状工具による波状文の内帯下。	覆土中層	70% PL140
1046	縄文土器	深鉢	(14.2)	(15.5)	-	長石・石英・雲母	にぶい橙	普通	口唇部縁部陥凹による変形横 S 字状文。口唇部底及び内面に有筋化粧が当る。口唇下から口唇部縁部までく字状に外反。口縁部内面。口唇部を母帯で区画。地文に輪面状工具による波状文の内帯下。	覆土下層	30%
1047	縄文土器	深鉢	20.4	(42.2)	-	長石・石英・雲母	橙	普通	口唇部縁部陥凹による変形横 S 字状文。口唇部底及び内面に有筋化粧が当る。口唇下から口唇部縁部までく字状に外反。口縁部内面。口唇部を母帯で区画。地文に輪面状工具による波状文の内帯下。	覆土中層	50% PL140
1048	縄文土器	深鉢	-	(17.1)	8.8	長石・石英・雲母	橙	普通	口唇部縁部陥凹による変形横 S 字状文。口唇部底及び内面に有筋化粧が当る。口唇下から口唇部縁部までく字状に外反。口縁部内面。口唇部を母帯で区画。地文に輪面状工具による波状文の内帯下。	覆土中層	30%
1049	縄文土器	深鉢	-	(24.7)	[9.8]	長石・石英・雲母・赤色粒子	にぶい橙	普通	口唇部縁部陥凹による変形横 S 字状文。口唇部底及び内面に有筋化粧が当る。口唇下から口唇部縁部までく字状に外反。口縁部内面。口唇部を母帯で区画。地文に輪面状工具による波状文の内帯下。	覆土中	30% PL140
1050	縄文土器	深鉢	-	(25.1)	9.5	長石・石英・雲母・黒色粒子・繊維	にぶい橙	良好	口唇部縁部陥凹による変形横 S 字状文。口唇部底及び内面に有筋化粧が当る。口唇下から口唇部縁部までく字状に外反。口縁部内面。口唇部を母帯で区画。地文に輪面状工具による波状文の内帯下。	覆土下層	60% PL140
1051	縄文土器	浅鉢	-	(18.3)	-	長石・石英・雲母・黒色粒子・繊維	にぶい橙	良好	口唇部縁部陥凹による変形横 S 字状文。口唇部底及び内面に有筋化粧が当る。口唇下から口唇部縁部までく字状に外反。口縁部内面。口唇部を母帯で区画。地文に輪面状工具による波状文の内帯下。	覆土中層	20% PL140
番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴			出土位置	備考
Q 252	打製石斧	(11.1)	4.6	1.4	[17.2]	角閃岩	磨形。両側縁部細な縁調整。刃部は片面に自然面を残し、片面を直削。基部欠損。			覆土下層	PL164

## 第 358 号土坑 (第 384 図)

位置 調査区西部の C 2c8 区、標高 29 m ほどの台地平坦部に位置している。

重複関係 第 4 号竪穴建物、第 212 号土坑に掘り込まれている。

規模と形状 南部を第 4 号竪穴建物に掘り込まれているため、南北径は 0.70 m、東西径は 1.68 m しか確認できなかった。円形または楕円形と考えられ、長径方向は N - 60° - W である。底面は平坦で、深さは 50cm である。壁はほぼ直立している。

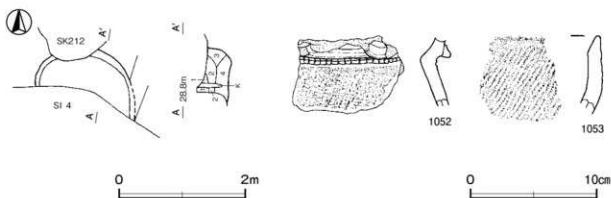
覆土 4 層に分層できる。ロームブロック、炭化粒子、焼土粒子が含まれていることから、埋め戻されている。

## 土層解説

- |       |                  |      |                       |
|-------|------------------|------|-----------------------|
| 1 暗褐色 | ローム粒子少量、焼土粒子微量   | 3 褐色 | ロームブロック中量、焼土粒子・炭化粒子微量 |
| 2 暗褐色 | ロームブロック中量、炭化粒子微量 | 4 褐色 | ロームブロック中量、炭化粒子微量      |

遺物出土状況 縄文土器片 59 点 (深鉢 54、浅鉢 5)、剥片 1 点 (瑪瑙) が、覆土中から出土している。いずれも埋め戻す過程で投棄されたものと考えられる。

所見 規模と形状から、貯蔵穴と考えられる。時期は、出土土器から中期中葉と考えられる。



第 384 図 第 358 号土坑・出土遺物実測図

第 358 号土坑出土遺物観察表 (第 384 図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	文様の特徴ほか	出土位置	備考
1052	縄文土器	深鉢	-	(6.1)	-	長石・石英・雲母	明細	良好	胴部くの字状に外反、隆帯により支線曲線隆帯下に有筋沈線が描る。胎文に単筋縄文記。(縦)	覆土中	
1053	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	に深い粗	普通	口唇内側内側刻き、口唇部横ナデ、底文に単筋縄文記。(縦)	覆土中	

第 359 号土坑 (第 385 図 PL55)

位置 調査区西部の C 2e3 区、標高 28 m ほどの台地平坦部に位置している。

重複関係 第 302 号土坑を掘り込み、第 384・399 号土坑に掘り込まれている。

規模と形状 複数の土坑と重複しているため、東西径は 1.66 m、南北径は 1.40 m しか確認できなかった。円形または楕円形と推定できる。底面は平坦で、深さは 38 cm である。壁はほぼ直立している。

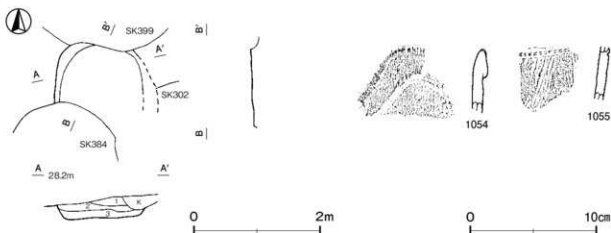
覆土 3 層に分層できる。各層にロームブロックや炭化粒子、焼土粒子が含まれていることから、埋め戻されている。

土層解説

- 1 暗 褐色 ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子微量
- 2 暗 褐色 ローム粒子少量、焼土粒子・炭化粒子微量
- 3 暗 褐色 ロームブロック少量、焼土粒子・炭化粒子微量

遺物出土状況 縄文土器片 15 点 (深鉢) が出土している。

所見 規模と形状から、貯蔵穴と考えられる。時期は、出土土器から中期中葉と考えられる。



第 385 図 第 359 号土坑・出土遺物実測図

第 359 号土坑出土遺物観察表 (第 385 図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	文様の特徴ほか	出土位置	備考
1054	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	に深い赤黄	普通	取口縁一取状の隆帯隆帯隆帯に沿って有筋沈線、隆帯下に細点の集線文、区画内側面状土具による波状文が描下	覆土中	
1055	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	に深い赤黄	普通	有筋沈線が一筋、まばらな無赤文を斜位に施文	覆土中	

## 第364号土坑 (第386図 PL62)

位置 調査区北部中央のC3c6区、標高29mほどの台地平坦部に位置している。

規模と形状 開口部は長径2.78m、短径1.83mの楕円形で、長径方向はN-32°-Wである。底面は長径2.50m、短径1.84mの楕円形で、平坦である。確認面からの深さは66cmである。壁は東部が内彎して、袋状を呈し、その他は下部がやや丸みを帯びて直立している。

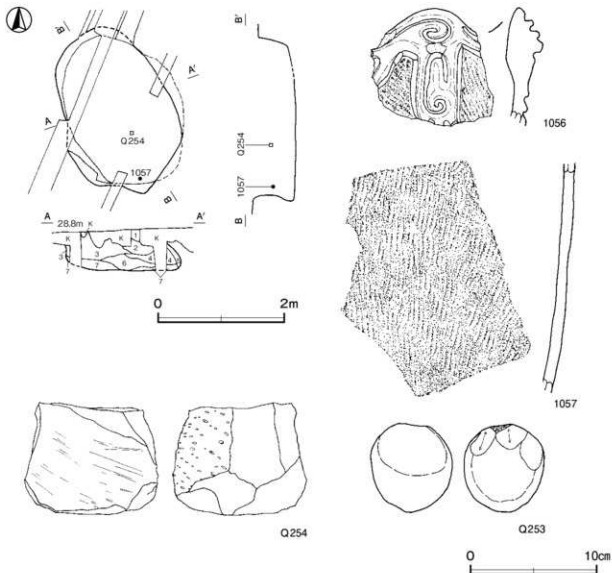
覆土 7層に分層できる。各層にロームブロックが含まれていることから、埋め戻されている。

## 土層解説

- |       |         |       |           |
|-------|---------|-------|-----------|
| 1 暗褐色 | ローム粒子中量 | 5 暗褐色 | ロームブロック少量 |
| 2 黒褐色 | ローム粒子少量 | 6 黒褐色 | ロームブロック少量 |
| 3 褐色  | ローム粒子中量 | 7 暗褐色 | ローム粒子少量   |
| 4 黒褐色 | ローム粒子中量 |       |           |

遺物出土状況 縄文土器片126点(深鉢125, 浅鉢1), 石器3点(磨石, 敲砥石, 砥石), 剥片2点(石英, 泥岩)が出土している。1057, Q254は覆土中層, 1056, Q253は覆土中からそれぞれ出土している。いずれも埋め戻す過程で投棄されたものと考えられる。

所見 規模と形状から、袋状を呈する貯蔵穴と考えられる。出土土器から中期後葉と考えられる。



第386図 第364号土坑・出土遺物実測図

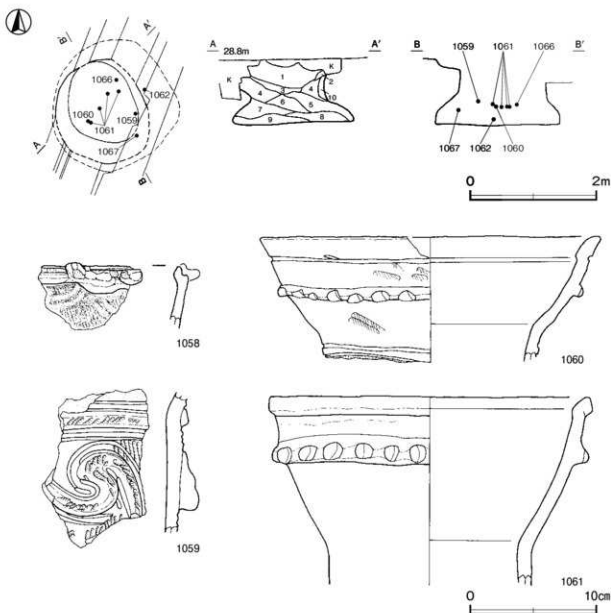
第 364 号土坑出土遺物観察表 (第 386 図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	文様の特徴ほか	出土位置	備考
1056	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母・黒色粒子	濃い黄緑	普通	波直部に波帯文 波直部から垂下する隆部に縦位の渦帯文 地文に早稲縄文(LR(縦))	覆土中	
1057	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	橙	普通	地文に早稲縄文(LR(斜))を間隔を開けて施文	覆土中層	

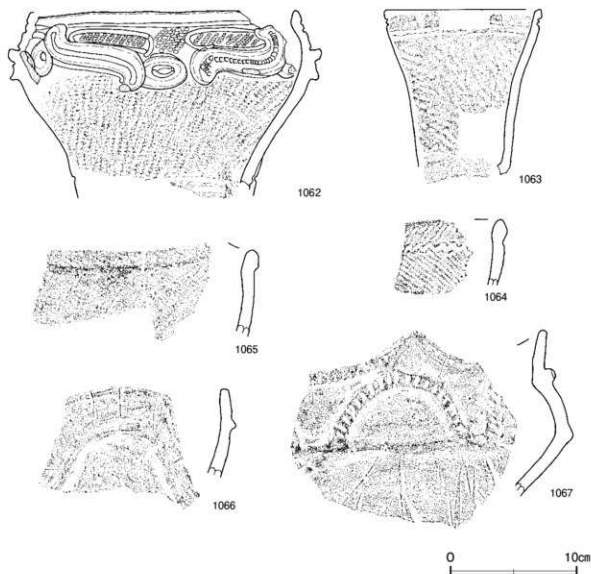
番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
Q 253	燧石	7.1	6.4	4.8	293.4	石英燧石	円錐の側縁部に微細な縦打痕・砥面をもつ	覆土中	PL173
Q 254	砥石	(8.9)	(10.7)	(4.9)	(668.0)	安山岩	片面に砥面 片側縁あばた状の縦打痕	覆土中層	

第 366 号土坑 (第 387・388 図 PL63)

位置 調査区北部中央の C 3 c6 区。標高 29 m ほどの台地平坦部に位置している。



第 387 図 第 366 号土坑・出土遺物実測図



第388図 第366号土坑出土遺物実測図

**規模と形状** 開口部は長径1.66m、短径1.42mの楕円形で、長径方向はN-21°-Wである。底面は径2.00～2.13mの円形で、平坦である。確認面からの深さは102cmで、壁は内彎して、袋状を呈している。

**覆土** 10層に分層できる。各層にロームのブロックや粒子が含まれていることから、埋め戻されている。

**土層解説**

- |                      |                      |
|----------------------|----------------------|
| 1 黒褐色 ローム粒子中量、焼土粒子微量 | 6 黒褐色 ローム粒子少量、焼土粒子微量 |
| 2 黒褐色 ローム粒子少量        | 7 黒褐色 ロームブロック微量      |
| 3 暗褐色 ロームブロック中量      | 8 黒褐色 ロームブロック少量      |
| 4 黒暗褐色 ロームブロック微量     | 9 暗褐色 ローム粒子微量        |
| 5 黒褐色 ローム粒子微量        | 10 暗褐色 ロームブロック少量     |

**遺物出土状況** 縄文土器片325点(深鉢286, 浅鉢38, コップ形土器1), 石器1点(磨石), 石核1点(チャート), 剥片1点(チャート)が出土している。1062・1067は覆土下層から、1059～1061・1066は第5・6層に該当する覆土中層から出土している。いずれも埋め戻す過程で一括投棄されたものと考えられる。

**所見** 規模と形状から、袋状を呈する貯蔵穴と考えられる。時期は、出土土器から中期中葉と考えられる。

第 366 号土坑出土遺物観察表 (第 387・388 図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	文様の特徴ほか	出土位置	備考
1068	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母・ 黒粒	灰褐色	普通	隆帯上突起に背面による圧痕文。一部に背面沈凹 地文に準筋縄文LR (縦) 浅い沈凹による2条 の縦線文。	覆土中	
1069	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母・ 黒色粒子・赤色粒子	明赤褐色	良好	溝状隆帯による文様稀薄。隆帯に沿って手取 行管による沈凹文。隆帯上・地文に無筋縄文し (横・斜)。	覆土中層	
1080	縄文土器	深鉢	[268]	(100)	-	長石・石英	明赤褐色	普通	口縁部外反。口縁に1本の沈凹と背面圧痕の隆 帯が一点。部分的に無筋縄文LR (横)。頸部に2 本の縦行沈凹がある。内面斜方向の溝き (横・斜)。	覆土中層	20%
1061	縄文土器	深鉢	[252]	(150)	-	長石・石英・雲母・ 黒粒	にぶい橙	普通	無文。口唇部肥厚。幅広い肩突隆帯が一端。口 縁部横方向のナゲ。頸部縦方向のナゲ (横・斜)。	覆土中層	20% PL129
1062	縄文土器	深鉢	[210]	(150)	-	長石・石英・雲母・ 黒色粒子	灰褐色	普通	口縁上部沈凹が一点。背面上隆帯による横文字 様文。一部分は字隆帯に有筋沈凹。若干隆帯に 横内文。地文に準筋縄文LR (横)。頸部細位の 隆帯肩付。隆帯側に横位の3本の沈凹がある。 口縁部外反。手取行管による並行沈凹が一端 横文に無筋縄文し (横)。	覆土下層	25% PL139
1063	縄文土器	フップ形 土器	[125]	(131)	-	長石・石英	にぶい橙	普通	口唇部肥厚。肥厚部に0段多条縄文LR (横) 縦状沈凹が一端。胴部は同一一体による縦筋文 口唇部肥厚。肥厚部に準筋縄文LR (横)。肥厚 部手取頭によるナゲ。胴部は同一一体による縦 筋文。	覆土中	25%
1064	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	にぶい橙	普通	口唇部肥厚。肥厚部に0段多条縄文LR (横) 縦状沈凹が一端。胴部は同一一体による縦筋文 口唇部肥厚。肥厚部に準筋縄文LR (横)。肥厚 部手取頭によるナゲ。胴部は同一一体による縦 筋文。	覆土中	
1065	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	黒褐色	普通	縦状沈凹。口縁に沿って隆帯肩付。外・内面多 方向の溝き。	覆土中	
1066	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	にぶい赤褐色	普通	縦状沈凹。口縁に沿って隆帯肩付。外・内面多 方向の溝き。	覆土中層	
1067	縄文土器	浅鉢	-	(132)	-	長石・石英・雲母・ 黒色粒子・黒粒	にぶい黄褐色	良好	溝状口縁。胴部は平や外反。胴部くの字状に内 彎。隆帯を一端させ。口縁部平円形の肩突隆帯 外・内面斜方向のナゲ。	覆土下層	10% PL129

第 367 号土坑 (第 389 図 PL62)

位置 調査区北部中央のC3c6区。標高 29 m ほどの台地平坦部に位置している。

規模と形状 径 1.64 ~ 1.70 m のほぼ円形である。底面は平坦で、深さは 68 cm である。壁は、ほぼ直立している。

覆土 7 層に分層できる。ロームブロック、炭化粒子、焼土粒子が含まれていることから、埋め戻されている。

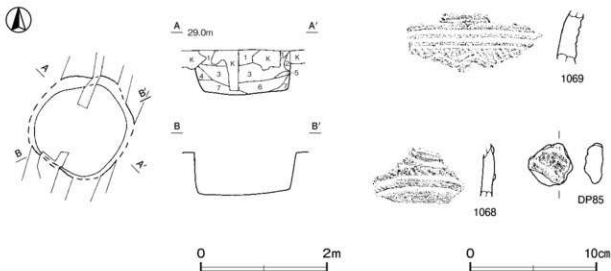
土層解説

- |         |           |         |           |
|---------|-----------|---------|-----------|
| 1 層 褐色  | ロームブロック微量 | 5 層 褐色  | ロームブロック中量 |
| 2 層 褐色  | ロームブロック微量 | 6 層 黒褐色 | ロームブロック微量 |
| 3 層 黒褐色 | ローム粒子中量   | 7 層 暗褐色 | ロームブロック中量 |
| 4 層 黒褐色 | ロームブロック少量 |         |           |

遺物出土状況 縄文土器片 34 点 (深鉢)、土製品 1 点 (土器片鏟)、石製品 1 点 (石棒) が出土している。

1068・1069、DP85 は覆土中から出土しており、いずれも埋め戻す過程で投棄されたものと考えられる。

所見 規模と形状から、貯蔵穴と考えられる。時期は、出土土器から中期中葉と考えられる。



第 389 図 第 367 号土坑・出土遺物実測図

第367号土坑出土遺物観察表(第389図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	文様の特徴ほか	出土位置	備考
1068	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・赤色 粒子・黒色粒子	にぶい褐色	普通	地文に単純縄文LR(縦)陰帯による文様描画	覆土中	
1069	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・赤色 赤色粒子	にぶい褐色	普通	地文に無縄文L(縦)平截竹管による4本の 斜行沈線と蛇行沈線が一道	覆土中	

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	胎土	色調	特徴	出土位置	備考
DP85	土器片(鉢)	3.4	3.5	1.4	150	長石・石英	灰褐色	胴部片 両端部にキザリ目	覆土中	

## 第368号土坑(第390～392図 PL63)

位置 調査区中央部のC34区、標高29mほどの台地平坦部に位置している。

規模と形状 開口部は長径1.65m、短径1.41mの楕円形で、長径方向はN-50°-Eである。底面は径1.75～1.87mの円形で、平坦である。確認面からの深さは67cmで、壁は内彎して、袋状を呈している。

ピット 南東壁際に位置し、径30cmの円形で、深さは20cmである。補助的な貯蔵施設と考えられる。

## ピット土層解説

1 黒褐色 ローム粒子少量

2 暗褐色 ロームブロック少量

覆土 11層に分層できる。各層にロームのブロックや粒子が含まれていることから、埋め戻されている。

## 土層解説

1 黒褐色 ローム粒子少量

7 黒褐色 ロームブロック少量

2 にぶい黄褐色 ロームブロック微量

8 黒褐色 ロームブロック中量

3 黒褐色 ローム粒子中量

9 黒褐色 ロームブロック少量、炭化粒子微量

4 褐色 ローム粒子中量、炭化粒子微量

10 黒褐色 ローム粒子微量

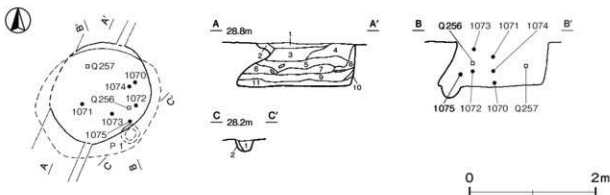
5 暗褐色 ロームブロック中量

11 暗褐色 ロームブロック少量

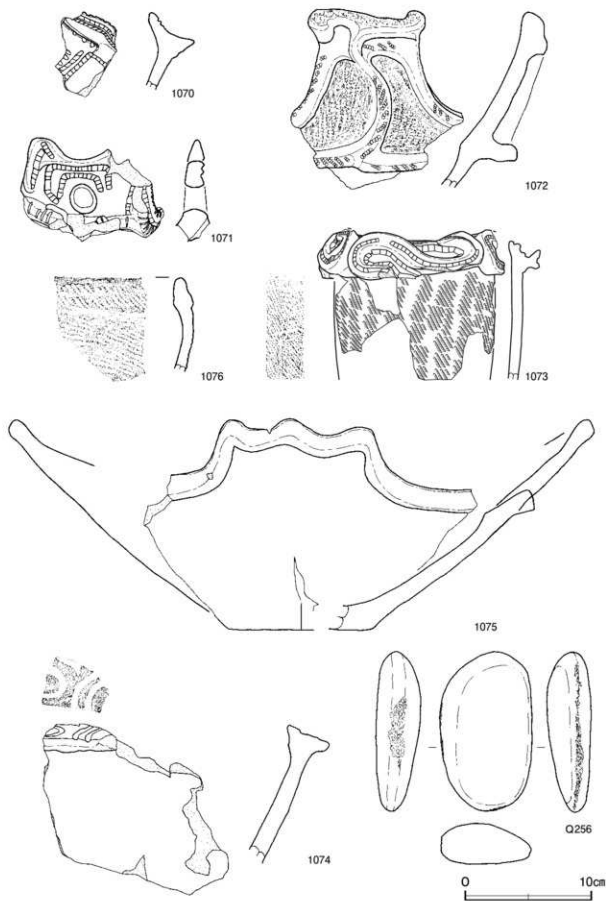
6 黒暗褐色 ローム粒子少量

遺物出土状況 縄文土器片92点(深鉢89,浅鉢3),石器3点(磨製石斧未成品1,砥石2),石製品1点(石剣),加工痕のある剥片1点(瑪瑙),剥片2点(石英)が出土している。1070は北東部の底面から、1072・1074・1075, Q256・Q257は覆土中層から、1071・1073は覆土上層から出土している。いずれも埋め戻す過程で放棄されたものと考えられる。

所見 規模と形状から、貯蔵穴と考えられる。時期は、出土土器から中期中葉と考えられる。

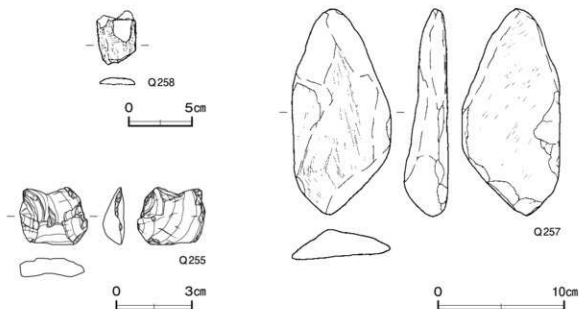


第390図 第368号土坑実測図



第 391 图 第 368 号土坑出土遗物实测图 (1)





第392図 第368号土坑出土遺物実測図(2)

第368号土坑出土遺物観察表(第391・392図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	文様の特徴はか	出土位置	備考
1070	縄文土器	深鉢	-	(6.7)	-	長石・石英・雲母	黒	普通	扇状の把手 2本の有筋沈線を巡らす 把手周縁刻文	底面	
1071	縄文土器	深鉢	-	(8.1)	-	長石・石英・雲母・黒色粘土	灰黒	普通	中型の把手 扇状隆帯にキザミ目 隆帯に沿って1センチ未満の有筋沈線	腹土中層	
1072	縄文土器	深鉢	-	(13.8)	-	長石・石英・雲母	黒黒	普通	大型板状把手 把手頂部は横S字状 横状隆帯による文様隆帯 隆帯に沿って指頭によるナデ 把手指頭・口唇内縁細線文刻・縦・斜	腹土中層	PL141
1073	縄文土器	深鉢	[136]	[11.9]	-	長石・石英・雲母・黒色粘土	にぶい・黒	普通	口唇頂部に耳環が1つ 横S字状支那器隆帯中央及び隆帯に沿って有筋沈線を施文 施文に無筋横文1線	腹土上層	20% PL141
1074	縄文土器	浅鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	にぶい・黒	普通	口唇頂部に大穴縁による横肉文・弧線文 外面斜・横方向のナデ 内面横方向の巻き	腹土中層	
1075	縄文土器	浅鉢	[45.6]	16.7	[11.4]	長石・石英・雲母・黒色粘土・輝石	にぶい・黒	良好	内面に段 段状口縁 波窪部山形 口唇部断面三角形の隆帯刻付 外面横方向の巻き 内面横方向のナデ 口唇部刻・内面に赤土線	腹土中層	30% PL141
1076	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	にぶい・黒	普通	口唇部肥厚 肥厚部に車筋溝文R.L.(横) 肥厚部下に沈線が1線 断面同一層体(輪)	腹土中	

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
Q 256	加工痕のある薄片	2.3	2.8	0.9	5.4	珪瑁	横長の薄片を用いて片側縁押込溝	腹土中	
Q 256	磨製石斧 完成品	12.7	7.3	3.5	476.9	石英琿石	両側縁に微細な縦打痕	腹土中層	PL171 煎熟
Q 257	砥石	16.3	7.8	3.4	411.9	砂岩	表面に曲面的、裏面及び側縁部に平坦な底面	腹土中層	
Q 258	石剣	(4.3)	(3.1)	(0.5)	(9.0)	泥岩	縦位の研磨痕 全周欠損	腹土中	

## 第369号土坑(第393図 PL63)

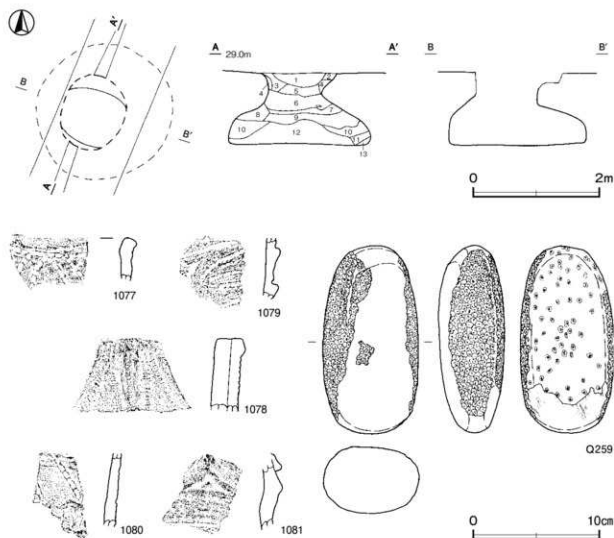
位置 調査区北部中央のC3d6区、標高29mほどの台地平坦部に位置している。

規模と形状 開口部は長径1.18m、短径0.98mの楕円形と推定でき、長径方向はN-21°-Wである。底面は径2.15mほどの円形で、平坦である。確認面からの深さは114cmである。壁は内燻して、袋状を呈している。

覆土 13層に分層できる。不規則な堆積状況から、埋め戻されている。

## 土層解説

1 黒褐色	ローム粒子多量、炭化粒子微量	5 暗褐色	ロームブロック少量、炭化粒子微量
2 暗褐色	ローム粒子微量	6 黒褐色	ローム粒子中量
3 黒褐色	ローム粒子中量、炭化粒子微量	7 暗褐色	ロームブロック少量
4 暗褐色	ロームブロック中量	8 黒褐色	ローム粒子少量



第393図 第369号土坑・出土遺物実測図

- 9 黒色 ローム粒子少量  
 10 褐色 ロームブロック少量  
 11 黒褐色 ロームブロック少量  
 12 濃い黒褐色 ロームブロック少量  
 13 黒褐色 ロームブロック中量

**遺物出土状況** 縄文土器片 72点 (深鉢), 石器 2点 (磨製石斧未成品, 磨石), 石核 1点 (瑪瑙), 剥片 2点 (ホルンフェルス, 瑪瑙) が出土している。1077～1081, Q 259 は覆土中から出土している。いずれも埋め戻す過程で投棄されたものと考えられる。

**所見** 規模と形状から, 袋状を呈する貯蔵穴と考えられる。時期は, 出土土器から中期前葉と考えられる。

第369号土坑出土遺物観察表 (第393図)

番号	種別	器種	口徑	器高	底径	胎土	色調	焼成	文様の特徴ほか	出土位置	備考
1077	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	橙	普通	口唇部肥厚 頂部平坦 有筋沈澱による横線・縦線文	覆土中	
1078	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	にがい赤褐	良好	板状肥厚 口唇中央から隆帯が着下 端部肥厚 隆帯上及び隆帯に沿って爪形文	覆土中	
1079	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母 赤色粒子・黒色粒子	褐	普通	深鉢状隆帯による横位の筋目区画 区画内有筋沈澱	覆土中	
1080	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	にがい赤褐	普通	2本の波状沈澱を隔らせ沈澱間に幅広い爪形文斜位の有筋沈澱	覆土中	
1081	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	にがい褐	普通	唇部により文様部両 横位の沈澱が一巡 外・内出筋方向の子	覆土中	

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
Q 259	磨製石斧 完成品	15.0	7.2	5.3	960.4	安山岩	表裏に研磨痕 両側縁に微細な敲打痕	埋土中	PL171 磨石・ 四石の再調査

## 第 370 号土坑 (第 394 図 PL64)

位置 調査区北部中央の C 3 e 6 区、標高 29 m ほどの台地平坦部に位置している。

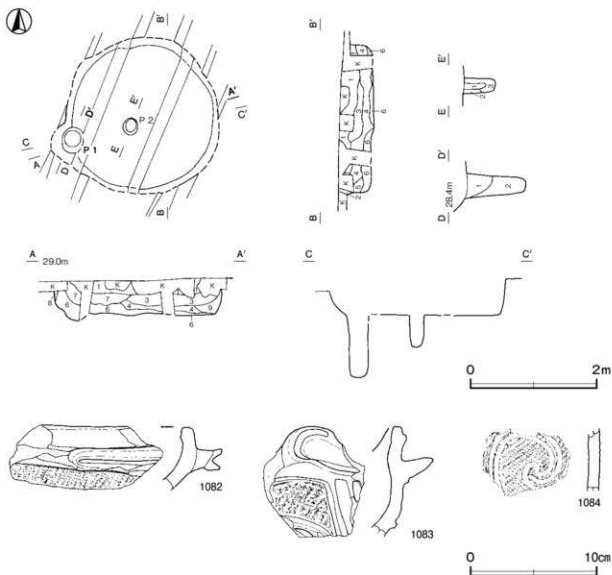
規模と形状 径 2.50 m ほどの円形である。底面は平坦で、深さは 60 cm である。壁はほぼ直立している。

ピット 2 か所。P 1 は南西側の壁面に位置し、径 23 cm の円形で、深さは 100 cm である。P 2 はほぼ中央に位置し、径 20 cm の円形で、深さ 50 cm である。規模と形状からいずれも柱穴と考えられる。第 1～3 層は、柱抜き取り後の埋土である。

## ピット土層解説

- 1 黒褐色 ローム粒子中量
- 2 黒褐色 ロームブロック少量

- 3 黒褐色 ロームブロック中量



第 394 図 第 370 号土坑・出土遺物実測図

**覆土** 9層に分層できる。各層にロームのブロックや粒子が含まれており、不規則な堆積状況から、埋め戻されている。

土層解説			
1	黒褐色	ロームブロック少量	6 暗褐色
2	暗褐色	ローム粒子少量	7 黒褐色
3	黒褐色	ローム粒子中量	8 暗褐色
4	暗褐色	ロームブロック中量	9 黒褐色
5	黒褐色	ロームブロック中量	

**遺物出土状況** 縄文土器片 200点（深鉢198, 浅鉢2）、石器1点（砥石）、剥片2点（瑪瑙、チャート）が出土している。1082～1084は覆土中から出土している。いずれも埋め戻す過程で投棄されたものと考えられる。  
**所見** 規模と形状から、貯蔵穴と考えられる。時期は、出土土器から中期後葉と考えられる。

#### 第370号土坑出土遺物観察表（第394図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	文様の特徴ほか	出土位置	備考
1082	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母・黒色粒子	にぶい橙	良好	洋磨状口縁。彫状の隆帯による突起。隆帯中央部に大花綱を沿らす。帯文に華岳織文1段（輪状口縁・口等重層状層による列目が写る。底層部に大花綱によるC字状文。隆帯による文様区画隆帯に沿って花綱。区画内重層織文区）。縦帯文に輪状織文1段（縦）2本の差付花綱による差帯文。	覆土中	
1083	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母・黒色粒子・赤色粒子	橙	良好		覆土中	
1084	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母・赤色粒子	にぶい赤褐	普通		覆土中	

#### 第371号土坑（第395・396図 PL64）

**位置** 調査区中央部のC3e5区、標高29mほどの台地平坦部に位置している。

**重複関係** 第414号土坑に掘り込まれている。

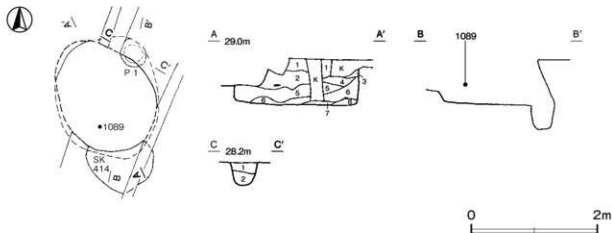
**規模と形状** 開口部は長径1.89m、短径1.46mの楕円形で、長径方向はN-28°-Wである。底面は長径1.94m、短径1.63mの楕円形で、平坦である。確認面からの深さは72cmで、壁は内傾して、袋状を呈している。

**ピット** 北壁際に位置し、径40cmの円形で、深さ40cmである。規模と形状から補助的な貯蔵施設と考えられる。

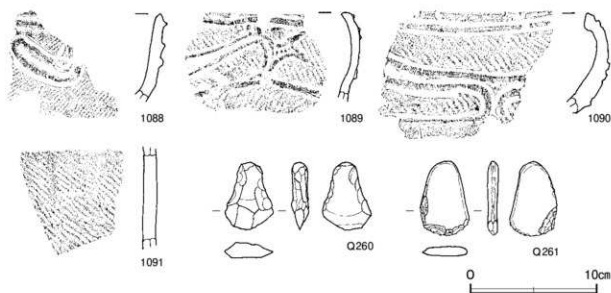
##### ピット土層解説

- 1 にぶい赤褐色 ローム粒子・焼土粒子微量      2 にぶい褐色 ローム粒子・焼土粒子微量

**覆土** 8層に分層できる。多くの層にロームブロックが含まれていることから、埋め戻されている。



第395図 第371号土坑実測図



第396図 第371号土坑出土遺物実測図

## 土層解説

- |       |                     |       |           |
|-------|---------------------|-------|-----------|
| 1 黒褐色 | ローム粒子・炭化粒子少量、焼土粒子微量 | 5 褐色  | ロームブロック少量 |
| 2 黒褐色 | ロームブロック微量           | 6 暗褐色 | ロームブロック中量 |
| 3 暗褐色 | ロームブロック・炭化粒子微量      | 7 暗褐色 | ロームブロック微量 |
| 4 暗褐色 | ロームブロック少量           | 8 黒褐色 | ロームブロック少量 |

**遺物出土状況** 縄文土器片 328点（深鉢327、浅鉢1）、石器2点（打製石斧、磨製石斧）、石核1点（瑪瑙）、剥片2点（瑪瑙、チャート）が出土している。1089は覆土中層から、1088・1090・1091、Q260・Q261は覆土中からそれぞれ出土している。いずれも埋め戻す過程で投棄されたものと考えられる。

**所見** 規模と形状から、貯蔵穴と考えられる。時期は、出土土器から中期中葉と考えられる。

## 第371号土坑出土遺物観察表（第396図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	文様の特徴ほか	出土位置	備考
1088	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母・燧石	灰褐色	普通	地文に単筋縄文（縦）を間隔を開けて施す。行割れ跡等による文様擦消。内面横方向の磨き。	覆土中	
1089	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・赤色粒子	に濃い赤褐色	普通	地文に無筋縄文（縦）細線等による区画文。横S字状文。一部に短丸文。	覆土中層	
1090	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・赤色粒子・燧石	に濃い橙褐色	普通	口縁上部に平截竹管による平行波線が一周。地文に単筋縄文（横）跡等による横内区画。	覆土中	
1091	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	明赤褐色	普通	地文に無筋縄文（縦）	覆土中	

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
Q260	打製石斧	5.4	3.9	1.4	27.8	黒色安山岩	假形 側縁部表裏より鋭打 刃部は片面を鋭打	覆土中	PL164 打石斧
Q261	磨製石斧	5.9	3.8	0.9	28.0	角閃岩	小型 扁平な自然磨の片端部鋭打調整 両縁部研磨 刃部欠損	覆土中	PL169

## 第377号土坑（第397図 PL64）

**位置** 調査区北部中央のC3d8区、標高29mほどの台地平坦部に位置している。

**規模と形状** 径1.43～1.50mの不整形円形と推定できる。底面は皿状で、深さ31cmである。壁は北西部がほぼ直立しており、南東部が階段状に立ち上がっている。

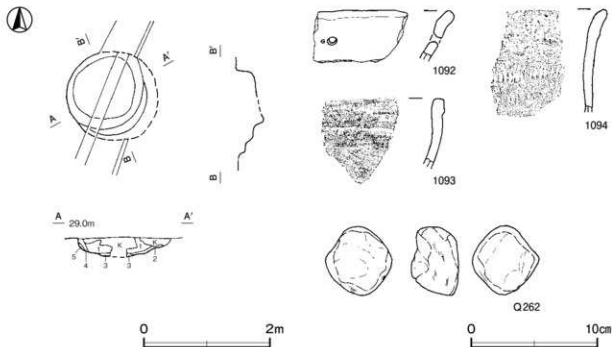
**覆土** 5層に分層できる。各層にロームブロックが含まれていることから、埋め戻されている。

土層解説

- |       |                  |          |           |
|-------|------------------|----------|-----------|
| 1 黒褐色 | ロームブロック少量，焼土粒子微量 | 4 暗褐色    | ロームブロック少量 |
| 2 黒褐色 | ロームブロック微量        | 5 にぶい黄褐色 | ロームブロック中量 |
| 3 暗褐色 | ロームブロック少量，焼土粒子微量 |          |           |

遺物出土状況 縄文土器片 104点（深鉢103，浅鉢1），石器2点（スクレイパー，敲砥石），石核1点（石英），剥片1点（瑪瑙）が出土している。

所見 規模と形状から，貯蔵穴と考えられる。時期は，出土土器から中期中葉と考えられる。



第397図 第377号土坑・出土遺物実測図

第377号土坑出土遺物観察表（第397図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	文様の特徴ほか	出土位置	備考
1092	縄文土器	浅鉢	-	-	-	長石・石英・雲母・磁層	明赤褐色	普通	口縁内側に設けられた外・内面横方向の磨き 2か所の地身孔あり	覆土中	
1093	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母・磁層	暗褐色	普通	口唇部高い板状の焼帯輪付 口唇部角頭状 外・内面横方向的磨き	覆土中	
1094	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母・磁層	にぶい赤褐色	普通	口唇部外反 2条の爪形文が写る	覆土中	
番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴		出土位置	備考	
Q 262	敲砥石	5.5	5.3	3.8	132.5	チャート	円縁の周縁部に多方向からの砥面により稜をもつ		覆土中	PL173	

第379号土坑（第398図）

位置 調査区北部中央のC 3c7区，標高29mほどの台地平坦部に位置している。

重複関係 第412号土坑を掘り込んでいる。

規模と形状 長径158m，短径130mの楕円形で，長径方向はN-45°-Eである。底面は平坦である。深さは37cmで，壁は外傾している。

ピット 2か所。P 1は南西壁際に位置し、長径35cm、短径22cmの楕円形で、深さは20cmである。P 2は中央部に位置し、径30cmの円形で、深さは18cmである。いずれも位置と形状から柱穴と考えられる。

## ピット土層解説

- 1 黒褐色 ローム粒子多量、炭化粒子少量      2 暗褐色 ロームブロック微量

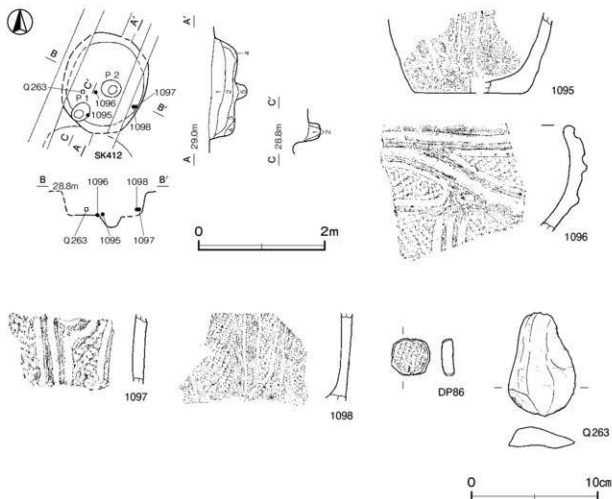
覆土 4層に分層できる。周囲から流入している堆積状況から、自然堆積と考えられる。第5層は、P 2の覆土である。

## 土層解説

- 1 黒褐色 ローム粒子多量、炭化粒子少量      4 黒褐色 ロームブロック微量  
2 黒褐色 ローム粒子多量      5 暗褐色 ロームブロック少量  
3 黒褐色 ローム粒子中量、炭化粒子微量

遺物出土状況 縄文土器片144点(深鉢139, 浅鉢5), 土製品1点(土器片錘), 石器1点(砥石), 石核1点(瑪瑙), 剥片2点(石英, 頁岩)が出土している。1095・1096は底面, 1097・1098, Q 263は覆土下層, DP86は覆土中からそれぞれ出土している。いずれも埋め戻す過程で投棄されたものと考えられる。

所見 規模と形状から、貯蔵穴と考えられる。時期は、出土土器から中期後葉と考えられる



第398図 第379号土坑・出土遺物実測図

第 379 号土坑出土遺物観察表 (第 398 図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	文様の特徴ほか	出土位置	備考
1095	縄文土器	深鉢	-	(65)	(86)	長石・石英・雲母・礫	靑	普通	縦位の栴檀文 下部横方向のナツ 底面ノ字が繁	底面	10%
1096	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	にぶい赤褐	普通	1) 胎土沈澱が一面 隆帯による区画文 区画内半部縄文LR (横) 胴部は同一単位による縦横文 3本の沈澱を垂下 沈澱間隙消	底面	
1097	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母・赤色粒子	にぶい赤褐	普通	胎文に草胎縄文RL (縦) 3本の沈澱を垂下 沈澱間隙消	覆土下層	
1098	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	明赤褐	普通	胎文に草胎縄文RL (縦) 2本の浅い沈澱を垂下 沈澱間隙消	覆土下層	

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	胎土	色調	特徴	出土位置	備考
DI96	土部片断	2.9	3.1	0.9	11.3	長石・石英・雲母	靑	胴部片 両端にキザミ目 樹線部研削	覆土中	

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
Q 203	砥石	8.3	5.4	1.6	71.5	砂岩	片面に自然面 多方向からの砥面をもつ 部分的に曲面状の砥面	覆土下層	

第 380 号土坑 (第 399 図 PL65)

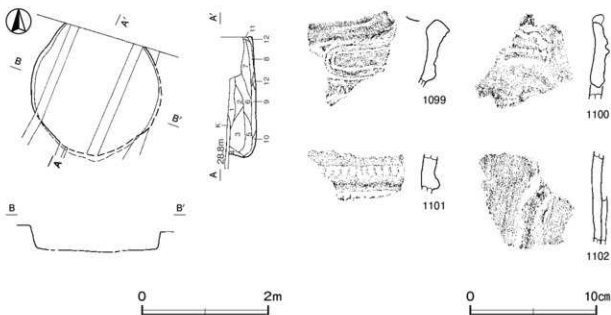
位置 調査区北部中央の C 3 c0 区。標高 29 m ほどの台地平坦部に位置している。

規模と形状 北部が調査区域外へ延びているが、開口部は径 2.08 ~ 2.20 m の円形と推定できる。底面は、径 1.96 ~ 2.08 m の円形と推定でき、平坦である。確認面からの深さは 43 cm で、南壁はやや内凹して、袋状を呈し、その他はほぼ直立している。

覆土 12 層に分層できる。各層にロームのブロックや粒子が含まれていることから、埋め戻されている。

土層解説

- |                              |                     |
|------------------------------|---------------------|
| 1 黒 褐色 ロームブロック少量、炭化粒子微量      | 7 褐 褐色 ローム粒子中量      |
| 2 黒 褐色 ローム粒子多量、炭化粒子微量        | 8 黒 褐色 ローム粒子中量      |
| 3 黒 褐色 ローム粒子多量、炭化粒子少量、焼土粒子微量 | 9 黒 褐色 ロームブロック少量    |
| 4 暗 褐色 ローム粒子少量               | 10 黒 褐色 ロームブロック微量   |
| 5 暗 褐色 ローム粒子中量               | 11 暗 褐色 ロームブロック微量   |
| 6 黒 褐色 ローム粒子多量               | 12 にぶい黄褐色 ロームブロック中量 |



第 399 図 第 380 号土坑・出土遺物実測図



**遺物出土状況** 縄文土器片 134 点（深鉢 133, 浅鉢 1）、石器 2 点（敲石、砥石）、石核 1 点（瑪瑙）が出土している。1099～1102 は覆土中から出土している。いずれも埋め戻す過程で投棄されたものと考えられる。

**所見** 規模と形状から、貯蔵穴と考えられる。時期は、出土土器から中期前葉と考えられる。

### 第 380 号土坑出土遺物観察表（第 399 図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	文様の特徴はか	出土位置	備考
1099	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母・緑泥	黒褐色	普通	流状口縁 内面に段 口部部底面三角形の隆帯がある 隆帯上にキザミ目 横内区画内 2 本の有筋沈線	覆土中	
1100	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母・緑泥	暗褐色	普通	板状把手 頂部に凹み 中央部に 2 本の凹形穿孔 隆帯上有筋沈線	覆土中	
1101	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母・緑泥	灰褐色	普通	溝線状隆帯が一高 隆帯に沿って幅状の有筋沈線	覆土中	
1102	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母・緑泥	いぶき色	普通	溝線状の蛇行隆帯が低下 外面部方向のナデ	覆土中	

### 第 383 号土坑（第 400 図）

**位置** 調査区北西部の C 2 a5 区。標高 29 m ほどの台地平坦部に位置している。

**重複関係** 第 5 号竪穴建物跡を掘り込み、第 395 号土坑に掘り込まれている。

**規模と形状** 径 1.82～1.94 m のほぼ円形である。底面は平坦で、深さは 68 cm である。壁はほぼ直立している。

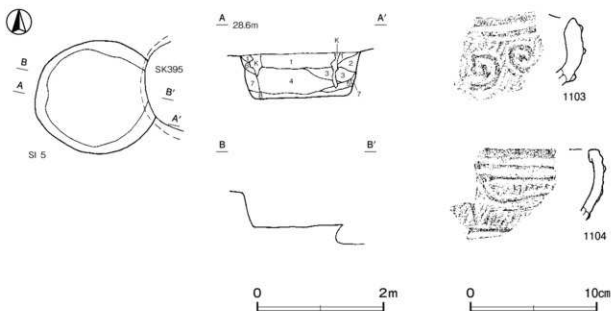
**覆土** 8 層に分層できる。各層にロームブロックが含まれており、不規則な堆積状況から、埋め戻されている。

#### 土層解説

- |       |                         |       |                       |
|-------|-------------------------|-------|-----------------------|
| 1 暗褐色 | ロームブロック少量、焼土粒子・炭化粒子微量   | 5 暗褐色 | ロームブロック中量、焼土粒子・炭化粒子微量 |
| 2 褐色  | ロームブロック少量、焼土粒子・炭化粒子微量   | 6 暗褐色 | ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子微量   |
| 3 暗褐色 | ロームブロック中量、焼土粒子少量、炭化粒子微量 | 7 暗褐色 | ロームブロック中量、炭化粒子微量      |
| 4 褐色  | ロームブロック中量、焼土粒子・炭化粒子微量   | 8 褐色  | ロームブロック中量、焼土粒子・炭化粒子少量 |

**遺物出土状況** 縄文土器片 75 点（深鉢 72, 浅鉢 3）、剥片 1 点（瑪瑙）が出土している。1103・1104 は覆土中から出土している。いずれも埋め戻す過程で投棄されたものと考えられる。

**所見** 規模と形状から、貯蔵穴と考えられる。時期は、出土土器から中期中葉と考えられる。



第 400 図 第 383 号土坑・出土遺物実測図

第 383 号土坑出土遺物観察表 (第 400 図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	文様の特徴ほか	出土位置	備考
1105	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母・赤色粒子・細砂	にぶい橙	普通	口縁上部に深帯が二重 縄文に単純縄文 R.L. (縦) 隆帯による褐色文帯付	覆土中	
1104	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母・赤色粒子	にぶい橙	普通	口縁内側に粘土胎付による段 地文に単純縄文 R.L. (縦) 2 条の隆帯により文様隆帯	覆土中	

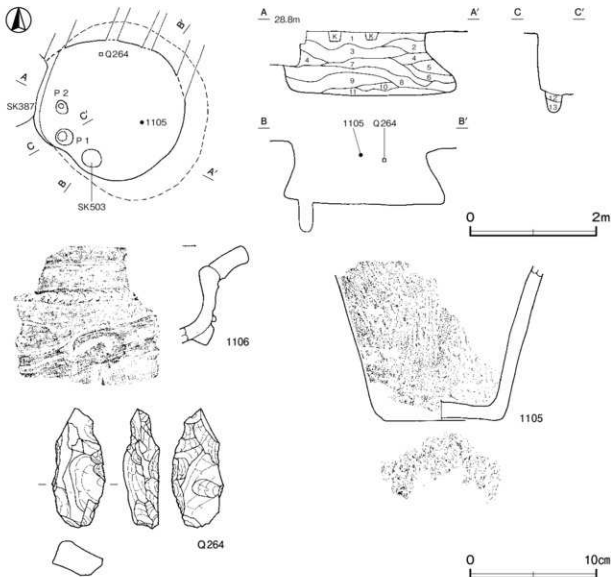
第 386 号土坑 (第 401 図)

位置 調査区西部の C 2 d0 区, 標高 29 m ほどの台地平坦部に位置している。

重複関係 第 387・503 号土坑に掘り込まれている。

規模と形状 開口部は長径 2.43 m, 短径 2.15 m の楕円形で, 長径方向は N-63°-W である。底面は径 2.50 ~ 2.65 m の円形で, 平坦である。確認面からの深さは 98 cm で, 壁は内増して, 袋状を呈している。

ピット 2 か所。P 1 は, 南西部に位置し, 径 30 cm の円形で, 深さ 30 cm である。位置と形状から柱穴と考えられる。P 2 は西部に位置し, 径 20 cm の円形で, 浅い凹み状を呈している。性格は不明である。



第 401 図 第 386 号土坑・出土遺物実測図

**覆土** 11層に分層できる。各層にロームブロックが多く含まれていることから、埋め戻されている。第12・13層は、P1の覆土である。

## 土層解説

1	暗褐色	ロームブロック・炭化粒子少量、焼土粒子微量	8	暗褐色	ロームブロック中量、炭化粒子少量、焼土ブロック微量
2	暗褐色	ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子少量	9	褐色	ロームブロック多量
3	黒褐色	ロームブロック中量、焼土粒子・炭化粒子少量	10	黒褐色	ロームブロック中量、炭化粒子少量、焼土粒子微量
4	暗褐色	ロームブロック中量、焼土粒子・炭化粒子少量	11	暗褐色	ロームブロック少量、焼土粒子・炭化粒子微量
5	暗褐色	ロームブロック中量	12	褐色	ローム粒子中量
6	暗褐色	ロームブロック中量、炭化物微量	13	褐色	ローム粒子多量
7	暗褐色	ロームブロック中量、炭化粒子少量、焼土粒子微量			

**遺物出土状況** 縄文土器片 231点（深鉢230、浅鉢1）、石器1点（打製石斧）、石核1点（粘板岩）、剥片2点（石英、チャート）が出土している。1105、Q264は覆土上層から、1106は覆土中から出土している。ある程度埋め戻された段階で投棄されたものと考えられる。

**所見** 規模と形状から、柱穴と考えられるピットを有する袋状の貯蔵穴と考えられる。時期は、出土土器から中期中葉と考えられる。

## 第386号土坑出土遺物観察表（第401図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	文様の特徴ほか	出土位置	備考
1105	縄文土器	深鉢	-	(123)	9.5	灰石・石英・雲母	にぶい赤褐色	普通	地文に無筋縄文L（斜・縦）下縁部横方向のナデ	覆土上層	20%
1106	縄文土器	浅鉢	-	-	-	長石・石英・雲母・黒色粒子	黒褐色	普通	口縁部での字状に外反、外反部と内反部の間が一直線、幅広の袋帯給付、袋帯に比類できる巻文、外面横方向の溝あり	覆土中	

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
Q264	石核	9.5	4.2	2.9	108.4	粘板岩	割縁部を敲打	覆土上層	未成品。

## 第387号土坑（第402・403図）

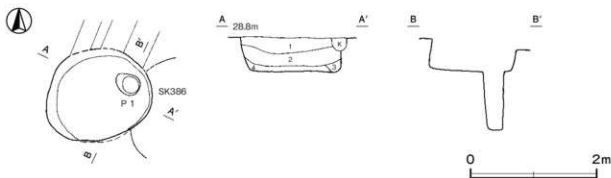
**位置** 調査区西部のC2d9区、標高29mほどの台地平坦部に位置している。

**重複関係** 第386号土坑を掘り込んでいる。

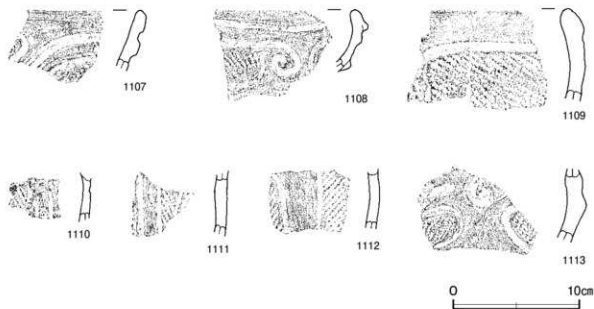
**規模と形状** 開口部は長径1.66m、短径1.44mの楕円形で、長径方向はN-62°-Eである。底面は平坦で、深さは52cmである。壁は南部がやや内傾しており、その他はほぼ直立している。

**ピット** 北東壁寄りに位置し、径30cmの円形で、深さ95cmである。

**覆土** 4層に分層できる。各層にロームブロックが含まれていることから、埋め戻されている。



第402図 第387号土坑実測図



第 403 図 第 387 号土坑出土遺物実測図

土層解説

- 1 暗褐色 ロームブロック少量、焼土粒子・炭化粒子微量 3 暗褐色 ロームブロック少量  
 2 暗褐色 ロームブロック中量、炭化粒子少量、焼土粒子微量 4 暗褐色 ロームブロック少量、炭化粒子微量

遺物出土状況 縄文土器片 67 点（深鉢）、石器 1 点（磨製石斧）が出土している。1107～1113 は覆土中から出土している。いずれも埋め戻す過程で投棄されたものと考えられる。

所見 規模と形状から、貯蔵穴と考えられる。時期は、出土土器から中期後葉と考えられる。

第 387 号土坑出土遺物観察表（第 403 図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	文様の特徴ほか	出土位置	備考
1107	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	にぶい橙	普通	極太の沈線により文様盛面	覆土中	
1108	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	にぶい赤黄	普通	口唇部内側 頸部に沈線が一部 沈線による渦巻文（区画内単節縄文）（縦）	覆土中	
1109	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	にぶい黄	良好	口唇部肥厚 肥厚部細文 地文に単節縄文（縦） 太沈線による横円区画	覆土中	
1110	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	にぶい橙	普通	地文に単節縄文（縦） 沈線による縦位の横円区画（区画内単節文）	覆土中	
1111	縄文土器	深鉢	-	-	-	石英・雲母	にぶい橙	良好	地文に単節縄文（縦） 2本の並行沈線が直下沈線間並置	覆土中	
1112	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・黒色粒子	にぶい橙	良好	地文に単節縄文（縦） 開溝を隔けた沈線が直下 沈線間並置	覆土中	
1113	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	黒黄	普通	波状口縁 太沈線による渦巻文・横円区画（区画内単節縄文）（縦）	覆土中	

第 388 号土坑（第 404 図）

位置 調査区西部の C 2c0 区、標高 29 m ほどの台地平坦部に位置している。

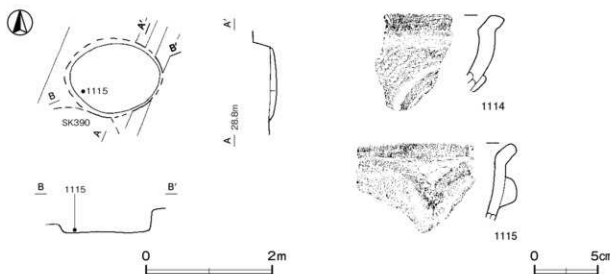
重複関係 第 390 号土坑を掘り込んでいる。

規模と形状 長径 1.55 m、短径 1.26 m の楕円形で、長径方向は N-74°-E である。底面はほぼ平坦で、深さは 35 cm である。壁はほぼ直立している。

覆土 層厚が薄いため、堆積状況は不明である。

土層解説

- 1 褐色 ロームブロック・焼土粒子少量



第404図 第388号土坑・出土遺物実測図

**遺物出土状況** 縄文土器片7点(深鉢)、剥片1点(粘板岩)が出土している。1115は南西部の底面、1114は覆土中からそれぞれ出土している。いずれも埋め戻す過程で投棄されたものと考えられる。

**所見** 規模と形状から、貯蔵穴と考えられる。時期は、出土土器から中期中葉と考えられる。

第388号土坑出土遺物観察表(第404図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	文様の特徴ほか	出土位置	備考
1114	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母・燧石	明赤褐	普通	口唇部内側S 頂部は平担 地文に単節縄文RL(縦) 隆帯先出により文様断西	覆土中	
1115	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母・燧石	明赤褐	普通	無文 口唇部くの字状に外反 隆帯をV字状に	底面	

## 第390号土坑(第405図 PL65)

**位置** 調査区西部のC2d9区、標高29mほどの台地平坦部に位置している。

**重複関係** 第389号土坑を掘り込み、第388号土坑に掘り込まれている。

**規模と形状** 径1.63~1.75mのほぼ円形で、底面は皿状である。深さは32cmで、壁はほぼ直立している。

**ピット** 2か所。P1は長径40cm、短径32cmの楕円形で、深さ114cmである。規模と配置から柱穴と考えられる。

P2は長径70cm、短径58cmの楕円形で、深さ50cmである。補助的な貯蔵施設と考えられる。

## P1土層解説

- 1 褐 色 ロームブロック少量
- 2 黒 褐色 ロームブロック少量

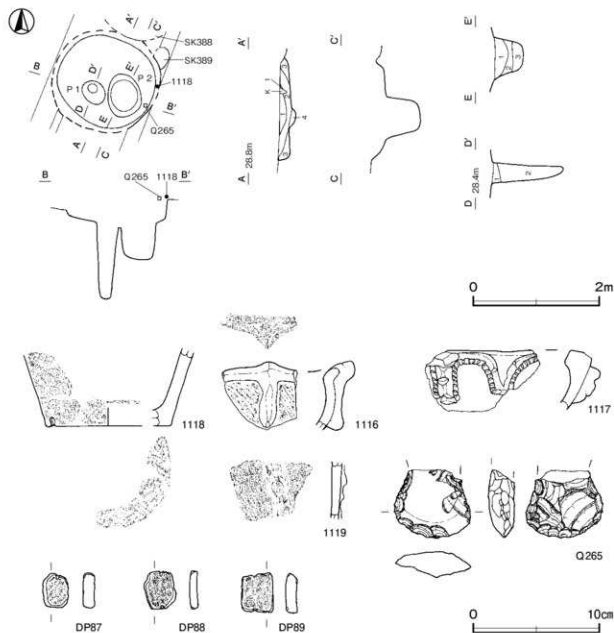
## P2土層解説

- 1 黒 褐色 ローム粒子少量、焼土粒子・炭化粒子微量
- 2 黒 褐色 ロームブロック少量、炭化粒子微量
- 3 暗 褐色 ロームブロック少量

**覆土** 4層に分層できる。周囲からの流入による堆積状況を示していることから、自然堆積と考えられる。

## 土層解説

- 1 暗 褐色 炭化粒子少量
- 2 暗 褐色 焼土粒子・炭化粒子少量
- 3 暗 褐色 ローム粒子少量、焼土粒子微量
- 4 暗 褐色 ロームブロック少量



第405図 第390号土坑・出土遺物実測図

**遺物出土状況** 縄文土器片 131点（深鉢127、浅鉢4）、土製品3点（土器片錘）、石器3点（打製石斧、磨石、敲石）、石核1点（瑪瑙）が出土している。1118、Q265は覆土上層から、1116・1117・1119、DP87～DP89は覆土中から出土している。いずれも埋没過程で投棄されたものと考えられる。

**所見** 規模と形状から、貯蔵穴と考えられる。時期は、出土土器から中期前葉と考えられる。

第390号土坑出土遺物観察表（第405図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	文様の特徴ほか	出土位置	備考
1116	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・赤色 砂子	にぶい赤褐色	良軒	口唇部に突起、頸部から胴端を隔み上げた横帯が皮下、地文に無筋縄文L（縦）内面横方向の磨き 土質部平坦、縦長の前面三角形の縄本状隆帯最付隆帯による平角凹区画、隆帯に沿って有筋此線多筋文	覆土中	
1117	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	にぶい褐色	普通		覆土中	

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	発成	文様の特徴ほか	出土位置	備考
1118	縄文土器	深鉢	-	(6.2)	[100]	長石・石英	明赤褐	普通	無文 外・内面横方向のナナ	底部網代肌	覆土上層
1119	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・赤色 粒子・黒色粒子	黒褐	普通	無文 隆帯が浅く 隆帯上に指痕による圧痕文		覆土中

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	胎土	色調	特徴		出土位置	備考
DP87	土器片継	2.7	2.0	0.9	7.1	長石・石英・雲母・ 障子	靑灰色	胴部片	一端にキザミ目 短縁部研削	覆土中	未成品。
DP88	土器片継	3.0	2.6	0.6	5.5	雲母	にぶい赤褐	胴部片	両端にキザミ目 短縁部粗面に研削	覆土中	
DP89	土器片継	3.1	2.6	0.9	9.7	長石・雲母	灰褐	胴部片	両端に浅いキザミ目	覆土中	未成品。

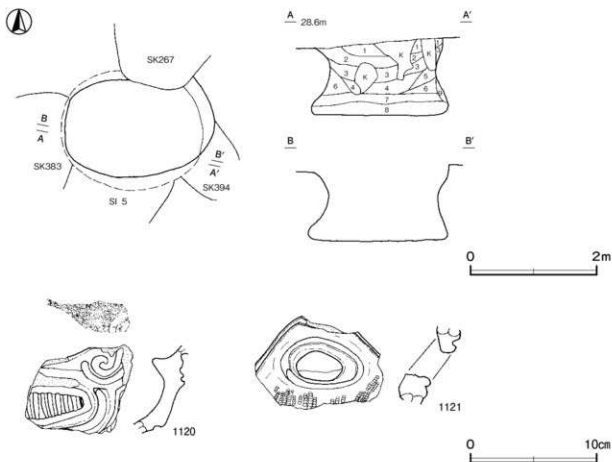
番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴		出土位置	備考
Q265	打製石斧	(5.5)	6.2	2.0	(79.3)	ホルンフェルス	分層形	片側に自然面 短縁部表裏を敲打 片対部欠損	覆土上層	

## 第395号土坑 (第406図 PL65)

位置 調査区北西部のC2a5区、標高29mほどの台地平坦部に位置している。

重複関係 第5号竪穴建物跡、第383・394号土坑を掘り込み、第267号土坑に掘り込まれている。

規模と形状 開口部は長径2.40m、短径1.55mの楕円形で、長径方向はN-86°-Eである。底面は長径2.25m、短径1.90mの楕円形で、ほぼ平坦である。確認面からの深さは122cmである。壁は内髷して、袋状を呈している。



第406図 第395号土坑・出土遺物実測図

**覆土** 9層に分層できる。各層に多量のロームブロックや炭化粒子、焼土粒子が含まれていることから、埋め戻されている。

**土層解説**

1	暗褐色	ローム粒子少量、焼土粒子・炭化粒子微量	6	暗褐色	ローム粒子多量、炭化粒子少量、焼土ブロック微量
2	暗褐色	ロームブロック・炭化粒子少量、焼土粒子微量	7	褐色	ローム粒子多量、炭化粒子少量、焼土粒子微量
3	暗褐色	ロームブロック・炭化粒子中量、焼土粒子少量	8	褐色	ロームブロック多量、炭化粒子少量
4	黒褐色	ローム粒子多量、炭化粒子中量、焼土粒子微量	9	褐色	ロームブロック多量
5	暗褐色	ロームブロック中量、炭化粒子少量、焼土粒子微量			

**遺物出土状況** 縄文土器片 86点（深鉢）、石器1点（磨石）、剥片1点（チャート）が出土している。1120、1121は覆土中から出土している。いずれも埋め戻す過程で投棄されたものと考えられる。

**所見** 規模と形状から、袋状を呈する貯蔵穴と考えられる。時期は、出土土器から中期中葉と考えられる。

**第395号土坑出土遺物観察表（第406図）**

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	文様の特徴ほか	出土位置	備考
1120	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母・磁鉄	灰褐色	普通	袋状口縁、袋底部下に透窓文、狭い袋帯と太沈線による区画、区画内編位の太沈線で光造	覆土中	
1121	縄文土器	深鉢	-	(7.5)	-	長石・石英	暗赤褐色	普通	袋状口縁、袋底部中央に穿孔、洞部及び穿孔に沿って太沈線を巡らす、地文に単線透孔文(横)	覆土中	

**第398号土坑（第407・408図）**

**位置** 調査区西部のC2d4区、標高28mほどの台地平坦部に位置している。

**重複関係** 第396・641号土坑に掘り込まれている。

**規模と形状** 開口部は東部と西部が第396・641号土坑に掘り込まれているため、南北径1.82mで、東西径は1.45mしか確認できなかった。円形または楕円形と推定できる。底面は径2.10～2.20mの円形で、平坦である。確認面からの深さは120cmで、壁は内巻して、袋状を呈している。

**覆土** 16層に分層できる。各層にロームブロックが多く含まれていることから、埋め戻されている。

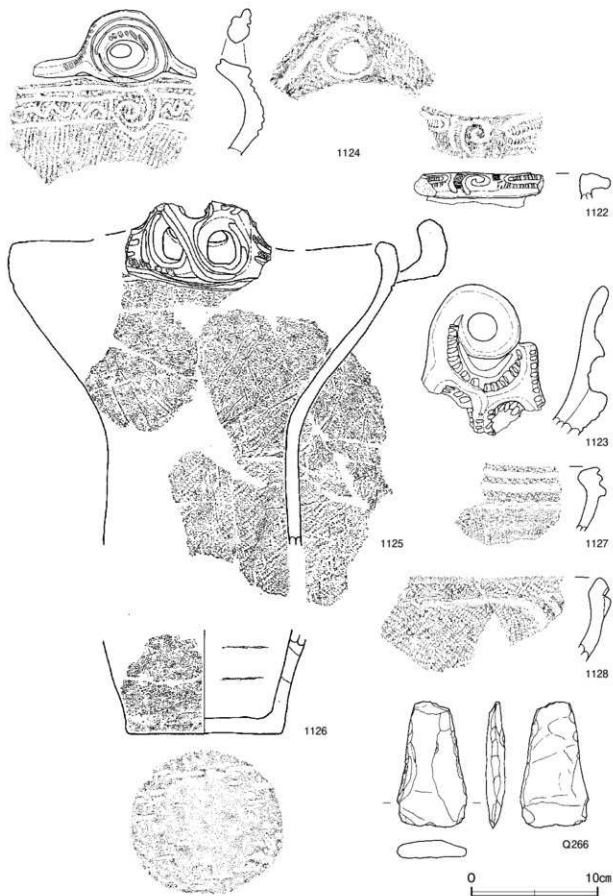
**土層解説**

1	黒褐色	ロームブロック中量、焼土粒子少量、炭化粒子微量	9	暗褐色	ロームブロック中量、焼土粒子少量、炭化粒子微量
2	暗赤褐色	焼土ブロック中量、ロームブロック・炭化粒子少量	10	褐色	ローム粒子多量、焼土粒子・炭化粒子少量
3	暗褐色	ローム粒子・焼土粒子少量、炭化粒子微量	11	褐色	ローム粒子多量、焼土粒子・炭化粒子微量
4	暗褐色	ローム粒子多量、炭化粒子少量、焼土粒子微量	12	褐色	ロームブロック多量、炭化粒子微量
5	暗褐色	ローム粒子多量、焼土粒子・炭化粒子微量	13	褐色	ローム粒子多量、焼土粒子中量、炭化粒子微量
6	暗褐色	ロームブロック中量、焼土粒子・炭化粒子少量	14	褐色	ローム粒子多量、炭化粒子微量
7	暗褐色	ロームブロック中量、焼土粒子少量、炭化粒子微量	15	暗褐色	ローム粒子多量、炭化粒子微量
8	暗褐色	ロームブロック中量、焼土粒子・炭化粒子微量	16	褐色	ロームブロック多量



第407図 第398号土坑実測図





第408圖 第398号土坑出土遺物実測図

遺物出土状況 縄文土器片 55 点（深鉢 54、浅鉢 1）、石器 2 点（打製石斧、磨石）が出土している。1123～1126、Q 266 は、いずれも覆土上層から出土している。ある程度埋め戻された段階で、一括投棄されたものと考えられる。1122・1127・1128 は、覆土中から出土している。

所見 規模と形状から、袋状を呈する貯蔵穴と考えられる。時期は、出土土器から中期中葉と考えられる。

第 398 号土坑出土遺物観察表（第 408 図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	文様の特徴ほか	出土位置	備考
1122	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母・赤色粒子・細塵	にぶい赤黄	普通	口唇部花状に隆帯を帯びし平頭面を有す。平頭面に太化線になる横内区画と渦巻文（区画に沿って高低差を為す）	覆土中	
1123	縄文土器	深鉢	-	(120)	-	長石・石英・雲母・黒色粒子・細塵	にぶい橙	良好	板状把手。横状の隆帯による渦巻文。隆帯に沿って順位の有給沈線	覆土上層	
1124	縄文土器	深鉢	-	(126)	-	長石・石英・雲母・赤色粒子・黒色粒子	にぶい黄橙	良好	帯状の把手。把手外・内面穿孔に沿って 1～2 本の沈線。口唇部平頭。把手をはさみ単脚縄文。丸（横）と沈線。把手下に横位の沈線と流紋文。渦巻文。渦文は同一単位による縦筋文。中央部把手・把手部は各方向からの流紋文。流紋文に沿って 1～2 本の沈線。口唇部 3 本の沈線を添いし沈線上に単脚縄文。丸（横）側部は結節縄文。丸（縦）を間隔を帯びて渦文	覆土上層	10% PL141
1125	縄文土器	深鉢	(28.0)	(27.3)	-	長石・石英・雲母・細塵	にぶい赤黄	良好	解文。外面横方向のナデ。内面縦方向のナデ。底面に横代痕	覆土上層	30% PL141
1126	縄文土器	深鉢	-	(8.3)	12.0	長石・石英・雲母	橙	普通	口唇部内側。3 本の隆帯が高る。隆帯上に単脚縄文。丸（横）。脚部同一単位をまばらに渦巻文	覆土上層	10%
1127	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母・黒色粒子・細塵	明赤黄	良好	口唇部肥厚。肥厚部から V 字状隆帯帯付。肥厚部・隆帯上単脚縄文。丸（横）。肥厚部下（縦）で流紋横筋	覆土中	
1128	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母・赤色粒子・黒色粒子	にぶい赤黄	良好		覆土中	

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
Q 266	打製石斧	10.1	5.5	1.6	106.6	粘板岩	磨料。刃縁部微細な縁打調整。刃部は表面から研磨。使用痕	覆土上層	PL165 裏側

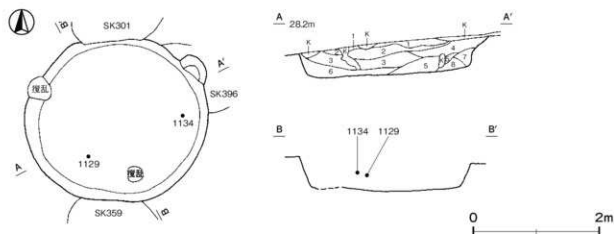
### 第 399 号土坑（第 409・410 図 PL66）

位置 調査区西部の C 2d3 区、標高 28 m ほどの台地平坦部に位置している。

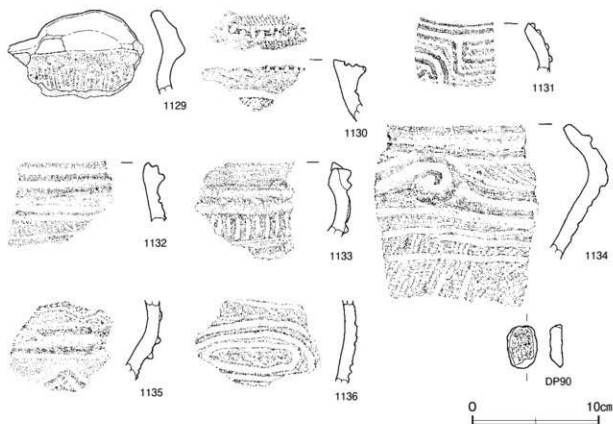
重複関係 第 359・396 号土坑を掘り込み、第 301 号土坑に掘り込まれている。

規模と形状 径 2.67～2.92 m の円形で、北東部に幅 55cm、奥行 25cm ほどの張り出し部がある。底面はほぼ平坦で、深さは 52cm である。壁は外傾している。

覆土 8 層に分層できる。各層にロームブロックが含まれており、不規則な堆積状況から、埋め戻されている。



第 409 図 第 399 号土坑実測図



第410図 第399号土坑出土遺物実測図

## 土層解説

- |                        |                      |
|------------------------|----------------------|
| 1 暗褐色 ローム粒子少量          | 5 暗褐色 ローム粒子多量、炭化粒子微量 |
| 2 褐色 ロームブロック中量         | 6 暗褐色 ロームブロック多量      |
| 3 暗褐色 ロームブロック中量、炭化粒子微量 | 7 暗褐色 ロームブロック中量      |
| 4 暗褐色 ローム粒子多量          | 8 暗褐色 ロームブロック少量      |

遺物出土状況 縄文土器片 239点（深鉢233, 浅鉢6）, 土製品1点（土器片鉢）, 剥片4点（チャート1, 砂岩2, 粘板岩1）が出土している。1129・1134は覆土中層から, 1130～1133・1135・1136, DP90は覆土中から出土している。いずれも埋め戻す過程で投棄されたものと考えられる。

所見 規模と形状から, 貯蔵穴と考えられる。時期は, 出土土器から中期中葉と考えられる。

第399号土坑出土遺物観察表（第410図）

番号	類別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	文様の特徴ほか	出土位置	備考
1129	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母・黒曜	にぶい赤褐色	普通	溝状口縁 肩部内彎 □唇頂部平坦 地文に手絞片苔による縦位の条線文	覆土中層	
1130	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母・黒色粒子	にぶい橙	良好	□唇頂部平坦 平坦面に単節縄文LR（縦）□唇端部凹溝・肩帯による刺突 並行沈線を描らせ交り刺突による波状文	覆土中	
1131	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	にぶい黄褐色	普通	□唇部内弯 □唇頂部に細沈線が一定 地文に単節縄文LR（縦）肩隆帯による区画文	覆土中	
1132	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	にぶい橙	普通	唇部内彎帯が一定 地文に単節縄文LR（横）横位の沈線が弱る	覆土中	
1133	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母・黒色粒子	灰黒褐色	普通	□唇内彎に鋭 頂部平坦 横位の並行沈線を描らせ文様を区画 区画内縦位の沈線を定規	覆土中	
1134	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	にぶい赤褐色	普通	□唇部内彎 肩帯による区画文・高条文 区画内単節縄文LR（横）頂部に横位の沈線を数条並らし区画 縦位は同一層位による横筋文	覆土中層	PL141
1135	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・赤色粒子	橙	普通	隆帯により横位の文様描画 地文に単節縄文LR（横）手絞片苔による縦行条線が弱る	覆土中	
1136	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・赤色粒子・黒色粒子	にぶい黄	普通	地文に単節縄文LR（縦）を長く横文 沈線による横筋四文	覆土中	

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	胎土	色調	特徴	出土位置	備考
DP90	土器片	3.4	2.3	1.0	9.5	長石・石英・雲母	暗褐色	胴部片 一端にキザミ目 片断縁を粗雑に研磨	覆土中	未成品。

### 第401号土坑（第411～413図）

**位置** 調査区北部中央のC.4cl区、標高29mほどの台地平坦部に位置している。

**重複関係** 第481号土坑を掘り込んでいる。

**規模と形状** 北部が調査区域外へ延びているため、開口部は東西径が2.29m、南北径が1.62mしか確認できなかった。円形または楕円形と推定できる。底面は、東西径が2.15m、南北径が1.59mしか確認できなかった。円形または楕円形と推定でき、平坦である。確認面からの深さは85cmである。壁は内罅して、袋状を呈している。  
**ピット** 3か所。南西部に集中している。いずれも径30cm程度の円形で、深さはP1が32cm、P2・P3が8cm・10cmである。補助的な貯蔵施設と考えられる。

#### ピット土層解説

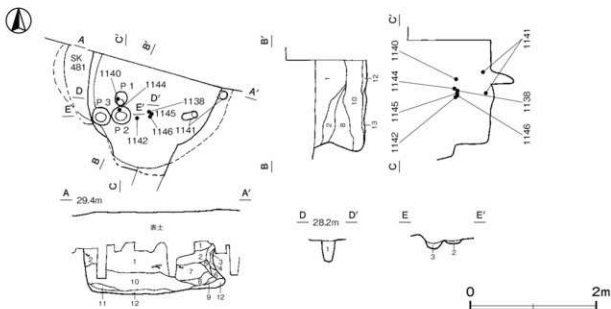
- |                 |               |
|-----------------|---------------|
| 1 黒褐色 ロームブロック中量 | 3 暗褐色 ローム粒子少量 |
| 2 暗褐色 ロームブロック少量 |               |

**覆土** 13層に分層できる。ロームブロックや焼土粒子、炭化粒子が含まれていることから、埋め戻されている。

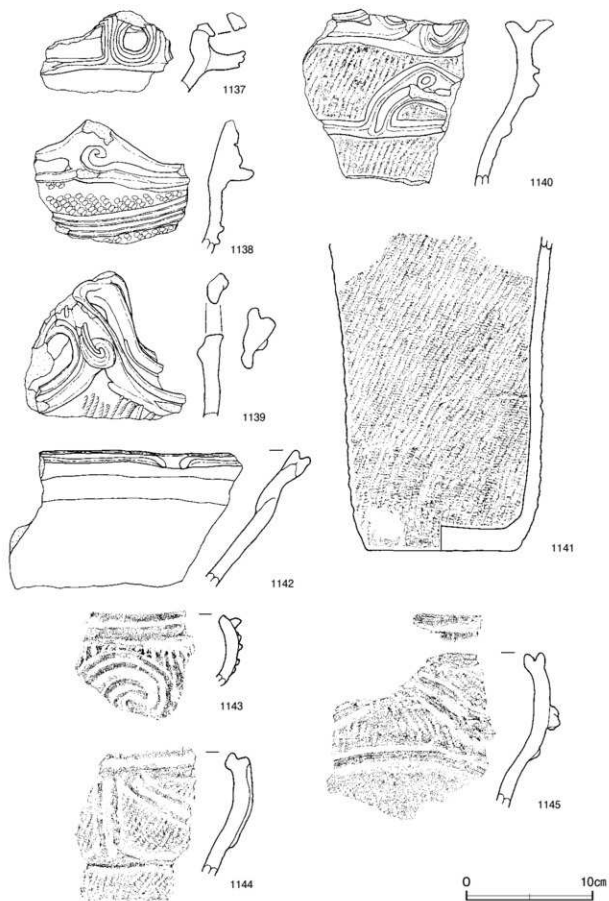
#### 土層解説

- |                      |                         |
|----------------------|-------------------------|
| 1 黒褐色 ローム粒子中量、炭化粒子少量 | 8 黒褐色 ローム粒子少量、焼土粒子微量    |
| 2 黒褐色 ローム粒子中量        | 9 黒褐色 ローム粒子・炭化粒子微量      |
| 3 におい黒褐色 ローム粒子少量     | 10 暗褐色 ロームブロック少量、炭化粒子微量 |
| 4 褐色 ローム粒子少量         | 11 暗褐色 ロームブロック微量        |
| 5 暗褐色 ローム粒子中量、炭化粒子微量 | 12 暗褐色 ロームブロック少量        |
| 6 暗褐色 ローム粒子微量        | 13 黒褐色 ロームブロック微量        |
| 7 黒褐色 ローム粒子微量        |                         |

**遺物出土状況** 縄文土器片178点（深鉢163、浅鉢15）が出土している。1141は覆土下層から散乱して出土した破片が接合している。1138～1140・1142・1144～1146は、覆土上層から出土している。いずれも埋め戻す過程で投棄されたものと考えられる。



第411図 第401号土坑実測図



第 412 图 第 401 号土坑出土遺物実測图 (1)



第 413 図 第 401 号土坑出土遺物実測図 (2)

所見 規模と形状から、貯蔵穴と考えられる。時期は、出土土器から中期中葉と考えられる。

第 401 号土坑出土遺物観察表 (第 412・413 図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	文様の特徴はか	出土位置	備考
1137	縄文土器	深鉢	-	(65)	-	長石・石英・雲母・赤色粒子・礫	黒褐色	良好	穿孔に沿って2~3本の沈線が通る	覆土中	
1138	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	灰褐色	普通	流注部下に渦巻文・放射状の隆帯を帯付・隆帯上に沈線を通らす。地文に単筋縄文丸(横)2条の隆帯が通る	覆土上層	
1139	縄文土器	深鉢	-	(118)	-	長石・石英・雲母・礫	黒褐色	良好	穿孔に沿って沈線が通る。地文に無筋縄文丸(横)	覆土上層	
1140	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	灰褐色	普通	中央の把手貼付。地文に単筋縄文丸(縦)・放射状隆帯を一通らせ口縁部を区画。口縁部背面に隆帯による渦巻文	覆土上層	
1141	縄文土器	深鉢	-	(249)	118	長石・石英・雲母	橙	普通	全面に0段多糸縄文丸(縦)底面丁寧な磨き	覆土下層	30% PL141
1142	縄文土器	浅鉢	-	(109)	-	長石・石英・雲母・赤色粒子・黒色粒子	灰褐色	普通	口唇頂部に沈線が一通。外・内面内方向の磨き	覆土上層	
1143	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母・礫	暗褐色	普通	口唇部隆帯が一通。口唇頂部に沈線。背面に隆帯による渦巻文。区画内縦位の沈線	覆土中	
1144	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母・礫	にがい赤褐色	普通	口唇頂部に沈線が一通。地文に附加糸縄文(縦)2条の隆帯による文様区画	覆土上層	
1145	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母・礫	にがい赤褐色	普通	口唇頂部に沈線が一通。単筋縄文丸(横)を施す。隆帯による文様区画	覆土上層	
1146	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・赤色粒子	橙	普通	口唇上部に沈線が一通。区画内単筋縄文丸(横)・隆帯による渦巻文・区画外・頂部隆帯	覆土上層	

#### 第 404 号土坑 (第 414・415 図)

位置 調査区中央部の D 3 a9 区、標高 29 m ほどの台地平坦部に位置している。

重複関係 第 405 号土坑に掘り込まれている。

規模と形状 開口部は径 1.28 ~ 1.32 m の円形である。底面は、長径 2.66 m、短径 2.30 m の楕円形で、平坦である。

確認面からの深さは 120 cm である。壁は大きく内傾して、袋状を呈している。

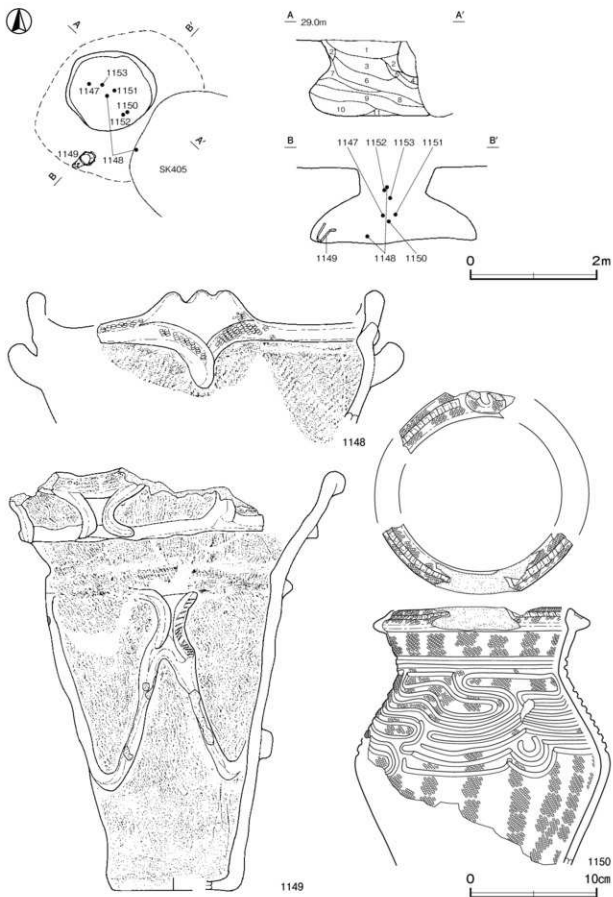
覆土 11 層に分層できる。各層にロームブロックが多く含まれていることから、埋め戻されている。

##### 土層解説

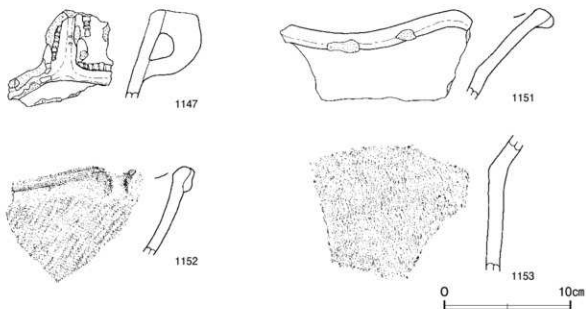
1	暗褐色	ロームブロック・炭化粒子少量、焼土ブロック微量	7	暗褐色	ロームブロック多量、焼土粒子少量
2	暗褐色	ロームブロック・炭化粒子微量	8	暗褐色	ロームブロック中量、炭化物少量、焼土粒子微量
3	暗褐色	ロームブロック中量、炭化粒子少量、焼土粒子微量	9	褐色	ロームブロック多量、炭化物少量
4	暗褐色	ロームブロック多量	10	褐色	ロームブロック多量
5	褐色	ロームブロック多量、炭化粒子微量	11	暗褐色	ロームブロック多量、炭化粒子微量
6	暗褐色	ローム粒子多量、炭化粒子中量、焼土ブロック微量			

遺物出土状況 縄文土器片 135 点 (深鉢 126、浅鉢 8、壺 1)、剥片 4 点 (瑪瑙 3、石英 1)、石核 1 点 (瑪瑙) が出土している。1149 は南壁際底面から正位の状態でも出土している。1148 は覆土上層と下層から出土した土器が接合している。1147・1150・1151 は覆土中層から、1152・1153 は覆土上層から出土している。1149 は放置されたものと考えられる。それ以外は、埋め戻す過程で投棄されたものと考えられる。

所見 規模と形状から、袋状を呈する貯蔵穴と考えられる。時期は、出土土器から中期中葉と考えられる。



第414图 第404号土坑·出土物实测图



第415図 第404号土坑出土遺物実測図

第404号土坑出土遺物観察表(第414・415図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	文様の特徴ほか	出土位置	備考
1147	縄文土器	深鉢	-	(76)	-	長石・石英・雲母・赤色粒子	褐灰	普通	中央の把手、把手部頸縁及び隆帯に沿って有筋状の線	覆土中層	外・内面割線並
1148	縄文土器	深鉢	[226]	(112)	-	長石・石英・雲母	にぶい褐	普通	袋状口縁、腹面部に本字と目V字状の隆帯帯付交点部積み上げ、隆帯土卑部縄文丸(横)刷	覆土上・下層	10% PL142
1149	縄文土器	深鉢	-	332	[94]	長石・石英・雲母・網羅	にぶい赤褐	普通	袋状口縁、口縁部隆帯によるX字状文、胴部を区画し、胴部隆帯によるV字は溝、区画上部をX字状に交差、隆帯上及び区画内側面状工具による層位の表粒文、胴部下縁部4方向のナゲ	底面	70% PL142
1150	縄文土器	壺	[165]	(204)	-	長石・石英	灰褐色	普通	口唇部隆帯帯付による交差、単部縄文上段(横)、部分的に有筋状隆、地文に同一原体(縦)製法隆帯による隆帯の透水文	覆土中層	60% PL142 二次焼成が著しい
1151	縄文土器	浅鉢	-	-	-	長石・石英・赤色粒子・網羅	明赤褐	良好	袋状口縁、口唇部平部で肥厚、内側に縦い段外・内面横方向の磨き	覆土中層	
1152	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	にぶい褐	普通	口唇内側に段、口唇部外段、X字状に隆帯帯付地文に単部縄文LR(横)	覆土上層	
1153	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母・赤色粒子・黒色粒子	黒褐	普通	胴部くの字状に外反、12本単位の櫛歯状工具による層位の表粒文	覆土上層	

### 第405号土坑(第416図 PL67)

位置 調査区中央部のD3a0区、標高29mほどの台地平坦部に位置している。

重複関係 第404号土坑を掘り込んでいる。

規模と形状 長径280m、短径227mの楕円形で、長径方向はN-56°-Wである。底面は平坦で、深さは120cmである。壁は外傾している。

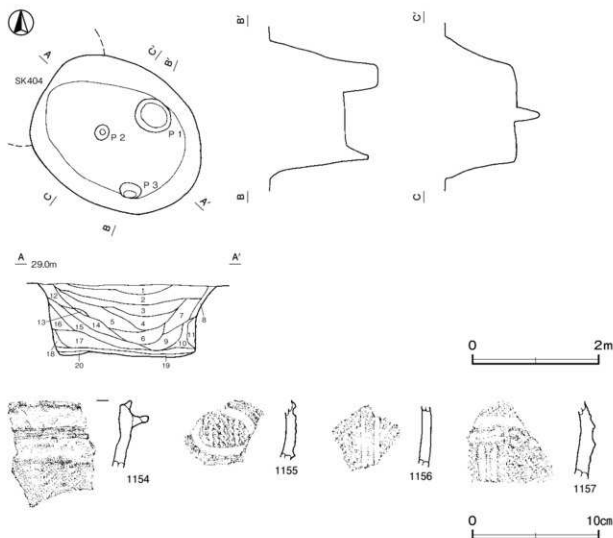
ピット 3か所。P1は北東壁際に位置し、長径60cm、短径50cmの楕円形で、深さは50cmである。P2は中央に位置し、径22cmの円形で、深さは38cmである。P3は、南壁際に位置し、長径34cm、短径20cmの楕円形で、深さは38cmである。大きさから、P1は補助的な貯蔵施設、P2・P3は柱穴と考えられる。

覆土 20層に分層できる。ロームブロック、炭化粒子、焼土粒子が含まれていることから、埋め戻されている。

#### 土層解説

1 黒褐色	ローム粒子少量、焼土粒子・炭化粒子微量	5 暗褐色	ロームブロック中量、炭化粒子微量
2 暗褐色	ロームブロック少量、焼土粒子・炭化粒子微量	6 暗褐色	ローム粒子多量、炭化粒子微量
3 暗褐色	ロームブロック中量、焼土粒子・炭化粒子微量	7 黒褐色	ロームブロック少量、炭化粒子微量
4 暗褐色	ロームブロック少量、炭化粒子微量	8 暗褐色	ロームブロック中量





第416図 第405号土坑・出土遺物実測図

9	暗褐色	ローム粒子中量, 炭化物粒子微量	15	黒褐色	ローム粒子多量, 焼土粒子・炭化物微量
10	褐色	ローム粒子多量	16	褐色	ロームブロック多量
11	褐色	ロームブロック中量	17	暗褐色	ロームブロック多量, 焼土粒子・炭化物微量
12	暗褐色	ローム粒子少量, 炭化物微量	18	暗褐色	ロームブロック多量
13	褐色	ロームブロック少量, 炭化物微量	19	暗褐色	ロームブロック少量, 炭化物微量
14	暗褐色	ロームブロック多量, 炭化物微量	20	暗褐色	ロームブロック少量

**遺物出土状況** 縄文土器片 50点(深鉢47, 浅鉢3)が出土している。1154～1157は, 覆土中から出土している。いずれも埋め戻す過程で投棄されたものと考えられる。

**所見** 規模と形状から, 貯蔵穴と考えられる。時期は, 出土土器から中期後葉と考えられる。

第405号土坑出土遺物観察表(第416図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	文様の特徴ほか	出土位置	備考
1154	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	橙	普通	口唇頂部に浅い沈線が一環。底状の隆帯を高くし, 単筋縄文(縦)を凹線を開けて施文。	覆土中	
1155	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	黒褐色	良好	隆帯と太沈線により楕円(区画)区画内縦位の凹線文を施文。	覆土中	
1156	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	灰褐色	普通	本文に単筋縄文(縦)2本の沈線を下下沈線開削済。	覆土中	
1157	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	明褐色	普通	穂苅の研究院等で口縁部を区画し単筋縄文1反(横)2反(縦)同一系体による縦施文。並行沈線を下下沈線開削済。	覆土中	

### 第409号土坑 (第417図 PL67)

**位置** 調査区北西部のC2a7区、標高28mほどの台地平坦部に位置している。

**重複関係** 第195・260号土坑に掘り込まれている。

**規模と形状** 耕作による攪乱を受けているが、開口部は径1.27～1.30mの円形と推定できる。底面は長径1.48m、短径1.16mの楕円形で、平坦である。確認面からの深さは42cmで、南壁は緩やかに内彎して、袋状を呈している。

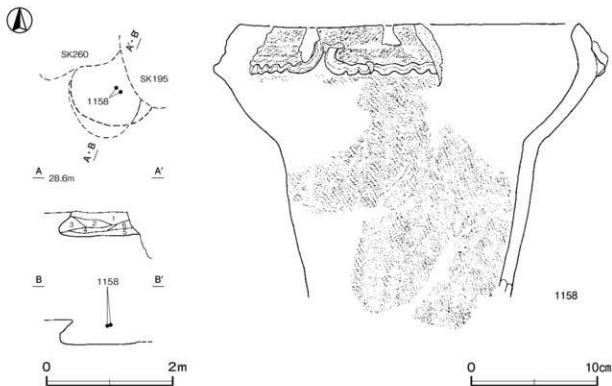
**覆土** 6層に分層できる。ロームブロック、炭化粒子、焼土粒子が含まれていることから、埋め戻されている。

#### 土層解説

- |                             |                            |
|-----------------------------|----------------------------|
| 1 暗褐色 ロームブロック中量、焼土粒子・炭化粒子微量 | 4 暗褐色 ロームブロック少量            |
| 2 暗褐色 ロームブロック・焼土粒子少量、炭化粒子微量 | 5 暗褐色 ローム粒子少量、炭化粒子微量       |
| 3 暗褐色 ロームブロック少量、炭化粒子微量      | 6 暗褐色 ロームブロック中量、焼土粒子・炭化物微量 |

**遺物出土状況** 縄文土器片4点(深鉢)が出土している。1158は、覆土上層からまともに出てきたものが接合している。第2～6層まで埋め戻した段階で、一括投棄されたものと考えられる。

**所見** 規模と形状から、袋状を呈する貯藏穴と考えられる。時期は、出土土器から中期中葉と考えられる。



第417図 第409号土坑・出土遺物実測図

### 第409号土坑出土遺物観察表 (第417図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	文様の特徴ほか	出土位置	備考
1158	縄文土器	深鉢	(27.0)	(21.6)	—	長石・石英・雲母・赤色粒子	黒褐	普通	総行投棄が一定 一部X字状に区画 口縁部草面焼文1区(横) 胴部は同一形体を側面を削って形成文	覆土上層	10% PL141

### 第414号土坑 (第418図)

**位置** 調査区中央部のC3f5区、標高29mほどの台地平坦部に位置している。

重複関係 第371号土坑を掘り込んでいる。

規模と形状 径1.06mの円形で、底面は平坦である。深さは46cmで、壁は外傾している。

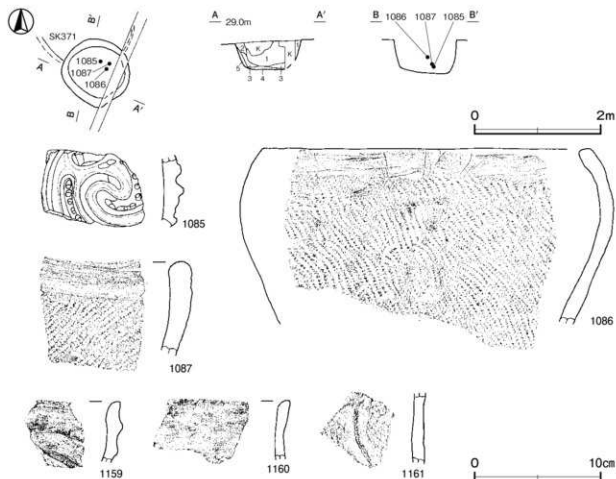
覆土 5層に分層できる。各層にロームのブロックや粒子が含まれていることから、埋め戻されている。

## 土層解説

- |       |                     |         |           |
|-------|---------------------|---------|-----------|
| 1 黒褐色 | ローム粒子多量、焼土粒子・炭化粒子微量 | 4 暗褐色   | ロームブロック微量 |
| 2 暗褐色 | ローム粒子微量             | 5 濃い黄褐色 | ロームブロック少量 |
| 3 暗褐色 | ローム粒子少量             |         |           |

遺物出土状況 縄文土器片59点(深鉢)、剥片2点(チャート)が出土している。1085～1087は、覆土中層からまとまって出土しており、埋め戻す過程で投棄されたものと考えられる。

所見 規模と形状から、貯蔵穴と考えられる。時期は、出土土器から中期後葉と考えられる。



第418図 第414号土坑・出土遺物実測図

第414号土坑出土遺物観察表(第418図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	文様の特徴ほか	出土位置	備考	
1085	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	橙	良好	陸帯により文様描画 区画内一部に刺突列	陸帯に沿って太沈線	覆土中層	
1086	縄文土器	深鉢	[260]	[140]	-	長石・石英・雲母	に濃い赤褐	普通	口縁部内側、口縁部横方向の磨き 多量緑文粒。(細)	地文にO段	覆土中層	15%
1087	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母・ 黒色粒子	に濃い橙	良好	口唇部磨き、口縁部無文、 洒下に浅い太沈線が 一部、地文に準筋縄文R(縦)		覆土中層	
1159	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・赤色 粒子	に濃い赤褐	普通	陸帯による文様描画	陸帯同磨き	覆土中	
1160	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	に濃い赤褐	普通	口縁部外反、外・内面横方向の磨き		覆土中	
1161	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・赤色 粒子	に濃い褐	普通	地文に無筋縄文R(縦)	陸帯に沿ってナゲ	覆土中	

### 第415号土坑 (第419図 PL68)

位置 調査区中央部のC37区、標高29mほどの台地平坦部に位置している。

規模と形状 径2.24～2.29mの円形で、底面は平坦である。深さは60cmである。壁は外傾している。

ピット 3か所。P1は径30cmの円形で、深さは60cmである。中央部に位置していることから、柱穴と考えられる。P2・P3は、径30cmほどの円形で、深さ15cm・20cmである。性格は不明である。

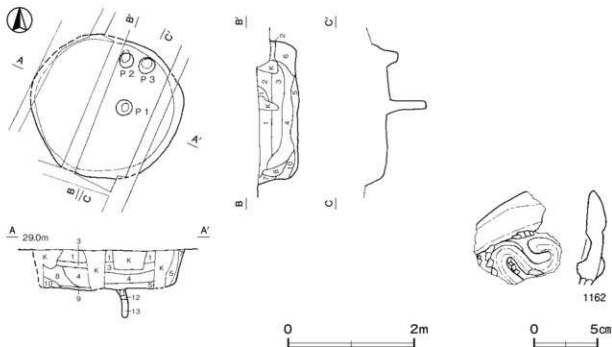
覆土 10層に分層できる。各層にロームのブロックや粒子が含まれていることから、埋め戻されている。第11～13層は、P1の覆土である。

#### 土層解説

- |        |                  |         |           |
|--------|------------------|---------|-----------|
| 1 極暗褐色 | ローム粒子中量          | 8 黒褐色   | ロームブロック少量 |
| 2 暗褐色  | ローム粒子少量          | 9 黒褐色   | ロームブロック微量 |
| 3 暗褐色  | ロームブロック少量、焼土粒子微量 | 10 黒褐色  | ローム粒子少量   |
| 4 黒褐色  | ロームブロック中量        | 11 極暗褐色 | ローム粒子少量   |
| 5 黒褐色  | ローム粒子微量          | 12 暗褐色  | ロームブロック中量 |
| 6 黒褐色  | ローム粒子中量          | 13 暗褐色  | ロームブロック少量 |
| 7 暗褐色  | ロームブロック微量        |         |           |

遺物出土状況 縄文土器片191点(深鉢190,浅鉢1),剥片2点(瑪瑙,石英),石核2点(瑪瑙)が出土している。

所見 規模と形状から、貯蔵穴と考えられる。時期は、出土土器から中期中葉と考えられる。



第419図 第415号土坑・出土遺物実測図

#### 第415号土坑出土遺物観察表 (第419図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	文様の特徴ほか	出土位置	備考
1162	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母・黒色粒子	灰黄褐色	良好	把手部周縁無文 隆帯による横S字状文 把手六體に凹み	覆土中	

## 第 424 号土坑 (第 420 図 PL68)

位置 調査区南東部のD4e3区、標高29mほどの台地平坦部に位置している。

重複関係 第428号土坑に掘り込まれている。

規模と形状 径1.40～1.50mの円形である。底面は平坦で、深さは65cmである。壁はほぼ直立している。

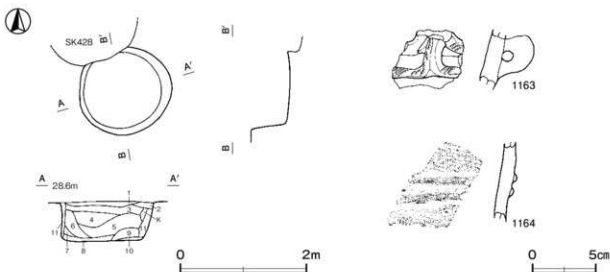
覆土 11層に分層できる。ロームブロック、炭化粒子、焼土粒子が含まれていることから、埋め戻されている。

## 土層解説

1	暗褐色	ロームブロック少量、焼土粒子・炭化粒子微量	7	暗褐色	ロームブロック少量
2	暗褐色	ロームブロック少量、炭化粒子微量	8	暗褐色	ロームブロック中量、炭化粒子微量
3	暗褐色	ローム粒子多量、炭化粒子微量	9	暗褐色	ロームブロック・炭化物中量
4	暗褐色	ローム粒子多量、焼土粒子・炭化粒子微量	10	褐色	ローム粒子多量
5	暗褐色	ロームブロック中量、炭化粒子少量、焼土粒子微量	11	褐色	ロームブロック多量
6	暗褐色	ロームブロック中量、炭化粒子少量			

遺物出土状況 縄文土器片21点(深鉢)が出土している。1163・1164は、覆土中から出土している。埋め戻す過程で投棄されたものと考えられる。

所見 規模と形状から、貯蔵穴と考えられる。時期は、出土土器から中期中葉と考えられる。



第 420 図 第 424 号土坑・出土遺物実測図

## 第 424 号土坑出土遺物観察表 (第 420 図)

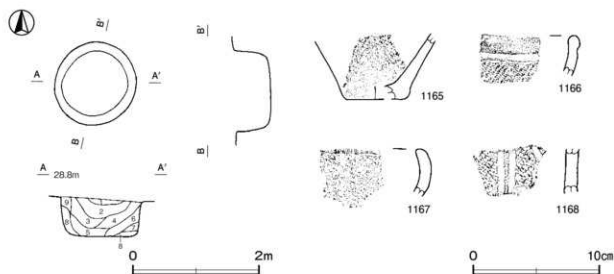
番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	文様の特徴ほか	出土位置	備考
1163	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母・ 礫	にじみ赤	普通	把手側面に無縁縄文L(横)	覆土中	
1164	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母・ 赤土粒子	灰褐色	普通	器口にO段多葉縄文L(斜)・2条の直線状縁部が施す	覆土中	

## 第 425 号土坑 (第 421 図 PL68)

位置 調査区南東部のD4d3区に、標高29mほどの台地平坦部に位置している。

規模と形状 径1.26～1.38mの円形である。底面は平坦で、深さは58cmである。壁はほぼ直立している。

覆土 9層に分層できる。各層にロームブロックが多く含まれており、焼土粒子や炭化粒子が混入していることから、埋め戻されている。



第421図 第425号土坑・出土遺物実測図

土層解説

- |                             |                        |
|-----------------------------|------------------------|
| 1 黒褐色 炭化粒子多量、ローム粒子・焼土粒子少量   | 6 暗褐色 ロームブロック中量、炭化粒子微量 |
| 2 黒褐色 ロームブロック・炭化粒子中量、焼土粒子少量 | 7 暗褐色 ロームブロック多量        |
| 3 暗褐色 ロームブロック中量、焼土粒子・炭化粒子少量 | 8 褐色 ロームブロック多量、炭化粒子微量  |
| 4 褐色 ロームブロック中量、炭化粒子微量       | 9 褐色 ロームブロック多量         |
| 5 暗褐色 ローム粒子多量               |                        |

遺物出土状況 縄文土器片 64点（深鉢）が出土している。1165～1168は、覆土中から出土している。いずれも埋め戻す過程で投棄されたものと考えられる。

所見 規模と形状から、貯蔵穴と考えられる。時期は、出土土器から中期後葉と考えられる。

第425号土坑出土遺物観察表（第421図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	文様の特徴ほか	出土位置	備考
1165	縄文土器	深鉢	-	(52)	[4]	長石・石英・雲母・ 燧石	赤褐色	普通	地文に単筋縄文RL（縦）下部斜方向のナデ 底面割代痕	覆土中	
1166	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・赤色 粒子	明赤褐色	普通	口縁部太沈線が一巡 O段多委縄文RL（縦）	覆土中	
1167	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・赤色 粒子	にぶい褐色	普通	地文に単筋縄文RL（横）	覆土中	
1168	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・燧石	灰褐色	普通	地文に単筋縄文RL（縦）2本の太沈線が垂下	覆土中	

第426号土坑（第422図 PL69）

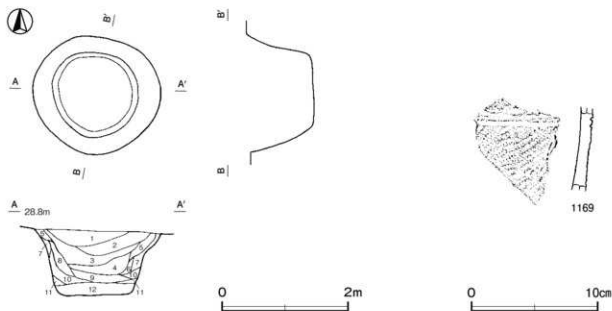
位置 調査区南東部のD4d2区、標高29mほどの台地平坦部に位置している。

規模と形状 径186～202mの円形で、底面は平坦である。深さは98cmで、壁は底面から外傾して、中位から緩やかに傾斜している。

覆土 12層に分層できる。ロームブロック、炭化粒子、焼土粒子が含まれていることから、埋め戻されている。

土層解説

- |                             |                        |
|-----------------------------|------------------------|
| 1 暗褐色 ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子少量   | 7 褐色 ロームブロック多量         |
| 2 暗褐色 ローム粒子中量、焼土ブロック・炭化物微量  | 8 暗褐色 ローム粒子多量          |
| 3 黒褐色 ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子少量   | 9 暗褐色 ロームブロック中量、焼土粒子微量 |
| 4 暗褐色 ロームブロック中量、焼土粒子・炭化粒子微量 | 10 褐色 ロームブロック多量、炭化粒子微量 |
| 5 暗褐色 ローム粒子多量、炭化粒子微量        | 11 暗褐色 ロームブロック中量       |
| 6 褐色 ローム粒子多量、炭化粒子微量         | 12 暗褐色 ローム粒子中量         |



第422図 第426号土坑・出土遺物実測図

**遺物出土状況** 縄文土器片26点(深鉢)が出土している。1169は、覆土中から出土している。埋め戻す過程で投棄されたものと考えられる。

**所見** 規模と形状から、貯蔵穴と考えられる。時期は、出土土器から中期と考えられるが、詳細は不明である。

第426号土坑出土遺物観察表(第422図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	文様の特徴ほか	出土位置	備考
1169	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	にぶい橙	普通	地文に半面縄文 RL (縦) 手載竹管による横位の文様が通る	覆土中	

## 第428号土坑(第423図)

**位置** 調査区南東部のD4e3区、標高28mほどの台地平坦部に位置している。

**重複関係** 第424号土坑を掘り込んでいる。

**規模と形状** 径1.56～1.58mの円形で、底面は平坦である。深さは78cmで、壁は直立している。

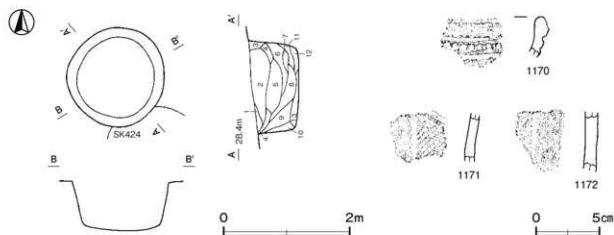
**覆土** 13層に分層できる。各層にロームのブロックや粒子が多く含まれていることから、埋め戻されている。

## 土層解説

1 暗褐色	ローム粒子少量	8 暗褐色	ロームブロック中量
2 黒褐色	ロームブロック中量、炭化粒子少量、焼土粒子微量	9 暗褐色	ロームブロック中量、炭化粒子微量
3 褐色	ローム粒子多量	10 褐色	ロームブロック中量、炭化粒子微量
4 暗褐色	ロームブロック中量、炭化粒子少量	11 褐色	ロームブロック多量
5 黒褐色	ロームブロック中量、焼土粒子・炭化粒子微量	12 黒褐色	ロームブロック中量、炭化粒子少量
6 暗褐色	ロームブロック少量、炭化粒子微量	13 暗褐色	ローム粒子多量
7 暗褐色	ロームブロック少量		

**遺物出土状況** 縄文土器片61点(深鉢)、石核1点(瑪瑙)が出土している。1170～1172は、覆土中から出土している。いずれも埋め戻す過程で投棄されたものと考えられる。

**所見** 規模と形状から、貯蔵穴と考えられる。時期は、出土土器から中期中葉と考えられる。



第 423 図 第 428 号土坑・出土遺物実測図

第 428 号土坑出土遺物観察表 (第 423 図)

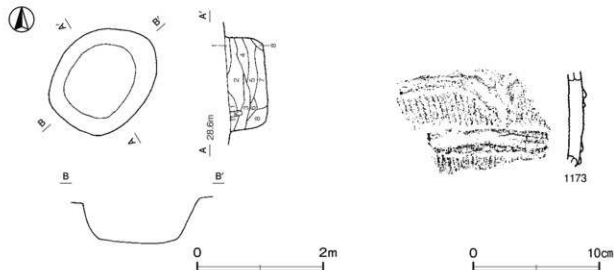
番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	地成	文様の特徴ほか	出土位置	備考
1170	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・赤色 粒子・凝塊	浅黄橙	普通	星行沈線が一定 沈線間に円形刺突が通る 地 文に縦位の帯状文	覆土中	口唇部剥落
1171	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母・ 凝塊	橙	普通	地文に星形縄文短(縦) 沈線を垂下 沈線間 普通	覆土中	
1172	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	灰黒	普通	地文に星形縄文短(横) 2本の沈線を垂下 沈線間普通	覆土中	

### 第 432 号土坑 (第 424 図)

**位置** 調査区南東部の D 4 e1 区、標高 28 m ほどの台地平坦部に位置している。

**規模と形状** 長径 182 m、短径 153 m の楕円形で、長径方向は N - 48° - E である。底面は平坦で、深さは 70cm である。壁は外傾している。

**覆土** 8 層に分層できる。各層にロームのブロックや粒子が多く含まれていることから、埋め戻されている。



第 424 図 第 432 号土坑・出土遺物実測図



## 土層解説

1	黒褐色	ローム粒子少量、炭化粒子微量	5	暗褐色	ローム粒子多量
2	暗褐色	ローム粒子中量、焼土粒子・炭化粒子微量	6	褐色	ローム粒子多量
3	褐色	ロームブロック中量	7	暗褐色	ローム粒子多量、炭化粒子微量
4	暗褐色	ロームブロック中量、炭化粒子微量	8	褐色	ロームブロック多量

遺物出土状況 縄文土器片4点(深鉢)が出土している。1173は覆土中から出土している。埋め戻す過程で投棄されたものと考えられる。

所見 規模と形状から、貯蔵穴と考えられる。時期は、出土土器から中期中葉と考えられる。

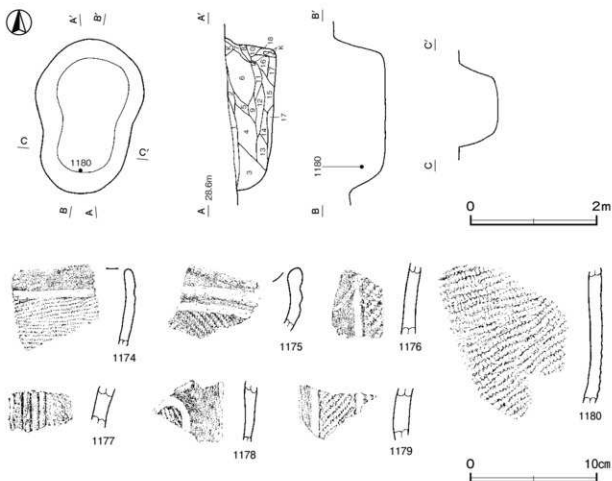
## 第432号土坑出土遺物観察表(第424図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	文様の特徴ほか	出土位置	備考
1173	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母・磁石	黒褐色	普通	0段多委縄文型(斜)を施す。2条の隆帯により区画(区画内2条の隆帯による弧線文)	覆土中	

## 第434号土坑(第425図 PL69)

位置 調査区南東部のD4e1区。標高28mほどの台地平坦部に位置している。

規模と形状 長径2.44m、短径1.70mの不整形円形で、長径方向はN-5°-Eである。底面は平坦で、深さは78cmである。壁は外傾している。



第425図 第434号土坑・出土遺物実測図

**覆土** 18層に分層できる。各層にロームブロックが混入しており、不規則な堆積状況から、埋め戻されている。

**土層解説**

1	暗褐色	ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子微量	10	褐色	ローム粒子多量、炭化粒子微量
2	暗褐色	ローム粒子少量	11	褐色	ローム粒子多量
3	暗褐色	ローム粒子少量、炭化粒子微量	12	褐色	ロームブロック多量
4	暗褐色	ロームブロック少量、焼土粒子・炭化粒子微量	13	暗褐色	ローム粒子中量
5	暗褐色	ローム粒子中量、焼土粒子・炭化粒子微量	14	暗褐色	ロームブロック・炭化粒子少量
6	黒褐色	ロームブロック中量、炭化粒子少量、焼土粒子微量	15	暗褐色	ローム粒子多量
7	暗褐色	ローム粒子中量、炭化粒子微量	16	暗褐色	ロームブロック中量
8	暗褐色	ローム粒子中量	17	暗褐色	ロームブロック中量、炭化粒子微量
9	暗褐色	ローム粒子多量、炭化粒子微量	18	褐色	ロームブロック中量

**遺物出土状況** 縄文土器片 119点（深鉢）が出土している。1180は覆土中層、1174～1179は覆土中からそれぞれ出土している。いずれも埋め戻す過程で投棄されたものと考えられる。

**所見** 規模と形状から、貯蔵穴と考えられる。時期は、出土土器から中期後葉と考えられる。

**第434号土坑出土遺物観察表（第425図）**

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	文様の特徴ほか	出土位置	備考
1174	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	橙	普通	地文に一段多糸縄文RL（斜）浅い太沈線が沿る口縁部無文	覆土中	
1175	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・赤色粒子	褐色	普通	地文に一段多糸縄文RL（横）口唇部縦く外反、浅い太沈線による区画文	覆土中	
1176	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・赤色粒子	にぶい橙	普通	地文に単糸縄文RL（縦）2本の太沈線を垂下沈線間始消	覆土中	
1177	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	にぶい橙	普通	地文に単糸縄文RL（縦）3本の太沈線を垂下沈線間始消	覆土中	
1178	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	にぶい黄褐色	普通	地文に無糸縄文L（縦）太沈線により文様描画	覆土中	
1179	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石	にぶい黄褐色	普通	地文に一段多糸縄文RL（縦）2本の太沈線を垂下沈線間始消	覆土中	
1180	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	にぶい褐色	普通	地文に単糸縄文LR（横）内面横方向のナデ	覆土中層	

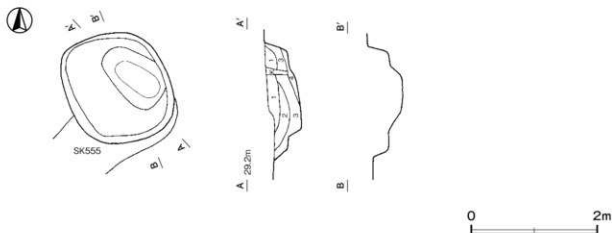
**第440号土坑（第426・427図）**

**位置** 調査区東部のC4i2区、標高29mほどの台地平坦部に位置している。

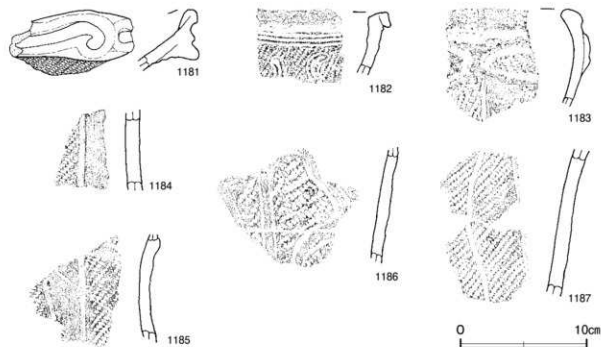
**重複関係** 第555号土坑を掘り込んでいます。

**規模と形状** 一辺165～170mの隅丸方形で、主軸方向はN-22°-Wである。底面は平坦で、北東部に浅い掘り込みを有している。深さは50cmで、壁は外傾して立ち上がっている。

**覆土** 4層に分層できる。黒褐色土が周囲から流入している堆積状況から、自然堆積である。



**第426図** 第440号土坑実測図



第 427 図 第 440 号土坑出土遺物実測図

## 土層解説

- 1 黒褐色 ローム粒子少量  
2 黒褐色 ローム粒子微量  
3 黒褐色 ロームブロック微量  
4 褐色 ロームブロック中量

**遺物出土状況** 縄文土器片 104 点(深鉢 103, 浅鉢 1), 石核 1 点(瑪瑙), 剥片 1 点(石英), 軽石 1 点, 礫 1 点(瑪瑙)が出土している。1181～1187 は、覆土中から出土している。いずれも埋め戻す過程で投棄されたものと考えられる。

**所見** 規模と形状から、補助的な貯蔵施設をもつ貯蔵穴と考えられる。時期は、出土土器から中期後葉と考えられる。

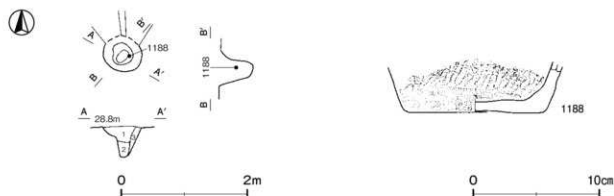
第 440 号土坑出土遺物観察表 (第 427 図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	装成	文様の特徴ほか	出土位置	備考
1181	縄文土器	浅鉢	-	-	-	長石・石英	にぶい褐色	普通	口唇部直立 太沈線による渦巻文 胴部は単筋縄文 LR (横)	覆土中	
1182	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	にぶい褐色	普通	口唇部平直 地文に単筋縄文 LR (横) 口縁直下平縁分界による本の沈線の高さを並らせ、縦位の高低文を並列	覆土中	
1183	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・赤色砂子	にぶい褐色	普通	口唇部太沈線が二重 腹壁に沈線による積凹区画 区画行単筋縄文 RL (縦) 胴部は渦巻文 両端を掛け沈線を垂下 沈線間数筋	覆土中	
1184	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	にぶい赤褐色	普通	地文に単筋縄文 RL (縦) 太沈線を垂下 沈線間数筋	覆土中	
1185	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	褐色	普通	口縁部が二重 二本の沈線が垂下 沈線間数筋 地文に単筋縄文 RL (縦)	覆土中	
1186	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	灰褐色	普通	地文に単筋縄文 RL (縦) 二本の沈線による平行線・斜行線が垂下 沈線間数筋	覆土中	
1187	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母・赤色砂子	にぶい褐色	普通	地文に単筋縄文 RL (縦) 沈線による直線文・斜行線文が垂下	覆土中	

## 第 442 号土坑 (第 428 図)

**位置** 調査区中央部の C3B3 区、標高 29 m ほどの台地平坦部に位置している。

**規模と形状** 径 0.60 m ほどの円形である。底面は皿状を呈し、深さは 55cm である。壁は外傾している。



第 428 図 第 442 号土坑・出土遺物実測図

**覆土** 3層に分層できる。第1・2層は柱抜き取り後の埋土と考えられる。

**土層解説**

- |               |                 |
|---------------|-----------------|
| 1 黒褐色 ローム粒子微量 | 3 暗褐色 ロームブロック微量 |
| 2 黒褐色 ローム粒子少量 |                 |

**遺物出土状況** 縄文土器片6点(深鉢)が出土している。1188は覆土中層から出土している。埋め戻す過程で投棄されたものと考えられる。

**所見** 規模と形状から、柱穴と考えられる。時期は、出土土器から中期と考えられるが、詳細は不明である。

第 442 号土坑出土遺物観察表(第 428 図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	地成	文様の特徴ほか	出土位置	備考
1188	縄文土器	深鉢	—	(40)	[106]	長石・石英・雲母	橙	普通	英文に0段多奈縄文RL(縦)下部部横方向のナデ 底面了重ナナデ	覆土中層	

**第 443 号土坑 (第 429 図 PL70)**

**位置** 調査区東部のD 4 b3区、標高 29 mほどの台地平坦部に位置している。

**規模と形状** 開口部は径 1.56 ~ 1.61 mの円形である。底面は径 1.45 mほどの円形で、平坦である。確認面からの深さは 87cmである。壁は緩やかに内彎し、弱い袋状を呈する。

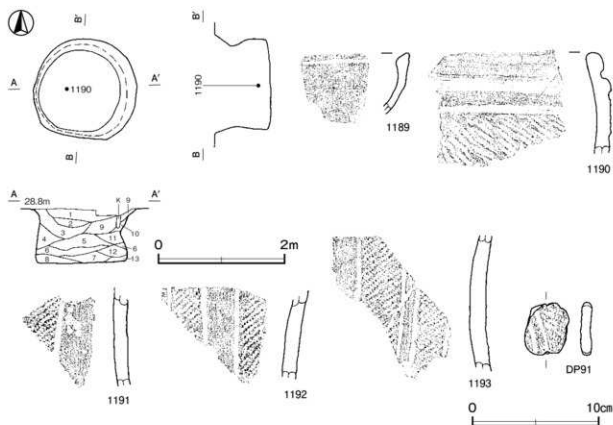
**覆土** 13層に分層できる。不規則な堆積状況から、埋め戻されている。

**土層解説**

- |                        |                       |
|------------------------|-----------------------|
| 1 暗褐色 ロームブロック微量        | 8 黒褐色 ロームブロック少量       |
| 2 黒褐色 ローム粒子微量          | 9 極暗褐色 ローム粒子・炭化粒子微量   |
| 3 極暗褐色 ロームブロック微量       | 10 暗褐色 ローム粒子少量、炭化粒子微量 |
| 4 暗褐色 ロームブロック・炭化粒子微量   | 11 暗褐色 ローム粒子・炭化粒子微量   |
| 5 暗褐色 ロームブロック少量、炭化粒子微量 | 12 暗褐色 ローム粒子微量        |
| 6 極暗褐色 ロームブロック・炭化粒子微量  | 13 褐色 ロームブロック微量       |
| 7 暗褐色 ロームブロック少量        |                       |

**遺物出土状況** 縄文土器片 43 点(深鉢)、土製品 1 点(土器片鏟)、剥片 1 点(瑪瑙)が出土している。1190は、覆土下層から出土している。1189・1191 ~ 1193, DP91は、覆土中から出土している。いずれも埋め戻す過程で投棄されたものと考えられる。

**所見** 規模と形状から、袋状を呈する貯蔵穴と考えられる。時期は、出土土器から中期後葉と考えられる。



第429図 第443号土坑・出土遺物実測図

第443号土坑出土遺物観察表(第429図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	文様の特徴ほか	出土位置	備考
1189	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	にぶい橙	普通	口縁部1本の沈線を巡らし区画 外・内面横方向の筋	覆土中	
1190	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	にぶい赤	普通	口縁部無文 狭い隆帯と太沈線により文様区画 胎文に準る縄文RL(縦) 2本の沈線を垂下沈線型磨消	覆土下層	
1191	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	にぶい褐	普通	胎文に準る縄文RL(縦) 2本の沈線を垂下沈線型磨消	覆土中	
1192	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	にぶい橙	普通	胎文に準る縄文RL(縦) 2本の沈線を垂下沈線型磨消	覆土中	
1193	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	にぶい赤	普通	胎文に準る縄文RL(縦) 2本の沈線を垂下沈線型磨消	覆土中	

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	胎土	色調	特徴	出土位置	備考
DP91	土器片	4.2	3.5	0.9	165	長石・石英	灰褐	割部片 両縁部粗雑に研削 両端にキザミ目	覆土中	

## 第444号土坑(第430図)

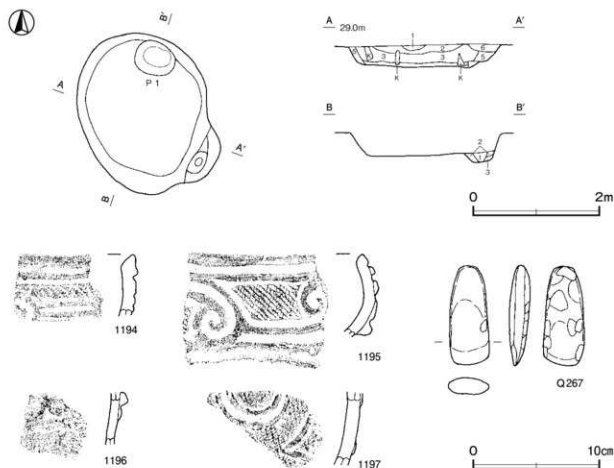
位置 調査区中央部のC38区、標高29mほどの台地平坦部に位置している。

規模と形状 長径260m、短径2.18mの不整形円形で、長径方向はN-48°-Wである。底面は平坦で、深さは38cmである。壁は緩やかに傾斜している。

ピット 北壁際に位置し、長径60cm、短径50cmの楕円形で、深さは14cmである。第1・2層から小礫がまわって出土している。特殊な貯蔵形態を示している可能性があるが、詳細は不明である。

## ピット土層解説

- 1 黒褐色 小礫(径0.5~3cm)多量、ロームブロック少量 3 暗褐色 ロームブロック中量  
 2 黒褐色 小礫(径0.5~3cm)多量、ロームブロック中量



第430図 第444号土坑・出土遺物実測図

**覆土** 6層に分層できる。各層にロームブロックが含まれていることから、埋め戻されている。

**土層解説**

- |       |                |       |              |
|-------|----------------|-------|--------------|
| 1 暗褐色 | ローム粒子少量・炭化粒子微量 | 4 褐色  | ロームブロック微量    |
| 2 黒褐色 | ローム粒子・焼土粒子微量   | 5 暗褐色 | ロームブロック微量    |
| 3 黒褐色 | ロームブロック・炭化粒子微量 | 6 暗褐色 | ローム粒子・炭化粒子微量 |

**遺物出土状況** 縄文土器片72点（深鉢）、石器1点（磨製石斧）、石核1点（瑪瑙）が出土している。1194～1197、Q267は覆土中から出土している。いずれも埋め戻す過程で投棄されたものと考えられる。

**所見** 規模と形状から、貯蔵穴と考えられる。時期は、出土土器から中期後葉と考えられる。

第444号土坑出土遺物観察表（第430図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	文様の特徴ほか	出土位置	備考
1194	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	にぶい橙	普通	口唇部残い隆帯が一部隆帯に沿って沈線 英文に準給縄文図。(横) 残い隆帯と沈線による 凹文・横四角文	覆土中	
1195	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・赤色 粒子	にぶい濁	普通	口唇上部・大花輪が一部隆帯と沈線による区 画文・渦巻文(区画内準給縄文図。(横) 前部 無文部	覆土中	
1196	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母・ 赤色粒子	にぶい赤濁	普通	隆帯による狭み狀の貼付	覆土中	
1197	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・赤色 粒子	にぶい赤濁	普通	英文に準給縄文図。(横) 隆帯による二重凹文・ 刺突文	覆土中	

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
Q267	磨製石斧	7.9	3.2	1.6	66.4	緑色岩	小型 全面研磨 両側縁に稜 刃部は表面から研ぎ出す	覆土中	PL169

## 第 451 号土坑 (第 431 図 PL71)

位置 調査区南東部の D4c3 区、標高 29 m ほどの台地平坦部に位置している。

重複関係 第 1 号陥し穴を掘り込んでいる。

規模と形状 開口部は長径 1.72 m、短径 1.20 m の不整楕円形で、長径方向は N-0° である。底面は長径 1.58 m、短径 1.27 m の楕円形で、平坦である。確認面からの深さは 100cm である。壁は底面から緩やかに内彎して、袋状を呈している。

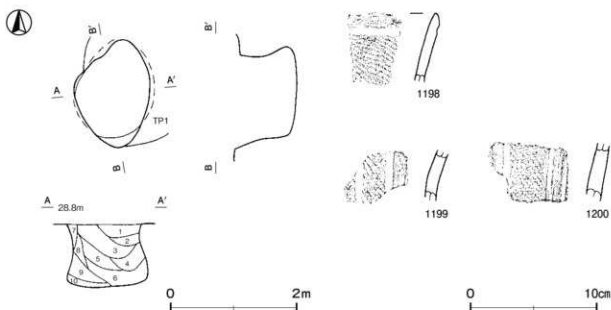
覆土 10 層に分層できる。各層にローム粒子や炭化粒子が含まれていることから、埋め戻されている。

## 土層解説

1 暗褐色	ローム粒子中量、炭化物微量	6 褐色	ロームブロック中量、炭化物微量
2 暗褐色	ローム粒子中量、炭化粒子微量	7 暗褐色	ローム粒子中量
3 暗褐色	ローム粒子多量、炭化物微量	8 暗褐色	ローム粒子多量
4 暗褐色	ロームブロック中量、炭化物微量	9 黒褐色	ローム粒子少量
5 黒褐色	ロームブロック少量、炭化粒子微量	10 暗褐色	ロームブロック少量

遺物出土状況 縄文土器片 195 点 (深鉢 194, 浅鉢 1), 石器 1 点 (打製石斧) が出土している。1198 ~ 1200 は、覆土中から出土している。いずれも埋め戻す過程で投棄されたものと考えられる。

所見 規模と形状から、貯蔵穴と考えられる。時期は、出土土器から中期後葉と考えられる。



第 431 図 第 451 号土坑・出土遺物実測図

## 第 451 号土坑出土遺物観察表 (第 431 図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	文様の特徴はか	出土位置	備考
1198	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・赤色 粒子	黒褐色	普通	口径頂部に浅い刺突 口縁部無文 浅い花籠が 一巡 地文に 0 段多糸縄文 LR (斜)	覆土中	
1199	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	灰黄褐色	普通	地文に半筋縄文 LR (縦) 太沈線が直下 沈線 両面あり	覆土中	
1200	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	12.3%+橙	普通	地文に 1 段多糸縄文 LR (縦) 太沈線が直下 沈線両面あり	覆土中	

### 第 455 号土坑 (第 432 図)

**位置** 調査区東部の C 4 j2 区, 標高 29 m ほどの台地平坦部に位置している。

**重複関係** 第 477・521 号土坑を掘り込み, 第 457 号土坑に掘り込まれている。

**規模と形状** 長径 1.68 m, 短径 1.32 m の楕円形で, 長径方向は N-31°-E である。底面は平坦で, 深さは 11 cm である。壁は緩やかに傾斜している。

**ピット** 東壁際に位置し, 径 20 cm の円形で, 深さは 10 cm である。形状から柱穴と考えられる。

**覆土** 2 層に分層できる。ロームブロックが含まれていることから, 埋め戻されている。

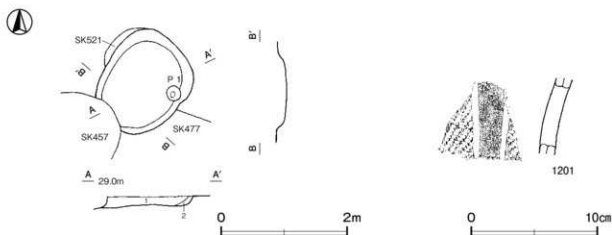
#### 土層解説

1 暗褐色 ローム粒子少量

2 暗褐色 ロームブロック中量

**遺物出土状況** 縄文土器片 9 点(深鉢 6, 浅鉢 3)が出土している。1201 は, 覆土中から出土していることから, 埋め戻す過程で投棄されたものと考えられる。

**所見** 規模と形状から, 柱穴と考えられるピットを有する貯蔵穴と考えられる。時期は, 出土土器から中期後葉と考えられる。



第 432 図 第 455 号土坑・出土遺物実測図

### 第 455 号土坑出土遺物観察表 (第 432 図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	文様の特徴ほか	出土位置	備考
1201	縄文土器	深鉢	-	-	-	灰白・石灰・黒母・赤色粒子	にぶい肌	普通	縄文に準拠縄文図(編) 2本の沈線が底下に沈線間横溝	覆土中	

### 第 456 号土坑 (第 433 図 PL71)

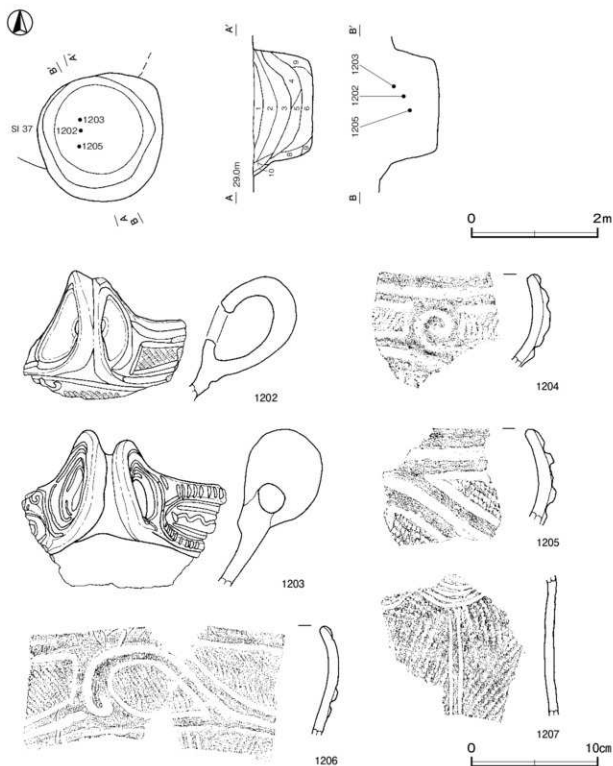
**位置** 調査区中央部の C 3 j0 区, 標高 29 m ほどの台地平坦部に位置している。

**重複関係** 第 37 号堅穴建物跡を掘り込んでいる。

**規模と形状** 径 2.03 ~ 2.22 m の円形で, 底面は平坦である。深さは 93 cm で, 壁は外傾している。

**覆土** 10 層に分層できる。各層にロームのブロックや粒子が多く, 炭化物や焼土粒子が含まれていることから, 埋め戻されている。





第433図 第456号土坑・出土遺物実測図

## 土層解説

- |       |                           |       |                     |
|-------|---------------------------|-------|---------------------|
| 1 暗褐色 | ロームブロック少量，炭化物・焼土粒子微量      | 6 暗褐色 | ローム粒子中量，焼土粒子・炭化粒子微量 |
| 2 暗褐色 | ロームブロック多量，焼土粒子ブロック・炭化粒子微量 | 7 暗褐色 | ロームブロック中量           |
| 3 暗褐色 | ロームブロック多量，焼土粒子・炭化粒子微量     | 8 暗褐色 | ロームブロック多量           |
| 4 黒褐色 | ロームブロック中量，炭化物微量           | 9 暗褐色 | ロームブロック中量，炭化粒子微量    |
| 5 暗褐色 | ローム粒子中量，炭化粒子微量            | 10 褐色 | ロームブロック多量           |

遺物出土状況 縄文土器片 139 点（深鉢 137、浅鉢 2）が出土している。1202・1205 は覆土中層から、1203 は覆土上層から出土している。1204・1206・1207 は、覆土中から出土している。いずれも埋め戻す過程で投棄されたものと考えられる。

所見 規模と形状から、貯蔵穴と考えられる。時期は、出土土器から中期後葉と考えられる。

#### 第 456 号土坑出土遺物観察表（第 433 図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	文様の特徴ほか	出土位置	備考
1202	縄文土器	深鉢	-	(10.1)	-	長石・石英・雲母	にぶい肌	普通	把手側縁に1本の沈線 沈線による横位の区画 把手下部に沈線 一部に断手文 区画内及び地文は無彫縄文土。(横)	覆土中層	PL141
1203	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母、赤色粒子	にぶい肌	良好	2本の隆帯による中央の把手 把手側縁多重沈線による断帯文 把手に沿って若干目のある隆帯 沈線による横位の区画 区画内断行沈線 断行無文帯	覆土上層	PL141
1204	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母、赤色粒子	にぶい肌	普通	口縁上部に太沈線 隆帯と沈線による溝帯区画 区画内単彫縄文土。(横)	覆土中	
1205	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母、赤色粒子	にぶい肌	普通	口縁上部に太沈線 隆帯と太沈線による区画 区画内単彫縄文土。(横)	覆土中層	
1206	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	にぶい肌	普通	彩い隆帯による溝帯区画 隆帯に沿って沈線を付加 区画内単彫縄文土。(横) 側部(縦)	覆土中	PL141
1207	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	にぶい肌	普通	地文に単彫縄文土。(斜・縦) 沈線による重弧文から2本の沈線が断手	覆土中	

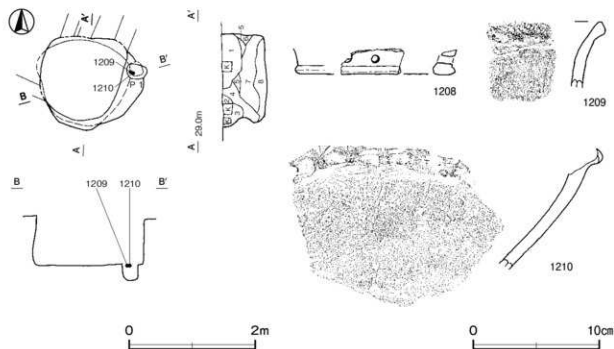
#### 第 464 号土坑（第 434 図 PL72）

位置 調査区西部の C 3e1 区、標高 29 m ほどの台地平坦部に位置している。

規模と形状 開口部は長径 1.65 m、短径 1.50 m の楕円形で、長径方向は N - 80° - W である。底面は長径 1.50 m、短径 1.34 m の楕円形で、平坦である。確認面からの深さは 75 cm である。壁は緩やかに内彎している。

ピット 東壁際に位置し、径 30 cm ほどの円形で、深さは 28 cm である。形状から柱穴と考えられる。

覆土 8 層に分層できる。多くの層にロームブロックが含まれていることから、埋め戻されている。



第 434 図 第 464 号土坑・出土遺物実測図

## 土層解説

1 黒褐色	ロームブロック少量	5 黒褐色	ロームブロック中量
2 褐色	ローム粒子中量	6 褐色	ロームブロック少量
3 黒褐色	ローム粒子少量	7 褐色	ロームブロック多量
4 暗褐色	ロームブロック少量	8 褐色	ロームブロック中量

**遺物出土状況** 縄文土器片 69 点 (深鉢 63, 浅鉢 5, 器台 1), 剥片 1 点 (瑪瑙) が出土している。1209・1210 は, P1 の覆土上層から出土している。1208 は, 覆土中から出土している。埋め戻す過程で投棄されたものと考えられる。

**所見** 規模と形状から, 柱穴と考えられるピットを有する貯蔵穴と考えられる。時期は, 出土土器から中期中葉と考えられる。

## 第 464 号土坑出土遺物観察表 (第 434 図)

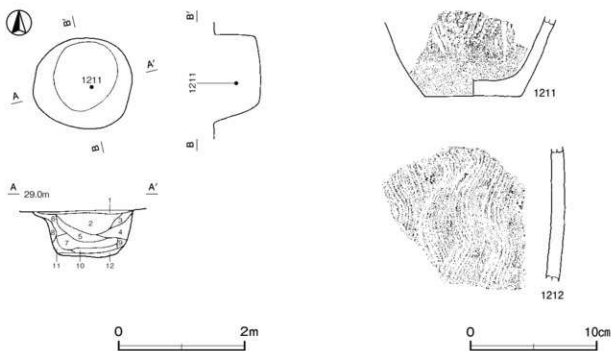
番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	文様の特徴はか	出土位置	備考
1208	縄文土器	器台	-	(2.0)	[126]	長石・石英・雲母	褐色	普通	頸縁に穿孔, 底面は円形で中空	覆土中	
1209	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	灰褐色	普通	口径外縁部に単筋縄文 RL (横) 胴部は縦方向のナデ	P1 覆土上層	
1210	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	にぶい褐色	普通	口径外反部に密頸による庄痕 外面斜方向のナデ 内面横方向のナデ	P1 覆土上層	PL141

## 第 467 号土坑 (第 435 図)

**位置** 調査区中央部の C3 区, 標高 29 m ほどの台地平坦部に位置している。

**規模と形状** 長径 1.60 m, 短径 1.44 m の楕円形で, 長径方向は N-77°-W である。底面は平坦で, 深さは 72cm である。壁は外傾している。

**覆土** 12 層に分層できる。多くの層にロームブロックが含まれていることから, 埋め戻されている。



第 435 図 第 467 号土坑・出土遺物実測図

土層解説

1 黒褐色	ローム粒子少量・炭化粒子微量	7 黒褐色	ロームブロック中量
2 黒褐色	ローム粒子中量	8 暗褐色	ローム粒子微量
3 黒褐色	ローム粒子・炭化粒子微量	9 褐色	ロームブロック中量
4 黒褐色	ローム粒子少量	10 暗褐色	ロームブロック微量
5 黒褐色	ロームブロック・炭化粒子微量	11 黒褐色	ロームブロック少量
6 黒褐色	ローム粒子微量	12 暗褐色	ロームブロック・炭化粒子微量

遺物出土状況 縄文土器片 40 点（深鉢）が出土している。1211 は覆土中層から、1212 は、覆土中から出土している。いずれも埋め戻す過程で投棄されたものと考えられる。

所見 規模と形状から、貯蔵穴と考えられる。時期は、出土土器から中期後葉と考えられる。

第 467 号土坑出土遺物観察表（第 435 図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	文様の特徴ほか	出土位置	備考
1211	縄文土器	深鉢	-	(6.3)	7.7	長石・石英・雲母	明赤褐色	良好	地文に草書縄文瓦(1編) 2本単位(2編)の波帯が基下下部横方向の磨き 底面は了家な磨き	覆土中層	10%
1212	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母・燧石	にぶい褐色	普通	幾何状工具による縦位の蛇行条線文	覆土中	

第 468 号土坑（第 436 図）

位置 調査区西部の C 2e0 区、標高 29 m ほどの台地平坦部に位置している。

規模と形状 長径 1.48 m、短径 1.08 m の楕円形で、長径方向は N - 24° - W である。底面は凹凸があり、深さは 40cm である。壁は緩やかに傾斜している。

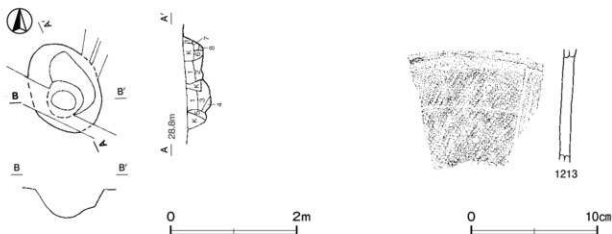
覆土 8 層に分層できる。多くの層にロームブロックが含まれていることから、埋め戻されている。

土層解説

1 黒褐色	ローム粒子少量・炭化粒子微量	5 褐色	ロームブロック中量
2 黒褐色	ロームブロック少量・炭化粒子微量	6 暗褐色	ロームブロック少量・炭化粒子微量
3 黒褐色	ローム粒子少量	7 暗褐色	ロームブロック微量
4 暗褐色	ロームブロック少量	8 黒褐色	ロームブロック少量

遺物出土状況 縄文土器片 13 点（深鉢）、礫 1 点（チャート）が出土している。1213 は、覆土中から出土していることから、埋め戻す過程で投棄されたものと考えられる。

所見 性格は不明である。時期は、出土土器から中期後葉と考えられる。



第 436 図 第 468 号土坑・出土遺物実測図

第 468 号土坑出土遺物観察表 (第 436 図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	文様の特徴ほか	出土位置	備考
1213	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	赤褐色	普通	口縁部残い隆帯が一面 (縦) 3本の沈線垂下 施文に単面縄文RL 沈線間筋目	覆土中	

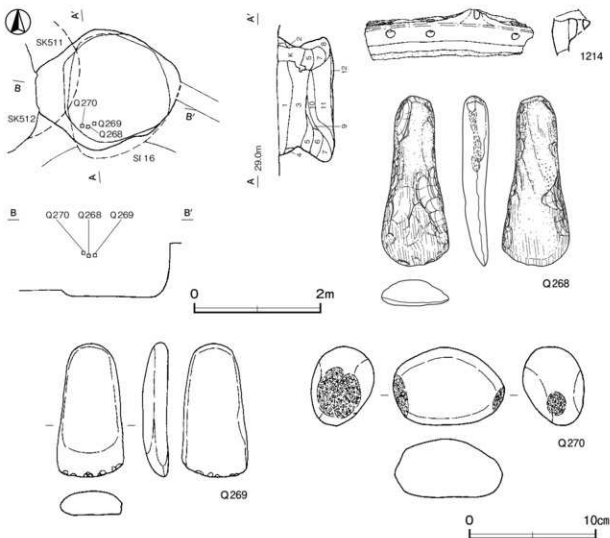
## 第 474 号土坑 (第 437 図 PL72)

位置 調査区西部の C 3e1 区, 標高 29 m ほどの台地平坦部に位置している。

重複関係 第 16 号竪穴建物跡を掘り込み, 第 511・512 号土坑に掘り込まれている。

規模と形状 開口部は長径 2.21 m, 短径 1.90 m の不整楕円形で, 長径方向は  $N-86^{\circ}-E$  である。底面は長径 1.97 m, 短径 1.34 m の楕円形で, 平坦である。確認面からの深さは 90 cm である。壁は, 東壁がほぼ直立しており, 南北壁は内彎して, 袋状を呈している。

覆土 12 層に分層できる。各層にロームのブロックや粒子, 炭化粒子が含まれていることから, 埋め戻されている。



第 437 図 第 474 号土坑・出土遺物実測図

土層解説

1 黒褐色	ローム粒子中量、焼土粒子・炭化粒子微量	7 黒褐色	ロームブロック少量、炭化粒子微量
2 にぶい黄褐色	ローム粒子・炭化粒子少量	8 暗褐色	ローム粒子少量、炭化粒子微量
3 黒褐色	炭化粒子中量、ローム粒子少量	9 暗褐色	ローム粒子少量
4 暗褐色	ロームブロック少量、炭化粒子微量	10 暗褐色	ロームブロック少量
5 黒褐色	ローム粒子中量、炭化粒子少量	11 にぶい黄褐色	ロームブロック少量
6 黒褐色	ロームブロック中量、炭化粒子微量	12 にぶい黄褐色	ローム粒子少量

遺物出土状況 縄文土器片 241 点(深鉢 229, 浅鉢 11, 有孔鈔付土器 1), 石器 3 点(打製石斧, 磨製石斧, 敲砥石), 剥片 7 点(チャート 3, 石英 2, 瑪瑙 2) が出土している。Q 268～Q 270 は覆土上層から, 1214 は, 覆土中から出土している。いずれも埋め戻した後の凹みに投棄されたものと考えられる。

所見 規模と形状から, 貯蔵穴と考えられる。時期は, 出土土器から中期と考えられるが, 詳細は不明である。

第 474 号土坑出土遺物観察表 (第 437 図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	地成	文様の特徴ほか	出土位置	備考
1214	縄文土器	有孔鈔付土器	—	(38)	—	長石・石英・雲母	にぶい黄褐色	普通	隆帯を鈔状に巡らせ, 隆帯へ垂直に穿孔	覆土中	

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
Q 308	打製石斧	136	5.9	2.1	1902	石英片岩	新形 両側縁敲打調整 刃部は表裏を研磨 未広がり	覆土上層	PL166
Q 289	磨製石斧	106	5.2	2.0	1866	変質安山岩	新形 表裏及び側縁部研磨 刃部は片面を研ぎ出す	覆土上層	PL168
Q 270	敲砥石	6.3	8.9	4.9	367A	石英	横内縁の両端部に微細な敲打痕	覆土上層	PL173

第 491 号土坑 (第 438 図)

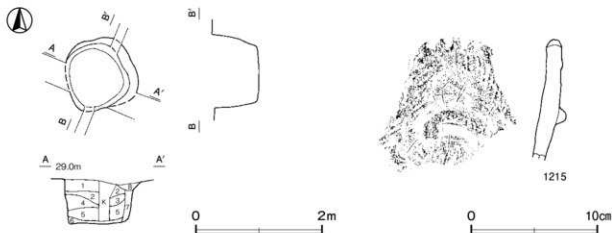
位置 調査区中央部の C 3 g8 区, 標高 29 m ほどの台地平坦部に位置している。

規模と形状 径 1.22 m ほどの円形で, 底面は平坦である。深さは 72 cm である。壁はほぼ直立している。

覆土 8 層に分層できる。多くの層にロームブロックが含まれていることから, 埋め戻されている。

土層解説

1 黒褐色	ローム粒子中量	5 黒褐色	ロームブロック中量
2 黒褐色	ローム粒子中量、焼土粒子微量	6 黒褐色	ロームブロック微量
3 黒褐色	ローム粒子微量	7 暗褐色	ロームブロック中量
4 黒褐色	ロームブロック少量、炭化粒子微量	8 黒褐色	ロームブロック少量



第 438 図 第 491 号土坑・出土遺物実測図

**遺物出土状況** 縄文土器片 72点(深鉢), 剥片 1点(安山岩)が出土している。1215は, 覆土中から出土している。埋め戻す過程で投棄されたものと考えられる。

**所見** 規模と形状から, 貯蔵穴と考えられる。時期は, 出土土器から中期中葉と考えられる。

#### 第 491 号土坑出土遺物観察表 (第 438 図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	文様の特徴ほか	出土位置	備考
1215	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	にぶい橙	普通	把手頂部に4か所のホゾミ目。把手中央に隆帯による波帯文。周縁部・隆帯上に単純縄文 RL (縦・斜)	覆土中	

#### 第 492 号土坑 (第 439 図)

**位置** 調査区中央部の C 3 g9 区, 標高 29 m ほどの台地平坦部に位置している。

**規模と形状** 長径 1.12 m, 短径 0.96 m の楕円形で, 長径方向は N - 63° - E である。底面は平坦で, 深さは 48 cm である。壁は直立している。

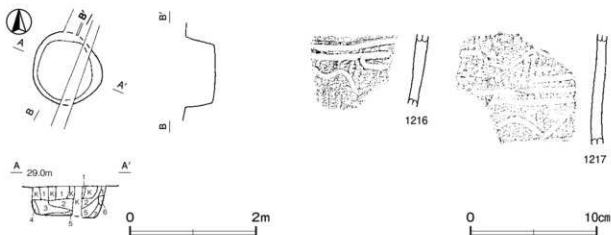
**覆土** 7層に分層できる。多くの層にロームブロックが含まれていることから, 埋め戻されている。

##### 土層解説

- |       |           |       |           |
|-------|-----------|-------|-----------|
| 1 黒褐色 | ローム粒子少量   | 5 暗褐色 | ロームブロック微量 |
| 2 黒褐色 | ロームブロック少量 | 6 暗褐色 | ローム粒子少量   |
| 3 黒褐色 | ローム粒子微量   | 7 黒褐色 | ロームブロック微量 |
| 4 暗褐色 | ローム粒子微量   |       |           |

**遺物出土状況** 縄文土器片 135点(深鉢 133, 浅鉢 2)が出土している。

**所見** 規模と形状から, 小型の貯蔵穴と考えられる。時期は, 出土土器から中期中葉と考えられる。



第 439 図 第 492 号土坑・出土遺物実測図

#### 第 492 号土坑出土遺物観察表 (第 439 図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	文様の特徴ほか	出土位置	備考
1216	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	黒褐	普通	縄文に単純縄文 RL (斜) 横位の並行波帯文・縦行波帯	覆土中	図7と同一形状。
1217	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	黒褐	普通	縄文に単純縄文 RL (斜) 横位の並行波帯文・縦行波帯	覆土中	図7と同一形状。

### 第 499 号土坑 (第 440 図)

**位置** 調査区中央部の C 3h3 区, 標高 29 m ほどの台地平坦部に位置している。

**規模と形状** 長径 1.12 m, 短径 0.98 m の楕円形で, 長径方向は N - 25° - W である。底面は平坦で, 深さは 18 cm である。壁は緩やかに傾斜している。

**覆土** 2 層に分層できる。ロームブロックが含まれていることから, 埋め戻されている。

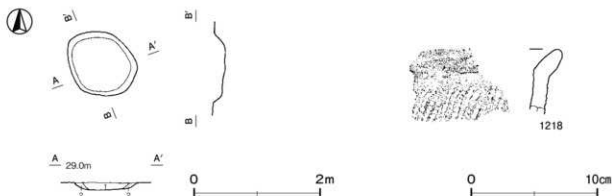
#### 土層解説

1 黒褐色 ローム粒子微量

2 暗褐色 ロームブロック少量

**遺物出土状況** 縄文土器片 8 点 (深鉢) が出土している。1218 は, 覆土中から出土していることから, 埋め戻す過程で投棄されたものと考えられる。

**所見** 規模と形状から, 小型の貯蔵穴と考えられる。時期は, 出土土器から中期後葉と考えられる。



第 440 図 第 499 号土坑・出土遺物実測図

### 第 499 号土坑出土遺物観察表 (第 440 図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	文様の特徴ほか	出土位置	備考
1218	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	にひ・赤褐色	普通	口縁部無文 口縁直下から半周縄文 R L (縦)	覆土中	

### 第 500 号土坑 (第 441 図)

**位置** 調査区中央部の C 3h3 区, 標高 29 m ほどの台地平坦部に位置している。

**規模と形状** 長径 1.52 m, 短径 1.30 m の楕円形で, 長径方向は N - 83° - W である。底面は平坦で, 深さは 66 cm である。壁はほぼ直立している。

**覆土** 11 層に分層できる。多くの層にロームブロックが含まれていることから, 埋め戻されている。

#### 土層解説

1 黒褐色 ローム粒子少量, 炭化粒子微量

7 暗褐色 ロームブロック少量, 炭化粒子微量

2 黒褐色 ローム粒子中量, 炭化粒子微量

8 暗褐色 ロームブロック微量

3 黒褐色 ロームブロック少量, 炭化粒子微量

9 黒褐色 ロームブロック少量

4 黒褐色 ロームブロック中量, 炭化粒子微量

10 暗褐色 ロームブロック少量

5 黒褐色 ロームブロック微量

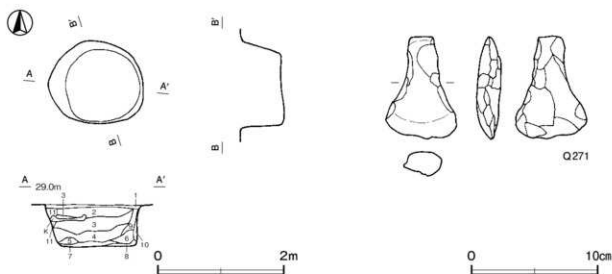
11 褐色 ロームブロック少量

6 暗褐色 ローム粒子少量

**遺物出土状況** 縄文土器片 86 点 (深鉢 85, 浅鉢 1), 石器 1 点 (打製石斧), 剥片 1 点 (チャート) が出土している。Q 271 は, 覆土中から出土していることから, 埋め戻す過程で投棄されたものと考えられる。

**所見** 規模と形状から, 貯蔵穴と考えられる。時期は, 出土土器から中期と考えられるが, 詳細は不明である。





第441図 第500号土坑・出土遺物実測図

第500号土坑出土遺物観察表(第441図)

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
Q271	打製石斧	8.2	5.7	2.0	740	頁岩	鉾形 片面に自然面 舞線部表裏から鋭行調整 刃部未広がり	覆土中	PL166

## 第504号土坑(第442図 PL72)

**位置** 調査区中央部のC3Ⅱ区、標高29mほどの台地中央部に位置している。

**規模と形状** 径2.12～2.13mの円形である。底面はほぼ平坦で、深さは78cmである。壁はほぼ直立している。  
**ピット** 3か所。P1は西側に位置し、長径46cm、短径36cmの楕円形で、深さは46cmである。P2は中央部に位置し、径30cmほどの円形で、深さは52cmである。P3は中央部に位置し、長径50cm、短径42cmの楕円形で、深さは58cmである。P1・P2は、形状から柱穴と考えられる。P3は、形状から補助的な貯蔵施設と考えられる。

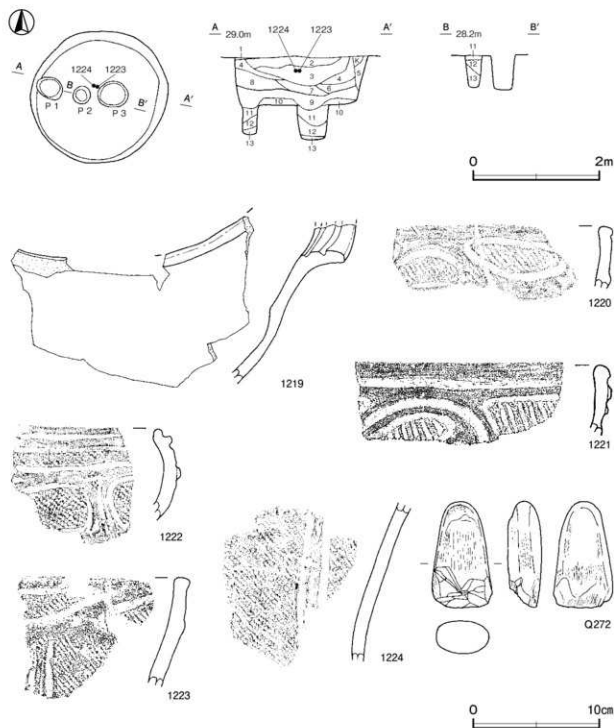
**覆土** 10層に分層できる。ロームブロックなどを含む層が不規則に堆積していることから、埋め戻されている。第11～13層はP1～P3の覆土である。

## 土層解説

1 黒褐色	ローム粒子微量	8 暗褐色	ロームブロック少量
2 黒褐色	ロームブロック微量	9 暗褐色	ロームブロック中量
3 黒褐色	ロームブロック少量、焼土粒子微量	10 黒褐色	ロームブロック少量、焼土ブロック微量
4 黒褐色	ロームブロック少量	11 黒褐色	ロームブロック中量
5 暗褐色	ロームブロック微量	12 黒褐色	ローム粒子少量
6 黒褐色	ロームブロック少量、炭化粒子微量	13 黒褐色	ローム粒子中量
7 黒褐色	ロームブロック中量、炭化粒子微量		

**遺物出土状況** 縄文土器片151点(深鉢143、浅鉢8)、石器1点(打製石斧)、剥片2点(チャート、石英)が、覆土上層から中層にかけて散乱した状態で出土している。1223・1224は、破片で覆土上層から出土しており、ある程度埋まってから埋土と一緒に投棄されたものと思われる。

**所見** 規模と形状から、貯蔵穴と考えられる。時期は、出土土器から中期後葉と考えられる。



第442図 第504号土坑・出土遺物実測図

第504号土坑出土遺物観察表(第442図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	文様の特徴ほか	出土位置	備考
1219	縄文土器	浅鉢	-	-	-	長石・石英・赤色 粘土・燧石	にぶい橙	普通	口唇部2本の周回する沈線文 外面磨き	内面横	覆土中
1220	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・赤色 粘土	にぶい橙	普通	口縁に沿って段帯貼付 地文に単面縄文区		覆土中
1221	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・赤母	橙	普通	太沈線を持つ除帯による区画文 区画内副位の沈線文区		覆土中

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	文様の特徴ほか	出土位置	備考
1222	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・赤色 粘土・燧石	黒褐色	普通	地文に単筋縄文 RL (横) 沈澱を伴う隆帯による楕円形区画文	覆土中	
1223	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・赤色 粘土	黒褐色	普通	地文に単筋縄文 RL (横) 沈澱を伴う隆帯による楕円形区画文 胴部2本の沈澱による彫糸文	覆土上層	
1224	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・赤色 粘土	黒褐色	普通	地文に単筋縄文 LR (縦) 2本の太沈澱間帯消線文	覆土上層	

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴		出土位置	備考
Q.272	打製石斧	8.5	4.8	2.7	1467	石英片岩	楕形	刃部は自然磨の端部を片側から敲打	覆土中	PL165

## 第 509 号土坑 (第 443 図)

**位置** 調査区南部の C 3j1 区、標高 29 m ほどの台地縁辺部に位置している。

**規模と形状** 径 0.79 ~ 0.84 m の円形で、底面は平坦である。深さは 20 cm で、壁は外傾している。

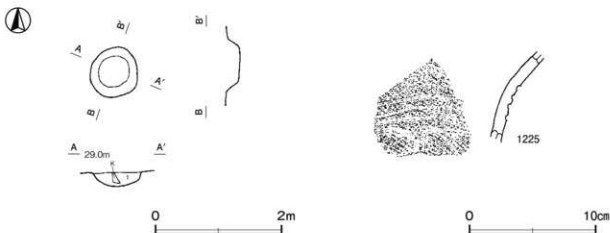
**覆土** 単一層。黒褐色土が堆積していることから、自然堆積である。

## 土層解説

1 黒褐色 ローム粒子微量

**遺物出土状況** 縄文土器片 1 点 (深鉢) が覆土中から出土している。

**所見** 性格は不明である。時期は、出土土器から中期と考えられるが、詳細は不明である。



第 443 図 第 509 号土坑・出土遺物実測図

## 第 509 号土坑出土遺物観察表 (第 443 図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	文様の特徴ほか	出土位置	備考
1225	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	黒褐色	普通	地文に単筋縄文 RL (横) 3本の沈澱が同心楕円形区画文上に沈澱による曲線文	覆土中	

## 第 511 号土坑 (第 444・445 図 PL73)

**位置** 調査区西部の C 2e0 区、標高 29 m ほどの台地縁辺部に位置している。

**重複関係** 第 474 号土坑を掘り込み、第 512 号土坑に掘り込まれている。

**規模と形状** 開口部は長径 1.54 m、短径 1.38 m の楕円形で、長径方向は N-13°-W である。底面は径 2.04 ~ 2.10 m の不整形円形で、ほぼ平坦である。確認面からの深さは 78 cm で、壁は西部はほぼ直立し、東部は内傾して袋状を呈している。

**ビット** 2 か所。P 1 は深さ 40 cm で、形状から柱穴と考えられる。P 2 は深さ 30 cm で、位置と形状から補助的な貯蔵施設と考えられる。

**ビット土層解説**

- |                 |                 |
|-----------------|-----------------|
| 1 暗褐色 ロームブロック中量 | 3 黒褐色 ロームブロック少量 |
| 2 暗褐色 ロームブロック少量 |                 |

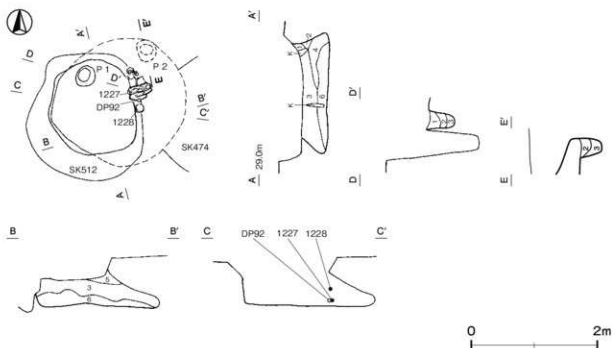
**覆土** 6 層に分層できる。ロームブロックなどを含む層が不規則に堆積していることから、埋め戻されている。

**土層解説**

- |                             |                 |
|-----------------------------|-----------------|
| 1 黒褐色 ローム粒子微量               | 4 暗褐色 ロームブロック微量 |
| 2 暗褐色 ロームブロック中量             | 5 黒褐色 ローム粒子少量   |
| 3 黒褐色 ロームブロック少量、焼土粒子・炭化粒子微量 | 6 暗褐色 ロームブロック少量 |

**遺物出土状況** 縄文土器片 91 点（深鉢）、土製品 1 点（土器片錘）が出土している。1227 は覆土下層から上半部が横位で出土していることから、ある程度埋め戻された段階で投棄されたものである。1228 は覆土中層、DP92 は覆土下層からそれぞれ出土しており、埋め戻す過程で投棄されたものと考えられる。

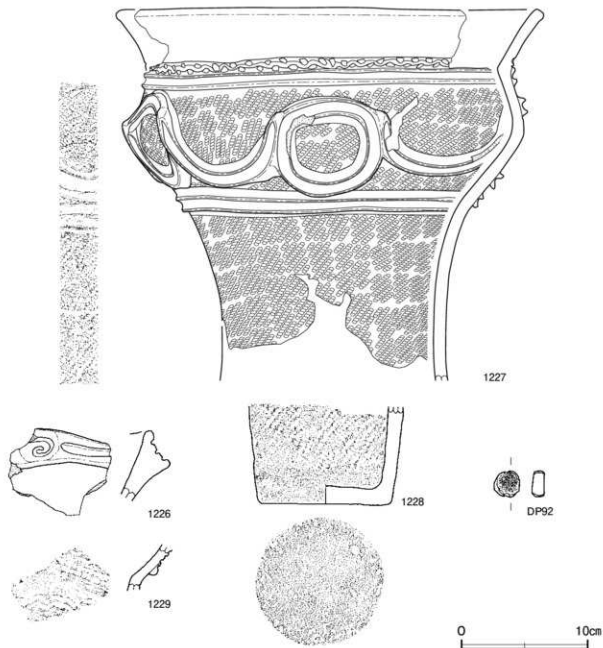
**所見** 規模と形状から、貯蔵穴と考えられる。時期は、出土土器から中期中葉と考えられる。



第 444 図 第 511 号土坑実測図

第 511 号土坑出土遺物観察表（第 445 図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	文様の特徴ほか	出土位置	備考
1226	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	黒い黄褐色	普通	波瀬部渦巻文、口唇部太沈線文、口縁部無文	覆土中	
1227	縄文土器	深鉢	33.4	(29.6)	-	長石・石英・雲母	黒褐色	普通	交互斜交文と沈線を持つ器蓋で口縁部支線帯を区画、背割れ縁等による楕円形文と弦状文、胴部単線文あり。(編) 編文	覆土下層	60% P1,142
1228	縄文土器	深鉢	-	(78)	10.2	長石・石英・雲母	橙	普通	単線縄文、(編) 編文、底面周縁に網代文	覆土中層	30% 内面膠付着
1229	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	橙	普通	隆帯に沿って 2 本の有筋沈線文、胴部 2 本同一編文器具による波状文	覆土中	



第445図 第511号土坑出土遺物実測図

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	胎土	色調	特徴	出土位置	備考
DP92	土器片断	20	20	1.0	4.9	長石・石英	にぶい橙	周縁部研磨 両面にキザ目	覆土下層	

## 第512号土坑 (第446図 PL74)

**位置** 調査区西部のC 2e0区、標高29mほどの台地縁辺部に位置している。

**重複関係** 第474・511号土坑を掘り込んでいる。

**規模と形状** 径2.01～2.13mの不整形円で、底面はほぼ平坦である。深さは31cmで、壁は外傾している。

**ピット** 3か所。P1は南壁際、P2は南西壁際、P3は北西壁際に位置し、深さは45cm・122cm・121cmである。いずれも、形状から柱穴と考えられる。

ピット土層解説 (P1・P3)

- 1 黒褐色 ローム粒子中量  
2 黒褐色 ロームブロック少量

- 3 暗褐色 ロームブロック少量

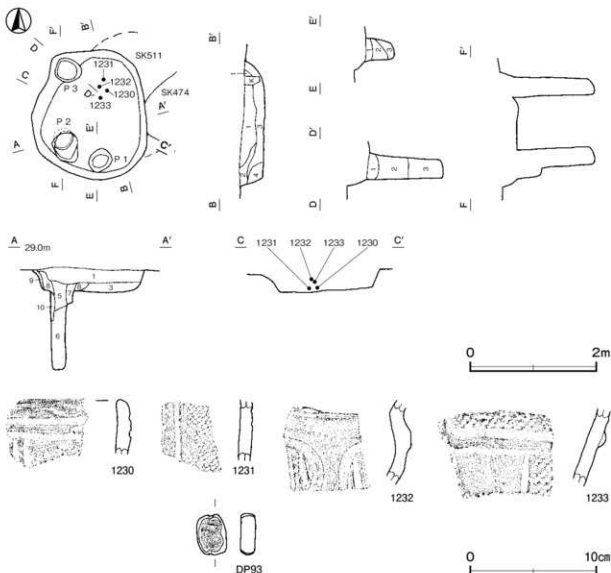
**覆土** 4層に分類できる。第1層は、黒褐色土がレンズ状に堆積していることから、自然堆積である。第2～4層はローム粒子や炭化粒子が含まれていることから埋め戻されている。第5～10層はP2の覆土で、第5・6層は柱痕跡、第7～10層は掘方への埋土である。

土層解説

- |                             |                  |
|-----------------------------|------------------|
| 1 黒褐色 ロームブロック少量、焼土粒子・炭化粒子微量 | 6 黒褐色 ロームブロック微量  |
| 2 暗褐色 ローム粒子中量               | 7 黒褐色 ローム粒子微量    |
| 3 黒褐色 ローム粒子・炭化粒子少量          | 8 暗褐色 ロームブロック少量  |
| 4 褐色 ローム粒子中量                | 9 褐色 ロームブロック中量   |
| 5 黒褐色 ロームブロック少量、焼土粒子微量      | 10 暗褐色 ロームブロック中量 |

**遺物出土状況** 縄文土器片 57点 (深鉢54, 浅鉢3), 土製品1点 (土器片錘), 剥片1点 (砂岩) が中央部の覆土中層を中心に出土している。1230・1231は破片で覆土下層から、1232・1233は破片で覆土中層からそれぞれ出土し、流れ込んだか投棄されたものと思われる。

**所見** 規模と形状から、貯蔵穴と考えられる。時期は、出土土器から中期後葉と考えられる。



第446図 第512号土坑・出土遺物実測図

第512号土坑出土遺物観察表(第446図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	文様の特徴ほか	出土位置	備考
1230	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	にぶい青黒	普通	口縁に沿って2本の太沈線文(縦)・胴部単節縄文LR(横)。2本の沈線による垂文	覆土下層	
1231	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	にぶい・橙	普通	胎文に単節縄文LR(縦)・沈線が垂下・沈線間垂文	覆土下層	
1232	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	橙	普通	太沈線を伴う隆帯区画文・区画内沈線文で充填	覆土中層	
1233	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	にぶい青黒	普通	隆帯による区画文・区画内単節縄文LR(横)・胴部(縦)・幅広の垂文・垂文	覆土中層	

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	胎土	色調	特徴	出土位置	備考
DP93	土器片断	3.3	2.3	1.2	11.0	長石・石英・燧石	にぶい・橙	周縁部研磨 両端にキザミ目	覆土下層	

## 第513号土坑(第447・448図 PL74)

位置 調査区東部のC4j5区、標高29mほどの台地縁辺部に位置している。

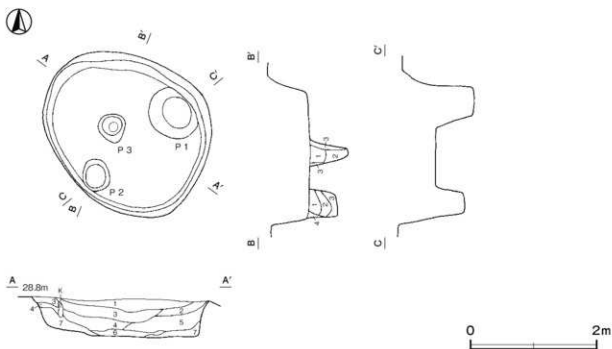
規模と形状 長径2.80m、短径2.41mの楕円形で、長径方向はN-53°-Wである。底面はほぼ平坦で、深さは56cmである。壁はほぼ直立している。

ピット 3か所。P1は北東壁際に位置し、長径85cm、短径66cmの楕円形で、深さは61cmである。P2は南西壁際に位置し、長径52cm、短径44cmの楕円形で、深さは46cmである。P3は中央部に位置し、長径48cm、短径44cmの円形で、深さは63cmである。P1・P2は、位置や形状から補助的な貯蔵施設と考えられる。P3は、位置や形状から柱穴と考えられる。

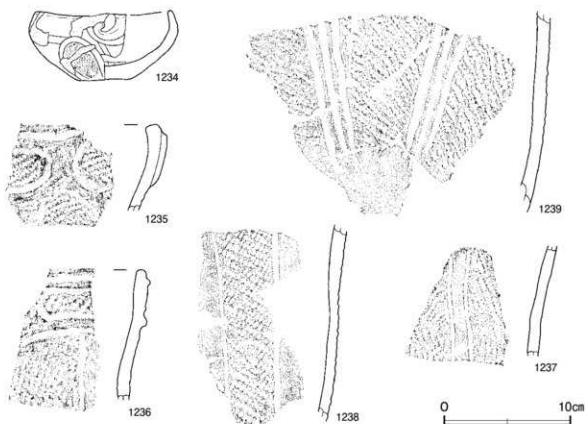
## ピット3層解説

- 1 暗褐色 ロームブロック少量、焼土粒子・炭化粒子微量 3 褐色 ロームブロック中量  
2 暗褐色 ロームブロック中量、焼土粒子・炭化粒子微量 4 褐色 ロームブロック少量

覆土 7層に分層できる。ロームブロックなどを含む層が不規則に堆積していることから、埋め戻されている。



第447図 第513号土坑実測図



第448図 第513号土坑出土遺物実測図

土層解説

- |       |                        |       |                         |
|-------|------------------------|-------|-------------------------|
| 1 黒褐色 | ロームブロック少量、焼土ブロック・炭化物微量 | 5 暗褐色 | ロームブロック中量、焼土ブロック・炭化粒子微量 |
| 2 暗褐色 | ロームブロック中量              | 6 暗褐色 | ロームブロック少量、焼土粒子・炭化粒子微量   |
| 3 暗褐色 | ロームブロック少量、焼土ブロック・炭化物微量 | 7 暗褐色 | ロームブロック少量、炭化粒子微量        |
| 4 暗褐色 | ロームブロック中量、焼土粒子・炭化粒子微量  |       |                         |

遺物出土状況 縄文土器片 217点（深鉢201、浅鉢15、小型浅鉢1）、石器1点（磨石）、剥片1点（安山岩）が、覆土全体から散乱した状態で出土している。

所見 規模と形状から、貯蔵穴と考えられる。時期は、出土土器から中期後葉と考えられる。

第513号土坑出土遺物観察表（第448図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	文様の特徴ほか	出土位置	備考
1234	縄文土器	小型浅鉢	[105]	55	40	長石・石英	黄灰	普通	口縁部深褐色を伴う隆帯による区画文。腹部太沈線による角円形区画。区画内単純縄文。L1（縦）による放射縄文	覆土中	40%
1235	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	褐	普通	地文は単純縄文。L1（縦）太沈線を伴う隆帯による角円形区画	覆土中	
1236	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	にぶい黄褐色	普通	口縁部区画内単純縄文。L1（横）腹部（縦）太沈線を伴う隆帯による角円形区画。やや縮込。女性土器型製造系文	覆土中	
1237	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母・赤色粒子	にぶい黄褐色	普通	単純縄文。L1（横）を地文とし、一部回転方向を要する。羽状模様。区画間製造系文	覆土中	
1238	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	にぶい黄褐色	普通	口縁部単純縄文。L1（縦）を地文とし、太沈線間の放射系文	覆土中	PL142
1239	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	明黄褐色	普通	単純縄文。L1（縦）3本の太沈線による懸垂文。区画間製造	覆土中	PL142



## 第 517 号土坑 (第 449 図 PL74)

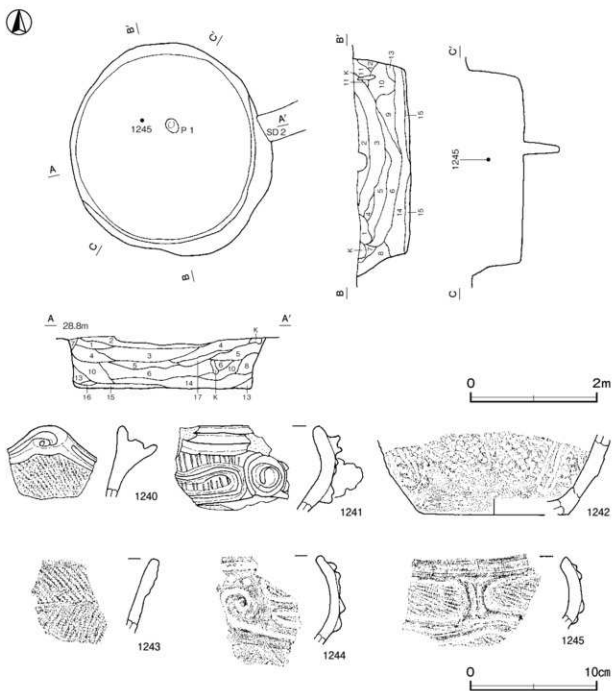
位置 調査区中央部の D 3 a7 区、標高 29 m ほどの台地中央部に位置している。

重複関係 第 2 号溝に掘り込まれている。

規模と形状 長径 3.44 m、短径 3.07 m の楕円形で、長径方向は N - 28° - W である。底面は平坦で、深さは 79 cm である。壁はほぼ直立している。

ピット 中央部に位置し、深さ 59 cm である。位置や形状から、柱穴と考えられる。

覆土 17 層に分層できる。ロームブロックなどを含む層が不規則に堆積していることから、埋め戻されている。



第 449 図 第 517 号土坑・出土遺物実測図

土層解説

1	暗褐色	ロームブロック微量	10	暗褐色	ロームブロック中量
2	黒褐色	ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子微量	11	にぶい褐色	ロームブロック少量、炭化物微量
3	黒褐色	ロームブロック少量、焼土粒子・炭化粒子微量	12	暗褐色	ロームブロック中量、炭化粒子微量
4	暗褐色	ロームブロック少量、炭化粒子微量	13	にぶい褐色	ロームブロック少量
5	暗褐色	ロームブロック少量、焼土粒子・炭化粒子微量	14	褐色	ロームブロック少量、炭化粒子微量
6	暗褐色	ロームブロック中量、炭化物微量	15	暗褐色	ロームブロック少量、炭化物微量
7	暗褐色	ロームブロック・炭化粒子微量	16	褐色	ロームブロック多量
8	暗褐色	ロームブロック少量	17	暗褐色	ロームブロック中量、焼土粒子・炭化粒子微量
9	褐色	ロームブロック中量			

遺物出土状況 縄文土器片 426点（深鉢411、浅鉢15）、石器1点（磨石）、剥片1点（石英）が、覆土全体から散乱した状態で出土している。1245は覆土中層から出土しており、埋土とともに投棄されたものである。

所見 規模と形状から、貯蔵穴と考えられる。時期は、出土土器から中期後葉と考えられる。

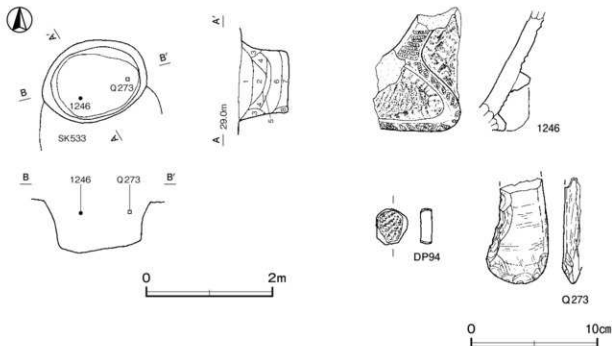
第517号土坑出土遺物観察表（第449図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	文様の特徴ほか	出土位置	備考
1240	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	橙	普通	口唇部沈線文・波頭部渦巻文・単筋縄文LR（縦）・縞文	覆土中	
1241	縄文土器	深鉢	-	(6.6)	-	長石・石英・雲母	褐色	普通	紋付突縁・背割れ縁帯による区画文・区画内クランク文・透視文光斑	覆土中	
1242	縄文土器	深鉢	-	11.6	(5.9)	長石・石英・雲母・赤色粒子・緑塵	明褐色	普通	複筋縄文LR（縦）を基文とし、3本単位の沈線による縞巻文	覆土中	
1243	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	灰褐色	普通	口縁に沿って細点の縁帯貼付・単筋縄文LRと沈線・縞内縁による区画構成	覆土中	
1244	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	にぶい黄褐色	普通	沈線を伴う縁帯による区画文・区画内影刻突文・渦巻文	覆土中	
1245	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	にぶい褐色	普通	口縁多本筋文LR（横）・沈線を伴う縁帯による楕円影刻区画文	覆土中層	

第518号土坑（第450図 PL75）

位置 調査区中央部のC38区、標高29mほどの台地中央部に位置している。

重複関係 第533号土坑を掘り込んでいる。



第450図 第518号土坑・出土遺物実測図

**規模と形状** 長径1.70 m、短径1.28 mの楕円形で、長径方向はN-71°-Eである。底面はほぼ平坦である。深さは78cmで、壁は直立している。

**覆土** 8層に分層できる。ロームブロックなどを含む層が不規則に堆積していることから、埋め戻されている。

## 土層解説

1	暗褐色	ロームブロック少量、焼土ブロック・炭化物微量	6	暗褐色	ロームブロック中量、焼土ブロック少量、炭化物微量
2	黒褐色	ロームブロック中量、焼土ブロック・炭化物微量	7	暗褐色	ロームブロック中量
3	暗褐色	ロームブロック多量、炭化物微量	8	暗褐色	ロームブロック多量
4	暗褐色	ロームブロック中量、焼土ブロック・炭化物少量			
5	暗褐色	ロームブロック・焼土ブロック中量、炭化物微量			

**遺物出土状況** 縄文土器片157点（深鉢154、浅鉢3）、土製品1点（土器片錘）、石器1点（磨製石斧）が、覆土中層から上層にかけて、散乱した状態で出土している。I246とQ273はそれぞれ覆土上層から出土しており、流れ込んだか投棄されたものと思われる。

**所見** 規模や形状から、貯蔵穴と思われる。時期は、出土土器から中期中葉と考えられる。

## 第518号土坑出土遺物観察表（第450図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	文様の特徴はか	出土位置	備考
I246	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母・赤鉄粒子	暗褐色	普通	隆帯上及び区画内に垂線縄文刻。(横・縦)隆帯に沿って連続点彩文	覆土上層	
番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	胎土	色調	特徴		出土位置	備考
DP94	土器片錘	2.8	2.5	0.9	8.3	長石・石英	にぶい赤褐色	短線部研削	両端にキザミ目	覆土中	
番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴		出土位置	備考	
Q273	磨製石斧	(8.5)	5.0	(1.4)	(8.29)	緑色岩	短冊形、表面研削、表面に研削痕、片側縁に打刃部は縁打調整後研ぎ出す	基部文様	覆土上層		

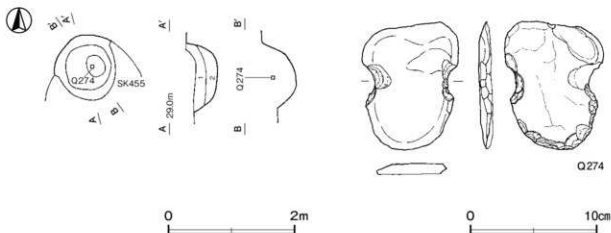
## 第521号土坑（第451図）

**位置** 調査区東部のC4j2区、標高29 mほどの台地中央部に位置している。

**重複関係** 第455号土坑に掘り込まれている。

**規模と形状** 径1.00～1.05 mの円形で、底面は皿状である。深さは52cmで、壁は外傾している。

**覆土** 2層に分層できる。北側からの流入が見られる自然堆積である。



第451図 第521号土坑・出土遺物実測図

土層解説

1 黒褐色 ロームブロック・焼土粒子微量

2 暗褐色 ロームブロック少量、焼土ブロック微量

遺物出土状況 石器1点(打製石斧)が覆土上層から出土しており、流れ込んだか投棄されたものと思われる。  
 所見 性格は不明である。時期は中期と考えられるが、詳細は不明である。

第521号土坑出土遺物観察表(第451図)

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
Q274	打製石斧	10.3	7.7	(1.1)	(113.6)	ホルンフェルス	分銅形 片面に自然面 持ち部は表裏を敲打 刃部は片面を敲打	覆土上層	PL162

第522号土坑(第452図)

位置 調査区東部のD4b8区、標高27mほどの台地縁辺部に位置している。

規模と形状 径0.82mの円形である。底面は平坦である。深さは21cmで、壁は外傾している。

覆土 3層に分層できる。黒褐色土がレンズ状に堆積していることから、自然堆積である。

土層解説

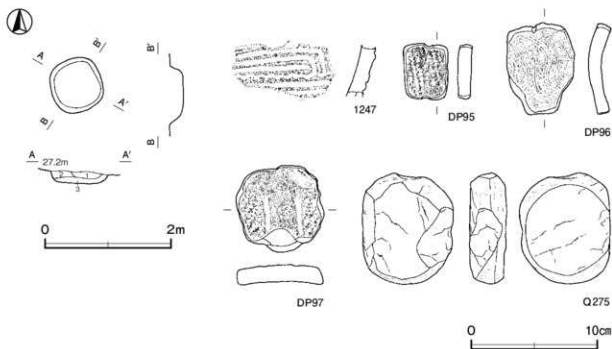
1 黒褐色 ローム粒子・炭化粒子微量

3 黒褐色 ロームブロック微量

2 黒褐色 ロームブロック少量

遺物出土状況 縄文土器片29点(深鉢),土製品4点(土偶1,土器片鍾2,土器片円蓋1),石器1点(敲砥石)が、覆土中からまばらに出土している。土偶片は、約80m西側に位置する第532号土坑から出土した破片(DP103)と接合している。破砕後、投棄されていたものが、流れ込んだものと思われる。

所見 性格は不明である。時期は出土土器から中期と考えられるが、詳細は不明である。土偶片が、第532号土坑から出土した破片と接合していることから、同時期に開口していたと考えられる。



第452図 第522号土坑・出土遺物実測図

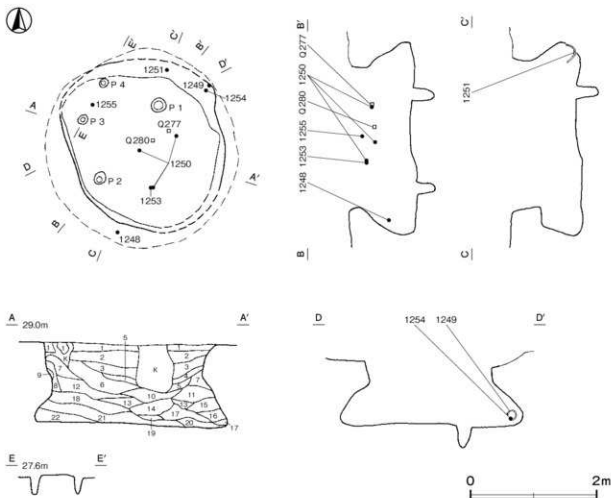
第 522 号土坑出土遺物観察表 (第 452 図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	文様の特徴ほか	出土位置	備考
1247	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	橙	普通	棒状工具による沈線で矩形文・横走文・波状文	覆土中	
番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	胎土	色調	特徴	出土位置	備考	
DP95	土器片鏝	4.5	3.6	1.1	26.0	長石・石英・雲母・赤色粒子	にぶい赤褐	黒緑部研磨 両端にキザミ目	覆土中		
DP96	土器片鏝	7.2	5.4	1.1	54.4	長石・石英・雲母	明褐	黒緑部研磨 両端にキザミ目	覆土中		
DP97	土器片鏝	6.9	7.0	1.7	88.5	長石・石英・雲母・赤色粒子	にぶい褐	黒緑部研磨	覆土中		
番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考		
Q275	磁瓦石	8.9	7.3	3.0	30.4	チャート	円縁の黒緑部に多方向からの砥面により棱をもつ	覆土中	PL173		

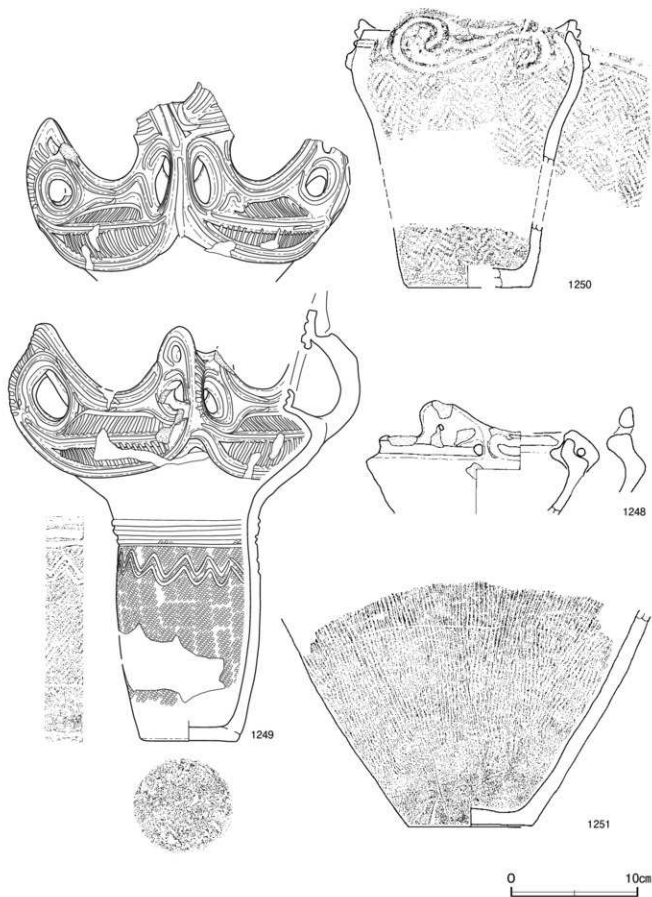
第 532 号土坑 (第 453 ~ 456 図 PL75)

位置 調査区南西部の C 28 区、標高 29 m ほどの台地縁辺部に位置している。

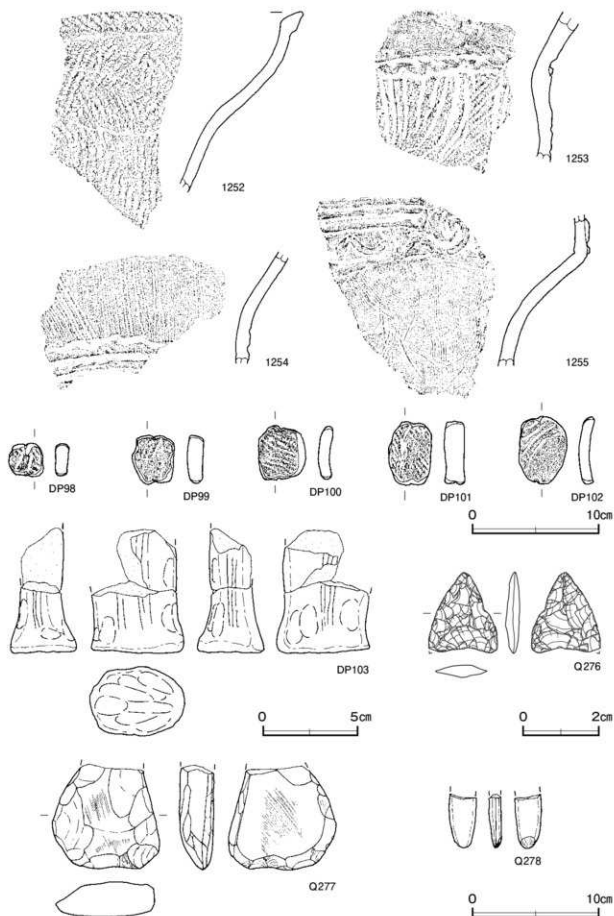
規模と形状 開口部は長径 2.96 m、短径 2.52 m の楕円形で、長径方向は N - 50° - W である。底面は径 3.00 ~ 3.04 m の円形で、ほぼ平坦である。確認面からの深さは 125 cm で、壁は中位まで内傾して袋状を呈し、上位はほぼ直立している。



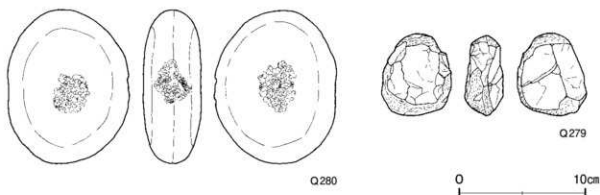
第 453 図 第 532 号土坑実測図



第454图 第532号土坑出土遗物实测图(1)



第455图 第532号土坑出土遗物实测图(2)



第456図 第532号土坑出土遺物実測図(3)

ピット 4か所。P1は北部、P2は南西部、P3は北西部、P4は北西壁際に位置し、深さは28～34cmである。P1・P2は、位置や形状から柱穴と考えられる。P3・P4は、性格不明である。

覆土 22層に分層できる。ロームブロックなどを含む層が不規則に堆積していることから、埋め戻されている。

土層解説

- |         |                       |          |                  |
|---------|-----------------------|----------|------------------|
| 1 黒褐色   | ローム粒子微量               | 12 黒褐色   | ロームブロック・炭化物少量    |
| 2 黒褐色   | ロームブロック少量、炭化粒子微量      | 13 暗褐色   | ロームブロック微量        |
| 3 黒褐色   | ロームブロック少量             | 14 暗褐色   | ロームブロック中量        |
| 4 黒褐色   | ロームブロック微量             | 15 にぶい褐色 | ロームブロック中量、炭化粒子微量 |
| 5 黒褐色   | ロームブロック少量、焼土粒子微量      | 16 黒褐色   | ロームブロック・炭化粒子微量   |
| 6 黒褐色   | ロームブロック中量、炭化粒子少量      | 17 黒色    | ロームブロック微量        |
| 7 にぶい褐色 | ローム粒子・炭化粒子微量          | 18 黒褐色   | ローム粒子中量          |
| 8 にぶい褐色 | ロームブロック少量             | 19 暗褐色   | ロームブロック中量、炭化粒子微量 |
| 9 褐色    | ローム粒子中量               | 20 暗褐色   | ロームブロック少量        |
| 10 黒褐色  | ロームブロック少量、焼土粒子・炭化粒子微量 | 21 黒褐色   | ロームブロック中量        |
| 11 黒褐色  | ローム粒子少量               | 22 暗褐色   | ローム粒子少量、炭化粒子微量   |

遺物出土状況 縄文土器片629点(深鉢599, 浅鉢30)、土製品6点(土偶1, 土器片錘5)、石器5点(鎌、磨製石斧、打製石斧、敲砥石、凹石)、剥片3点(トトロ石、ホルンフェルス、安山岩)が、覆土全体から散乱した状態で出土している。1249はほぼ完形で覆土下層から出土していることから、下層が埋め戻されてから投棄されたものと思われる。1251・1254・Q279は覆土下層から、1248・1250・1253、Q277・Q280は覆土中層から、1255は覆土上層から、それぞれ破片や欠けた状態で出土し、埋土と一緒に投棄されたものと思われる。土偶片は覆土中から出土し、埋土と一緒に投棄されたものと思われる。

所見 規模と形状から、貯蔵穴と考えられる。時期は、出土土器から中期中葉と考えられる。覆土中から出土した土偶片は、約80m東側に位置する第522号土坑出土の破片と接合し、破砕して投棄されたと考えられる。

第532号土坑出土遺物観察表(第454～456図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	文様の特徴ほか	出土位置	備考
1248	縄文土器	浅鉢	[152]	(85)	-	長石・石英・雲母	にぶい褐	普通	区画交点に眼裏状把手 口唇部太沈線 外・内周本縁直	覆土中層	30% PL143
1249	縄文土器	深鉢	173	35.7	7.5	長石・石英・雲母	にぶい褐	普通	4華段の青銅片縁帯による中央把手 青銅片縁帯で文飾部2分帯(区画)内沈線文で区画 器部無文帯 胴部を均回する3本の沈線を伴う帯帯で区画 胴部単面線文(区画) 2本の沈線による器部山形文・底面直線	覆土下層	90% PL142
1250	縄文土器	深鉢	[168]	[21.4]	[9.8]	長石・石英・燧炭	黒褐	普通	口縁に沿って青銅片縁帯貼付 青銅片縁帯による横S字状文 胴部器りの異なる単面線文による器部直の引状縁直	覆土中層	30% PL143



番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	文様の特徴ほか	出土位置	備考	
1251	縄文土器	深鉢	-	-	(172)	9.0	長石・石美・雲母	にぶい赤褐	普通	縦位の横糸文を全面に施文 胴部下位横方向の横き 底面磨光	覆土下層	30% PL142
1252	縄文土器	深鉢	-	-	-	-	長石・石美・雲母	にぶい褐	普通	口縁部肥厚 肥厚部に単面縄文瓦(横) 胴部(縦)	覆土中層	PL143
1253	縄文土器	深鉢	-	-	-	-	長石・石美・雲母・黒色粒子	にぶい赤褐	普通	胴部と胴部の境界押入された波状隆帯が一部 施文に単面縄文瓦(横) 横状工具による風乾文	覆土中層	
1254	縄文土器	深鉢	-	-	-	-	長石・石美・雲母	にぶい褐	普通	胴部縦高状工具及び手載片管による条線文 太沈堀による波状文と並行沈堀で胴部と区画	覆土下層	
1255	縄文土器	深鉢	-	-	-	-	長石・石美・雲母・赤色粒子	灰褐	普通	施文に横高状工具による条線文・波状文 背面波状隆帯による区画 区画内波状文・渦巻文	覆土上層	
番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	胎土	色調	特徴	出土位置	備考		
DP98	土器片鉢	2.6	2.8	1.0	9.2	長石・石美・雲母	灰褐	周縁部研磨 両端にキザミ目	覆土中層			
DP99	土器片鉢	3.9	3.3	1.3	18.6	長石・石美・雲母	にぶい橙	周縁部研磨 両端にキザミ目	覆土中層			
DP100	土器片鉢	4.2	3.7	1.1	17.4	長石・石美	にぶい橙	周縁部研磨 両端にキザミ目	覆土中層			
DP101	土器片鉢	5.1	3.3	1.5	37.2	長石・石美・雲母・黒色	にぶい赤褐	周縁部研磨 両端にキザミ目	覆土中層			
DP102	土器片鉢	5.3	3.8	1.2	23.1	長石・石美	にぶい赤褐	周縁部研磨 両端にキザミ目	覆土中層			
DP103	土器	(67)	(4.9)	(3.6)	(84.6)	長石・石美・雲母	灰褐	板状 胴部下端張り出し 正面縦位の3本と2本の縦状筋を下・裏面それぞれ1本の縦状筋と下 周縁部3本1列の順次磨光す 底面出っ張り	覆土中層	PL159 SK52と組合		
番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考			
Q 276	皿	2.1	1.9	0.4	(1.3)	チャート	無蒸籠 表面面押圧研磨	覆土中層	PL161			
Q 277	打製石斧	(8.2)	8.6	2.3	(363.1)	砂岩	分銅形 表裏に自然面 刃部は表裏を敲打 片刃部欠損	覆土中層	磨石の再利用			
Q 278	磨製石斧	(4.3)	2.1	1.1	(11.9)	砂岩	狭小型 扁平な自然稜を使用し、刃部は片面を研ぎ出す	覆土中層				
Q 279	敲砥石	6.1	5.5	3.2	124.0	チャート	円錐の周縁部に多方向からの砥面により稜をもつ	覆土下層	PL173			
Q 280	凹石	12.2	9.7	4.5	736.5	安山岩	表裏面中央部に敲打による浅い凹み 両側縁中央部に敲打痕全面磨り調整	覆土中層	PL181			

## 第 536 号土坑 (第 457・458 図 PL76)

位置 調査区西部の C 2 i0 区、標高 29 m ほどの台地縁辺部に位置している。

重複関係 第 505 号土坑に掘り込まれている。

規模と形状 開口部は径 2.08 ~ 2.25 m のほぼ円形である。底面は径 2.21 ~ 2.33 m の不整形円形で、ほぼ平坦である。確認面からの深さは 103cm で、壁は北部を除いて内撃して、袋状を呈している。

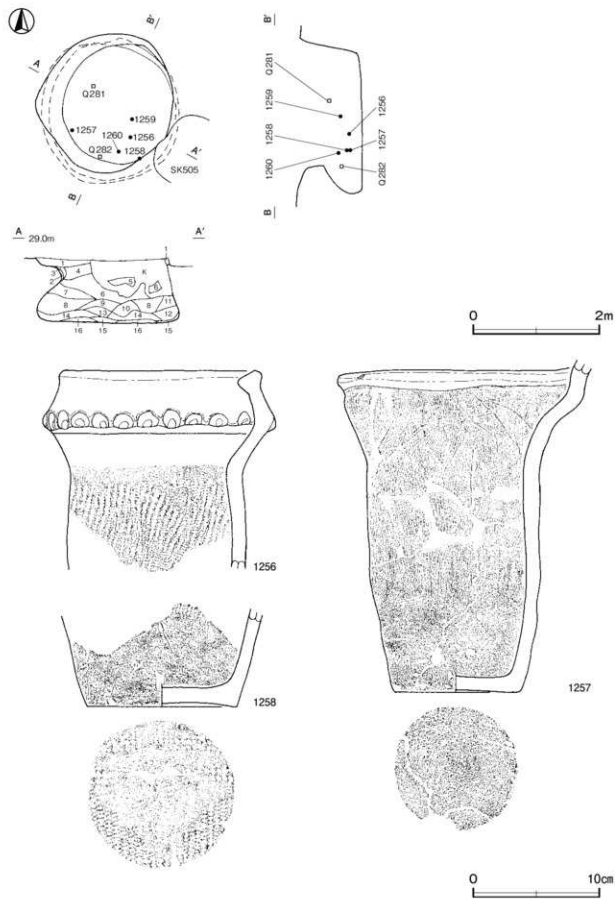
覆土 16 層に分層できる。ロームブロックを含む層が不規則に堆積していることから、埋め戻されている。

## 土層解説

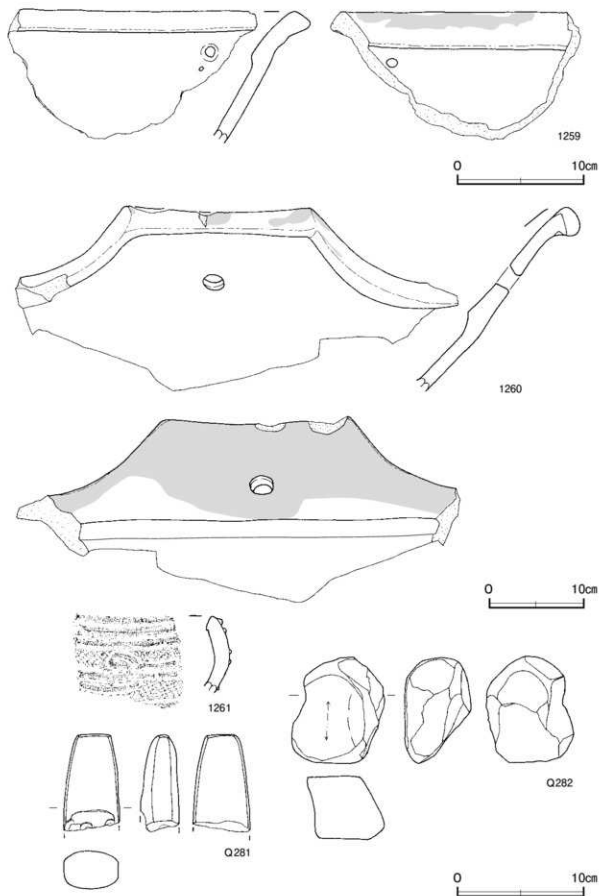
1 黒褐色	ロームブロック少量	9 暗褐色	ロームブロック少量
2 にぶい赤褐色	ローム粒子微量	10 暗褐色	ロームブロック中量、炭化粒子微量
3 暗褐色	ローム粒子微量	11 黒褐色	ローム粒子微量
4 黒褐色	ロームブロック少量、焼土粒子微量	12 黒褐色	ロームブロック微量
5 黒褐色	ロームブロック、炭化粒子微量	13 暗褐色	ロームブロック中量
6 黒褐色	ロームブロック、炭化粒子中量	14 にぶい赤褐色	ロームブロック中量
7 黒褐色	ロームブロック少量、炭化粒子微量	15 にぶい褐色	ロームブロック中量、炭化粒子微量
8 黒褐色	ロームブロック中量、炭化粒子微量	16 にぶい褐色	ロームブロック少量、炭化粒子微量

遺物出土状況 縄文土器片 182 点(深鉢 172、浅鉢 10)、石器 3 点(磨製石斧、磨石、敲砥石)が、覆土中層を中心に散乱した状態で出土している。1257 はほぼ完形で、覆土下層から出土していることから、ある程度埋め戻されてから投棄されたものと思われる。1256・1258 は覆土下層から、1259・1260、Q 281・Q 282 は覆土中層から破片や欠けた状態で出土し、埋土と一緒に投棄されたものと思われる。

所見 規模と形状から、貯蔵穴と考えられる。時期は、出土土器から中期中葉と考えられる。



第457图 第536号土坑·出土物实测图



第 458 图 第 536 号土坑出土遺物実測图

第 536 号土坑出土遺物観察表 (第 457・458 図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	文様の特徴ほか	出土位置	備考
1256	縄文土器	深鉢	15.2	(15.9)	-	長石・石英・雲母・赤色粒子	にぶい肌	普通	口縁下縁押圧隆帯周囲 肩部無文帯 胴部単面縄文及し斜向刻による縦走縄文	覆土下層	50% PL143
1257	縄文土器	深鉢	19.0	(26.4)	9.8	長石・石英・雲母・赤色粒子	にぶい肌	普通	口縁に1車位の突起帯 口縁に隆帯貼付 胴部細線状工具による縦走波状文	覆土下層	90% PL143
1258	縄文土器	深鉢	-	(7.3)	11.8	長石・石英・雲母	粗	普通	胴部縦線状工具による条線文 底面刷代肌	覆土下層	10%
1259	縄文土器	浅鉢	-	(12.2)	-	長石・石英・雲母・赤色粒子	にぶい肌	普通	口縁部に穿孔 外・内面磨き 内面に稜	覆土中層	
1260	縄文土器	浅鉢	-	(19.6)	-	長石・石英・雲母・赤色粒子	にぶい肌	普通	底頂部に穿孔 口唇部肥厚 外・内面磨き	覆土中層	10% PL143
1261	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母・赤色粒子	明黄肌	普通	2条の背割れ隆帯による口縁部区画 区画内地文に単面縄文もみ(跡) 背割れ隆帯による透気文	覆土中	

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
Q 281	磨製石斧	7.8	4.5	3.1	168.0	緑色凝灰岩	定角式 全面研磨 刃部欠損	覆土中層	PL167
Q 282	凝灰石	8.4	7.4	5.3	352	砂岩	円縁の両端部に敲打痕 表裏及び側縁に砥面をもつ	覆土中層	磨製石斧の内利用

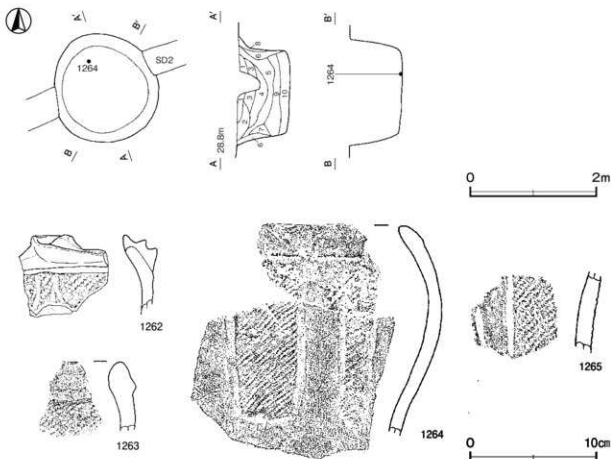
第 537 号土坑 (第 459 図 PL76)

位置 調査区南部のD 3b3区、標高 29 mほどの台地縁辺部に位置している。

重複関係 第 2号溝に掘り込まれている。

規模と形状 径 1.64 ~ 1.75 mの円形で、底面は平坦である。深さは 78cmで、壁は直立している。

覆土 10層に分層できる。黒褐色土がレンズ状に堆積していることから、自然堆積である。



第 459 図 第 537 号土坑・出土遺物実測図

## 土層解説

1 黒褐色	ロームブロック少量	6 暗褐色	ロームブロック微量
2 黒褐色	ロームブロック・炭化粒子微量	7 暗褐色	ローム粒子微量
3 黒褐色	ローム粒子中量	8 褐色	ロームブロック少量
4 黒褐色	ロームブロック少量, 炭化粒子微量	9 黒褐色	ローム粒子微量
5 黒褐色	ロームブロック微量	10 極暗褐色	ロームブロック少量, 炭化粒子微量

**遺物出土状況** 縄文土器片 157 点 (深鉢 149, 浅鉢 8), 石器 1 点 (石皿) が出土している。1264 は北部の覆土下層から、破片が散乱した状態で出土している。

**所見** 規模と形状から、貯蔵穴と考えられる。時期は、出土土器から中期後葉と考えられる。

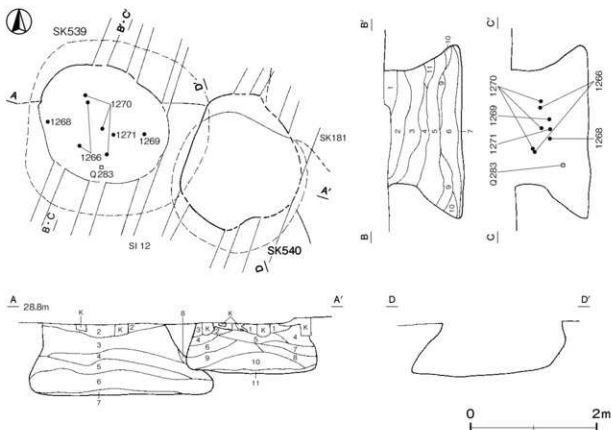
## 第 537 号土坑出土遺物観察表 (第 459 図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	文様の特徴ほか	出土位置	備考
1262	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	にふい肌	普通	口唇部に西み 口縁に沿って背留れ隆帯筋付 華部縄文 RL (縦) 沈線による弧状文	覆土中	
1263	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	灰褐色	普通	口縁に沿って隆帯筋縄文 口縁下華部縄文 RL (縦) 弧文	覆土中	
1264	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	褐色	普通	口縁に沿って隆帯筋付 内面彩の太沈線区画文 区画内華部縄文 RL (縦) 実地	覆土下層	PL144
1265	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母・ 磁鉄	にふい肌	普通	華部縄文 RL (縦) 太沈線間消点垂文	覆土中	

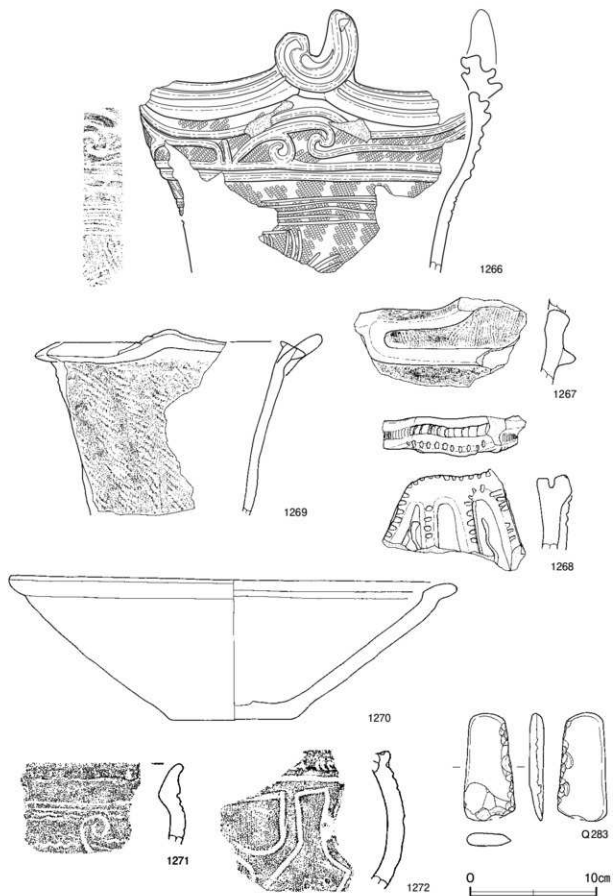
## 第 539 号土坑 (第 460・461 図 PL76)

**位置** 調査区中央部の C 3 e2 区, 標高 29 m ほどの台地中央部に位置している。

**重複関係** 第 12 号竪穴建物, 第 540 号土坑に掘り込まれている。



第 460 図 第 539・540 号土坑実測図



第461图 第539号土坑出土遗物实测图

**規模と形状** 開口部は長径2.10 m、短径1.73 mの楕円形で、長径方向はN-52°-Wである。底面は径2.74～2.86 mの不整形形で、ほぼ平坦である。確認面からの深さは120 cmで、壁は内彎して、袋状を呈している。

**覆土** 11層に分層できる。ロームブロックなどを含む層が不規則に堆積していることから、埋め戻されている。

## 土層解説

1 黒褐色	ローム粒子微量	7 暗褐色	ロームブロック中量、鹿沼土ブロック少量
2 黒褐色	ローム粒子中量、炭化粒子少量、焼土粒子微量	8 暗褐色	ロームブロック少量
3 黒褐色	ロームブロック中量、炭化粒子微量	9 黒褐色	ロームブロック中量、炭化物微量
4 黒褐色	ロームブロック少量	10 黒褐色	ロームブロック少量、炭化粒子微量
5 黒褐色	ロームブロック中量	11 極暗褐色	ロームブロック微量
6 暗褐色	ロームブロック中量		

**遺物出土状況** 縄文土器片326点（深鉢325、浅鉢1）、石器2点（打製石斧）が、覆土中層を中心に散乱した状態で出土している。1266・1270は覆土上層から中層にかけて出土しており、離れた位置のものが接合していることから、破砕されたものが投棄されたと考えられる。1268・1269・1271、Q 283は、破片や欠けた状態で覆土中層から出土しており、埋土と一緒に投棄されたものと考えられる。

**所見** 規模や形状から、貯蔵穴と考えられる。時期は、出土土器から中期中葉と考えられる。

## 第539号土坑出土遺物観察表（第461図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	文様の特徴ほか	出土位置	備考
1266	縄文土器	深鉢	28.0	(20.4)	-	長石・石英	暗赤褐色	普通	口縁に沿って2本の青銅孔跡帯一帯（口縁部単線縄文LR（横）・袋帯による区画文・渦巻文・横糸文・連帯の一位位（縦））を含む縄文	覆土上～中層	30% PL144
1267	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	にぶい赤褐色	普通	厚みの袋帯による区画文・区画間縦溝状工具による条線文で充填	覆土中	
1268	縄文土器	深鉢	-	(8.1)	-	長石・石英・雲母	褐色	普通	口唇部連続彫刻彩文 口縁に沿ってキザミ目を有する横帯文	覆土中層	
1269	縄文土器	深鉢	(17.9)	(14.5)	-	長石・石英・雲母・赤色粒子	にぶい赤褐色	普通	口唇部に平坦面作出 胴部縞状に単線縄文LR	覆土中層	10% PL144
1270	縄文土器	浅鉢	34.7	11.6	9.5	長石・石英・雲母	にぶい赤褐色	普通	口唇部は大きく開き平坦面作出 内面に縞	覆土上～中層	20% PL144 外面埋行着
1271	縄文土器	深鉢	-	(6.4)	-	長石・石英・雲母・燧石	にぶい褐色	普通	口縁部沈線による横走文・波状文・渦巻文	覆土中層	
1272	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	にぶい黄褐色	普通	口縁に沿う隆帯下に連続彫刻彩文 口縁部へつ状工具による条線土に沈線による曲線文	覆土中	PL144

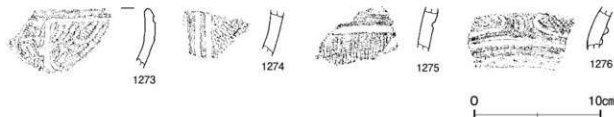
番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
Q 283	打製石斧	8.6	4.1	1.1	(60.5)	燧質安山岩	楕形 表裏に自然面 片側縁打調整 刃部は片面を敲打	覆土中層	PL165

## 第540号土坑（第460・462図 PL77）

**位置** 調査区中央部のC3e3区、標高29 mほどの台地中央部に位置している。

**重複関係** 第12号堅穴建物跡、第181・539号土坑を掘り込んでいる。

**規模と形状** 開口部は径1.78～1.92 mの不整形形である。底面は径2.10～2.52 mの不整形形で、ほぼ平坦である。確認面からの深さは85 cmで、壁は北東部が外傾し、その他は内彎して、袋状を呈している。



第462図 第540号土坑出土遺物実測図

**覆土** 11層に分層できる。ロームブロックなどを含む層が不規則に堆積していることから、埋め戻されている。

**土層解説**

1 黒褐色	ロームブロック少量	7 暗褐色	ローム粒子中量
2 黒褐色	ローム粒子少量	8 暗褐色	ロームブロック・炭化粒子微量
3 暗赤褐色	焼土粒子少量、ローム粒子微量	9 暗褐色	ロームブロック中量
4 暗褐色	ロームブロック微量	10 暗褐色	ロームブロック少量、炭化粒子微量
5 暗褐色	ローム粒子少量	11 暗褐色	ロームブロック中量、炭化粒子微量
6 暗褐色	ロームブロック少量		

**遺物出土状況** 縄文土器片42点（深鉢）、剥片1点（チャート）が、覆土中からまばらに出土している。

**所見** 規模と形状から、貯蔵穴と考えられる。時期は、出土土器から中期後葉と考えられる。

第540号土坑出土遺物観察表（第462図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	文様の特徴ほか	出土位置	備考
1273	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	灰褐色	普通	地文の単色縄文1段（横） 沈澱による方形区画文 区画と区画の間沈澱による断片文	覆土中	
1274	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	にぶい褐色	普通	地文の単色縄文2段（縦） 3本の沈澱による磨 出断片文	覆土中	
1275	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母・赤色粒子	褐色	普通	地文に縦位の赤赤文 横位の太沈澱が二重	覆土中	
1276	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	赤褐色	普通	地文に単色縄文1段（縦） 沈澱を伴う隆帯による区画文、区画の端点に凹形細突文	覆土中	

第541号土坑（第463・464図 PL77）

**位置** 調査区中央部のC3区2区、標高29mほどの台地中央部に位置している。

**重複関係** 第12号堅穴建物に掘り込まれている。

**規模と形状** 開口部は径1.45～1.47mの不整形である。底面は径1.75～1.82mの不整形で、ほぼ平坦である。確認面からの深さは79cmで、壁は東部を除いて内燻して、袋状を呈している。

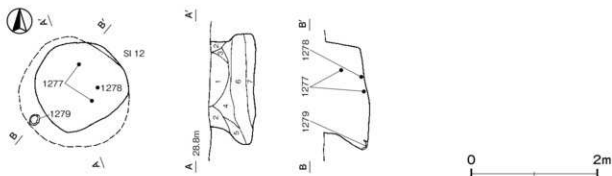
**覆土** 7層に分層できる。ロームブロックなどを含む層が不規則に堆積していることから、埋め戻されている。

**土層解説**

1 黒褐色	ロームブロック少量	5 暗褐色	ローム粒子中量
2 黒褐色	ローム粒子少量	6 暗褐色	ロームブロック少量
3 暗赤褐色	焼土粒子少量、ローム粒子微量	7 暗褐色	ロームブロック中量
4 暗褐色	ロームブロック・焼土粒子微量		

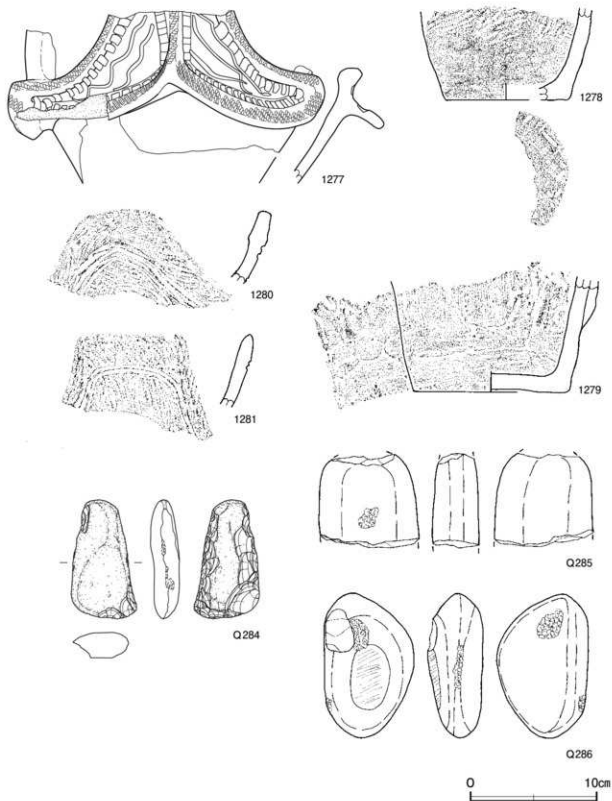
**遺物出土状況** 縄文土器片59点（深鉢）、石器3点（打製石斧、磨石、敲石）が、覆土全体からまばらに出土している。1277は離れた位置から出土したものが接合しており、破砕されたものが投棄されたと思われる。1278・1279は破片で覆土下層から出土していることから、埋土と一緒に投棄されたものと思われる。

**所見** 規模と形状から貯蔵穴と考えられる。時期は、出土土器から中期中葉と考えられる。



第463図 第541号土坑実測図





第 464 图 第 541 号土坑出土遺物実測図

第 541 号土坑出土遺物観察表 (第 464 図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	文様の特徴ほか	出土位置	備考
1277	縄文土器	深鉢	23.0	(13.7)	-	長石・石英・雲母	にぶい橙	良好	縄文土器の底状陰帯による区画文・陰帯に沿って準長条彩文・区画内流線による底状文・胴部縄文	覆土中～下層	30% PL144
1278	縄文土器	深鉢	-	(7.4)	(9.8)	長石・石英・雲母	にぶい赤	普通	胎土にO段多葉車面縄文RL(縦)・施文・胴部下腹部分と底面網代文	覆土下層	10%
1279	縄文土器	深鉢	-	(9.3)	12.3	長石・石英・雲母	にぶい橙	普通	網代状文による縦位の条線文上に流線状陰帯を帯下・底面網代文	覆土下層	20%
1280	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	赤褐色	普通	口縁に沿って無節縄文・施文の陰帯貼付・陰帯に沿って数本の流線文	覆土中	
1281	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	にぶい赤褐色	普通	口縁に沿って縄文土器の陰帯貼付・陰帯に沿って手続行管による並行流線文	覆土中	

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
Q 284	打製石斧	9.5	5.2	2.3	147	緑色岩	磨製 自然磨の側縁部の片面を敲打 刃部は表裏を敲打	覆土中	PL165
Q 285	磨石	(7.5)	7.9	3.7	(361)	安山岩	全面磨面 表面に微細な敲打痕 下半部欠損	覆土中	
Q 286	敲石	11.4	7.2	4.4	450	緑色岩	全面磨面 表裏面・側面に微細な敲打痕	覆土中	PL173

第 542 号土坑 (第 465・466 図 PL77)

位置 調査区中央部の C 3 区画。標高 29 m ほどの台地中央部に位置している。

重複関係 第 12・16 号堅穴建物跡を掘り込んでいる。

規模と形状 開口部は径 2.43～2.47 m の不整形である。底面は径 2.32～2.36 m の円形で、ほぼ平坦である。

確認面からの深さは 84 cm で、壁は北西部がほぼ直立し、その他が内傾して、袋状を呈している。

ピット 2 か所。P 1 は深さ 120 cm で、形状から柱穴と考えられる。P 2 は深さ 17 cm で、性格不明である。

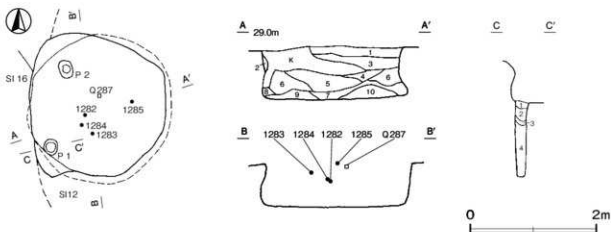
ピット土層解説

- |                 |                        |
|-----------------|------------------------|
| 1 黒褐色 ロームブロック中量 | 3 黒褐色 ロームブロック少量、炭化粒子微量 |
| 2 黒褐色 ロームブロック少量 | 4 暗褐色 ロームブロック少量        |

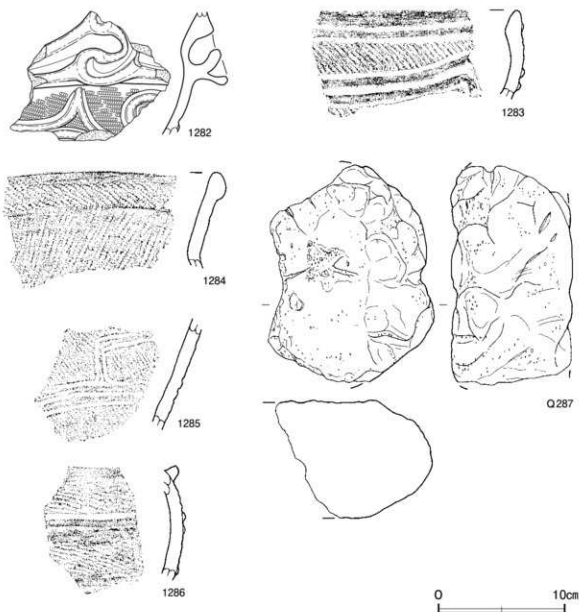
覆土 10 層に分層できる。ロームブロックなどを含む層が不規則に堆積していることから、埋め戻されている。

土層解説

- |                        |                      |
|------------------------|----------------------|
| 1 黒褐色 ローム粒子少量、炭化粒子微量   | 6 暗褐色 ロームブロック中量      |
| 2 暗褐色 ロームブロック少量、炭化粒子微量 | 7 黒褐色 ローム粒子中量、炭化粒子微量 |
| 3 黒褐色 ロームブロック中量、炭化粒子微量 | 8 黒褐色 ロームブロック少量      |
| 4 黒褐色 ロームブロック少量、炭化粒子微量 | 9 黒褐色 ローム粒子少量        |
| 5 暗褐色 ロームブロック中量、炭化粒子微量 | 10 黒褐色 ロームブロック中量     |



第 465 図 第 542 号土坑実測図



第466図 第542号土坑出土遺物実測図

**遺物出土状況** 縄文土器片197点(深鉢), 石器1点(浮子)が, 覆土上層から中層にかけて, 散乱した状態で出土している。1282～1284は破片で覆土中層から, 1285, Q287は破片や欠けた状態で覆土上層から出土しており, 埋土と一緒に投棄されたものと思われる。

**所見** 規模と形状から, 貯蔵穴と考えられる。時期は, 出土土器から中期中葉と考えられる。

第542号土坑出土遺物観察表(第466図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	文様の特徴ほか	出土位置	備考
1282	縄文土器	深鉢	-	(10.3)	-	長石・石英・雲母・黒色粒子	橙	普通	写めの捺印による渦巻文を有する把手。捺印による区画文・渦文に単節縄文LR(斜)・渦巻文	覆土中層	PL145
1283	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	にぶい黄褐色	普通	0段多葉縄文出(縦)。沈澱を伴う捺印による区画文・区画内沈澱を伴う之条の渦帯による渦巻文	覆土中層	
1284	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母・赤色粒子	暗褐色	普通	口縁に沿って単節縄文RL(横)・渦文の縦帯幅付部同一体(縦)	覆土中層	

番号	器種	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	文様の特徴ほか	出土位置	備考
1285	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	にぶい黄褐色	普通	縄文に準拠調査区(Ⅱ)の収蔵文で区別	矩形文 胴部と3本の覆土上層	
1286	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	にぶい黄褐色	普通	縄文の準拠調査区(Ⅱ)の収蔵文で区別	波瀾を伴う2条の隆起による区別文 区内調査区	

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
Q 287	浮子	(17.1)	(13.2)	9.6	(332.6)	軽石	中央部わずかに凹む 上面・側面に結核状	覆土上層	

### 第543号土坑 (第467～470図 PL78)

**位置** 調査区中央部のC3g2区、標高29mほどの台地中央部に位置している。

**重複関係** 第12号竪穴建物に掘り込まれている。

**規模と形状** 開口部は長径1.80m、短径1.59mの楕円形で、長径方向はN-76°-Wである。底面は長径2.55m、短径1.97mの楕円形で、ほぼ平坦である。確認面からの深さは110cmで、壁は北東部が緩やかに内彎しており、その他が大きく内彎して、袋状を呈している。

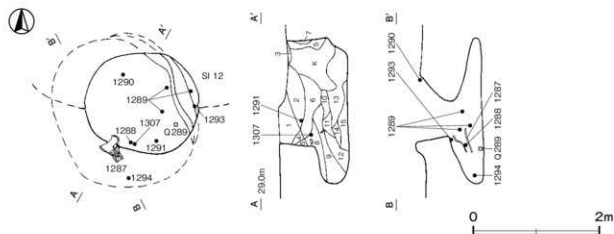
**覆土** 15層に分層できる。ロームブロックなどを含む層が不規則に堆積していることから、埋め戻されている。

#### 土層解説

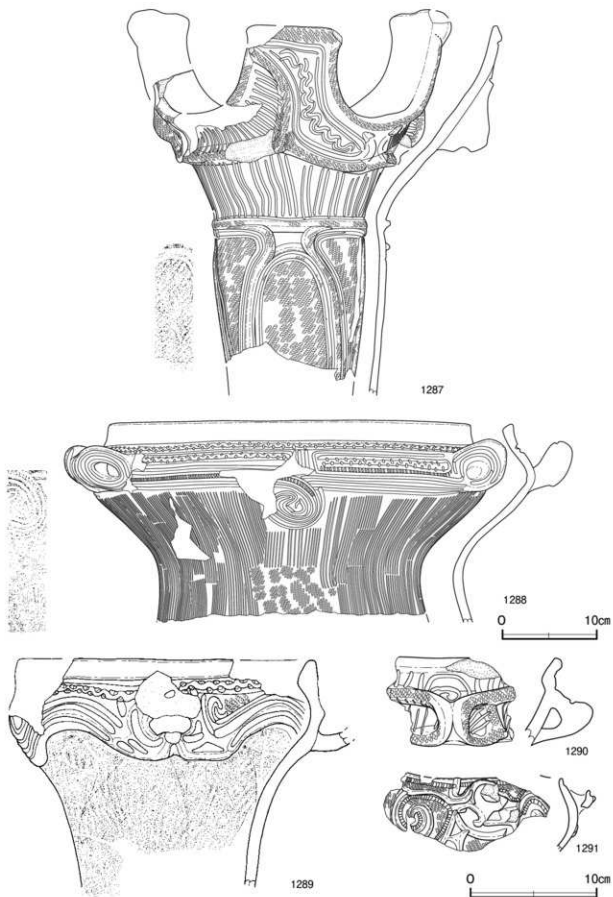
- |          |                  |        |                  |
|----------|------------------|--------|------------------|
| 1 黒褐色    | ロームブロック中量        | 9 黒褐色  | ロームブロック少量、炭化粒子微量 |
| 2 黒褐色    | ロームブロック少量        | 10 黒褐色 | ロームブロック少量、焼土粒子微量 |
| 3 黒褐色    | ローム粒子少量          | 11 黒褐色 | ロームブロック中量、炭化粒子微量 |
| 4 黒褐色    | ロームブロック微量        | 12 黒褐色 | ロームブロック・焼土ブロック少量 |
| 5 暗褐色    | ロームブロック微量        | 13 暗褐色 | ロームブロック中量        |
| 6 にぶい褐色  | ロームブロック少量、炭化粒子微量 | 14 暗褐色 | ローム粒子中量、焼土粒子微量   |
| 7 にぶい黄褐色 | ロームブロック少量        | 15 黒褐色 | ロームブロック中量、炭化粒子微量 |
| 8 黒褐色    | ロームブロック・炭化粒子微量   |        |                  |

**遺物出土状況** 縄文土器片316点(深鉢315、小型浅鉢1)、石器3点(磨製石斧2、凹石1)が、全体の各層から散乱した状態で出土している。1287と1288は覆土下層から横位の状態で出土しており、ある程度埋まってから、投棄されたものと思われる。1289は覆土中層から下層にかけて出土し、離れた位置のものが接合していることから、破碎したものを投棄したと思われる。1294、Q 289は覆土下層から、1293は覆土中層から、1290は覆土上層から、それぞれ破片や欠けた状態で出土し、埋土と一緒に投棄されたものと思われる。

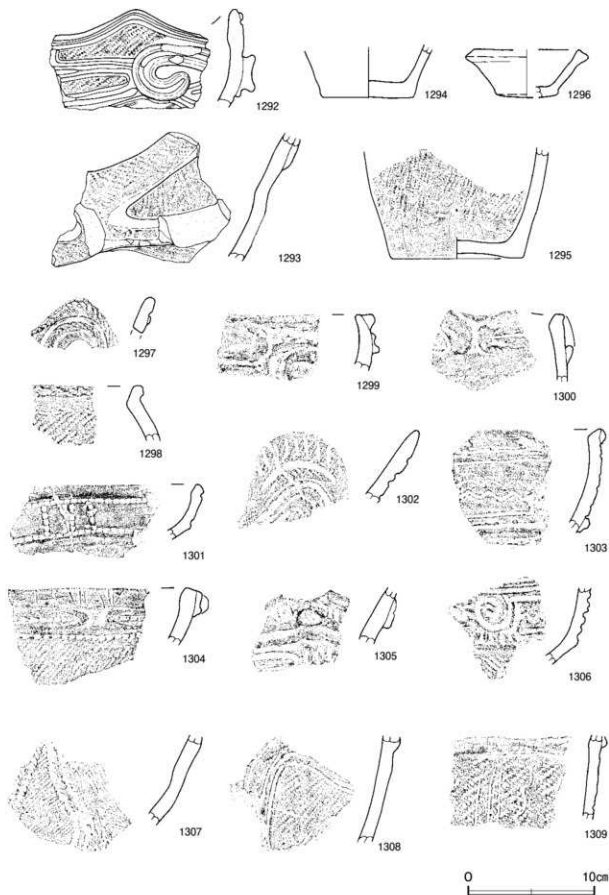
**所見** 規模と形状から貯蔵穴と考えられる。時期は、出土土器から中期中葉と考えられる。



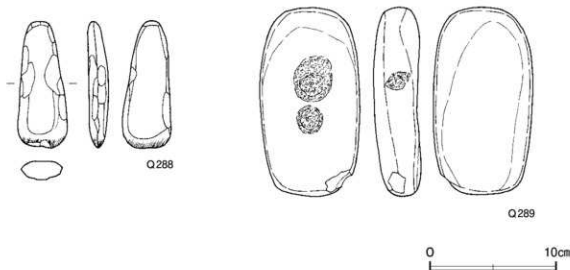
第467図 第543号土坑実測図



第468図 第543号土坑出土遺物実測図(1)



第469图 第543号土坑出土遗物实测图(2)



第470図 第543号土坑出土遺物実測図(3)

第543号土坑出土遺物観察表(第468～470図)

番号	種類	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	特徴	出土位置	備考
1287	縄文土器	深鉢	27.0	(40.7)	-	長石・石英・雲母	にぶい	良好	口縁に沿って0段多条卑部縄文瓦(横)施文の片状隆帯による区画文 区画内並行施文文、沈線文を先頭 器底部位の沈線文 胴部縄文施文の隆帯による並行施文	覆土下層	90% PL145
1288	縄文土器	深鉢	38.5	(21.4)	-	長石・石英・雲母	にぶい	普通	3単位の縦筋状隆帯 隆帯沈線による凹文、突刺部隆帯文 交互刺突文と沈線による方形区画文 区画内部位の交互刺突文と沈線文を先頭 胴部隆帯状工具による条筋 一部に卑部縄文(横)	覆土下層	50% PL145
1289	縄文土器	深鉢	23.3	(18.1)	-	長石・石英・雲母	粗	普通	器下部隆帯 口縁に沿って交互刺突文 2本の沈線文を伴う筒状隆帯による波状 胴部卑部縄文瓦(斜)施文	覆土中～下層	30% PL145
1290	縄文土器	深鉢	-	(7.1)	-	長石・石英・雲母	にぶい	良好	縄文施文の厚みのある隆帯による横内帯区画文 区画内部位の沈線と突刺	覆土上層	PL145
1291	縄文土器	深鉢	-	(5.8)	-	長石・雲母	にぶい	普通	有筋沈線を伴う隆帯による渦巻文	覆土中	PL145
1292	縄文土器	深鉢	-	(8.0)	-	長石・石英・雲母	黒周	普通	施文の卑部縄文瓦(縦)上に背割れ隆帯による区画文 区画内背割れ隆帯による渦巻文	覆土中	
1293	縄文土器	深鉢	-	(10.2)	-	長石・石英・雲母・燧石	にぶい	普通	太沈線を伴う卑部縄文瓦(横)施文の厚みのある隆帯による区画文 区画内卑部縄文瓦值	覆土中層	10%
1294	縄文土器	深鉢	-	(4.3) 7.4	7.4	長石・石英・雲母	にぶい	普通	下部段及び底面入念な磨き	覆土下層	20%
1295	縄文土器	深鉢	-	(7.8) 10.4	10.4	長石・石英・雲母	にぶい	普通	卑部縄文瓦(横)施文 下部端方向の指によるナデ 底面副代	覆土中	10%
1296	縄文土器	小型皿鉢	[8.3]	3.9	[4.8]	長石・石英・雲母	にぶい	普通	口唇部外割り状で平坦 外・内面傾方向のナデ	覆土中	30%
1297	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	暗周	普通	深部中央に穿孔 口縁に沿って卑部縄文瓦(横)施文の隆帯隆帯	覆土中	
1298	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	にぶい	普通	口唇部平坦 口唇部卑部縄文瓦(横)横ナデによる凹線が一部 胴部同一原体(横)	覆土中	
1299	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	黒周	普通	口唇部平坦面凸出 断面薄形隆帯による横内帯区画文	覆土中	
1300	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	黒	普通	隆帯による横内帯区画文 区画内沈線文 断面無筋施文施文	覆土中	
1301	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	にぶい	普通	隆帯による区画文 隆帯に沿って有筋沈線文 3本の縦筋の隆帯施文	覆土中	
1302	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	黒周	普通	深部卑部縄文L形(横)施文の隆帯上にキザ目 口縁に沿って高次の沈線文	覆土中	
1303	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	にぶい	普通	隆帯による区画文 区画内平帯隆帯による平行施文・波状文	覆土中	
1304	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	にぶい	普通	口唇部平坦面 隆帯による横内帯区画文 区画内有筋沈線文 胴部無筋施文(横)施文	覆土中	
1305	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	灰周	普通	背割れ隆帯による区画文 区画内沈線文と沈線	覆土中	
1306	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	黒	普通	沈線による方形区画 区画内渦巻文・波状文	覆土中	
1307	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	灰周	普通	口縁に沿って無筋施文をランダムに施文した隆帯隆帯 隆帯に沿って2本の有筋沈線施文	覆土中	
1308	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	にぶい	普通	施文に卑部縄文L形(横) 断面薄形隆帯に沿って平帯隆帯による並行施文	覆土中	
1309	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	にぶい	普通	胴部と胴部の境界に隆帯隆帯 施文の卑部縄文瓦(横)上に3本の条筋と斜行施文文が下下	覆土中	

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
Q 288	磨製石斧	10.1	4.0	1.8	95.9	角閃岩	短舌形 自然磨の両側縁に微細な磨打痕 刃部は表裏から磨き出す	覆土中	PL168
Q 289	凹石	15.0	7.9	3.8	712.4	砂岩	全面磨り調整 表面2か所、断面1か所磨打による凹み痕	覆土下層	PL181

### 第 544 号土坑 (第 471 図)

**位置** 調査区中央部の C 3h3 区, 標高 29 m ほどの台地中央部に位置している。

**重複関係** 第 550 号土坑を掘り込んでいる。

**規模と形状** 長径 1.90 m, 短径 1.65 m の楕円形で, 長径方向は N - 34° - W である。底面はほぼ平坦である。深さは 8 cm で, 壁は外傾している。

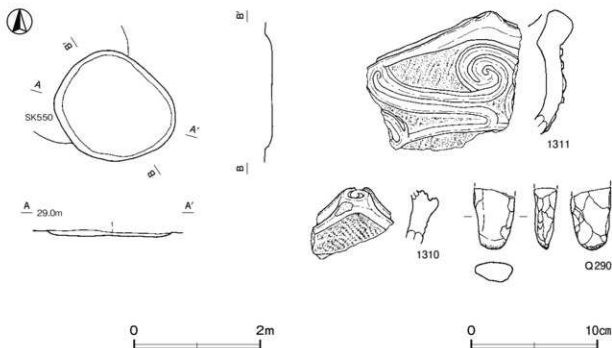
**覆土** 単一層。黒褐色土が堆積していることから, 自然堆積である。

#### 土層解説

1 黒褐色 ロームブロック微量

**遺物出土状況** 縄文土器片 15 点 (深鉢), 石器 1 点 (打製石斧) が, 覆土中からまばらに出土している。

**所見** 性格は不明である。時期は, 出土土器から中期中葉と考えられる。



第 471 図 第 544 号土坑・出土遺物実測図

### 第 544 号土坑出土遺物観察表 (第 471 図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	他成	文様の特徴ほか	出土位置	備考
1310	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	黒褐	普通	底面部渦巻文, 口唇部に沈線文, 口縁に沿って徐帯貼付, 垂胎縄文区, (横) 施文	覆土中	
1311	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	にぶい褐	普通	中胎縄文区, (横) 上に徐帯による区画文区, 底面沈線を伴う2条の徐帯による渦巻文	覆土中	
Q290	打製石斧		長さ	幅	厚さ	重量	材質		特徴	出土位置	備考
Q290	打製石斧		(4.9)	3.2	1.8	(36.9)	ホルンフェルス	磨料	片面に自然面, 周縁部敲り調整, 基部欠損	覆土中	

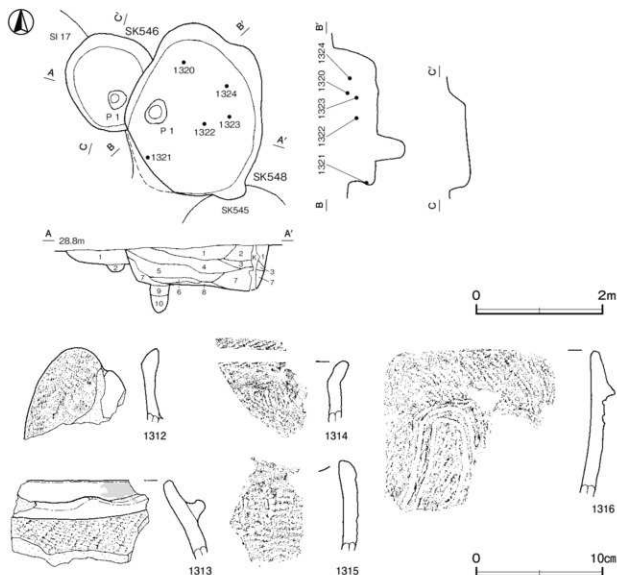
### 第 546 号土坑 (第 472 図 PL78)

**位置** 調査区中央部の C 3g1 区, 標高 29 m ほどの台地中央部に位置している。

**重複関係** 第 17 号竪穴建物跡を掘り込み, 第 548 号土坑に掘り込まれている。

**規模と形状** 長径 1.59 m, 短径 1.40 m の楕円形で, 長径方向は N - 20° - W である。底面はほぼ平坦である。





第472図 第546・548号土坑、第546号土坑出土遺物実測図

深さは22cmで、壁は外傾している。

**ピット** 中央部の南寄りに位置し、深さは12cmである。形状から柱穴と考えられる。

**覆土** 2層に分層できる。黒褐色土がレンズ状に堆積していることから、自然堆積である。

#### 土層解説

1 黒褐色土 ロームブロック微量

2 黒褐色土 ロームブロック少量

**遺物出土状況** 縄文土器片121点(深鉢)、剥片1点(チャート)が、覆土中から散乱した状態で出土している。

**所見** 性格は不明である。時期は、出土土器から中期中葉と考えられる。

第546号土坑出土遺物観察表(第472図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	文様の特徴ほか	出土位置	備考
1312	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母・赤色粒子	にぶい橙	普通	瓦葺状の大波状口縁 地文に早稲縄文R(横縦)	覆土中	
1313	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・赤色粒子	にぶい黄橙	普通	解文帯下に泥状隆帯幅付 隆帯下早稲縄文LR(横) 胎文	覆土中	

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	文様の特徴ほか	出土位置	備考
1314	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・磁礫・赤色粒子	にぶい褐色	普通	口縁部無加飾文し(横) 口縁に沿って隆帯貼付 口縁下部無加飾文し(縦)	覆土中	
1315	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母・磁礫	にぶい褐色	普通	口縁に沿って隆帯貼付 地文に無加飾文(斜) 有筋沈彫による渦巻文	覆土中	
1316	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母・赤色粒子	にぶい褐色	普通	口縁に沿って無加飾文(横) 施文の隆帯貼付 隆帯に沿って2本の花巻文	覆土中	

### 第 547 号土坑 (第 473 図)

**位置** 調査区中央部の C 319 区、標高 29 m ほどの台地中央部に位置している。

**重複関係** 第 446 号土坑に掘り込まれている。

**規模と形状** 長径 180 m、短径 132 m の楕円形で、長径方向は N - 30° - W である。底面は、南東方向に緩やかに下降している。深さは 37 cm で、壁はほぼ直立している。

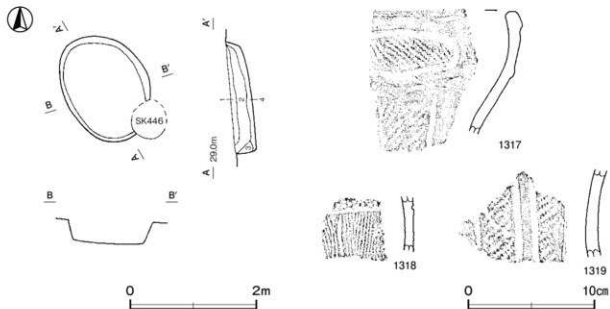
**覆土** 4 層に分層できる。各層にロームブロックが含まれていることから、埋め戻されている。

#### 土層解説

- |                 |                 |
|-----------------|-----------------|
| 1 暗褐色 ロームブロック少量 | 3 暗褐色 ロームブロック中量 |
| 2 黒褐色 ロームブロック少量 | 4 褐色 ロームブロック中量  |

**遺物出土状況** 縄文土器片 86 点 (深鉢)、剥片 1 点 (石英) が、覆土中層を中心に散乱した状態で出土している。

**所見** 性格は不明である。時期は、出土土器から中期後葉と考えられる。



第 473 図 第 547 号土坑・出土遺物実測図

### 第 547 号土坑出土遺物観察表 (第 473 図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	文様の特徴ほか	出土位置	備考
1317	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	にぶい褐色	普通	太沈淵を伴う隆帯による楕円形区画文 区画内 無加飾文(横) 胴部彫刻一帯(縦) 太沈 淵による渦巻文 胴部彫刻	覆土中	
1318	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石	にぶい褐色	普通	有筋高突文と沈淵で彫刻と区画 胴部彫走する 渦巻文 沈淵による渦巻文	覆土中	
1319	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	にぶい褐色	普通	0段多角無加飾文(縦) 太沈淵周部消帯文	覆土中	

## 第 548 号土坑 (第 472・474 図 PL78)

位置 調査区中央部の C3h2 区、標高 29 m ほどの台地中央部に位置している。

重複関係 第 545・546 号土坑を掘り込んでいる。

規模と形状 長径 2.75 m、短径 2.12 m の不整楕円形で、長径方向は  $N-5^{\circ}-W$  である。底面はほぼ平坦で、深さは 72 cm である。壁はほぼ直立している。

ピット 中央部から西寄りに位置し、深さは 46 cm である。形状から柱穴と考えられる。

覆土 8 層に分層できる。ロームブロックなどを含む層が不規則に堆積していることから、埋め戻されている。

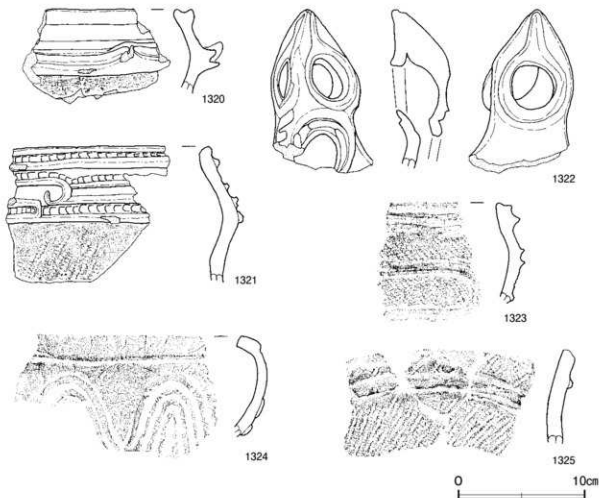
第 9・10 層は P1 の覆土である。

## 土層解説

1 黒褐色	ローム粒子中量	6 黒褐色	ローム粒子微量
2 黒褐色	ロームブロック少量	7 黒褐色	ロームブロック・炭化粒子微量
3 黒褐色	ローム粒子少量	8 暗褐色	ロームブロック少量
4 黒褐色	ロームブロック少量、炭化粒子微量	9 黒褐色	ローム粒子中量、炭化粒子微量
5 黒褐色	ロームブロック中量、炭化粒子微量	10 黒褐色	ロームブロック少量、焼土粒子微量

遺物出土状況 縄文土器片 57 点 (深鉢 49、浅鉢 8) が、覆土中層を中心に散乱した状態で出土している。1321～1324 は覆土中層から、1320 は覆土上層から、それぞれ破片で出土し、埋土と一緒に投棄されたものと思われる。

所見 規模と形状から、貯蔵穴と考えられる。時期は、出土土器から中期中葉と考えられる。



第 474 図 第 548 号土坑出土遺物実測図

第 548 号土坑出土遺物観察表 (第 474 図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	文様の特徴ほか	出土位置	備考
1330	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	明赤褐色	普通	口唇部内面、洋器状口縁、突起を有する鋭状隆部による区画	覆土上層	
1321	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母・赤色粒子	にぶい褐色	普通	有銘文跡を伴う隆部による区画、区画内隆起部による透色文、単筋縄文(反)地文	覆土中層	PL145
1322	縄文土器	深鉢	-	(129)	-	長石・石英・雲母	にぶい褐色	普通	背割れ隆部による3孔を有する剣先状の中空把手	覆土中層	
1323	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母・繊維	にぶい褐色	普通	口唇部内面、背割れ隆部による区画文、地文の単筋縄文(反)地文(横)上にクランク文	覆土中層	
1324	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	橙	普通	口縁部についで隆部が付く、沈線を伴う重層する隆部による透色文	覆土中層	PL145
1325	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	黒黒	普通	胴部と胴部を区画する伴う隆部で区画、胴部単筋縄文(反)地文	覆土中	

第 549 号土坑 (第 475 ~ 477 図 PL78)

位置 調査区中央部の C3g1 区、標高 29 m ほどの台地中央部に位置している。

重複関係 第 16 号竪穴建物跡を掘り込んでいる。

規模と形状 開口部は径 1.65 ~ 1.69 m のほぼ円形である。底面は径 1.95 ~ 1.99 m の不整形円形で、ほぼ平坦である。確認面からの深さは 74 cm で、壁は内増して、袋状を呈している。

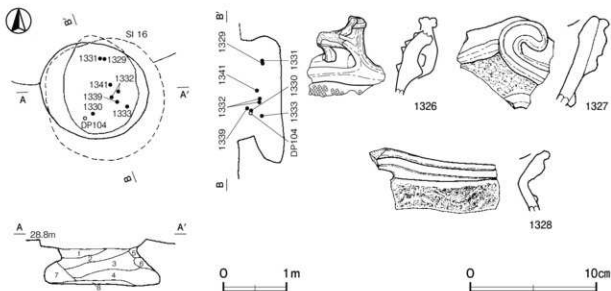
覆土 8 層に分層できる。ロームブロックなどを含む層が不規則に堆積していることから、埋め戻されている。

土層解説

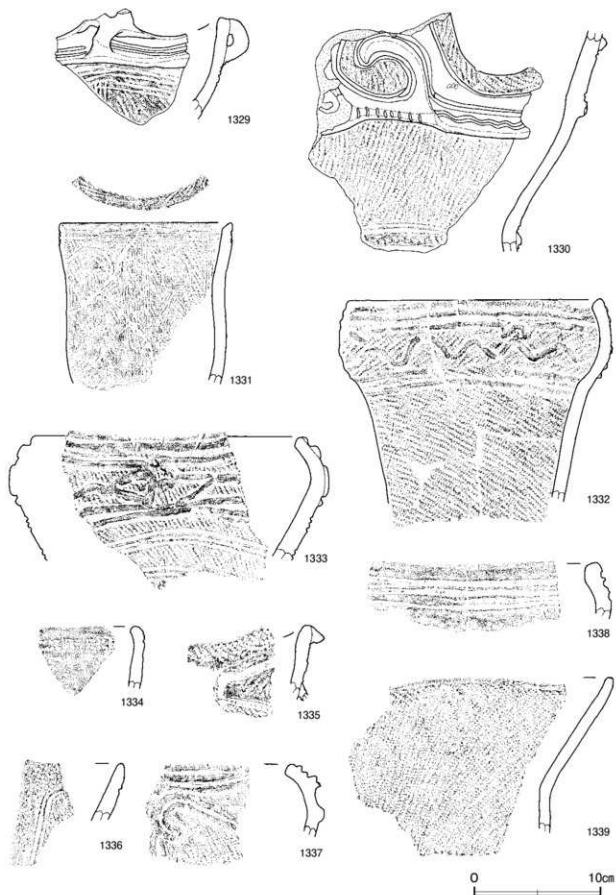
- |       |                       |       |                  |
|-------|-----------------------|-------|------------------|
| 1 暗褐色 | ローム粒子少量、焼土粒子・炭化粒子微量   | 5 褐色  | ロームブロック少量、炭化粒子微量 |
| 2 暗褐色 | ロームブロック少量、焼土粒子・炭化粒子微量 | 6 褐色  | ロームブロック中量        |
| 3 暗褐色 | ロームブロック・焼土粒子少量        | 7 暗褐色 | ロームブロック少量、炭化粒子微量 |
| 4 黒褐色 | ロームブロック少量、炭化粒子微量      | 8 褐色  | ロームブロック少量、焼土粒子微量 |

遺物出土状況 縄文土器片 288 点 (深鉢 286、浅鉢 2)、土製品 1 点 (土器片錘)、石器 2 点 (磨製石斧、石皿)、剥片 4 点 (チャート 3、黒曜石 1) が、覆土中層を中心に散乱した状態で出土している。1329・1331 ~ 1333・1341 は覆土中層から、1330・1339、DP104 は覆土上層から、それぞれ破片で出土し、埋土と一緒に投棄されたものと思われる。

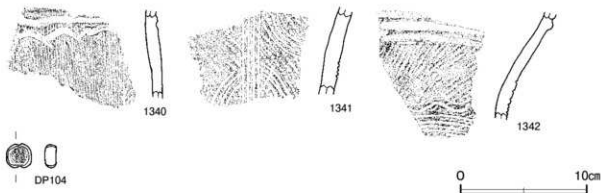
所見 規模と形状から、貯蔵穴と考えられる。時期は、出土土器から中期中葉と考えられる。



第 475 図 第 549 号土坑・出土遺物実測図



第 476 图 第 549 号土坑出土遺物実測图 (1)



第 477 図 第 549 号土坑出土遺物実測図 (2)

第 549 号土坑出土遺物観察表 (第 475 ~ 477 図)

番号	器種	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	文様の特徴ほか	出土位置	備考
1335	縄文土器	深鉢	-	(64.4)	-	長石・石英	灰黄褐色	良好	突起部直線文・口縁に沿って隆帯貼付 内面にも隆帯貼付	覆土中	PL144
1327	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	暗赤褐色	普通	頂部背割れ隆帯による直線文 単筋縄文 RL (横) 施文	覆土中	
1328	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	褐色	普通	突起部に穿孔 口縁に沿って背割れ隆帯一高 単筋縄文 RL (縦) を施文 隆帯による流状文	覆土中	
1329	縄文土器	深鉢	-	(9.2)	-	長石・石英・雲母	灰黄褐色	良好	口縁に沿って2条の隆帯貼付 隆帯下地文に無筋縄文し(縦)	覆土中層	
1330	縄文土器	深鉢	-	(19.1)	-	長石・石英・雲母	暗赤褐色	普通	突起部厚めの隆帯による直線文 単筋縄文 RL (斜) 施文の厚めの隆帯による直線文 区画に沿って流線文 頂部同一厚体による縄文で彫部と区画	覆土上層	10% PL144
1331	縄文土器	深鉢	(13.5)	(12.9)	-	長石・石英・雲母	褐色	普通	口唇部内面直状 施文に無筋縄文し(縦) 平軌竹管による3本の幅位区画 区画内同直線文 区画内同直線文 区画内同直線文 区画内同直線文 区画内同直線文	覆土中層	20% PL144
1332	縄文土器	深鉢	(20.0)	(16.2)	-	長石・石英・雲母	明赤褐色	普通	口縁部単筋縄文 LR (横) 2条の隆帯による区画 区画内隆帯による流状文 胴部同一厚体(縦)	覆土中層	30% PL144
1333	縄文土器	深鉢	(21.4)	(9.8)	-	長石・石英・雲母	灰褐色	普通	施文に流線文 2条の隆帯による区画 区画内隆帯による流状文と三角形の文様貼付 胴部3本線の流線文区画	覆土中層	10% PL144
1334	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	黄褐色	普通	口縁上部に2列の有筋流線文一高	覆土中	
1335	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	にぶい褐色	普通	口縁に沿って単筋縄文 RL (横) 施文の厚めの隆帯貼付 隆帯に沿って有筋流線文	覆土中	
1336	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	褐色	普通	口縁に沿って単筋縄文 RL (横) 施文の隆帯貼付 隆帯に沿って平軌竹管による流線文	覆土中	
1337	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	にぶい褐色	普通	口縁に沿って背割れ隆帯貼付 背割れ隆帯による横S字状文 施文に単筋縄文 LR (縦)	覆土中	
1338	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	にぶい赤褐色	普通	口縁上部3本の太流線一高 内面に横 外・内面直線文	覆土中	
1339	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	灰褐色	普通	口縁上部単筋縄文 RL (横) が一高 以下同一厚体による縦刻痕で口縁部直状構成	覆土上層	PL144
1340	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	暗褐色	普通	縦位の条線文を施文とし、横位の蛇行流線が一高	覆土中	
1341	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	明褐色	普通	施文の単筋縄文 LR (縦) 上に平軌竹管による4条単位の縦線文・流状文を貼付	覆土中層	
1342	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	にぶい赤褐色	普通	施文に口縁多条縄文 RL (縦) 背割れ隆帯一高 頂部下位平軌竹管による蛇行流線・並行流線	覆土中	

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	胎土	色調	特徴	出土位置	備考
DP104	土器片鏝	1.8	2.0	0.9	4.6	長石・石英・雲母	暗褐色	周縁部研削 両端にキザ目	覆土上層	

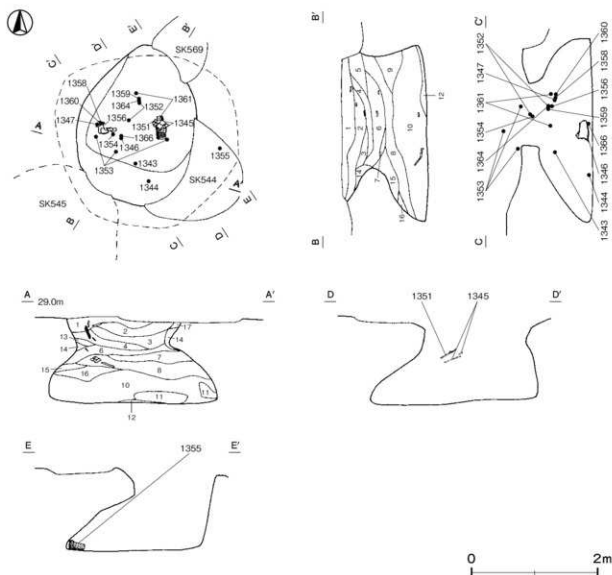
### 第 550 号土坑 (第 478 ~ 483 図 PL79・102)

位置 調査区中央部の C 3h2 区、標高 29 m ほどの台地中央部に位置している。

重複関係 第 544・545・569 号土坑に掘り込まれている。

規模と形状 開口部は長径 2.51 m、短径 1.82 m の楕円形で、長径方向は N-9°-E である。底面は径 2.92 ~ 2.98 m の不整形形で、ほぼ平坦である。確認面からの深さは 136 cm で、壁は中位まで内彎して、袋状を呈し、上位は外傾している。

覆土 17 層に分層できる。ロームブロックなどを含む層が不規則に堆積していることから、埋め戻されている。



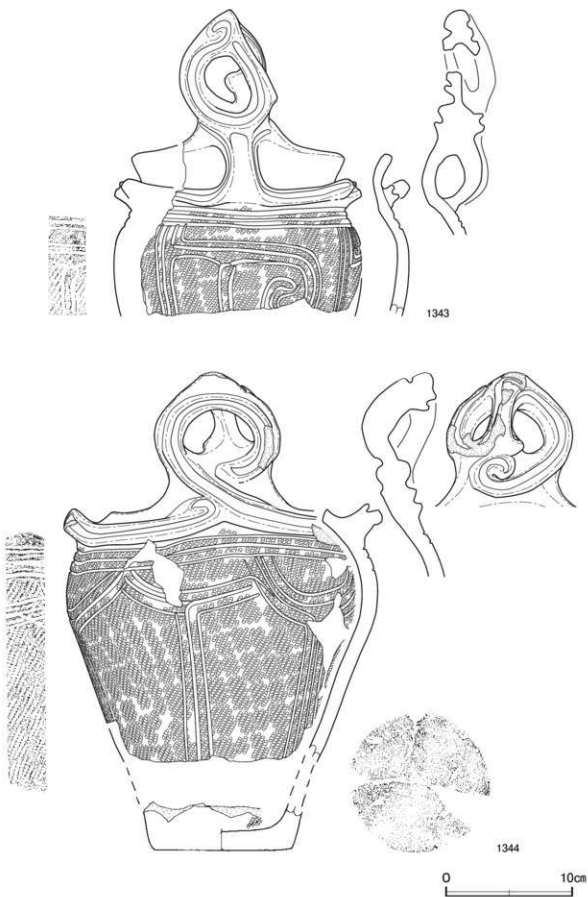
第478図 第550号土坑実測図

## 土層解説

- |          |                  |        |                |
|----------|------------------|--------|----------------|
| 1 黒褐色    | ロームブロック少量、炭化粒子微量 | 10 暗褐色 | ロームブロック中量      |
| 2 黒褐色    | ロームブロック・炭化粒子少量   | 11 黒褐色 | ロームブロック・炭化物少量  |
| 3 黒褐色    | ローム粒子中量          | 12 暗褐色 | ロームブロック少量      |
| 4 にぶい褐色  | ロームブロック・炭化粒子微量   | 13 黒褐色 | ローム粒子微量        |
| 5 にぶい褐色  | ローム粒子少量、炭化粒子微量   | 14 暗褐色 | ロームブロック微量      |
| 6 黒褐色    | ロームブロック中量、炭化粒子微量 | 15 暗褐色 | ロームブロック・炭化粒子微量 |
| 7 にぶい青褐色 | ロームブロック少量、炭化粒子微量 | 16 黒褐色 | ローム粒子少量        |
| 8 黒褐色    | ロームブロック少量、焼土粒子微量 | 17 黒褐色 | ロームブロック微量      |
| 9 黒褐色    | ローム粒子中量、炭化粒子微量   |        |                |

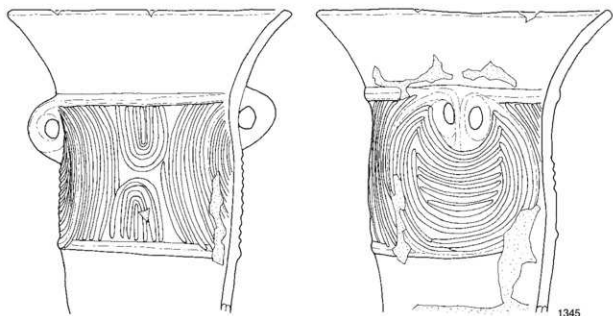
**遺物出土状況** 縄文土器片 348点（深鉢322、浅鉢26）、石器3点（打製石斧、磨製石斧、石錘）、加工痕のある剥片1点が、覆土全体に散乱した状態で出土している。1346・1355はほぼ完形で、1344は上半部がほぼ完全な形で、いずれも底面近くから横位の状態で出土しており、遺棄されたものと思われる。1366は底面、1345・1361は覆土中層、1352・1353は覆土上層からそれぞれ出土し、大型破片や離れた位置のものが接合していることから、破砕したものを投棄されたと思われる。1366は底面から、1343・1347・1351・1356・1358・1360は覆土中層からそれぞれ破片で出土し、埋土と一緒に投棄されたものと思われる。

**所見** 規模と形状から、貯蔵穴と考えられる。時期は、出土土器から中期中葉と考えられる。

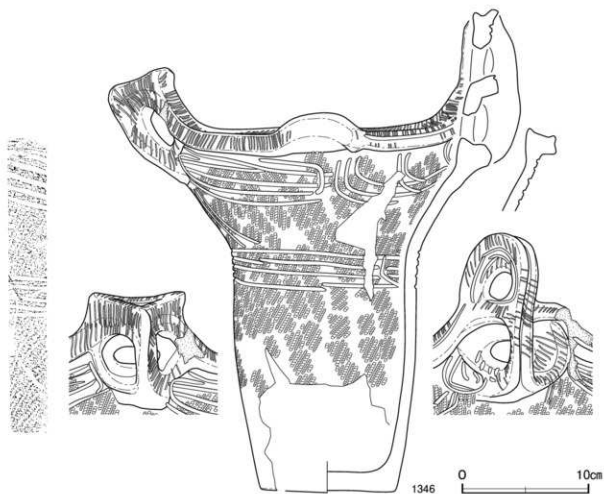


第 479 图 第 550 号土坑出土遗物实测图(1)





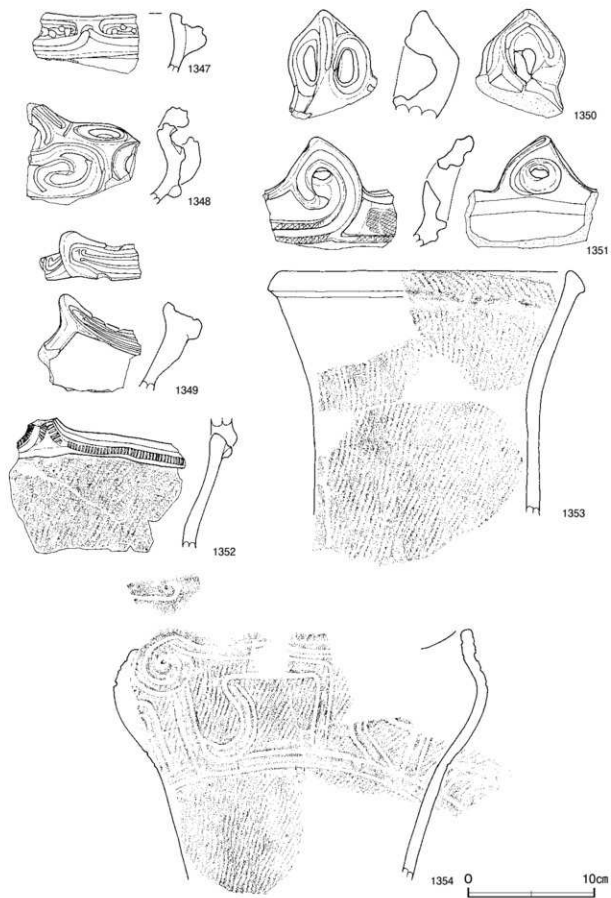
1345



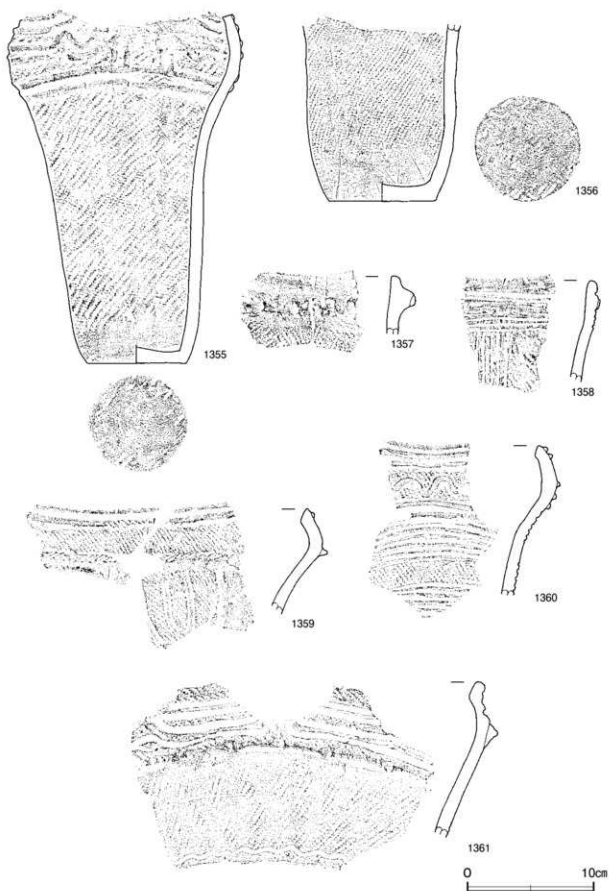
1346

0 10cm

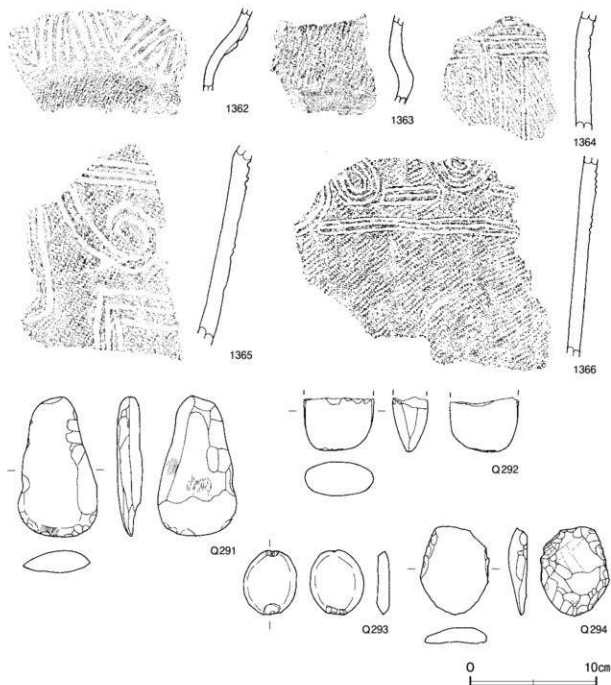
第 480 図 第 550 号土坑出土遺物実測図 (2)



第481图 第550号土坑出土遗物实测图(3)



第 482 图 第 550 号土坑出土遺物実測图 (4)



第483図 第550号土坑出土遺物実測図(5)

第550号土坑出土遺物観察表(第479～483図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	文様の特徴ほか	出土位置	備考
1343	縄文土器	深鉢	168	243	-	灰石・石英・雲母・赤色粒子	にぶい	普通	口縁下突起を有する底状の背割れ縁帯残存 胴部半周縄文RL(縦) 3本の沈線による横走文・周縁部半周走文	覆土中層	30% PL146
1344	縄文土器	深鉢	175	380	110	灰石・石英・赤色粒子・礫	にぶい	普通	3本を有する背割れ縁帯による中央部が凹む 背割れ縁帯の内縁 口縁部や口縁部で中央部が凹む 背割れ縁帯による底状口縁 縄文に半周縄文RL(縦) 3本帯の沈線による横走文・周縁部半周走文・口縁部半周 胴部と踵部残存で区画 胴部上位に周縁状把手1対 把手から柄内形状に指部彫刻 胴部に向けて展開する沈線による横円形赤土・周縁部半周 胴部上位赤土 赤影	底面	70% PL146
1345	縄文土器	深鉢	228	242	-	灰石・石英・雲母	にぶい	普通	口縁部は細走文 指部が半周な三角形状の中央部と厚状把手 厚みの異なる底状口縁 沈線による柄内形状 区画内周縁文と底状文で区画 胴部と胴部を3本の沈線文で区画 周縁部半周RL(縦) 周縁部半周走文	覆土中層	70% PL146
1346	縄文土器	深鉢	250	382	105	灰石・石英・雲母	にぶい	普通	口縁部は細走文 指部が半周な三角形状の中央部と厚状把手 厚みの異なる底状口縁 沈線による柄内形状 区画内周縁文と底状文で区画 胴部と胴部を3本の沈線文で区画 周縁部半周RL(縦) 周縁部半周走文	底面	80% PL146

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	文様の特徴ほか	出土位置	備考
1347	縄文土器	深鉢	-	(4.8)	-	長石・石英・雲母・赤色粘土・繊維	にぶい褐色	普通	口縁に沿う隆帯と底状の背割れ隆帯による区画文・区画内交互刻文	覆土中層	
1348	縄文土器	深鉢	-	(8.0)	-	長石・石英・雲母	にぶい褐色	普通	口縁部背割れ隆帯と沈帯による渦巻文	覆土中	
1349	縄文土器	浅鉢	-	(7.6)	-	長石・石英・雲母	にぶい褐色	普通	渡部区沈帯による櫛手文・口唇部肥厚 4本の沈帯文周囲 胴部平孔	覆土中	
1350	縄文土器	深鉢	-	(8.7)	-	長石・石英・雲母・赤色粘土	にぶい褐色	普通	背割れ隆帯の頂点が山形を示す肩紐状把手	覆土中	
1351	縄文土器	深鉢	-	(9.0)	-	長石・石英・赤色粘土	黒褐色	普通	口唇部外周文状で凹み 加飾縄文・(編) 施文の背割れ隆帯による櫛状把手	覆土中層	
1352	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・赤色粘土	にぶい褐色	普通	口唇部に凹み 胴部半筋縄文・(編) 施文	覆土上層	
1353	縄文土器	深鉢	[210]	(19.5)	-	長石・石英・雲母・繊維	にぶい褐色	普通	口縁に沿って縄文施文の隆帯貼付 全面半筋縄文・(編) 施文	覆土上層	20%
1354	縄文土器	深鉢	[266]	(20.0)	-	長石・石英・繊維	にぶい褐色	普通	渡部区沈帯による渦巻文 施文に半筋縄文・(編) 施文 部分的に磨製されている2本単位式陶器による区画文 区画内並C字文・クランク文 胴部半筋縄文・(編) 施文	覆土中層	20%
1355	縄文土器	深鉢	167	(28.3)	7.8	長石・石英・雲母	にぶい褐色	普通	口唇部外周文・2本の隆帯で口縁部区画文・区画内2本の隆帯による横走文・底状文 胴部1段多委半筋縄文・(編) 施文 底面網代文	底面	90% PL146
1356	縄文土器	深鉢	-	(14.0)	8.3	長石・石英・雲母・赤色粘土	にぶい褐色	普通	半筋縄文・(編) 胴部下位ナゲ 底面網代文	覆土中層	20% 保存者
1357	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	にぶい褐色	普通	口縁に沿って背割れ隆帯と厚みの隆帯貼付 半筋縄文・(編) 施文 凹み方向を変えて凹み構成	覆土中層	
1358	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	褐色	普通	口縁に沿って手載り管による横走文・施文に半筋縄文・(編) 凹み方向による横走文	覆土中層	
1359	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・赤色粘土	にぶい褐色	普通	施文に半筋縄文・(編) 背割れ隆帯と縄文施文の隆帯による区画 胴部半筋竹管によるU字状の文様構成	覆土中層	
1360	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・赤色粘土	にぶい褐色	普通	2本の隆帯で口縁部区画文 隆帯による底状文・施文に半筋縄文・(編) 6本の沈帯文	覆土中層	PL146
1361	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	にぶい褐色	普通	施文に半筋縄文・(編) 施文の隆帯で口縁部区画文・区画内隆帯に沿って横走沈帯・(編) 施文	覆土中層	PL146
1362	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母・繊維	褐色	良好	沈帯を竹管隆帯による重層山形文 半筋縄文・(編) 施文	覆土中	
1363	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	にぶい褐色	良好	胴部下位無文で飾らる 半筋縄文・(編) 施文	覆土中	
1364	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母・繊維	黒褐色	普通	施文に無飾し・(編) 半筋竹管による横走文・垂下文・渦巻文	覆土中層	
1365	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母・赤色粘土	にぶい褐色	普通	施文に半筋縄文・(編) 2から3本の沈帯による横走文・渦巻文・方型文	覆土中	PL147
1366	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	褐色	普通	施文に半筋縄文・(編) 3本の沈帯による渦巻文・木葉文	底面	PL147

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
Q-291	打割石斧	11.2	6.3	2.0	154.9	石虎斑岩	鏡形 表裏に自然面 刃部は片面を鋭打後研磨 平刃	覆土中層	PL165
Q-292	磨製石斧 (42)	5.5	2.8	(86.5)	緑色岩	角突き 縦縁部に横 基部欠損 刃部は表裏から研ぎ出す 平刃 使用痕		覆土中	
Q-293	石鏃	5.1	4.3	1.0	30.8	安山岩	両端部打撃によりキザ目作出	覆土中	
Q-294	加工痕のある磨片	7.1	5.6	1.5	59.4	石英	1次剥離後、図録部理王潤磨	覆土中	

## 第553号土坑 (第484図 PL79)

位置 調査区南部のD3b5区、標高29mほどの台地縁辺部に位置している。

重複関係 第2号溝に掘り込まれている。

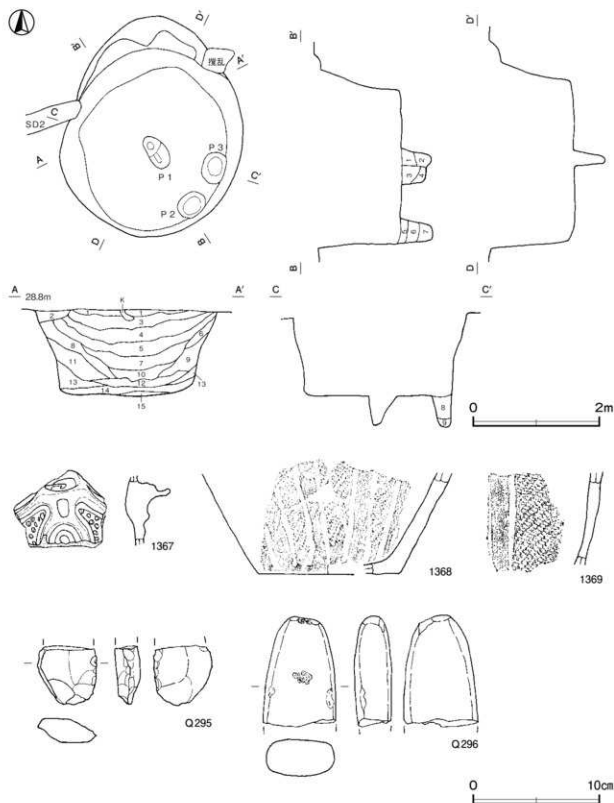
規模と形状 長径3.49m、短径2.84mの楕円形で、長径方向はN-3°-Eである。底面はほぼ平坦である。深さは1.39cmで、壁はほぼ直立している。

ピット 3か所。P1は中央部、P2は南東壁際、P3は北東壁際に位置し、深さはそれぞれ48cm・52cm・49cmである。いずれも、位置や形状から柱穴と考えられる。

## ピット土層解説

1 黒褐色	ローム粒子少量	6 黒褐色	ロームブロック少量、炭化粒子微量
2 黒褐色	ロームブロック少量	7 黒褐色	ロームブロック微量
3 暗褐色	ロームブロック中量	8 暗褐色	ロームブロック少量、炭化粒子微量
4 暗褐色	ロームブロック中量、炭化粒子微量	9 極暗褐色	ロームブロック少量
5 暗褐色	ロームブロック少量		

覆土 15層に分層できる。第1・3～5層は黒褐色土や暗褐色土がレンズ状に堆積していることから、自然堆積である。第8～15層はロームブロックなどを含む層が不規則に堆積していることから、埋め戻されている。



第484図 第553号土坑・出土物実測図

土層解説

- 1 黒褐色 ロームブロック・炭化粒子微量  
 2 黒褐色 ローム粒子微量  
 3 黒褐色 ローム粒子少量  
 4 黒褐色 ロームブロック少量

- 5 暗褐色 ロームブロック少量  
 6 暗褐色 ロームブロック微量  
 7 暗褐色 ロームブロック少量、炭化粒子微量  
 8 暗褐色 ロームブロック少量、焼土粒子微量

9	にぶい褐色	ロームブロック少量	13	極暗褐色	ロームブロック中量・炭化粒子微量
10	暗褐色	ロームブロック・炭化粒子微量	14	極暗褐色	ロームブロック少量
11	褐色	ローム粒子少量	15	暗褐色	ロームブロック中量
12	暗褐色	ロームブロック中量・焼土粒子微量			

**遺物出土状況** 縄文土器片 231 点（深鉢 218、浅鉢 13）、石器 2 点（打製石斧、磨製石斧未成品）が、覆土全体から散乱した状態で出土している。

**所見** 規模と形状から、貯蔵穴と考えられる。時期は、出土土器から中期後葉と考えられる。

#### 第 553 号土坑出土遺物観察表（第 484 図）

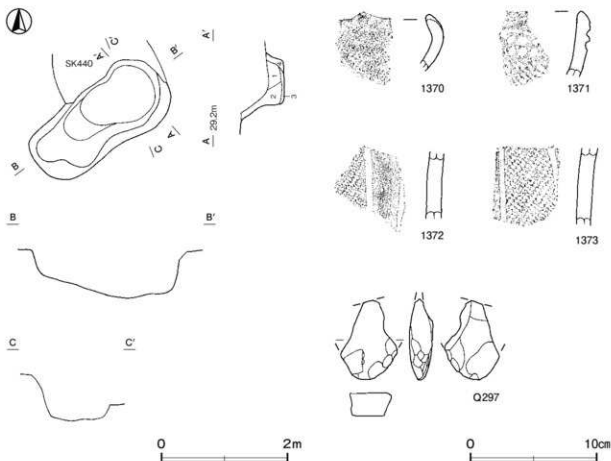
番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	文様の特徴ほか	出土位置	備考
1367	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	橙	普通	液滴部渦巻文・沈線を伴う隆帯による区画文 区画内渦巻文	覆土中	
1368	縄文土器	深鉢	-	(8.0)	[11.1]	長石・石英・雲母	灰黄褐色	普通	螺旋文・沈線・渦巻文・区画文 区画内渦巻文	覆土中	10%
1369	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	にぶい橙	普通	地文に準じた渦巻文・(縦) 太沈線部渦巻文	覆土中	

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
Q 285	打製石斧	(4.7)	4.7	2.0	(54.4)	ホルンフェルス	縦形 片側縁に微細な縁打痕 基部欠損	覆土中	
Q 296	磨製石斧 未成品	(8.8)	5.8	3.0	(224.2)	砂岩	表面面研磨 周縁部微細な縁打痕 刃部欠損	覆土中	

#### 第 555 号土坑（第 485 図）

**位置** 調査区東部の C 4 i2 区、標高 29 m ほどの台地中央部に位置している。



第 485 図 第 555 号土坑・出土遺物実測図

**重複関係** 第440号土坑に掘り込まれている。

**規模と形状** 長軸2.40m、短軸1.03mの扁丸長方形で、長軸方向はN-54°-Eである。底面は北東へ緩やかに下降している。深さは34～70cmで、壁はほぼ直立している。

**覆土** 4層に分層できる。ロームブロックなどを含む層が不規則に堆積していることから、埋め戻されている。

**土層解説**

- |       |                |      |           |
|-------|----------------|------|-----------|
| 1 暗褐色 | ロームブロック・炭化粒子微量 | 3 褐色 | ローム粒子少量   |
| 2 暗褐色 | ローム粒子微量        | 4 褐色 | ロームブロック少量 |

**遺物出土状況** 縄文土器片78点（深鉢）、石器1点（打製石斧）が、覆土中からまばらな状態で出土している。

**所見** 性格は不明である。時期は、出土土器から中期後葉と考えられる。

**第555号土坑出土遺物観察表（第485図）**

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	文様の特徴ほか	出土位置	備考
1370	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	にぶい褐色	普通	細い卑胎縄文ⅡⅢ（縦）を全面に施文	覆土中	
1371	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	にぶい褐色	普通	口縁に向けて沈線 2列の円形刺突 無胎縄文ⅡⅢ（縦）施文	覆土中	
1372	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	にぶい褐色	普通	地文に卑胎縄文ⅡⅢ（縦） 太沈線間帯消滅垂文	覆土中	
1373	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	にぶい褐色	普通	地文に卑胎縄文ⅡⅢ（縦） 太沈線間帯消滅垂文	覆土中	

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
Q 298	打製石斧	(6.5)	(4.5)	1.9	(54.7)	安山岩	磨製 側部欠損 刃部は表裏を敲打 初先状	覆土中	PL165

**第556号土坑（第486図 PL79）**

**位置** 調査区中央部のD3a7区、標高29mほどの台地中央部に位置している。

**重複関係** 第14号竪穴建物跡を掘り込んでいる。

**規模と形状** 径1.84～1.90mのほぼ円形である。底面は平坦で、深さは68cmである。壁はほぼ直立している。

**覆土** 10層に分層できる。多くの層にロームブロックや炭化物などが含まれ、不規則な堆積状況を示していることから、埋め戻されている。

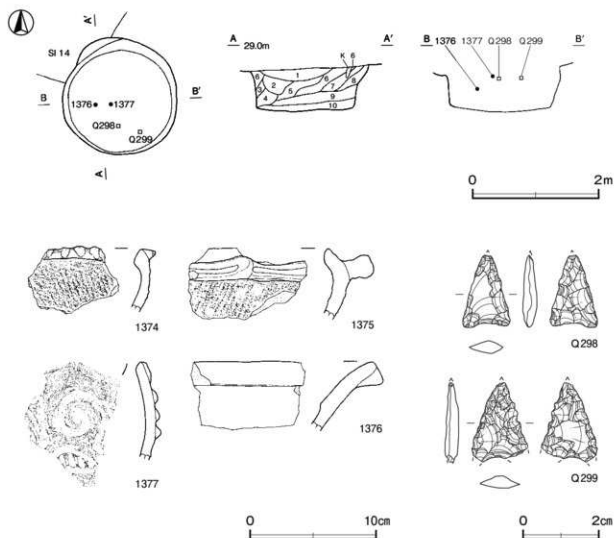
**土層解説**

- |       |                        |       |                      |
|-------|------------------------|-------|----------------------|
| 1 黒褐色 | 炭化物中量、ロームブロック・焼土ブロック少量 | 6 褐色  | ロームブロック中量、炭化物・焼土粒子微量 |
| 2 暗褐色 | ロームブロック・炭化物少量、焼土粒子微量   | 7 黒褐色 | ロームブロック少量            |
| 3 暗褐色 | ロームブロック中量              | 8 暗褐色 | ロームブロック中量、炭化物微量      |
| 4 黒褐色 | ロームブロック中量、炭化物少量        | 9 褐色  | ロームブロック中量、炭化物少量      |
| 5 暗褐色 | ロームブロック中量、炭化物少量、焼土粒子微量 | 10 褐色 | ロームブロック中量、炭化物微量      |

**遺物出土状況** 縄文土器片273点（深鉢272、浅鉢1）、石器3点（鎌2、打製石斧1）、剥片3点（チャート2、ホルンフェルス1）が、覆土上層から中層を中心に散乱した状態で出土している。1376は覆土中層から、1377、Q 298・Q 299は覆土上層からそれぞれ出土し、ある程度埋まってから埋土と一緒に投棄されたと思われる。

**所見** 規模や形状から、貯蔵穴と考えられる。時期は、出土土器から中期後葉と考えられる。





第486図 第556号土坑・出土遺物実測図

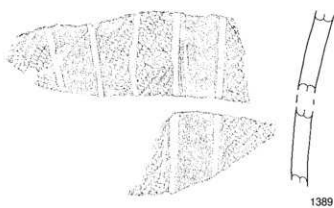
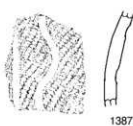
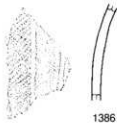
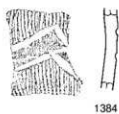
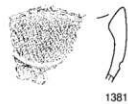
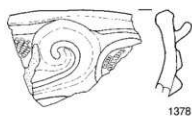
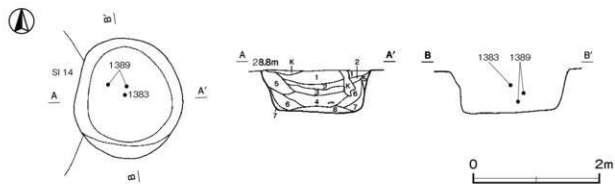
第556号土坑出土遺物観察表(第486図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	文様の特徴ほか	出土位置	備考
1374	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	にぶい肌	普通	口縁に沿って押圧線形貼付 0段多葉半筋縄文(LR)施文	覆土中	
1375	縄文土器	深鉢	-	(5.7)	-	長石・石英・雲母	にぶい肌	普通	口縁に沿って底状の背割れ線形貼付 半筋縄文(LR)施文	覆土中	
1376	縄文土器	浅鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	明赤肌	普通	外・内面磨き 内面に横	覆土中層	
1377	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・雲母	にぶい肌	普通	渡部部赤巻文 沈線を伴う隆帯による区画文(区画内或縁文で区画)	覆土上層	
番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴		出土位置	備考	
Q 298	鏝	(1.9)	1.3	0.4	(0.8)	ホルンフェルス	無葉鏝	全面押圧潤靡 先端部欠損	覆土上層	PL161	
Q 299	鏝	(2.1)	(1.5)	0.4	(0.9)	安山岩	無葉鏝	全面押圧潤靡 先端部・両側部欠損	覆土上層	PL161	

## 第557号土坑(第487図 PL80)

位置 調査区中央部のC317区、標高29mほどの台地中央部に位置している。

重複関係 第14号堅穴建物跡を掘り込んでいる。



第487图 第557号土坑·出土遗物实测图

**規模と形状** 長径 1.92 m、短径 1.70 m の楕円形で、長径方向は N - 10° - W である。底面は平坦で、深さは 80cm である。壁はほぼ直立している。

**覆土** 8層に分層できる。ロームブロックなどを含む層が不規則に堆積していることから、埋め戻されている。

## 土層解説

1	暗褐色	ロームブロック少量、焼土ブロック・炭化物微量	5	暗褐色	ロームブロック中量、焼土粒子・炭化粒子微量
2	暗褐色	ロームブロック中量、焼土粒子・炭化粒子微量	6	暗褐色	ロームブロック少量、炭化物微量
3	黒褐色	ロームブロック・焼土ブロック・炭化物少量	7	褐色	ロームブロック中量
4	暗褐色	ロームブロック中量、炭化物少量、焼土粒子微量	8	暗褐色	ロームブロック・炭化物少量、焼土粒子微量

**遺物出土状況** 縄文土器片 212 点（深鉢 211、有孔鈔付土器 1）、石器 1 点（磨石）、剥片 1 点（チャート）が、覆土中層を中心に散乱した状態で出土している。1389 は覆土中層から、1383 は覆土上層からそれぞれ出土し、ある程度埋まってから埋土と一緒に投棄されたものと思われる。

**所見** 規模と形状から、貯蔵穴と考えられる。時期は、出土土器から中期後葉と考えられる。

## 第 557 号土坑出土遺物観察表（第 487 図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	文様の特徴ほか	出土位置	備考
1378	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	にぶい褐色	普通	底状粘着貼付 地文に単節縄文 L 段（横） 太沈線に伴う隆帯による楕円形区画 区画間途断文	覆土中	
1379	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	黒褐色	普通	帯等文をもつ隆帯 単節縄文 L 段（横） 太沈線に伴う隆帯による区画文 区画内途断文	覆土中	
1380	縄文土器	有孔鈔付土器	[11.0]	[3.7]	-	長石・石英・雲母	明黄褐色	普通	口縁下部に半照面 半照面から斜めに穿孔	覆土中	
1381	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	黒褐色	普通	単節縄文 R 段（縦） 沈線に伴う隆帯による楕円形区画文	覆土中	
1382	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	にぶい暗褐色	普通	口縁に沿って交互斜突による波状文 地文に断断文 沈線間帯消 弧状文	覆土中	
1383	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母・赤色粒子	にぶい黄褐色	普通	単節縄文 R 段（斜） 太沈線に伴う隆帯による区画文	覆土上層	
1384	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・赤色粒子	褐色	普通	無赤文上に太沈線間帯弧状文	覆土中	
1385	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母・赤色粒子	にぶい黄褐色	普通	単節縄文 R 段（縦） 施文 太沈線による懸垂文 沈線間帯消	覆土中	1386 と同-集積
1386	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母・赤色粒子	にぶい黄褐色	普通	単節縄文 R 段（縦） 施文 太沈線による懸垂文 沈線間帯消	覆土中	1385 と同-集積
1387	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	にぶい黄褐色	普通	単節縄文 R 段（縦） 施文 太沈線による懸垂文 沈線間帯消	覆土中	
1388	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	にぶい黄褐色	普通	口縁部と胴部を除くで区画 単節縄文 R 段（縦） 施文 太沈線による懸垂文 沈線間帯消	覆土中	
1389	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母・赤色粒子	にぶい黄褐色	普通	口径多量単節縄文 R 段（縦） 施文 太沈線による懸垂文 沈線間帯消	覆土中層	PL147

## 第 558 号土坑（第 488 図）

**位置** 調査区中央部の C 3 b6 区、標高 29 m ほどの台地中央部に位置している。

**重複関係** 第 14 号竪穴建物跡を掘り込んでいる。

**規模と形状** 長径 1.62 m、短径 1.44 m の楕円形で、長径方向は N - 84° - E である。底面は平坦で、深さは 52cm である。壁は外傾している。

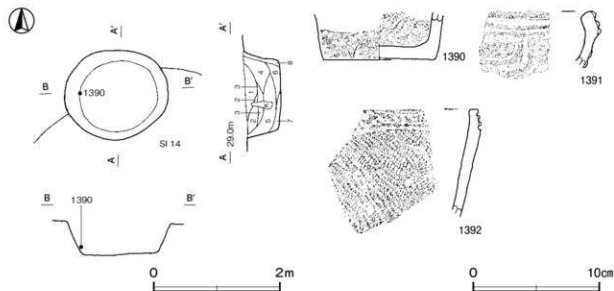
**覆土** 8層に分層できる。ロームブロックなどを含む層が不規則に堆積していることから、埋め戻されている。

## 土層解説

1	暗褐色	ロームブロック・焼土ブロック少量、炭化物微量	5	褐色	ロームブロック中量、炭化物微量
2	暗褐色	ロームブロック中量、焼土粒子・炭化粒子微量	6	暗褐色	ロームブロック少量、炭化物微量
3	暗褐色	ロームブロック少量、焼土ブロック・炭化物微量	7	褐色	ロームブロック中量、焼土粒子微量
4	暗褐色	ロームブロック少量、炭化粒子微量	8	褐色	ロームブロック中量

**遺物出土状況** 縄文土器片 37 点（深鉢）が、覆土中からまばらに出土している。1390 は覆土下層から出土し、埋土と一緒に投棄されたものと思われる。

**所見** 規模や形状から、貯蔵穴と考えられる。時期は、出土土器から中期中葉と考えられる。



第488図 第558号土坑・出土遺物実測図

第558号土坑出土遺物観察表（第488図）

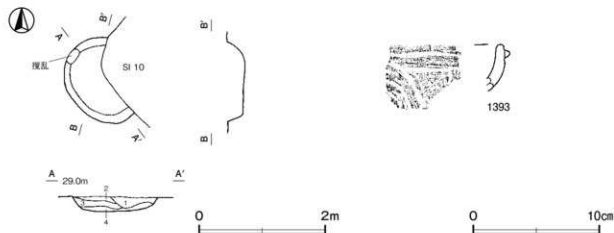
番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	地成	文様の特徴ほか	出土位置	備考
1390	縄文土器	深鉢	-	(38)	90	長石・石英・雲母	にぶい赤黒	普通	単節縄文肌(縦) 下部部指ナデ	覆土下層	10%
1391	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	にぶい赤黒	普通	単節縄文肌(縦) 2本一組の隆帯によるクラシク文	覆土中	
1392	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	にぶい赤	普通	上縁に沿って交互斜突文 単節縄文肌(横) 指文	覆土中	

第559号土坑（第489図）

**位置** 調査区東部のC4j3区、標高29mほどの台地中央部に位置している。

**重複関係** 第10号堅穴建物に掘り込まれている。

**規模と形状** 東部を第10号堅穴建物に掘り込まれているため、南北径は1.42mで、東西径は0.65mしか確認できなかった。楕円形と推定でき、長径方向はN-34°-Wである。底面は平坦で、深さは29cmである。壁は外傾している。



第489図 第559号土坑・出土遺物実測図

覆土 4層に分層できる。ロームブロックなどを含む層が不規則に堆積していることから、埋め戻されている。

## 土層解説

- |       |                   |      |                   |
|-------|-------------------|------|-------------------|
| 1 暗褐色 | ロームブロック少量, 炭化粒子微量 | 3 褐色 | ロームブロック中量, 炭化粒子微量 |
| 2 暗褐色 | ロームブロック中量, 炭化粒子微量 | 4 褐色 | ロームブロック中量         |

遺物出土状況 縄文土器片9点(深鉢8, 浅鉢1)が、覆土中からまばらに出土している。

所見 性格は不明である。時期は、出土土器から中期と考えられるが、詳細は不明である。

## 第559号土坑出土遺物観察表(第489図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	文様の特徴ほか	出土位置	備考
1393	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	橙	普通	口唇部太直線 地文に縦筋縄文RLR(横) 隆帯による区画文	覆土中	

## 第561号土坑(第490図)

位置 調査区中央部のC4Ⅱ区、標高29mほどの台地中央部に位置している。

重複関係 第15号竪穴建物跡を掘り込んでいる。

規模と形状 開口部は長径1.19m, 短径0.96mの楕円形で、長径方向はN-85°-Eである。底面は長径1.86m, 短径1.66mの楕円形で、ほぼ平坦である。確認面からの深さは70cmで、壁は中位まで内彎して、袋状を呈し、上位は外傾している。

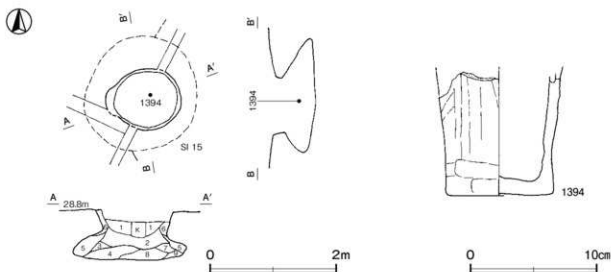
覆土 9層に分層できる。ロームブロックなどを含む層が不規則に堆積していることから、埋め戻されている。

## 土層解説

- |       |                         |       |                        |
|-------|-------------------------|-------|------------------------|
| 1 暗褐色 | ロームブロック少量, 焼土ブロック・炭化物微量 | 6 褐色  | ロームブロック中量, 炭化粒子微量      |
| 2 黒褐色 | ロームブロック・炭化物少量, 焼土ブロック微量 | 7 暗褐色 | ロームブロック少量, 炭化粒子微量      |
| 3 暗褐色 | ロームブロック少量, 炭化物微量        | 8 暗褐色 | ロームブロック少量, 焼土粒子・炭化粒子微量 |
| 4 褐色  | ロームブロック中量, 炭化物少量        | 9 褐色  | ロームブロック中量              |
| 5 暗褐色 | ロームブロック中量, 炭化粒子微量       |       |                        |

遺物出土状況 縄文土器片41点(深鉢), 石器1点(磨石)が、覆土中からまばらに出土している。1394は破片で覆土中層から出土し、埋土と一緒に投棄されたものと思われる。

所見 規模や形状から、貯蔵穴と考えられる。時期は、中期と考えられるが、詳細は不明である。



第490図 第561号土坑・出土遺物実測図

第 561 号土坑出土遺物観察表 (第 490 図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	文様の特徴ほか	出土位置	備考
1394	縄文土器	深鉢	-	(102)	86	長石・石英・雲母	灰褐色	普通	胴部縦方向の指ナデ 下部部横方向の指ナデ	覆土中層	20%

第 564 号土坑 (第 491 図 PL80)

位置 調査区東部の C 4 区、標高 29 m ほどの台地中央部に位置している。

重複関係 第 21 号竪穴建物に掘り込まれている。

規模と形状 径 1.62 ~ 1.69 m のほぼ円形である。底面は平坦で、深さは 64 cm である。壁は外傾している。

ピット 径 76 ~ 80 cm の円形で、深さ 26 cm である。形状から、補助的な貯蔵施設と考えられる。

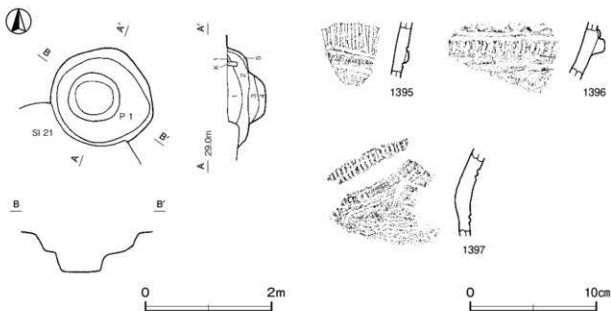
覆土 3 層に分層できる。暗褐色土がレンズ状に堆積していることから、自然堆積である。第 4・5 層は、P 1 の覆土である。

土層解説

- |       |                        |       |                  |
|-------|------------------------|-------|------------------|
| 1 暗褐色 | ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子微量    | 4 暗褐色 | ロームブロック少量、炭化粒子微量 |
| 2 暗褐色 | ロームブロック少量、焼土ブロック・炭化物微量 | 5 褐色  | ロームブロック少量        |
| 3 暗褐色 | ロームブロック少量、炭化物微量        |       |                  |

遺物出土状況 縄文土器片 23 点 (深鉢) が、覆土中からまばらな状態で出土している。

所見 規模や形状から、貯蔵穴と考えられる。時期は、出土土器から中期中葉と考えられる。



第 491 図 第 564 号土坑・出土遺物実測図

第 564 号土坑出土遺物観察表 (第 491 図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	文様の特徴ほか	出土位置	備考
1395	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	灰褐色	普通	縦位の沈線文 横位のキザミ目をもつ溝線状隆帯 肩付	覆土中	
1396	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母、 磁種	灰褐色	普通	隆帯に沿って沈線による波状文、2本の沈線文 横位のキザミ目をもつ溝線状隆帯で胴部と区画	覆土中	
1397	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	灰褐色	普通	2列の有節沈線文を伴う隆帯による区画文	覆土中	

## 第 567 号土坑 (第 492 図 PL80)

位置 調査区北東部の C 4 e3 区、標高 29 m ほどの台地中央部に位置している。

重複関係 第 568・577 号土坑に掘り込まれている。

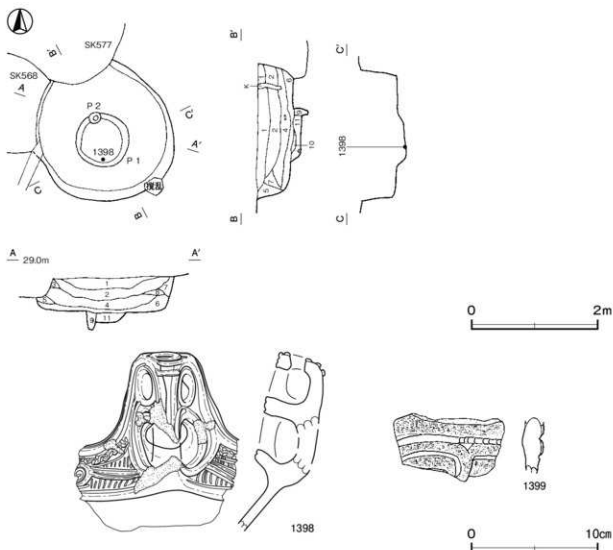
規模と形状 長径 2.33 m、短径 2.10 m の楕円形で、長径方向は N - 26° - W である。底面は平坦で、深さは 58 cm である。壁はほぼ直立している。

ピット 2 か所。P 1 は中央部に位置し、径 86 - 90 cm の円形で、深さは 16 cm である。P 2 は P 1 の北壁際に位置し、深さ 32 cm である。P 2 は、P 1 を埋めた後に掘り込まれている。P 1 は、形状から補助的な貯蔵施設と考えられる。P 2 は、位置や形状から柱穴と考えられる。

覆土 8 層に分層できる。各層にロームブロックが多く含まれていることから、埋め戻されている。第 9 層は P 2、第 10・11 層は P 1 の覆土である

## 土層解説

1 暗褐色	ロームブロック少量、炭化物微量	7 褐色	ロームブロック中量
2 暗褐色	ロームブロック中量、炭化物微量	8 暗褐色	ロームブロック少量
3 褐色	ロームブロック中量、炭化物少量	9 暗褐色	ロームブロック多量
4 暗褐色	ロームブロック中量、炭化物少量	10 暗褐色	ロームブロック中量
5 暗褐色	ロームブロック少量、炭化物微量	11 黒褐色	ロームブロック少量、炭化物微量
6 暗褐色	ロームブロック中量、炭化物微量		



第 492 図 第 567 号土坑・出土遺物実測図

**遺物出土状況** 縄文土器片 89 点（深鉢 78、浅鉢 11）、石器 1 点（磨石）が、覆土中からまばらな状態で出土している。1398 は底面から出土していることから、埋め戻す前に投棄されたか、遺棄されたものと思われる。  
**所見** 規模や形状から、貯蔵穴と考えられる。時期は、出土土器から中期中葉と考えられる。

#### 第 567 号土坑出土遺物観察表（第 492 図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	文様の特徴ほか	出土位置	備考
1398	縄文土器	深鉢	-	(142)	-	長石・石英・雲母	灰褐色	普通	背割れ段帯による口縁部区画・口縁に沿って交差する区画内面巻文・底面で巻文	底面	10% PL147
1399	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	橙	普通	花崗文土器本文付・縄文器文の発色による区画・区画内面巻文・口縁・光沢	覆土中	

#### 第 568 号土坑（第 493 図）

**位置** 調査区北東部の C 4 e3 区、標高 29 m ほどの台地中央部に位置している。

**重複関係** 第 567・575・577 号土坑を掘り込んでいる。

**規模と形状** 長径 170 m、短径 155 m の楕円形で、長径方向は N - 73° - W である。底面は平坦で、深さは 28 cm である。壁は外傾している。

**ピット** 2 か所。P 1 は南西壁際に位置し、長径 66 cm、短径 50 cm の楕円形で、深さは 60 cm である。西側壁は内傾している。P 2 は西壁際に位置し、深さ 16 cm である。P 1 は、形状から補助的な貯蔵施設と考えられる。P 2 は、性格不明である。

##### ピット土層解説

- 1 暗褐色 ロームブロック・炭化物少量、焼土ブロック微量      3 暗褐色 ロームブロック中量  
 2 暗褐色 ロームブロック少量、炭化物微量                      4 褐色 ロームブロック中量

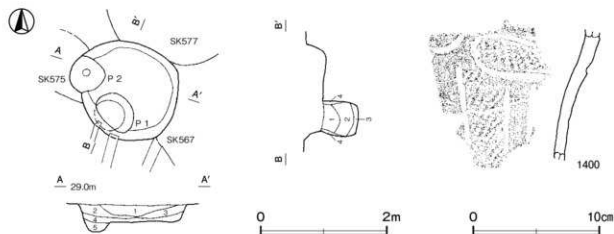
**覆土** 4 層に分層できる。ロームブロックを含む層が堆積していることから、埋め戻されている。第 5 層は P 2 の覆土である。

##### 土層解説

- 1 暗褐色 ロームブロック中量、焼土ブロック・炭化粒子微量      4 暗褐色 ロームブロック中量、炭化物微量  
 2 暗褐色 ロームブロック少量、炭化物微量                      5 褐色 ロームブロック中量  
 3 褐色 ロームブロック中量、炭化物少量

**遺物出土状況** 縄文土器片 60 点（深鉢 57、浅鉢 3）が、覆土中からまばらな状態で出土している。

**所見** 規模や形状から、貯蔵穴と考えられる。時期は、出土土器から中期後葉と考えられる。



第 493 図 第 568 号土坑・出土遺物実測図



第568号土坑出土遺物観察表(第493図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	文様の特徴ほか	出土位置	備考
1400	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母 に多い褐色	普通	焼成	沈泥による楕円形区画文 (線) 網部(線) 沈泥区画の散在点文	覆土中	

## 第574号土坑(第494・495図 PL81)

位置 調査区西部のC2h7区、標高29mほどの台地縁辺部に位置している。

重複関係 第20号竪穴建物跡を掘り込んでいる。

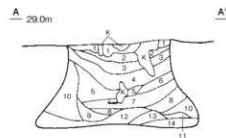
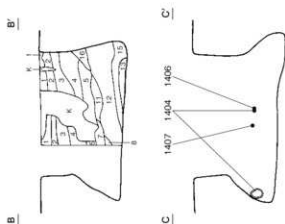
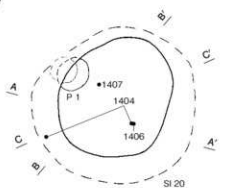
規模と形状 開口部は長径2.02m、短径1.67mの楕円形で、長径方向はN-57°-Eである。底面は径2.38~2.54mの不整形円形で、平坦である。確認面からの深さは148cmで、壁は中位まで内彎して、袋状を呈し、上位はほぼ直立している。

ピット 北西壁際に位置し、長径58cm、短径48cmの楕円形を呈している。深さは45cmで、西壁は内彎している。形状から、補助的な貯蔵施設と考えられる。

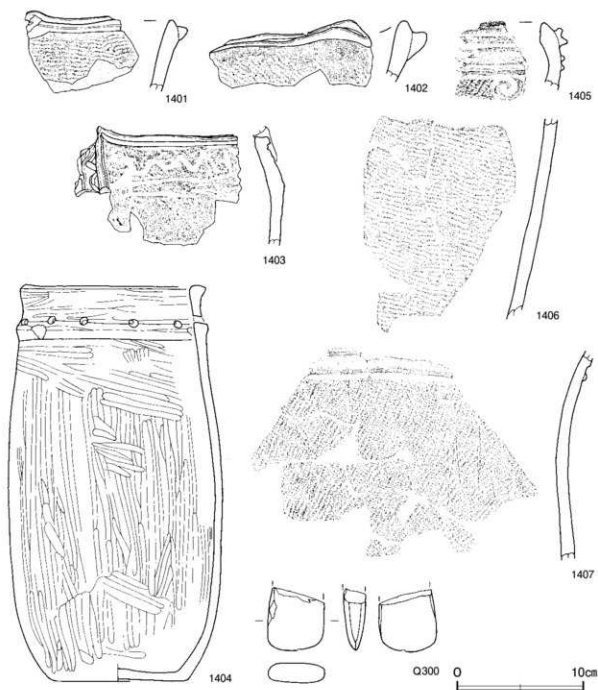
覆土 16層に分層できる。ロームブロックを含む層などが不規則に堆積していることから、埋め戻されている。

## 土層解説

- |       |                    |           |                  |
|-------|--------------------|-----------|------------------|
| 1 暗褐色 | ロームブロック少量、炭化粒子微量   | 9 黒褐色     | ロームブロック・焼土粒子微量   |
| 2 黒褐色 | ローム粒子微量            | 10 暗褐色    | ロームブロック中量        |
| 3 黒褐色 | ロームブロック少量          | 11 暗褐色    | ロームブロック中量、炭化粒子微量 |
| 4 黒褐色 | ロームブロック・炭化物微量      | 12 に灰・黄褐色 | ロームブロック中量        |
| 5 黒褐色 | ローム粒子少量            | 13 に灰・黄褐色 | ロームブロック少量        |
| 6 暗褐色 | ロームブロック少量、焼土ブロック微量 | 14 褐色     | ロームブロック少量        |
| 7 暗褐色 | ローム粒子少量、炭化物微量      | 15 暗褐色    | ローム粒子中量、炭化粒子微量   |
| 8 黒褐色 | ロームブロック微量          | 16 暗褐色    | ローム粒子中量          |



第494図 第574号土坑実測図



第 495 図 第 574 号土坑出土遺物実測図

**遺物出土状況** 縄文土器片 146 点（深鉢 142, 浅鉢 3, 有孔鈔付土器 1）、石器 1 点（磨製石斧）が、覆土中層から下層にかけて散乱した状態で出土している。1404 は覆土中層と下層から出土し、離れた位置のものが接合していることから、破砕したものを投棄したと思われる。1406・1407 は、覆土中層から出土しており、埋土と一緒に投棄されたものと思われる。

**所見** 規模や形状から、貯蔵穴と考えられる。時期は、出土土器から中期中葉と考えられる。

第574号土坑出土遺物観察表(第495図)

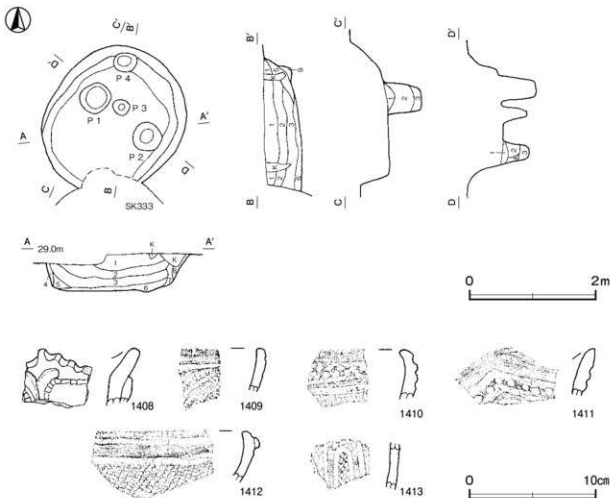
番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	文様の特徴ほか	出土位置	備考
1401	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	にぶい黄褐色	普通	無筋縄文L(斜)施文	覆土中	1402・1406 と同一體。
1402	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	黄褐色	普通	無筋縄文L(縦)施文	覆土中	1401・1406 と同一體。
1403	縄文土器	深鉢	-	09.51	-	長石・石英	灰褐色	普通	口縁に沿う隆帯と底面部から垂下する隆帯による区画文。区画内沈凹による波状文。	覆土中	10%
1404	縄文土器	有乳突出上鉢	14.8	31.7	11.0	長石・石英	にぶい黄褐色	普通	口縁下部に12ヶ所の乳突。口縁部と胴部は隆帯により区画。表面全体に化粧土。外・内面ともに下向き波状文。外・内面赤彩。	覆土中～下層	90% PL147 再掘掘行着
1405	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・赤色 粘土	にぶい黄褐色	普通	唇面隆帯による区画文。区画内無筋縄文LR(横)。隆帯による波状文。	覆土中	
1406	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	明褐色	普通	無筋縄文L(縦・斜)施文	覆土中層	1401・1402 と同一體。
1407	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母・ 輝石	灰褐色	普通	2系の隆帯で胴部に区画。胴部無筋縄文RL(縦)施文	覆土中層	

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
Q300	磨製石斧	(5.0)	4.6	(1.4)	(53.6)	純鉄岩	定角式 全面研磨 基部欠損 刃部は表裏から研ぎ出す 平刃	覆土中	PL167

第576号土坑(第496図 PL82)

位置 調査区中央部のC3d4区。標高29mほどの台地中央部に位置している。

重複関係 第333号土坑に掘り込まれている。



第496図 第576号土坑・出土遺物実測図

**規模と形状** 長軸 2.42 m、短軸 2.10 m の隅丸長方形で、長軸方向は N - 35° - E である。底面はほぼ平坦で、深さは 55cm である。壁は外傾している。

**ピット** 4 か所。P 1 は北西部、P 2 は南東壁際、P 3 は中央部からやや北寄り、P 4 は北コーナー部に位置し、深さは、それぞれ 60cm、46cm、42cm、18cm である。位置や形状から、P 1・P 2 は補助的な貯蔵施設、P 3 は柱穴と考えられる。P 4 は、性格不明である。

**ピット土層解説**

- |        |                        |        |                  |
|--------|------------------------|--------|------------------|
| 1 暗 褐色 | ロームブロック少量、焼土ブロック・炭化物微量 | 3 暗 褐色 | ロームブロック中量、炭化粒子微量 |
| 2 暗 褐色 | ロームブロック中量              | 4 褐 色  | ロームブロック中量        |

**覆土** 8層に分層できる。各層にロームブロックが含まれていることから、埋め戻されている。第9層はP4の覆土である。

**土層解説**

- |        |                        |        |                        |
|--------|------------------------|--------|------------------------|
| 1 暗 褐色 | ロームブロック少量、焼土ブロック・炭化物微量 | 6 暗 褐色 | ロームブロック少量、焼土ブロック・炭化物微量 |
| 2 暗 褐色 | ロームブロック・炭化物少量、焼土ブロック微量 | 7 褐 色  | ロームブロック少量              |
| 3 暗 褐色 | ロームブロック中量、炭化物・焼土粒子微量   | 8 褐 色  | ロームブロック中量、炭化粒子微量       |
| 4 暗 褐色 | ロームブロック中量              | 9 褐 色  | ロームブロック中量              |
| 5 暗 褐色 | ロームブロック中量、炭化粒子微量       |        |                        |

**遺物出土状況** 縄文土器片 156 点（深鉢）が、覆土全体から散乱した状態で出土している。

**所見** 規模と形状から、貯蔵穴と考えられる。時期は、出土土器から中期後葉と考えられる。

**第 576 号土坑出土遺物観察表（第 496 図）**

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	文様の特徴ほか	出土位置	備考
1408	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	明褐色	普通	液溜部にV字状縁起線部付。口唇部棒状工具による波状押圧文。縁起線に沿って有筋沈線文	覆土中	
1409	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・雲母	褐色	普通	口縁に沿って沈線文。単筋縄文LR（横）施文	覆土中	
1410	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	黒褐色	普通	口縁に沿って交互斜突による波状文。縦位の櫛太文	覆土中	
1411	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	黒褐色	普通	口縁に沿って並行沈線。沈線間に円形刺突文	覆土中	
1412	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	にぶい褐色	普通	単筋縄文RL（縦）施文	覆土中	
1413	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	褐色	普通	縦位の沈線による楕円形区画。区画内単筋縄文LR（縦）施文	覆土中	

**第 577 号土坑（第 497 ～ 501 図 PL82・103）**

**位置** 調査区北東部の C 4 d3 区、標高 29 m ほどの台地中央部に位置している。

**重複関係** 第 567・578 号土坑を掘り込み、第 568 号土坑に掘り込まれている。

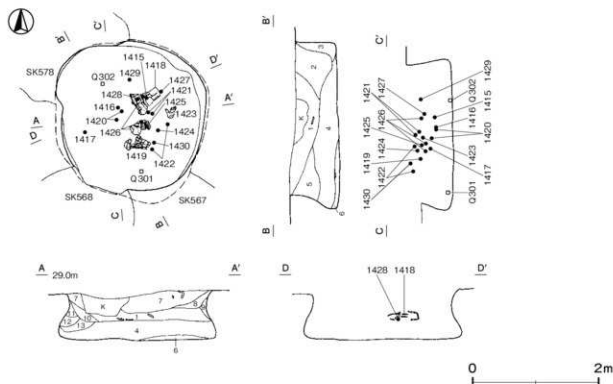
**規模と形状** 開口部は径 2.40 m ほどの円形である。底面は径 2.58 ～ 2.70 m のほぼ円形で、平坦である。確認面からの深さは 77cm で、壁は中位まで内彎して、袋状を呈し、上位は外傾している。

**覆土** 13層に分層できる。ロームブロックなどを含む層が不規則に堆積していることから、埋め戻されている。

**土層解説**

- |        |                        |         |                 |
|--------|------------------------|---------|-----------------|
| 1 黒 褐色 | ロームブロック・炭化物少量、焼土粒子微量   | 8 暗 褐色  | ロームブロック少量、炭化物微量 |
| 2 黒 褐色 | ロームブロック少量、焼土ブロック・炭化物微量 | 9 暗 褐色  | ロームブロック・炭化物少量   |
| 3 褐色   | ロームブロック中量              | 10 暗 褐色 | ロームブロック中量、炭化物少量 |
| 4 褐色   | ロームブロック中量、炭化粒子微量       | 11 暗 褐色 | ロームブロック中量、炭化物微量 |
| 5 暗 褐色 | ロームブロック・炭化物少量、焼土粒子微量   | 12 褐色   | ロームブロック多量       |
| 6 褐色   | ロームブロック多量、炭化粒子微量       | 13 暗 褐色 | ロームブロック中量       |
| 7 暗 褐色 | ロームブロック中量、焼土粒子・炭化粒子微量  |         |                 |

**遺物出土状況** 縄文土器片 357 点（深鉢 329、浅鉢 28）、土製品 2 点（土器片鉢、土器片円盤）、石器 4 点（打製石斧、磨製石斧、磨石、敲砥石）が、覆土上層から中層を中心に散乱した状態で出土している。1418 は、ほぼ完形で覆土中層から横位で出土しており、ある程度埋まってから遺棄されたか、投棄されたものと思われる。1426



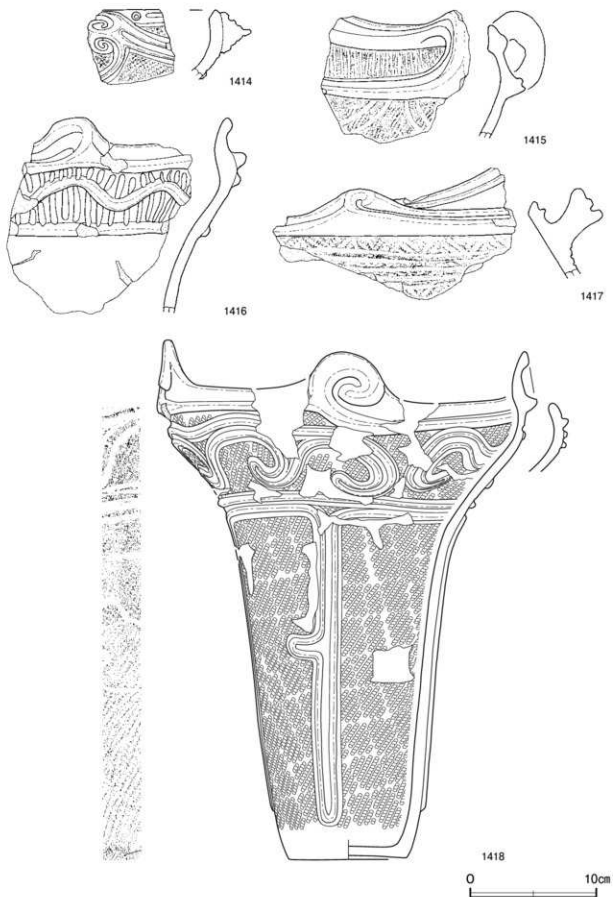
第497図 第577号土坑実測図

は覆土中層から、1422は覆土上層からそれぞれ出土している。これらは、離れた位置のものが接合していることから、破砕したものを投棄したと思われる。Q301・Q302は覆土下層から、1415～1417・1420・1427・1428・1431は覆土中層から、1419・1421・1423～1425・1429・1430は覆土上層からそれぞれ出土し、埋土と一緒に投棄されたと思われる。

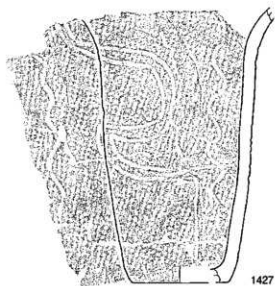
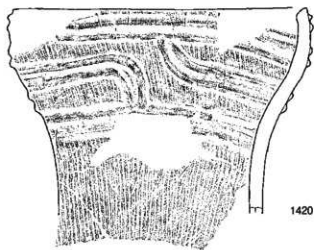
所見 規模と形状から、貯蔵穴と考えられる。時期は、出土土器から中期中葉と考えられる。

第577号土坑出土遺物観察表(第498～501図)

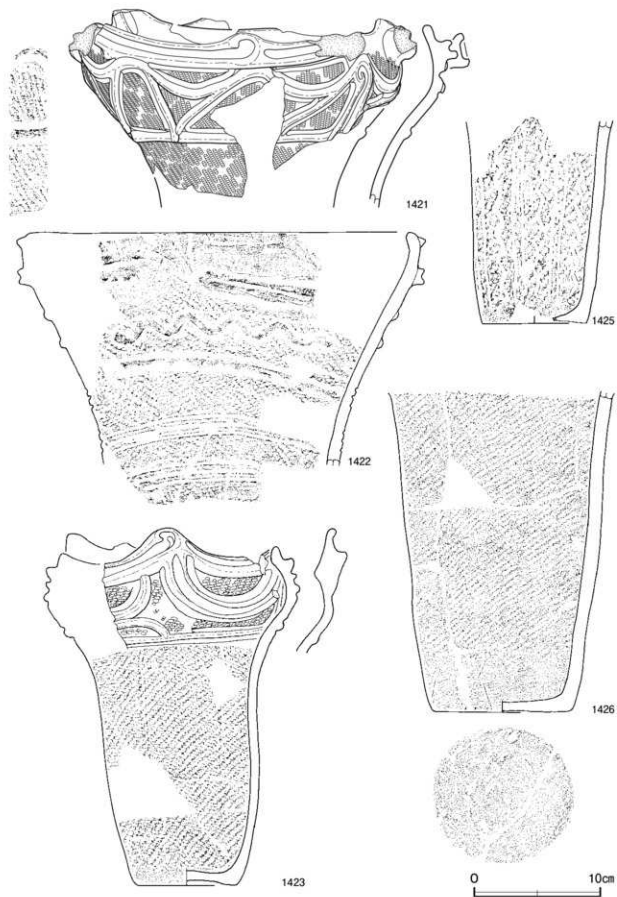
番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	文様の特徴ほか	出土位置	備考
1414	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	明褐色	普通	口唇部沈線一巡、内彫突文・突起状の隆帯 胎付・隆帯上に2方向の透文・単線縄文LR (縦)・背割れ隆帯による透網 透文・胎付・隆帯による透網	覆土中	
1415	縄文土器	深鉢	-	(105)	-	長石・石英・雲母	にぶい褐色	普通	胎付の異なる背割れ隆帯で口唇部区画 胎付・隆帯による透網・胎付・隆帯による透網 胎付・隆帯による透網	覆土中層	
1416	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	にぶい褐色	普通	胎付の異なる背割れ隆帯で口唇部区画 胎付・隆帯による透網・胎付・隆帯による透網 胎付・隆帯による透網	覆土中層	10% PL147
1417	縄文土器	深鉢	-	(105)	-	長石・石英・雲母	にぶい褐色	普通	胎付の異なる背割れ隆帯で口唇部区画 胎付・隆帯による透網・胎付・隆帯による透網 胎付・隆帯による透網	覆土中層	PL147
1418	縄文土器	深鉢	250	41.2	9.3	長石・石英・雲母	浅黄褐色	普通	胎付の異なる背割れ隆帯で口唇部区画 胎付・隆帯による透網・胎付・隆帯による透網 胎付・隆帯による透網	覆土中層	90% PL148
1419	縄文土器	深鉢	[288]	(38.8)	-	長石・石英・雲母	にぶい褐色	普通	胎付の異なる背割れ隆帯で口唇部区画 胎付・隆帯による透網・胎付・隆帯による透網 胎付・隆帯による透網	覆土上層	70% PL148
1420	縄文土器	深鉢	[232]	(16.5)	-	長石・石英・雲母	にぶい褐色	普通	胎付の異なる背割れ隆帯で口唇部区画 胎付・隆帯による透網・胎付・隆帯による透網 胎付・隆帯による透網	覆土中層	30% PL147
1421	縄文土器	深鉢	22.5	(15.7)	-	長石・石英・雲母	浅黄褐色	普通	胎付の異なる背割れ隆帯で口唇部区画 胎付・隆帯による透網・胎付・隆帯による透網 胎付・隆帯による透網	覆土上層	60% PL148
1422	縄文土器	深鉢	[300]	(18.7)	-	長石・石英・雲母	明黄褐色	普通	胎付の異なる背割れ隆帯で口唇部区画 胎付・隆帯による透網・胎付・隆帯による透網 胎付・隆帯による透網	覆土上層	10% PL147



第 498 图 第 577 号土坑出土遗物实测图 (1)

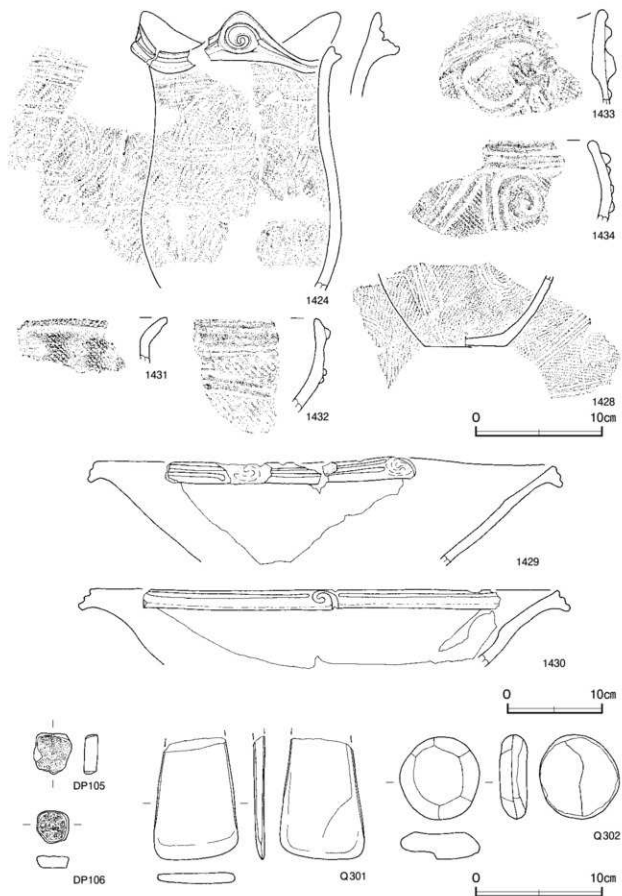


第 499 図 第 577 号土坑出土遺物実測図(2)



第 500 图 第 577 号土坑出土遗物实测图 (3)





第501图 第577号土坑出土遗物实测图(4)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	文様の特徴ほか	出土位置	備考
1423	縄文土器	深鉢	[169]	28.5	8.0	長石・石英・雲母	橙	普通	表裏面に黒文文、口唇部太沈線周囲・縁部で口頸部を区画（区画内は沈線を伴う背割れ発射による黒文・彫文・凹線多発単線縄文図、縦）施す	覆土上層	80% PL147
1424	縄文土器	深鉢	14.0	(222)	-	長石・石英・雲母・磁鉄	赤褐	普通	口唇部黒文文・単線縄文図、(縦) 手載竹管による横線文・黒文文・磁鉄文を施す	覆土上層	50% PL148
1425	縄文土器	深鉢	-	(16.1)	8.2	長石・石英・雲母	灰褐	普通	単線縄文図、(縦) 口は等間隔に2本の並行沈線を垂下し沈線間に平行沈線を垂下	覆土上層	40%
1436	縄文土器	深鉢	-	(25.7)	11.0	長石・石英・雲母・磁鉄	にぶい赤褐	普通	0枚多発単線縄文図、(縦) 下端部横方向のナデ表面粗い副代肌	覆土中層	60% PL148
1427	縄文土器	深鉢	-	(22.0)	[7.8]	長石・石英・雲母	にぶい橙	普通	単線縄文1区(斜) 平行沈線を垂下し横に平行する沈線による口唇部ナデ	覆土中層	70% PL148
1428	縄文土器	深鉢	-	(5.7)	6.4	長石・石英・雲母	明赤褐	普通	単線縄文図、(縦) 3本単位の沈線による縦線文・凹文を施す 底面丁寧な磨き	覆土中層	10%
1429	縄文土器	浅鉢	[48.2]	(10.7)	-	長石・石英・雲母	明赤褐	普通	口唇部の沈線による平行縦文・黒文文 内面に横線・内面横方向の磨き	覆土上層	10% 外周縁付着
1430	縄文土器	浅鉢	[49.2]	(8.3)	-	長石・石英・雲母	にぶい赤褐	普通	1本の太沈線・黒文文 内面に横・外・内面横方向の磨き	覆土上層	30% PL147
1431	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	にぶい褐	普通	口唇部単線縄文1区(縦) 胴部同一体系による磨きを帯びた副代肌	覆土中層	
1432	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	にぶい褐	普通	口唇部磨面磨き状の背割れ縁部による区画文・無断縄文1区、(縦) 施文	覆土中	
1433	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	にぶい褐	普通	口縁に沿って太沈線を伴う隆部による区画文・黒文文、区画内単線縄文1区(斜) 施文	覆土中	
1434	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	にぶい橙	普通	単線縄文図、(横) 2本の発射による区画文・黒文文	覆土中	

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	胎土	色調	特徴	出土位置	備考
DP106	土器片鏝	3.2	3.0	1.0	12.5	長石・石英	にぶい褐	一端のみ粗雑に研磨 両端にキザミ目	覆土中	
DP106	土器片鏝	2.6	2.5	0.9	7.8	長石・石英	明赤褐	両縁部粗雑に研磨	覆土中	

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
Q308	打製石斧	(9.8)	6.7	0.9	(113.3)	角閃岩	磨料 表裏面及び両縁部研磨 刃部は表裏を研磨 基部欠損 刃型の平片	覆土下層	
Q302	磁石片	6.9	6.3	2.3	126.0	チャート	円錐の両縁部に多方向からの砥面より稜をもつ	覆土下層	PL173

### 第578号土坑 (第502・503区 PL82)

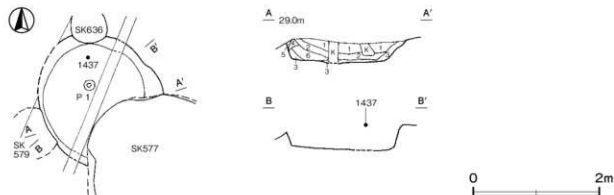
位置 調査区北東部のC4d3区、標高29mほどの台地中央部に位置している。

重複関係 第577・579・636号土坑に掘り込まれている。

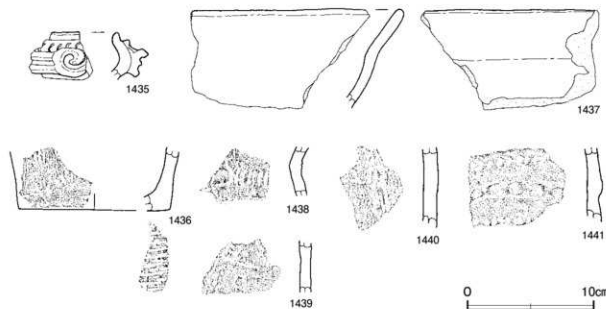
規模と形状 南東部を第577号土坑に掘り込まれているため、北東・南西径は1.84mで、北西・南東径は2.00mしか確認できなかった。長径方向はN-29°-Wで、楕円形と推定できる。底面はほぼ平坦で、深さは40cmである。壁は外傾している。

ピット 中央部に位置している。深さは35cmで、壁はほぼ直立している。位置や形状から、柱穴と考えられる。

覆土 6層に分层できる。ロームブロックを含む層が不規則に堆積していることから、埋め戻されている。



第502図 第578号土坑実測図



第503図 第578号土坑出土遺物実測図

## 土層解説

- |       |                   |       |                   |
|-------|-------------------|-------|-------------------|
| 1 暗褐色 | ロームブロック中量         | 4 暗褐色 | ロームブロック少量         |
| 2 暗褐色 | ロームブロック少量, 炭化粒子微量 | 5 褐色  | ロームブロック中量         |
| 3 褐色  | ロームブロック中量, 炭化物微量  | 6 暗褐色 | ロームブロック中量, 炭化粒子微量 |

**遺物出土状況** 縄文土器片 38 点 (深鉢 30, 浅鉢 8) が, 覆土中からまばらに出土している。1437 は覆土上層から出土し, 埋土と一緒に投棄されたものと思われる。

**所見** 規模と形状から, 貯蔵穴と考えられる。時期は, 出土土器から中期前葉と考えられる。

第578号土坑出土遺物観察表 (第503図)

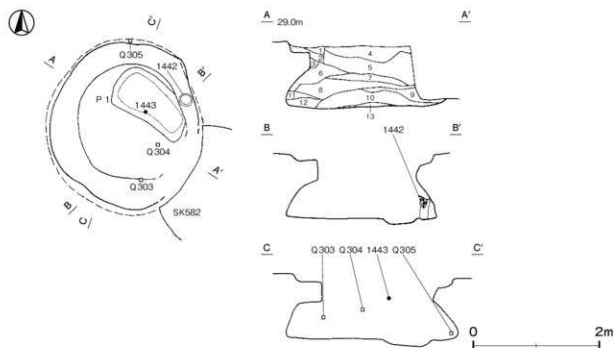
番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	文様の特徴ほか	出土位置	備考
1435	縄文土器	深鉢	-	(3.7)	-	長石・石英・雲母	にぶい褐色	普通	連続乱形文を伴う背割れ陸帯による渦巻文	覆土中	
1436	縄文土器	深鉢	-	(5.0)	[120]	長石・石英	にぶい褐色	普通	縦走する燃糸文 側下部横ナゲ 底面網代表	覆土中	
1437	縄文土器	浅鉢	-	(7.8)	-	長石・石英・雲母	にぶい褐色	普通	内摩して立ち上がる 内面に横	覆土上層	外面煤け着
1438	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	にぶい褐色	普通	押圧された陸帯線垂下 横位の連続乱形文	覆土中	
1439	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	にぶい褐色	普通	キザミ目をもつ斜行陸帯線貼付	覆土中	
1440	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・赤色 粒子・凝縮	にぶい褐色	普通	草胎縄文 RL (斜) 上に陸帯線垂下	覆土中	
1441	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	黄褐色	普通	押圧された横位の陸帯線貼付 陸帯線の上下に 連続三角網交文	覆土中	

## 第581号土坑 (第504・505図 PL83)

**位置** 調査区中央部のC2和区, 標高29mほどの台地縁辺部に位置している。

**重複関係** 第582号土坑に掘り込まれている。

**規模と形状** 長径2.66m, 短径2.35mの楕円形で, 長径方向はN-7°-Wである。底面は長径2.77m, 短径2.50mの楕円形で, ほほ平坦である。確認面からの深さは106cmで, 壁は中位まで内摩して, 袋状を呈し, 上位はほほ直立してから外傾している。



第 504 図 第 581 号土坑実測図

**ビット** 北東部に位置し、長軸 136cm、短軸 72cm の不整形長方形である。深さは 10cm で、壁は外傾している。北東壁との間に完形の 1442 が正位の状態出土していることや形状から、墓坑の可能性がある。

**覆土** 13層に分類できる。ロームブロックなどを含む層が不規則に堆積していることから、埋め戻されている。

**土層解説**

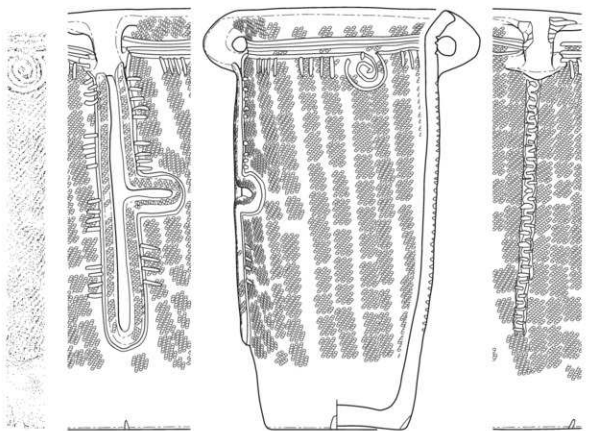
- |       |                |         |                  |
|-------|----------------|---------|------------------|
| 1 暗褐色 | ローム粒子微量        | 8 黒褐色   | ロームブロック少量        |
| 2 黒褐色 | ロームブロック・炭化粒子微量 | 9 黒褐色   | ロームブロック少量、炭化粒子微量 |
| 3 暗褐色 | ロームブロック中量      | 10 暗褐色  | ロームブロック少量        |
| 4 黒褐色 | ローム粒子中量、炭化粒子微量 | 11 黒褐色  | ロームブロック微量        |
| 5 黒褐色 | ロームブロック・炭化粒子少量 | 12 極黒褐色 | ロームブロック中量、炭化粒子微量 |
| 6 黒褐色 | ローム粒子少量        | 13 黒褐色  | ロームブロック中量、炭化粒子微量 |
| 7 黒褐色 | ローム粒子中量        |         |                  |

**遺物出土状況** 縄文土器片 477 点（深鉢 462、浅鉢 15）、石器 4 点（磨製石斧 3、敲砥石 1）、剥片 4 点（チャート、石英、安山岩、ホルンフェルス）が、覆土全体に散乱した状態で出土している。1442 は北東壁と P 1 との間の底面から、完形で正位の状態出土している。埋め戻される前に置かれたものと思われる。Q 305 は覆土下層から、Q 303・Q 304 は覆土中層から、1443 は覆土上層から出土し、埋土と一緒に投棄されたものと思われる。

**所見** 規模と形状から貯蔵穴と考えられる。廃絶後、墓坑として使われた可能性がある。時期は、出土土器から中期中葉と考えられる。

第 581 号土坑出土遺物観察表（第 505 図）

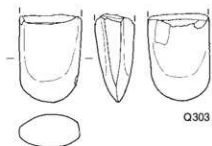
番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	文様の特徴ほか	出土位置	備考
1442	縄文土器	深鉢	17.4	33.5	11.0	長石・石英・雲母	暗褐色	良好	胴部と蓋面をもち3本の波線文で区画。区画下新鋭するキザ目周囲。把手から縄文施文の1/2幅のキザ目帯帯に沿って面取するキザ目。本底編文短（脱）を飾る2/3で編文に施文。底面磨代。	底面	96% PL149
1443	縄文土器	浅鉢	-	-	-	長石・石英・雲母・細砂	明赤褐色	普通	縄文施文の隆部による波線文区画内沈線を作る隆部による編文。区画間刻文。内面に磨。	覆土上層	



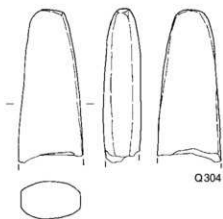
1442



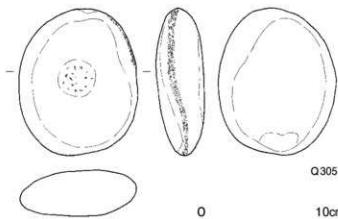
1443



Q303



Q304



Q305

0 10cm

第505图 第581号土坑出土遗物实测图

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考		
Q 303	磨製石斧	(6.9)	5.0	3.1	(167.7)	凝灰岩	定角式 アリノ	縦線に接 上部欠損 下部研ぎ直	刃部は表裏から研ぎ出す ハマ	覆土中層	
Q 304	磨製石斧	(12.2)	5.2	3.0	(305.4)	安山岩	定角式	全面研磨	刃部欠損	覆土中層	PL167
Q 305	磨製石	11.7	9.5	3.8	(587.1)	緑色岩	全面磨り調整	縦線及び片面中央部に微細な縦打痕		覆土下層	PL173

### 第 582 号土坑 (第 506・507 図 PL83)

**位置** 調査区中央部の C 2 0 区、標高 29 m ほどの台地縁辺部に位置している。

**重複関係** 第 581 号土坑を掘り込み、第 13 号竪穴建物に掘り込まれている。

**規模と形状** 開口部は径 1.95～2.05 m のほぼ円形である。底面は長径 2.44 m、短径 2.08 m の楕円形で、ほぼ平坦である。確認面からの深さは 95 cm で、壁は南西部を除いて、内彎して、袋状を呈している。

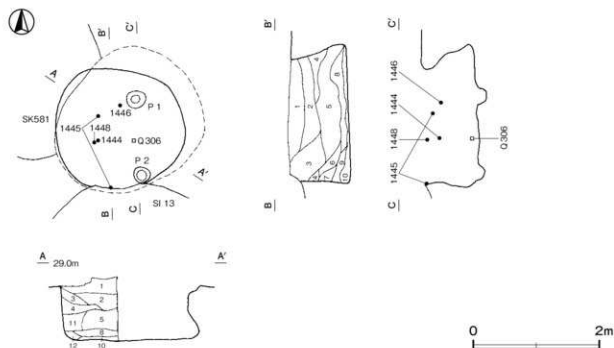
**ピット** 2 か所。P 1 は中央部から北寄り、P 2 は南東壁際に位置し、深さはそれぞれ、18 cm・12 cm である。いずれも、位置から柱穴と考えられる。

**覆土** 12 層に分层できる。第 3～12 層はロームブロックなどを含む層が不規則に堆積していることから、埋め戻されている。第 1・2 層は黒褐色土がレンズ状に堆積していることから、自然堆積である。

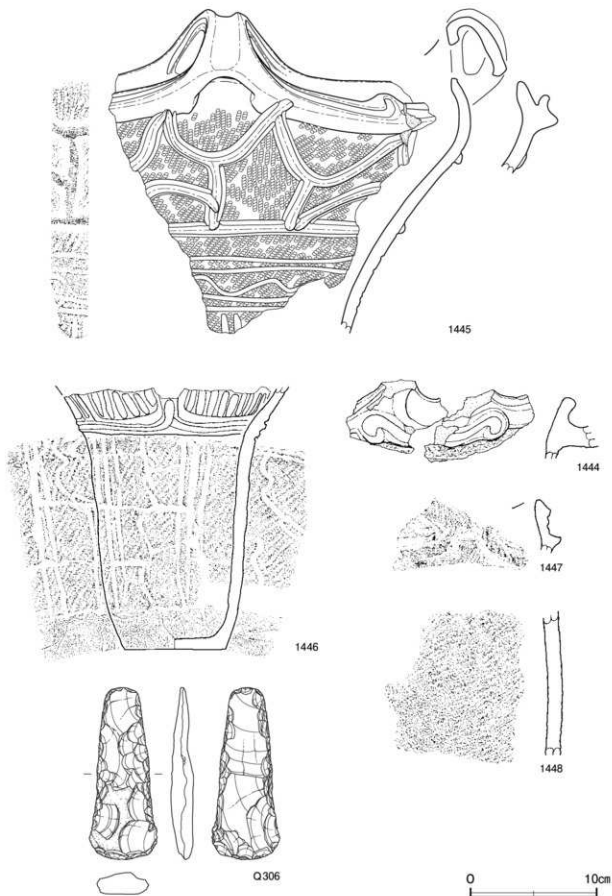
#### 土層解説

- |         |                  |        |                 |
|---------|------------------|--------|-----------------|
| 1 黒褐色   | ローム粒子少量、炭化粒子微量   | 7 黒褐色  | ロームブロック少量       |
| 2 黒褐色   | ロームブロック少量、炭化物微量  | 8 黒褐色  | ロームブロック微量       |
| 3 黒褐色   | ロームブロック・炭化粒子少量   | 9 暗褐色  | ロームブロック中量       |
| 4 暗褐色   | ロームブロック微量        | 10 黒褐色 | ローム粒子少量         |
| 5 濃い黄褐色 | ロームブロック中量、炭化粒子微量 | 11 暗褐色 | ロームブロック中量、炭化物微量 |
| 6 黒褐色   | ロームブロック多量、炭化粒子微量 | 12 黒褐色 | ローム粒子微量         |

**遺物出土状況** 縄土器片 201 点 (深鉢 197、浅鉢 4)、石器 1 点 (打製石斧)、剥片 2 点 (チャート) が、覆土中層を中心に散乱した状態で出土している。1445 は覆土上層から出土し、離れた位置にあるものが接合していることから、破碎したものを投棄したと思われる。Q 306 は覆土下層から、1444・1446・1448 は、覆土



第 506 図 第 582 号土坑実測図



第507图 第582号土坑出土遗物实测图

上層からそれぞれ出土し、投棄されたか流れ込んだものと思われる。

所見 規模と形状から、貯蔵穴と考えられる。時期は、出土土器から中期中葉と考えられる。

#### 第 582 号土坑出土遺物観察表 (第 507 図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	文様の特徴ほか	出土位置	備考
1444	縄文土器	深鉢	-	(65)	-	長石・石英・雲母・赤色粒子・細礫	灰黄褐色	普通	把手下腹部太沈線による相対する高雷文 半節縄文 L.R (縦) 施文	覆土上層	
1445	縄文土器	深鉢	-	(25.7)	-	長石・石英・雲母・黒色粒子	にぶい橙	普通	背腹直線帯による二重直線 隆帯で口縁部を区画 区画内沈線を伴う隆帯による相対弧状文 頸部半節縄文 R.L (縦) 上に太沈線による横走文・点状文	覆土上層	20% PL149
1446	縄文土器	深鉢	-	(21.1)	8.0	長石・石英・雲母・細礫	明赤褐色	良好	背腹直線帯による区画文 区画内縦位の沈線文で充填 頸部半節縄文 R.L (縦) 沈線による懸垂文・垂形点状文	覆土上層	90% PL149
1447	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	明赤褐色	普通	縄文施文のみのある隆帯による区画文 隆帯に沿って沈線文 区画内半節縄文 R.L (縦) で充填	覆土上層	
1448	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母・細礫	橙	普通	縦節縄文 R.L (縦) 施文	覆土上層	

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
Q.306	打製石斧	13.7	5.4	1.8	137	ホルンフェルス	磨彩 表面面を微細な錐打調整	覆土下層	PL165

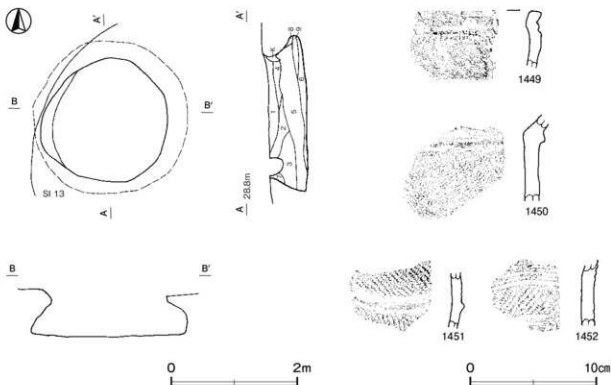
#### 第 583 号土坑 (第 508 図 PL84)

位置 調査区中央部の C 2 g0 区、標高 29 m ほどの台地縁部に位置している。

重複関係 第 13 号竪穴建物に掘り込まれている。

規模と形状 開口部は径 1.95 ~ 2.10 m のほぼ円形である。底面は径 2.41 ~ 2.50 m のほぼ円形で、平坦である。確認面からの深さは 90 cm で、壁は内嚙して、袋状を呈している。

覆土 9 層に分層できる。ロームブロックなどを含む層が不規則に堆積していることから、埋め戻されている。



第 508 図 第 583 号土坑・出土遺物実測図



## 土層解説

1 褐色	ロームブロック少量、炭化粒子微量	6 灰褐色	ロームブロック微量
2 褐色	ロームブロック中量、炭化粒子微量	7 褐色	ロームブロック少量
3 黒暗褐色	ロームブロック少量、焼土粒子微量	8 暗褐色	ロームブロック少量
4 暗褐色	ロームブロック少量、炭化粒子微量	9 にぶい褐色	ロームブロック微量
5 明褐色	ロームブロック多量		

**遺物出土状況** 縄文土器片 135 点（深鉢 128、浅鉢 7）、石器 1 点（磨石）、剥片 1 点（チャート）が、覆土全体から散乱した状態で出土している。

**所見** 規模と形状から、貯蔵穴と考えられる。時期は、出土土器から中期中葉と考えられる。

## 第 583 号土坑出土遺物観察表（第 508 図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	文様の特徴ほか	出土位置	備考
149	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母・赤色粒子	にぶい黄褐色	普通	口縁に沿って隆帯貼付 隆帯に沿って2列の有指縄文		覆土中
140	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母・赤色粒子	橙	普通	隆帯より口縁部と胴部を区画 胴部の段多染 卑部縄文 RL (横) 縄文		覆土中
1451	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	にぶい褐色	普通	口縁部と胴部を隆帯で区画 胴部卑部縄文 RL (横) 縄文		覆土中
1452	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・赤色粒子・雲母	にぶい黄褐色	普通	卑部縄文 RL (縦) 3本の沈線による横走文		覆土中

## 第 584 号土坑（第 509 図 PL84）

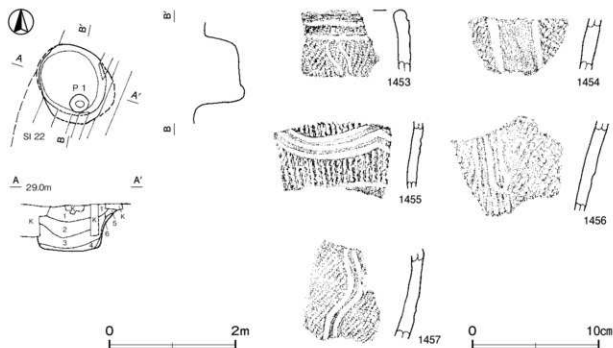
**位置** 調査区北部の C4c1 区、標高 29 m ほどの台地中央部に位置している。

**重複関係** 第 22 号竪穴建物跡を掘り込んでいる。

**規模と形状** 長径 1.35 m、短径 1.12 m の楕円形で、長径方向は N-50°-W である。底面は平坦で、深さは 70 cm である。壁は直立している。

**ピット** 南壁際に位置し、深さは 8 cm である。性格は不明である。

**覆土** 6 層に分層できる。暗褐色土がレンズ状に堆積していることから、自然堆積である。



第 509 図 第 584 号土坑・出土遺物実測図

## 土層解説

1	黒褐色	ロームブロック少量・焼土粒子微量	4	褐色	ロームブロック少量・炭化粒子微量
2	暗褐色	ロームブロック・焼土ブロック・炭化物微量	5	褐色	ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子微量
3	暗褐色	ロームブロック・炭化粒子微量	6	褐色	ロームブロック少量

遺物出土状況 縄文土器片 176 点（深鉢 167、浅鉢 9）、石器 1 点（石皿）、剥片 6 点（チャート 3、瑪瑙 1、黒曜石 1、石英 1）が、覆土中層を中心に散乱した状態で出土している。

所見 規模と形状から、貯蔵穴と考えられる。時期は、出土土器から中期後葉と考えられる。

## 第 584 号土坑出土遺物観察表（第 509 図）

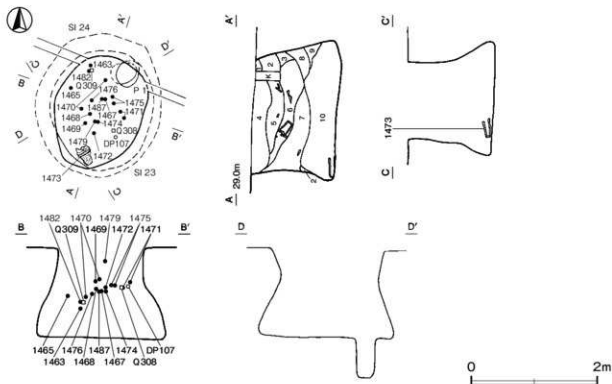
番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	文様の特徴ほか	出土位置	備考
1453	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母・赤色粒子・礫	橙	普通	単節縄文瓦（縦）口縁に沿って 2 本の太沈線による幾重文・帯垂波状文	覆土中	
1454	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・赤色粒子	灰褐色	普通	0 段多条単節縄文 LR（縦）太沈線間帯垂波文	覆土中	
1455	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・赤色粒子・礫	黒褐色	普通	縦位の帯赤文 3 本一組の北離間帯垂波文	覆土中	
1456	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	灰褐色	普通	単節縄文瓦（縦）3 本一組の沈線による幾重文	覆土中	
1457	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	橙	普通	単節縄文瓦（縦）太沈線間帯垂波状文	覆土中	

## 第 585 号土坑（第 510 ～ 515 図 PL84・85・102）

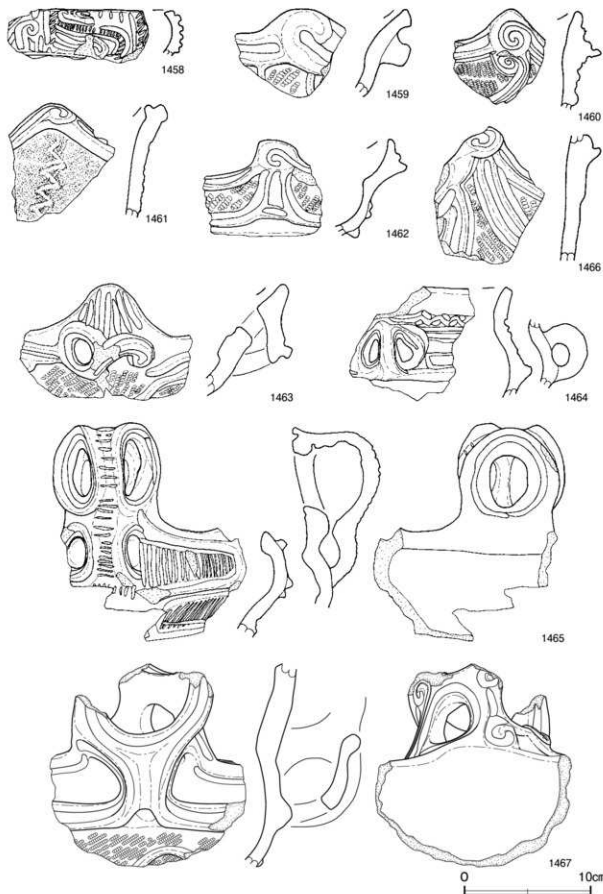
位置 調査区中央部の C 3g4 区、標高 29 m ほどの台地中央部に位置している。

重複関係 第 23 号竪穴建物跡を掘り込み、第 24 号竪穴建物に掘り込まれている。

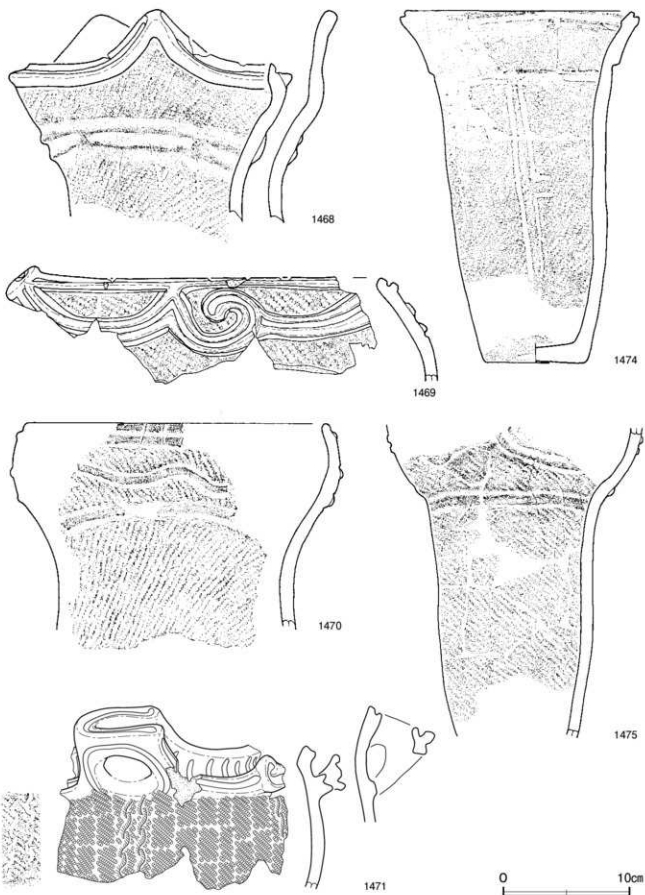
規模と形状 開口部は長径 1.81 m、短径 1.40 m の楕円形で、長径方向は N - 16° - E である。底面は長径 2.22 m、短径 1.99 m の楕円形で、平坦である。確認面からの深さは 140 cm で、壁は内傾して、袋状を呈している。



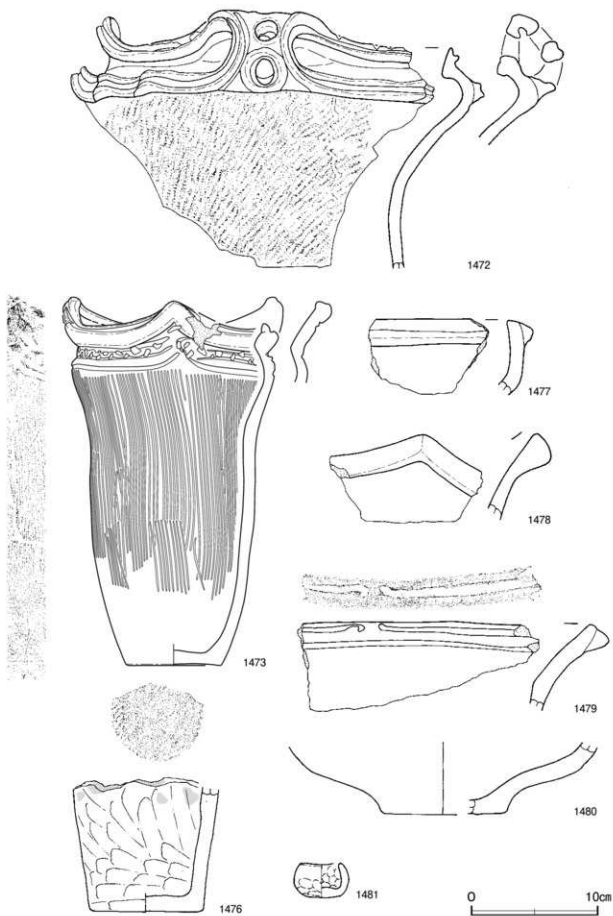
第 510 図 第 585 号土坑実測図



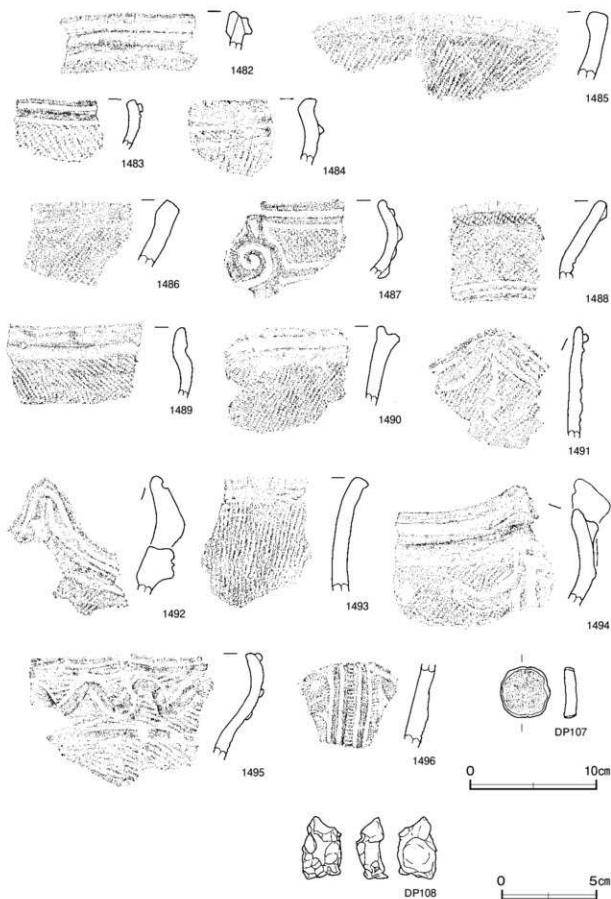
第 511 图 第 585 号土坑出土遗物实测图 (1)



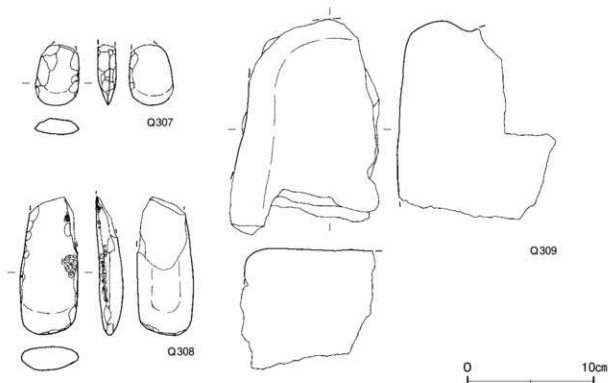
第 512 图 第 585 号土坑出土遗物实测图 (2)



第513图 第585号土坑出土遺物実測图(3)



第 514 图 第 585 号土坑出土文物实测图 (4)



第515図 第585号土坑出土遺物実測図(5)

**ビット** 北東壁際に位置し、長径46cm、短径34cmの楕円形である。深さは56cmで、西壁が内傾している。形状から、補助的な貯蔵施設と考えられる。

**覆土** 10層に分層できる。ロームブロックを含む層などが不規則に堆積していることから、埋め戻されている。

## 土層解説

- |         |                  |        |                   |
|---------|------------------|--------|-------------------|
| 1 褐色    | ロームブロック中量、炭化粒子少量 | 6 暗褐色  | ロームブロック・炭化物少量     |
| 2 暗褐色   | ローム粒子少量          | 7 暗褐色  | ロームブロック・炭化粒子少量    |
| 3 にぶい褐色 | ロームブロック少量        | 8 褐色   | ロームブロック少量、炭化粒子微量  |
| 4 暗褐色   | ロームブロック中量、炭化粒子微量 | 9 褐色   | ロームブロック少量         |
| 5 暗褐色   | ロームブロック・炭化粒子中量   | 10 黄褐色 | ロームブロック多量、鹿沼パミス少量 |

**遺物出土状況** 縄文土器片1180点(深鉢1163、浅鉢16、ミニチュア土器1)、土製品2点(土器片鉢、不明土製品)、石器6点(磨製石斧4、磨石1、砥石1)、剥片3点(瑪瑙)が、覆土中層を中心に散乱した状態で出土している。1473は、ほぼ完形で底面近くから出土し、埋め戻される前に遺棄されたと思われる。1474は、ほぼ完形で覆土中層から出土し、ある程度埋まってから遺棄されたか投棄されたと思われる。1470は、覆土中層から出土し、離れた位置にあるものが接合していることから、破砕したものを投棄したと思われる。1463・1465・1467～1469・1471・1472・1475・1476・1482・1487、DP107、Q308・Q309は覆土中層から、1479は覆土上層からそれぞれ出土し、埋土と一緒に投棄されたものと思われる。

**所見** 規模と形状から、貯蔵穴と考えられる。時期は、出土土器から中期中葉と考えられる。

第585号土坑出土遺物観察表(第511～515図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	文様の特徴ほか	出土位置	備考
1458	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	にぶい・褐色	普通	キザミ目をもつ隆帯による区画文 区画内沈線	覆土中	
1459	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	にぶい・褐色	普通	波帯による渦巻文・曲線文 波帯部上沈線を持つ隆帯による渦巻文 単筋縄文(縦) 縁部垂下	覆土中	

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	地成	文様の特徴ほか	出土位置	備考
1460	陶文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母・赤色粒子	橙	普通	虎頭部と沈線による高帯文 単節縄文 R.L (横) 沈線を伴う隆帯による高帯文	覆土中	
1461	陶文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母・赤色粒子・繊維	橙	普通	口唇部沈線文 虎頭部高帯文 単節縄文 R.L (縦) 虎頭部から沈線による高帯文 山形文	覆土中	161と併-番号。
1462	陶文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	灰緑	普通	口唇部に内凹。虎頭部から2本の隆帯を垂下させた区画文 区画内単節縄文 L.R (横) 施文	覆土中	
1463	陶文土器	深鉢	-	(90)	-	長石・石英・雲母・繊維	にぶい橙	普通	頸部縦位の沈線 頸部状把手 単節縄文 R.L (縦) 2本の隆帯による区画文	覆土中層	
1464	陶文土器	深鉢	-	(88)	-	長石・石英・雲母	にぶい黄緑	普通	文子側突文と隆帯で口縁部を飾る 区画文と縦帯状把手 区画内沈線による2本の隆帯文・山形文	覆土中	
1465	陶文土器	深鉢	-	(173)	-	長石・石英・雲母	にぶい黄緑	普通	頸部中央に沈線文 口縁部沈線を伴う隆帯による区画文 区画内縦位の沈線文で装束	覆土中層	10% PL149
1466	陶文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母・繊維	にぶい赤黄	普通	虎頭部に高帯文 口唇部に内凹 単節縄文 L.R (縦) 背側隆帯による区画文	覆土中	
1467	陶文土器	深鉢	-	(161)	-	長石・石英・雲母・繊維	にぶい赤黄	普通	口縁部上半部凹帯による縦帯の横内区画文 口縁部下半部単節縄文 R.L (横) 隆帯による高帯文	覆土中層	10% PL149
1468	陶文土器	深鉢	192	(169)	-	長石・石英・雲母	にぶい黄緑	普通	口唇部に沈線 沈線を伴う隆帯による区画文 区画内高帯文と背側隆帯による区画文 単節縄文 R.L (横) 隆帯による高帯文 虎頭部による高帯文 虎頭部をもち中央部が凹む 口縁部と頸部を横帯状隆帯で区画	覆土中層	60% PL150
1469	陶文土器	深鉢	-	(92)	-	長石・石英・赤色粒子・繊維	橙	普通	口唇部に沈線 沈線を伴う隆帯による区画文 区画内高帯文と背側隆帯による区画文 単節縄文 R.L (横) 隆帯による高帯文 虎頭部一帯体 (縦)	覆土中層	PL149
1471	陶文土器	深鉢	-	(145)	-	長石・石英・赤色粒子・繊維	にぶい黄緑	普通	口唇部に沈線文 虎頭部の背側隆帯による頸部と区画文 区画内縦位の沈線文で中央 頸部単節縄文 L.R (横) 背側隆帯の隆帯文	覆土中層	10% PL150
1472	陶文土器	深鉢	-	(205)	-	長石・石英・赤色粒子	明黄緑	普通	背側隆帯による縦帯の横内区画文 区画内2本の有す頸部状把手 頸部単節縄文 R.L (縦) 施文	覆土中層	30% PL150
1473	陶文土器	深鉢	165	292	74	長石・石英・雲母	黒緑	普通	基部凹帯と区画内交差する縦帯の横内口縁部 背側隆帯による高帯文 虎頭部状把手	覆土下層	90% PL150 内面灰化物付重
1474	陶文土器	深鉢	[179]	280	81	長石・石英・雲母	橙	普通	口唇部沈線文 太沈線で頸部と区画 頸部単節縄文 R.L (縦) 2本の隆帯による区画文	覆土中層	90% PL150
1475	陶文土器	深鉢	-	(247)	-	長石・石英・雲母	明赤黄	普通	口唇部沈線文 太沈線で頸部と区画 頸部単節縄文 R.L (縦) 施文 口縁部沈線を伴う隆帯で区画 区画内背側隆帯によるクラシク文	覆土中層	60% PL150
1476	陶文土器	深鉢	-	(99)	81	長石・石英・雲母・赤色粒子	にぶい黄緑	普通	外・内面指ナゲ	覆土中層	10% 灰化物付重
1477	陶文土器	浅鉢	-	-	-	長石・石英・雲母・赤色粒子	にぶい橙	普通	口唇部外側ぎざ状で平坦 外・内面磨き	覆土中	
1478	陶文土器	浅鉢	-	-	-	長石・石英・雲母・繊維	橙	普通	口唇部外側ぎざ状で平坦 外・内面磨き	覆土中	
1479	陶文土器	浅鉢	-	(70)	-	長石・石英・雲母・繊維	橙	普通	沈線文一帯 外・内面磨き 内面に横	覆土上層	
1480	陶文土器	浅鉢	-	(58)	[97]	長石・石英	にぶい黄緑	普通	下縁部指ナゲ 底部突出 内面磨き 赤形痕	覆土中	10%
1481	陶文土器	にぶい黄緑	30	27	24	長石・石英・赤色粒子	にぶい黄緑	普通	手触り 外・内面指ナゲ	覆土中	60%
1482	陶文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母・繊維	明黄緑	普通	口縁に沿って凹みのある厚みの隆帯が付 磨面状工具による縦線文	覆土中層	
1483	陶文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母・赤色粒子・繊維	にぶい黄緑	普通	口唇部沈線一帯 口縁に沿って沈線を伴う隆帯が付 口縁部単節縄文 R.L (横) 施文	覆土中	
1484	陶文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母・赤色粒子	にぶい黄緑	普通	口縁に沿って横文施文の2本の隆帯が付 単節縄文 R.L (縦) 施文	覆土中	
1485	陶文土器	浅鉢	-	-	-	長石・石英・雲母・繊維	橙	普通	単節縄文 R.L (縦) 施文 口縁に沿って縦線	覆土中	
1486	陶文土器	浅鉢	-	-	-	長石・石英・繊維	にぶい黄緑	普通	全面単節縄文 R.L (縦) 施文	覆土中	
1487	陶文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母・繊維	にぶい黄緑	普通	単節縄文 L.R (横) 太沈線を伴う隆帯による区画文 区画内高帯文	覆土中層	
1488	陶文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母・繊維	明緑	普通	口縁に沿って隆帯が付 隆帯上に単節縄文 R.L (横) 頸部 (縦) 施文 3本の沈線で区画	覆土中	
1489	陶文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母・繊維	にぶい黄緑	普通	口縁に沿って隆帯が付 隆帯下太沈線周囲 単節縄文 R.L (横) 施文	覆土中	
1490	陶文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・赤色粒子・繊維	にぶい黄緑	普通	口唇部太沈線 単節縄文 R.L (縦) 施文	覆土中	
1491	陶文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母・繊維	橙	普通	口縁に沿って隆帯が付 単節縄文 R.L (縦) 基部から沈線による頸部山形文	覆土中	161と併-番号。
1492	陶文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・繊維	黒	普通	基部凹帯による縦帯文 文子側突文 口唇部に内凹 口縁に沿って隆帯を伴う背側隆帯が付 単節縄文 R.L (縦) 施文	覆土中	
1493	陶文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母・繊維	にぶい黄緑	普通	口縁に沿って隆帯が付 頸部縦位の横文	覆土中	
1494	陶文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母・赤色粒子・黒色粒子・繊維	赤黒	普通	単節縄文 R.L (縦) 口縁に沿う隆帯と基部部から垂下する隆帯による区画文 区画内隆帯による高帯文	覆土中	
1495	陶文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・赤色粒子	橙	普通	横帯状隆帯 L.R (斜) 断面平坦形の隆帯で口縁部を飾る 区画内凹帯による高帯文	覆土中	
1496	陶文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	明黄緑	普通	キザミ目をもつ隆帯と沈線を伴う隆帯による区画文 区画内キザミ目をもつ隆帯による高帯文・山形文	覆土中	

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	胎土	色調	特徴	出土位置	備考
DP107	土器内罐	4.0	3.9	1.0	16.9	長石・石英・雲母	にぶい黄緑	一端のみ縦帯に縦帯 両面にキザミ目	覆土中層	
DP108	内面黒塗	3.3	2.1	1.6	5.1	長石・石英	にぶい黄緑	上端部突起状 下端部貼付文 内面指摺による横り	覆土中	金と貝殻片

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
Q 307	磨製石斧	(49)	3.5	1.5	(390)	緑色岩	小型 表面磨研面 両側縁打調整 基部欠損 刃部は表裏から磨き出す (ハマダク方)	覆土中	
Q 308	磨製石斧	(119)	4.5	2.1	(1157)	砂岩	短形磨研 両側縁磨研面縁打調整 基部欠損 刃部は表裏から磨き出す	覆土中層	PL168 既熟
Q 309	砥石	(16.1)	(11.8)	(12.5)	(2570)	砂岩	表面に砥面 中央部縦打によりわずかに凹む	覆土中層	既熟



## 第 586 号土坑 (第 516 図 PL85)

位置 調査区中央部の C 2 9 区、標高 29 m ほどの台地縁辺部に位置している。

規模と形状 開口部は径 1.21 ~ 1.30 m のほぼ円形である。底面は長径 2.42 m、短径 2.20 m の楕円形で、平坦である。確認面からの深さは 109 cm で、壁は内増して、袋状を呈している。

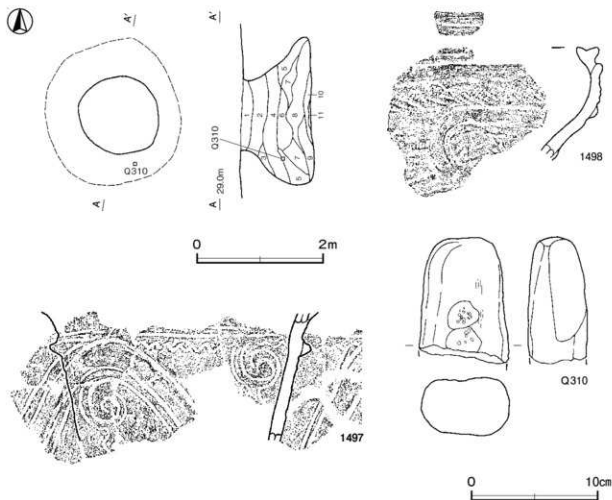
覆土 11 層に分層できる。ロームブロックを含む層などが不規則に堆積していることから、埋め戻されている。

## 土層解説

- |       |                  |          |                  |
|-------|------------------|----------|------------------|
| 1 黒褐色 | ロームブロック少量        | 7 黒褐色    | ロームブロック・炭化粒子微量   |
| 2 黒褐色 | ロームブロック少量、炭化粒子微量 | 8 暗褐色    | ロームブロック・炭化粒子少量   |
| 3 黒褐色 | ローム粒子少量          | 9 暗褐色    | ロームブロック少量、炭化粒子微量 |
| 4 黒褐色 | ロームブロック・炭化粒子少量   | 10 暗褐色   | ロームブロック少量        |
| 5 黒褐色 | ロームブロック中量、炭化粒子微量 | 11 濃い黄褐色 | ロームブロック少量        |
| 6 黒褐色 | ロームブロック・炭化粒子中量   |          |                  |

遺物出土状況 縄文土器片 124 点 (深鉢)、石器 3 点 (磨製石斧、敲石、凹石) が、覆土中層を中心に散乱した状態で出土している。Q 310 は覆土中層から出土し、埋土と一緒に投棄されたものと思われる。

所見 規模と形状から、貯蔵穴と考えられる。時期は、出土土器から中期中葉と考えられる。



第 516 図 第 586 号土坑・出土遺物実測図

第586号土坑出土遺物観察表(第516図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	文様の特徴ほか	出土位置	備考
1497	瓦文土器	深鉢	-	(10.3)	-	長石・石英・雲母	にじみ青濁	普通	地文に準部瓦文。[副] 沈澱を伴う建帯で部部と染部を区画。内帯に於て沈澱による縦線状文脈を呈する。沈澱を伴う建帯による曲線・縦線を帯いて沈澱による曲線文・縦線文を呈す。	覆土中	PL149
1498	瓦文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	黒黒	普通	建帯により口縁部文脈を区画。区画内平部瓦文。[副] 縦線状沈澱によるクラック文。	覆土中	PL149

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
Q330	凹石	(9.9)	7.1	4.6	(439.3)	安山岩	表面磨り調整 表面中央部に2か所の縦打による凹み痕 先端部縦打痕 下部欠損 磨石兼用	覆土中層	PL181

第588号土坑(第517～523図 PL86・103)

位置 調査区北部のC4c2区、標高29mほどの台地縁辺部に位置している。

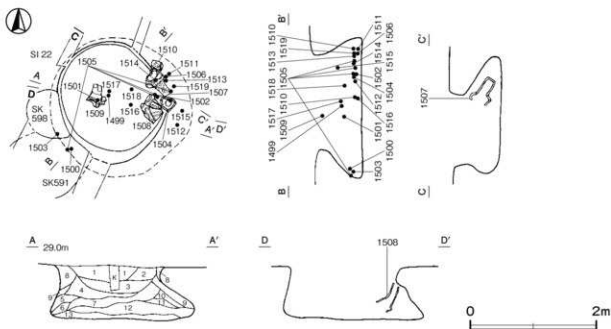
重複関係 第22号竪穴建物、第591・598号土坑に掘り込まれている。

規模と形状 開口部は長径1.88m、短径1.55mの楕円形で、長径方向はN-45°-Wである。底面は径2.14～2.19mの円形で、平坦である。確認面からの深さは84cmで、壁は中位まで内彎して、袋状を呈し、上位はほぼ直立している。

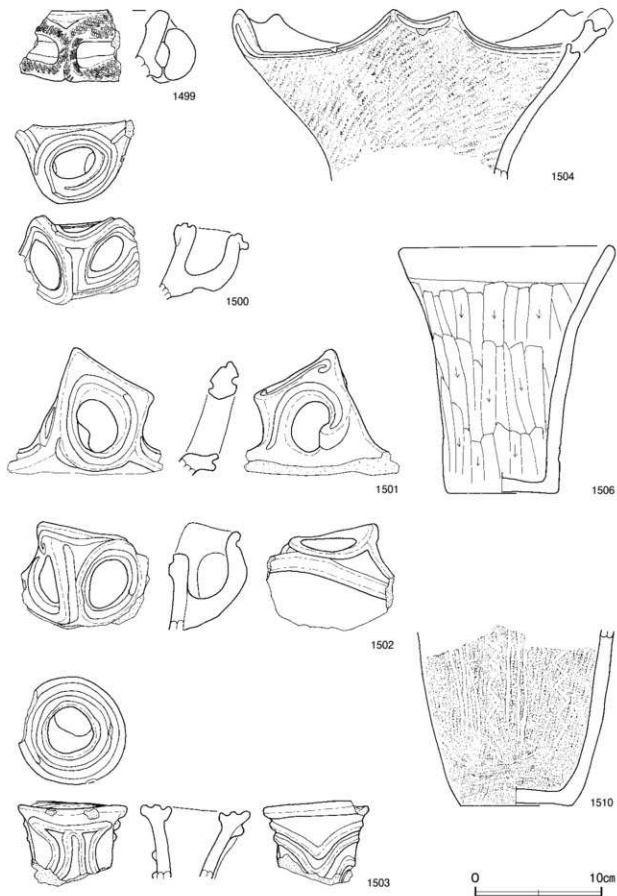
覆土 13層に分層できる。ロームブロックなどを含む層が不規則に堆積していることから、埋め戻されている。

土層解説

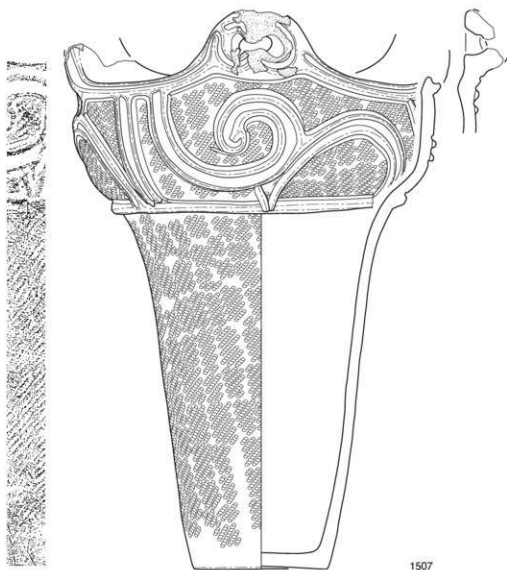
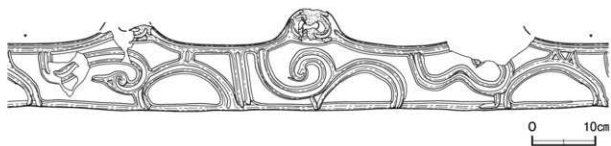
- |       |                          |        |                        |
|-------|--------------------------|--------|------------------------|
| 1 暗褐色 | ロームブロック中量、焼土ブロック少量、炭化物微量 | 7 暗褐色  | ロームブロック中量、焼土ブロック・炭化物微量 |
| 2 暗褐色 | ロームブロック中量、炭化物少量、焼土粒子微量   | 8 暗褐色  | ロームブロック中量、炭化物微量        |
| 3 黒褐色 | ロームブロック中量、焼土ブロック・炭化物少量   | 9 暗褐色  | ロームブロック少量、炭化物微量        |
| 4 暗褐色 | ロームブロック中量、炭化物少量、焼土ブロック微量 | 10 暗褐色 | ロームブロック少量              |
| 5 暗褐色 | ロームブロック中量、炭化物少量          | 11 暗褐色 | ロームブロック中量              |
| 6 褐色  | ロームブロック多量                | 12 褐色  | ロームブロック中量、炭化物粒子微量      |
|       |                          | 13 暗褐色 | ロームブロック中量、炭化物粒子少量      |



第517図 第588号土坑実測図



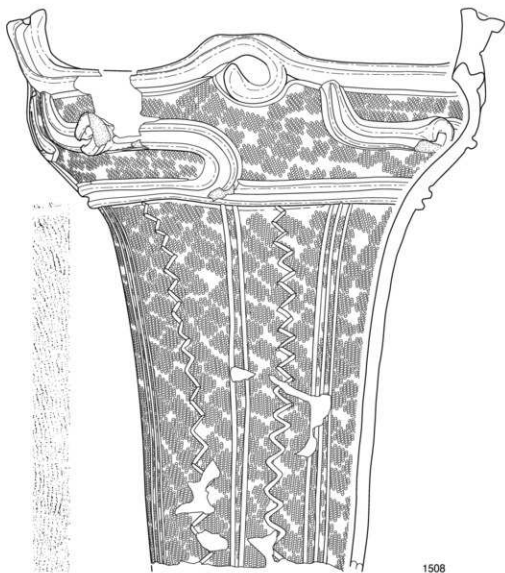
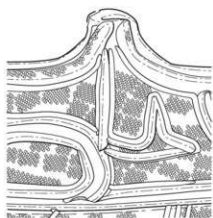
第518图 第588号土坑出土遺物実測图(1)



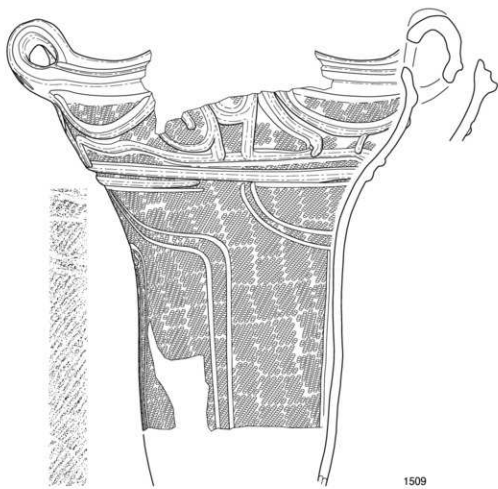
1507



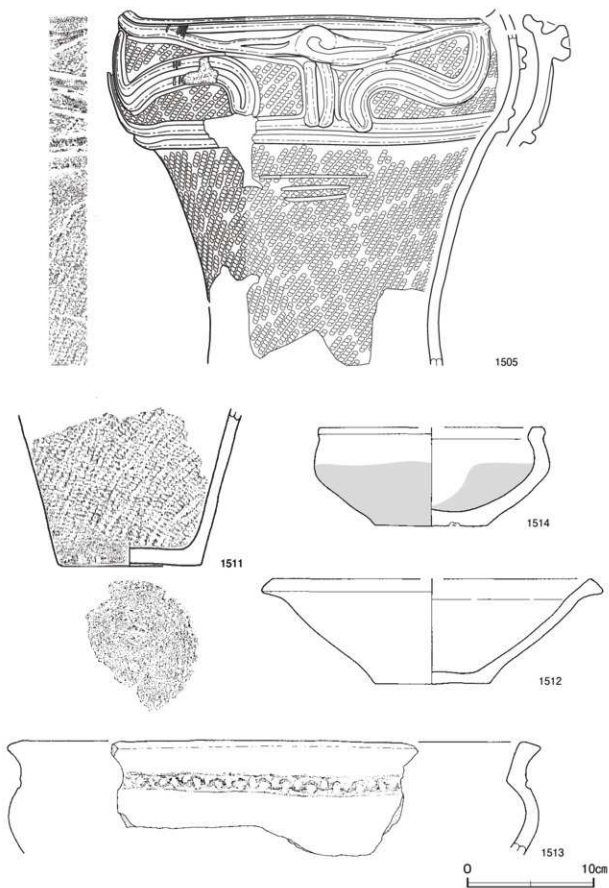
第 519 图 第 588 号土坑出土遗物实测图 (2)



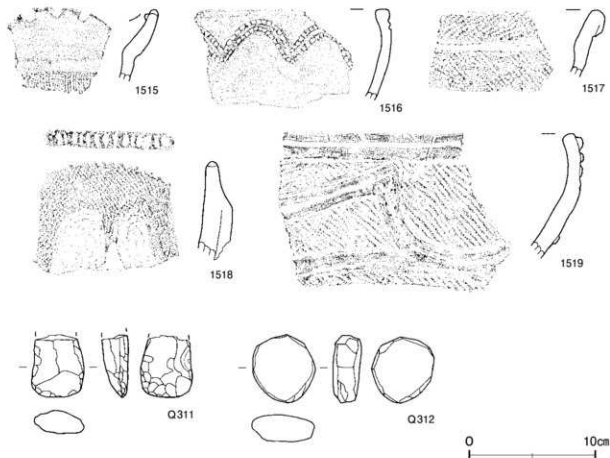
第 520 図 第 588 号土坑出土遺物実測図 (3)



第 521 图 第 588 号土坑出土遗物实测图(4)



第 522 図 第 588 号土坑出土遺物実測図(5)



第 523 図 第 588 号土坑出土遺物実測図 (6)

**遺物出土状況** 縄文土器片 444 点 (深鉢 431, 浅鉢 12, 小型浅鉢 1), 石器 4 点 (打製石斧 1, 磨石 2, 敲砥石 1) が、覆土下層を中心に散乱した状態で出土している。1507・1508 は覆土下層からほぼ完形で、横位及び倒位で出土していることから、廃絶して間もないころ、遺棄あるいは投棄されたものと思われる。1509 は覆土上層からほぼ完形で横位で出土しており、ある程度埋まってから、遺棄あるいは投棄されたものと思われる。1505 は覆土下層から出土し、離れた位置のものが接合していることから、破碎して投棄したものと思われる。1500・1502～1504・1510～1514・1516・1519 は覆土下層から、1499・1501・1515・1517・1518 は覆土中層からそれぞれ出土していることから、埋土と一緒に投棄されたものと思われる。

**所見** 規模と形状から、貯蔵穴と考えられる。時期は、出土土器から中期中葉と考えられる。

第 588 号土坑出土遺物観察表 (第 518 ～ 523 図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	文様の特徴ほか	出土位置	備考
1499	縄文土器	深鉢	-	(58)	-	長石・石英・雲母	にぶい青褐色	普通	単筋縄文。図。(横) 筋文の厚みのある隆帯による彫筋状把手	覆土中層	
1500	縄文土器	深鉢	-	(71)	-	長石・石英・雲母・ 繊維・黄色粘土	にぶい靑	普通	孔に沿って環状の太沈線文	覆土下層	
1501	縄文土器	深鉢	-	(101)	-	長石・石英・雲母	靑	普通	孔に沿って環状の太沈線文 一部に裏手文	覆土中層	
1502	縄文土器	深鉢	-	(85)	-	長石・石英・雲母・ 黄色粘土・黄褐色子	明靑	普通	中央部に沿って2重の環状沈線文 一部渦状	覆土下層	
1503	縄文土器	深鉢	-	(68)	-	長石・石英・雲母	にぶい靑	普通	中央部に沿って2重の環状沈線文 把手無面部 青褐色隆帯による文様隆帯	覆土下層	
1504	縄文土器	深鉢	27.0	(137)	-	長石・石英・繊維	靑	普通	口唇部に太沈線環状 全面に0段多糸単筋縄文 図。(縦)	覆土下層	60% PL132
1505	縄文土器	深鉢	33.5	(28.5)	-	長石・石英・雲母・ 繊維	にぶい靑	普通	沈線を伴う青褐色隆帯により口唇部区画 区画 内クランク文 胴部0段多糸単筋縄文。図。(縦)	覆土下層	60% PL132



番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	文様の特徴ほか	出土位置	備考
1506	縄文土器	深鉢	[165]	197	8.8	長石・石英	橙	普通	口縁部横ナデ 胴部縦方向の削りナデ 底面下窪ナデ	覆土下層	95% PL153
1507	縄文土器	深鉢	29.5	44.2	10.5	長石・石英・雲母	黒褐色	普通	左腹を伴う隆帯による口内周縁区画 2条一組の隆帯による胎文・弧状文・刺突文 胴部0段多条単線横文区画 (縦) 胎文 斜削製法 胎文に単線横文区画 (横) 表面隆帯による胎文 口縁部太沈線 口部部沈線を伴う隆帯による胎文 区画内沈線を伴う隆帯によるクランク文・刺突文 胴部沈線による胎文・連続横帯文 2条一組の隆帯による口内周縁区画 区画内隆帯による弧状文・刺突文 胴部0段多条単線横文区画 (横) 胎文による胎文・胎文・弧状文・胎文 胎文を伴って単線横文区画 (横) 胎文 本單位の沈線による胎文 胎文間周縁状の沈線並下	覆土下層	95% PL153
1508	縄文土器	深鉢	31.0	(44.6)	-	長石・石英・雲母・緑礫	黒褐色	良好	口縁部太沈線 口部部沈線を伴う隆帯による胎文 区画内沈線を伴う隆帯によるクランク文・刺突文 胴部沈線による胎文・連続横帯文 2条一組の隆帯による口内周縁区画 区画内隆帯による弧状文・刺突文 胴部0段多条単線横文区画 (横) 胎文による胎文・胎文・弧状文・胎文 胎文を伴って単線横文区画 (横) 胎文 本單位の沈線による胎文 胎文間周縁状の沈線並下	覆土下層	90% PL153
1509	縄文土器	深鉢	267	(378)	-	長石・石英・雲母	灰褐色	普通	胎文に横 外・内面横位のナデ	覆土上層	80% PL152
1510	縄文土器	深鉢	-	(14.0)	8.8	長石・石英・雲母	橙	普通	胎文に横 外・内面横位のナデ 胎文間周縁状の沈線並下	覆土下層	30%
1511	縄文土器	深鉢	-	(125)	11.2	長石・石英・雲母	明赤褐色	普通	胎文に横 外・内面横位のナデ 胎文間周縁状の沈線並下	覆土下層	20%
1512	縄文土器	浅鉢	[252]	8.4	9.2	長石・石英・雲母	にぶい橙	普通	胎文に横 外・内面横位のナデ	覆土下層	30% PL153
1513	縄文土器	浅鉢	[309.6]	(9.1)	-	長石・石英・雲母	橙	普通	胎文に横 外・内面横位のナデ	覆土下層	10%
1514	縄文土器	小型浅鉢	[17.6]	7.9	[9.6]	長石・石英・雲母・緑礫	にぶい橙	普通	口縁下に凹線 外・内面横方向の磨き	覆土下層	40% PL153
1515	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	にぶい橙	普通	胎文に横 外・内面横位のナデ	覆土下層	30% PL153
1516	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	にぶい橙	普通	胎文に横 外・内面横位のナデ	覆土下層	30% PL153
1517	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	黒	普通	口縁に沿って沈線文を伴う単線横文1区 (横) 胎文の隆帯状凸 (胎文下向一帯体) (縦) 胎文に沿う横文胎文の隆帯による胎文から垂下する隆帯による区画 区画内半軌行管による並行沈線文で胎文	覆土中層	
1518	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母・緑礫	にぶい橙	普通	口縁部に沈線一帯 単線横文1区 (横) 連続状隆帯で口縁部区画 区画内2条の隆帯による弧状文	覆土下層	
1519	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	にぶい橙	普通	胎文に横 外・内面横位のナデ	覆土下層	

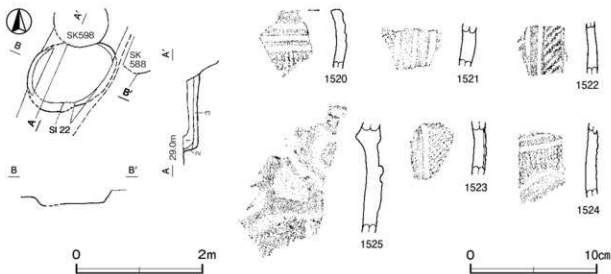
番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴		出土位置	備考
Q-311	打製石斧	(49)	4.2	2.1	(59.2)	緑色岩	楕形	表裏面研磨 両側縁・刃部表裏を縦行 基部欠損	覆土中	
Q-312	緑砥石	5.4	4.9	2.2	85.7	石灰珪岩	円縁の周縁部に微細な縦行研・砥面をもつ	表面に砥面	覆土中	PL173

## 第 591 号土坑 (第 524 図)

位置 調査区北部の C 4 d2 区、標高 29 m ほどの台地中央部に位置している。

重複関係 第 22 号堅穴建物跡・第 588 号土坑を掘り込み、第 598 号土坑に掘り込まれている。

規模と形状 北東・南西径 1.45 m、北西・南東径 1.18 m の楕円形で、長径方向は N - 48° - E である。底面は平坦で、深さは 21 cm である。壁は外傾している。



第 524 図 第 591 号土坑・出土遺物実測図

**覆土** 3層に分層できる。暗褐色土がレンズ状に堆積していることから、自然堆積である。

**土層解説**

- 1 暗褐色土 ロームブロック少量、焼土ブロック・炭化物微量 3 褐色土 ロームブロック少量  
2 暗褐色土 ロームブロック・炭化粒子微量

**遺物出土状況** 縄文土器片 81点（深鉢）が、覆土中からまばらに出土している。

**所見** 規模と形状から、貯蔵穴と考えられる。時期は、出土土器から中期後葉と考えられる。

第591号土坑出土遺物観察表（第524図）

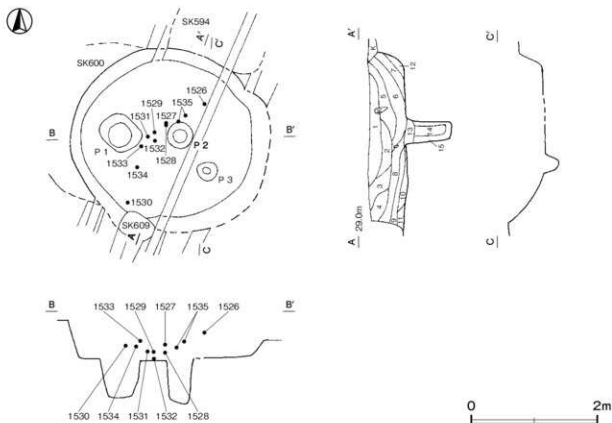
番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	文様の特徴ほか	出土位置	備考
1520	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	橙	普通	口縁に沿って3本の沈線一巡 縦位の帯系文	覆土中	
1521	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	黒褐色	普通	単筋縄文LR（縦） 3本の沈線垂下 沈線間磨消	覆土中	
1522	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	にぶい赤褐色	普通	無筋縄文LR（縦） 2本の沈線垂下 沈線間磨消	覆土中	
1523	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	にぶい橙	普通	無筋縄文LR（縦） 2本の沈線垂下 沈線間磨消	覆土中	
1524	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	橙	普通	縦位の帯系文上に弧状の並行沈線文 沈線間磨消	覆土中	
1525	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	灰褐色	普通	太沈線を持つ隆帯による横内訳区縄文 区裏内中筋縄文交差 脚部単筋縄文LR（縦）筋文	覆土中	

**第593号土坑（第525～527図）**

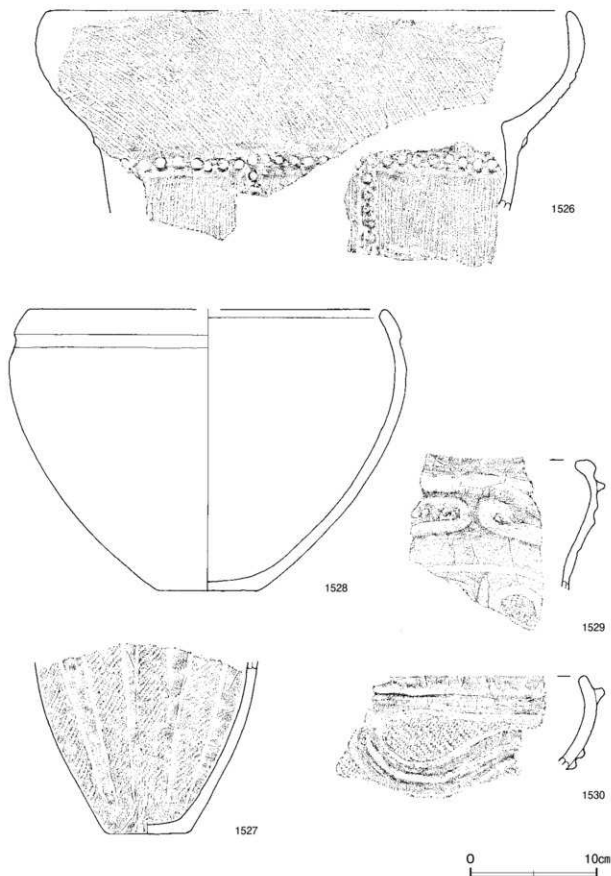
**位置** 調査区中央部のC4f2区、標高29mほどの台地中央部に位置している。

**重複関係** 第594・600号土坑を掘り込み、第609号土坑に掘り込まれている。

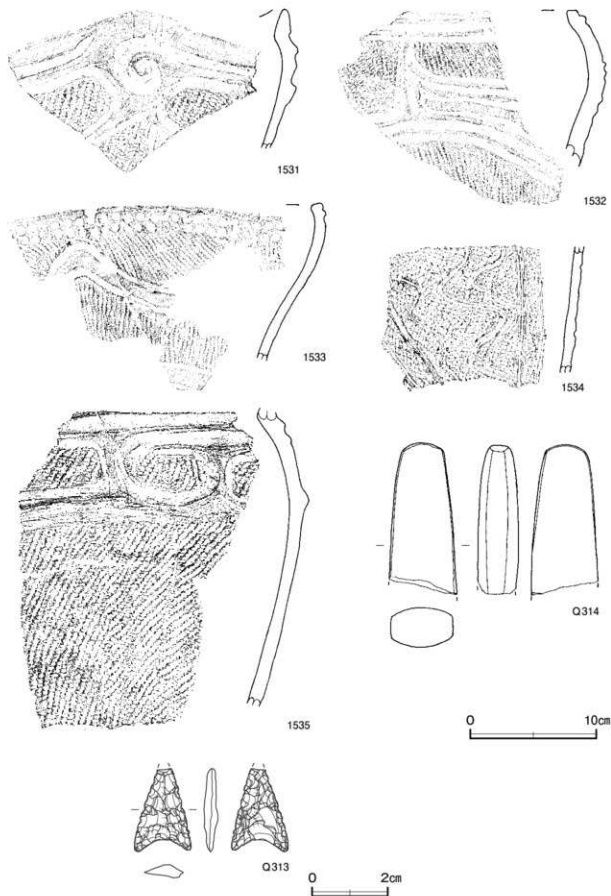
**規模と形状** 径3.06～3.18mのほぼ円形で、底面は平坦である。深さは64cmで、壁は外傾している。



第525図 第593号土坑実測図



第 526 図 第 593 号土坑出土遺物実測図 (1)



第 527 图 第 593 号土坑出土遗物实测图 (2)

ピット 3か所。P1は西部、P2は中央部、P3は南東部に位置し、深さはそれぞれ64cm・74cm・22cmである。

P1は、補助的な貯蔵施設と考えられる。P2は、位置や形状から柱穴と考えられる。P3は、性格不明である。

覆土 12層に分層できる。ロームブロックを含む層が堆積していることから、埋め戻されている。第13～15層はP2の覆土である。

## 土層解説

1	暗褐色	ロームブロック・焼土ブロック・炭化物少量	9	黒褐色	ロームブロック中量、焼土ブロック・炭化物微量
2	暗褐色	焼土ブロック中量、ロームブロック・炭化物少量	10	褐色	ロームブロック中量
3	暗褐色	ロームブロック中量、焼土ブロック・炭化物少量	11	暗褐色	ロームブロック少量、炭化粒子微量
4	暗褐色	ロームブロック・炭化物少量、焼土ブロック微量	12	褐色	ロームブロック中量、焼土粒子微量
5	暗褐色	ロームブロック少量、焼土ブロック・炭化物微量	13	暗褐色	ロームブロック中量、炭化粒子微量
6	暗褐色	ロームブロック・焼土ブロック少量、炭化粒子微量	14	黒褐色	ロームブロック中量、焼土粒子・炭化粒子少量
7	暗褐色	ロームブロック・炭化物少量、焼土粒子微量	15	暗褐色	ロームブロック少量
8	黒褐色	ロームブロック中量、焼土ブロック・炭化物少量			

遺物出土状況 縄文土器片717点(深鉢698, 鉢1, 浅鉢18), 石器4点(鎌, 磨製石斧, 磨石, 砥石), 剥片7点(砂岩3, チャート2, 粘板岩1, 石英1)が、覆土中層を中心に散乱した状態で出土している。1528・1529・1531・1532は覆土下層から、1527・1530・1533～1535は覆土中層から、1526は覆土上層からそれぞれ出土し、埋土と一緒に投棄されたと思われる。

所見 規模と形状から、貯蔵穴と考えられる。時期は、出土土器から中期後葉と考えられる。

## 第593号土坑出土遺物観察表(第526・527図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	文様の特徴ほか	出土位置	備考
1526	縄文土器	深鉢	(41.0)	(16.0)	-	長石・石英・雲母	にぶい肌	普通	口縁部へつ状工具による斜行沈線文・円形刺突文をもつ隆帯で胴部と区画・胴部最位のへつ状工具による縦線の施文・土層に垂直な直線	覆土上層	20% PL152
1527	縄文土器	深鉢	-	(13.8)	6.8	長石・石英・雲母	にぶい肌	普通	口縁に斜つて隆帯を有す 隆帯下太沈線 外・内面最位の丁字状突起	覆土中層	30%
1528	縄文土器	鉢	[27.8]	25.5	7.8	長石・石英・雲母	にぶい肌	普通	口縁に斜つて隆帯を有す 隆帯下太沈線 外・内面最位の丁字状突起	覆土中層	50% PL152
1529	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母・赤色粒子	にぶい肌	普通	口縁に斜つて隆帯を有す 隆帯下太沈線 外・内面最位の丁字状突起	覆土下層	PL152
1530	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	にぶい肌	普通	口縁に斜つて隆帯を有す 隆帯下太沈線 外・内面最位の丁字状突起	覆土中層	
1531	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	にぶい肌	普通	口縁に斜つて隆帯を有す 隆帯下太沈線 外・内面最位の丁字状突起	覆土下層	PL152
1532	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	にぶい肌	普通	口縁に斜つて隆帯を有す 隆帯下太沈線 外・内面最位の丁字状突起	覆土下層	
1533	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	灰黄肌	普通	口縁に斜つて隆帯を有す 隆帯下太沈線 外・内面最位の丁字状突起	覆土中層	PL152
1534	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・赤色粒子	灰黄肌	普通	口縁に斜つて隆帯を有す 隆帯下太沈線 外・内面最位の丁字状突起	覆土中層	
1535	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	橙	普通	口縁に斜つて隆帯を有す 隆帯下太沈線 外・内面最位の丁字状突起	覆土中層	PL152

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
Q313	鎌	(2.2)	1.5	0.3	(0.9)	チャート	無急継 両面押圧潤磨 先端部欠損	覆土中	PL161
Q314	磨製石斧	(12.0)	5.4	3.2	(30.1)	砂岩	定角式 全面研磨 刃部欠損	覆土中	PL167

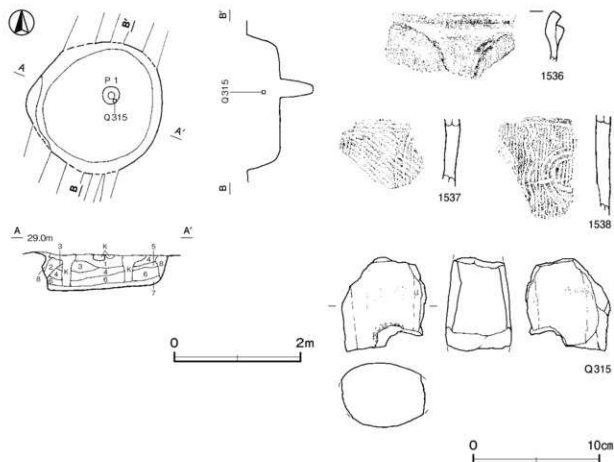
## 第595号土坑(第528図 PL87)

位置 調査区中央部のC4e2区、標高29mほどの台地中央部に位置している。

規模と形状 径2.14mのほぼ円形である。底面は平坦である。深さは56cmで、壁は外傾している。

ピット 中央部の北東寄りに位置し、深さは54cmである。位置や形状から、柱穴と考えられる。

覆土 8層に分層できる。ロームブロックなどを含む層が不規則に堆積していることから、埋め戻されている。



第 528 図 第 595 号土坑・出土遺物実測図

土層解説

- |       |                        |         |                  |
|-------|------------------------|---------|------------------|
| 1 暗褐色 | ロームブロック少量，焼土ブロック・炭化物微量 | 5 暗褐色   | ロームブロック少量，炭化物微量  |
| 2 褐色  | ロームブロック中量，炭化粒子微量       | 6 におい褐色 | ロームブロック中量，炭化物微量  |
| 3 暗褐色 | ロームブロック中量，焼土粒子・炭化粒子微量  | 7 褐色    | ロームブロック少量，炭化粒子微量 |
| 4 暗褐色 | ロームブロック中量，焼土ブロック・炭化物微量 | 8 褐色    | ロームブロック中量        |

遺物出土状況 縄文土器片 75 点（深鉢 69，浅鉢 6），石器 2 点（磨製石斧，磨石）が，覆土中からまばらに出土している。Q 315 は覆土中層から出土し，埋土と一緒に投棄されたものと思われる。

所見 規模と形状から，貯蔵穴と考えられる。時期は，出土土器から中期中葉と考えられる。

第 595 号土坑出土遺物観察表（第 528 図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	文様の特徴ほか	出土位置	備考
1536	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母・赤色粒子	におい赤褐色	普通	断面三角形の隆起線による弧状文	覆土中	
1537	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	におい赤褐色	普通	断面縦文瓦（横）上に平截管管による横走文・縦走文	覆土中	
1538	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	褐色	普通	縦位の無蓋文上に平截管管による横位区画 胴部凹施文具による波状文・縦手文	覆土中	

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴		出土位置	備考
Q 315	磨石	(7.5)	(6.7)	5.3	(330.7)	砂岩	表裏面研削	表面中央部微細Q線打痕 凹縁部凹縁	覆土中層	

## 第 596 号土坑 (第 529 図)

位置 調査区北部の C 4 e3 区、標高 29 m ほどの台地中央部に位置している。

重複関係 第 599 号土坑を掘り込んでいる。

規模と形状 長径 1.02 m、短径 0.78 m の楕円形で、長径方向は N - 78° - W である。底面は平坦で、深さは 67 cm である。壁は直立している。

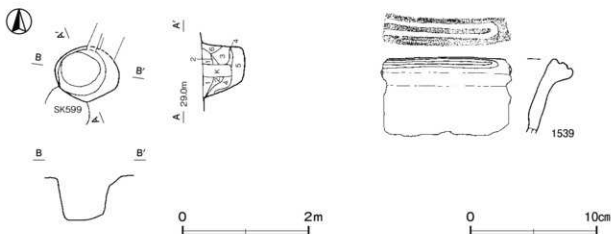
覆土 6 層に分層できる。ロームブロックなどを含む層が不規則に堆積していることから、埋め戻されている。

## 土層解説

1 暗褐色	ロームブロック少量、焼土粒子・炭化粒子微量	4 暗褐色	ロームブロック中量
2 暗褐色	ロームブロック中量、炭化粒子微量	5 褐色	ロームブロック中量
3 黒褐色	ロームブロック少量、炭化粒子微量	6 褐色	ロームブロック多量

遺物出土状況 縄文土器片 22 点 (深鉢 20、浅鉢 2) が、覆土中からまばらに出土している。

所見 規模と形状から、貯蔵穴と考えられる。時期は、出土土器から中期中葉と考えられる。



第 529 図 第 596 号土坑・出土遺物実測図

## 第 596 号土坑出土遺物観察表 (第 529 図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	文様の特徴ほか	出土位置	備考
1539	縄文土器	浅鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	にぶい橙	普通	沈澱による長楕円文 内面に横、外・内面横方向の筋、口縁部・口縁部内面垂れ筋	覆土中	

## 第 600 号土坑 (第 530 図 PL85)

位置 調査区中央部の C 4 f2 区、標高 29 m ほどの台地中央部に位置している。

重複関係 第 593 号土坑に掘り込まれている。

規模と形状 径 2.45 ~ 2.62 m のほぼ円形である。底面は平坦で、深さは 93cm である。壁はほぼ直立している。

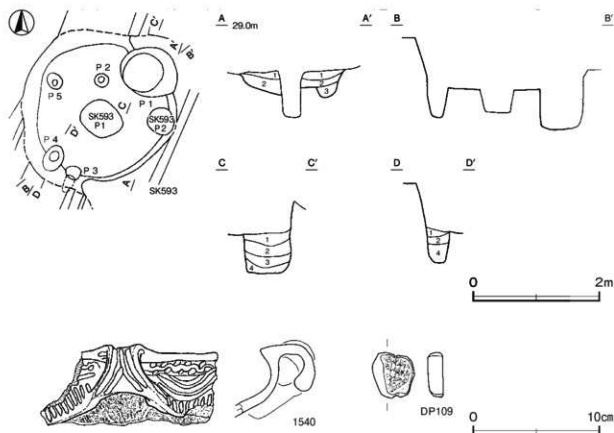
ピット 5 か所。P 1 は北東壁際、P 2 は北部、P 3 は南壁際、P 4 は南西壁際、P 5 は北西部に位置している。

深さはそれぞれ 65cm・32cm・36cm・48cm・28cm である。P 1 は、位置や形状から補助的な貯蔵施設と考えられる。

P 2・P 3 は、位置や形状から柱穴と考えられる。P 4・P 5 は、性格不明である。

## ピット土層解説

1 暗褐色	ロームブロック中量、炭化物少量、焼土粒子微量	3 暗褐色	ロームブロック中量、炭化粒子微量
2 黒褐色	ロームブロック中量、炭化物・焼土粒子微量	4 暗褐色	ロームブロック中量



第530図 第600号土坑・出土遺物実測図

**覆土** 3層に分層できる。ロームブロックが含まれている層が堆積していることから、埋め戻されている。

**土層解説**

- 1 褐色 ロームブロック中量、炭化粒子微量                      3 暗褐色 ロームブロック少量、炭化粒子微量  
 2 暗褐色 ロームブロック中量

**遺物出土状況** 縄文土器片101点（深鉢98、浅鉢3）、土製品1点（土器片鉢）、石器1点（磨石）が、覆土中から散乱した状態で出土している。

**所見** 規模と形状から、貯蔵穴と考えられる。時期は、出土状況から中期中葉と考えられる。

第600号土坑出土遺物観察表（第530図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	文様の特徴ほか	出土位置	備考
1540	縄文土器	深鉢	-	(65)	-	長石・石英・雲母	にぶい褐	普通	隆帯と底状隆帯で口縁部区画。口縁に沿って交互列突文。区画内沈線による弧状文と縦線文で充ち、肩部部位の帯状文	覆土中	
番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	胎土	色調		特徴	出土位置	備考
DP109	土器片鉢	3.6	3.4	1.2	16.6	長石・石英	にぶい褐		凹縁部研磨 両端にキザ目	覆土中	





### 印刷仕様

編集	OS	Microsoft Windows 10 Home
	編集	Adobe InDesign CS 4
	図版作成	Adobe Illustrator CS 4
	写真調整	Adobe Photoshop CS 4
	Scanning	6×7 film Nikon SUPER COOLSCAN9000ED
	図面類	RICOH imagio MP W401
使用Font	OpenType	リュウミンPro・L
写真	線数	モノクロ175線以上 カラー210線以上
印刷	印刷所へは、	Adobe InDesign CS 4でレイアウトして入稿

#### 茨城県教育財団文化財調査報告第419集

### 吉 十 北 遺 跡 勘 十 郎 堀 跡 (第 2 分 冊)

東関東自動車道水戸線 (鉾田～茨城空港北間)  
建設事業地内埋蔵文化財調査報告書

平成29 (2017) 年 3月15日 印刷

平成29 (2017) 年 3月17日 発行

発行 公益財団法人茨城県教育財団  
〒310-0911 水戸市見和1丁目356番地の2  
茨城県水戸生涯学習センター分館内  
TEL 029-225-6587  
HP <http://www.ibaraki-maibun.org>

印刷 株式会社あけほの印刷社  
〒310-0804 水戸市白梅1丁目2番11号  
TEL 029-227-5505

# 吉 十 北 遺 跡 勘 十 郎 堀 跡

東関東自動車道水戸線(鉾田~茨城空港北間)  
建設事業地内埋蔵文化財調査報告書

第2分冊

平成29年3月

東日本高速道路株式会社  
公益財団法人茨城県教育財団